

本案内は、経済学部第3学年、第4学年の履修の方法、手続と講義内容を記載したものです。

また、履修要項は、実際に適用される「学則」の運用について解説したものであり、学則に明示されていない細則もこの要項によります。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。

本案内を読んでなお疑問や不明な点があれば、指定の日時・
場所（掲示・塾生用 Web サイト参照）において学習指導主任
または副主任より説明を受けることができます。

学習指導主任	准教授	駒形哲哉
同 副主任	教授	飯田 恭
同 同	准教授	河井啓希

目 次

履修案内の配布に際して（経済学部長）	4
履修選択にあたって（三田学習指導主任）	5
学事関連スケジュール	6
一般注意事項	7
履修申告のしかた	14
1. 履修申告について	14
2. 登録番号および分野について	16
3. 東京工業大学工学部との相互科目履修について	17
4. 学事 Web システムによる履修申告について	17
Web システム	18
Web システム概要	18
Web システム操作上の注意	21
履修要項	22
第 1 適用学則	22
1. 05 学則と 99 学則について	22
2. 学則の移行	22
第 2 成績の評語	22
第 3 開講科目と単位数	23
1. 総合教育科目	23
2. 基礎教育科目	23
3. 外国語科目	24
(1) 外国語科目の履修	24
(2) 選択必修科目の事前抽選	25
(3) 選択必修科目の事前抽選後の履修申告	25
(4) 選択必修科目のクラス未決定者	26
4. 専門教育科目	26
(1) 基礎科目	26
(2) 基本科目	26
(3) 特殊科目	26
(4) 関連科目	27
5. 体育科目	28
6. 自由科目	28
第 4 履修上の注意	28
1. 分野	28
2. 重複履修について	29
3. 他学部・他地区設置科目の履修について	30
4. 研究所・センター設置科目の履修について	30
5. 大学院設置科目の先取り履修について	30
6. 大学院認定科目について	31
第 5 認定用紙および申告用紙について	31
第 6 休学・留学・退学	31
1. 休学（学則第 152 条）	31
2. 留学（学則第 153 条）	32
3. 退学（学則第 154 条）	32
4. 退学処分（学則第 156 条・第 188 条）	32

単位表

〔05学則適用者用〕

1. 単位表（卒業所要総単位）	34
2. 履修上限単位	36
3. 第3学年における進級必要単位	37
4. 第4学年における卒業必要単位	37

〔99学則適用者用〕

1. 単位表（卒業所要総単位）	38
2. 履修上限単位	40
3. 第3学年における進級必要単位	41
4. 第4学年における卒業必要単位	41

講義要綱

専門教育科目	43
(1) 基本科目	45
(2) 特殊科目	63
（研究会）	88
（研究プロジェクト）	105
（プロフェッショナル・キャリア・プログラム（PCP））	106
(3) 関連科目	114
外国語科目	119
(1) 外国語	119
(2) 外国語	120
(3) 選択 A	124
総合教育科目	127
研究所・センター設置科目	131
(1) 教職課程	133
(2) 言語文化研究所	134
(3) メディア・コミュニケーション研究所	140
(4) 体育研究所	159
(5) 福澤研究センター	167
(6) 慶應義塾大学在外研修プログラム	170
(7) 国際センター	172
(8) 保健管理センター	195
(9) 情報処理教育室	197
(10) アート・センター	199
(11) 知的資産センター	200
(12) 外国語教育研究センター	202

履修案内の配布に際して

経済学部長 塩澤修平

履修案内を配布するこの機会を利用して、三田で学ぶ経済学部の諸君にいくつか重要なメッセージを伝えておきます。慶應義塾大学経済学部における教育は、精緻な知的訓練と広範な議論を通じて、つねに変化する現実の経済社会を認識し評価する知性を磨くこと、を主要な目的としています。

その目的を達成するための、本塾経済学部の専門課程のカリキュラムは以下の点で他の大学を圧倒しています。第一は、中心的な核として設置されている科目群がきわめて充実しているということです。「慶應の経済」という伝統の中で定着してきた、理論・計量、歴史、政策の三つの領域は経済学部のカリキュラムの中心的存在であり、諸君の積極的な学習を待ち受けています。第二は、核となる科目以外にも様々な科目が用意されており、多様な学問が習得できるということも他の大学には見られない本塾経済学部の特長です。さらにいえば、このコアと多様性がうまくバランスしているということが、経済学部のカリキュラムの重要な特徴づけとなっています。そして、講義、研究会、PCP、研究プロジェクトといったさまざまな形態で、これらの科目が用意されています。

履修するにあたっては、こうした特長を十分に認識してください。コアとなる科目を集中的に学習するというのも可能であり、またコアとなる科目と学際的あるいは周辺分野の科目をほどよくバランスさせて学習するというやり方もあり得ます。どのような形の履修をするか、そこには学習する者の設計能力あるいは見識が問われているのです。履修の前には、自分が何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、明確にしておく必要があります。それは、冷静に自分を見つめ、自分自身を分析することによってはじめて可能になるのです。

慶應義塾の建学の精神はいうまでもなく「独立自尊」です。長いようで短い三田の二年間でどのような学習をするのか、あるいはどのような研究を展開するのか、それは諸君の意志と意欲にかかっています。「慶應の経済」を卒業する人間として誇れるようになるか否か、そこには今この時点における諸君の選択が大きくものをいいます。そのことを良く考えて履修に臨んでください。

経済を学ぶためには、現実社会の中で何が解決されるべきかを見出す「温かい心」と、そうして見出された問題を解決する「冷たい頭」のどちらも必要だといわれています。諸君の一人一人が、その「温かい心」と「冷たい頭」をもち、気概に満ちながらもバランス感覚ある紳士淑女として社会に出ていかれるよう期待しています。

履修選択にあたって

三田学習指導主任 駒 形 哲 哉

この履修案内では、一般的な注意事項と履修の仕方に始まり、第3学年および第4学年の学生諸君の進級や卒業に必要な単位数が示されている。また、三田キャンパスにおいて設置されているそれぞれの科目の内容が簡潔に記されている。学生諸君が年度始めにあたってまずこの履修案内を熟読し、支障なく単位を取得する計画を立てて三田において充実した学習生活を送ることを期待している。

三田における学習プログラムは、10分野からなる基本科目および特殊科目・関連科目による専門教育科目を中心に展開され、さらに学習の利便性を考慮して総合教育科目や外国語科目も設置されている。経済学部が設置している基本科目と特殊科目は、経済学の伝統的な部分とその最新の動向とがともに学習できるように十分配慮されたものである。また学際的な内容を扱う科目も多く配置され、専門教育科目全体がカバーする領域は多岐に渡っている。

経済学部の三田設置科目は多様であるがゆえに、三田でどのような学習生活を送るかは学生諸君の自主的・積極的な学習計画にかかっている。学生諸君自らこの履修案内を熟読し、他の学生に同調するのではなく、各自の問題関心に照らして主体的な履修選択を行ってほしい。

残念ながら、例年履修上の不注意が多く、そのために単位を取得できないケースがあとを絶たない。特に昨年度より、05学則が三田の科目に反映され、2005年度以後の入学生にはこれまではなかった「セット科目」や「半期完結科目」が提供されているため、進級および卒業の条件を正確に把握し、履修上の間違いや遺漏などのないように細心の注意をはかるべきである。この履修案内を読んでもなお疑問があれば、必ず学習指導担当者または学事センターの窓口において質問して疑問点を解消するように心がけてほしい。

三田における学生生活を真に充実させられるかどうかは、諸君自身の履修計画に大きく依存している。後で後悔することのないように、万全な履修選択を行うことを期待する。

平成20(2008)年度学事関連スケジュール

学事Webシステムパスワード変更締切	4月7日(月)学事センター
春学期授業開始	4月8日(火)
Webによる履修申告期間	4月11日(金)10時～4月16日(水)14時
履修申告用紙による履修申告日	4月16日(水)8時45分～14時 学事センター前受付ボックス
開校記念日【休講】	4月23日(水)
授業料等納入期限(全納・春学期分納)	4月30日(水)
履修申告科目確認表送付(本人宛)	5月上旬(詳細後日掲示)
定期健康診断	5月上・中旬
履修申告修正受付	5月7日(水)～5月9日(金)(詳細後日掲示)
休学願提出期限(05学則適用者春学期分)	5月30日(金)
早慶野球戦	5月下旬
春学期末試験時間割発表	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期末追加試験申込受付	7月上旬(詳細後日掲示)
春学期土曜代替講義日	7月10日(木)
春学期補講日	7月11日(金)
春学期授業終了	7月15日(火)
春学期末試験(予定)	7月16日(水)～7月28日(月)
夏季休業	7月29日(火)～9月21日(日)
春学期末追加試験(予定)	8月5日(火)・8月6日(水)
三田キャンパス一斉休業	8月9日(土)～8月15日(金)
春学期学業成績表送付(保証人宛)	9月中旬
秋学期授業開始	9月25日(木)
授業料等納入期限(秋学期分納)	10月31日(金)
早慶野球戦	11月上旬
秋学期月曜代替講義日(1)	11月6日(木)
秋学期土曜代替講義日(1)	11月7日(金)
創立150年記念式【休講】	11月8日(土)
秋学期補講日(1)	11月19日(水)午前
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)【休講】	11月19日(水)午後～11月25日(火)
休学願提出期限(05学則適用者秋学期分・99学則適用者)	11月28日(金)
冬季休業	12月23日(火)～1月5日(月)
三田キャンパス一斉休業	12月28日(日)～1月5日(月)
授業開始	1月6日(火)
秋学期末試験時間割発表	1月上旬(詳細後日掲示)
秋学期末追加試験申込受付	1月上旬(詳細後日掲示)
福澤先生誕生記念日【休講】	1月10日(土)
秋学期月曜代替講義日(2)	1月13日(火)
秋学期土曜代替講義日(2)	1月21日(水)
秋学期授業終了	1月21日(水)
秋学期補講日(2)	1月22日(木)
秋学期末試験(予定)	1月23日(金)～2月2日(月)
福澤先生命日	2月3日(火)
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験(予定)	2月下旬(詳細後日掲示)
卒業者発表	3月10日(火)
学業成績表送付(保証人宛)	3月中旬
卒業式	3月23日(月)

注意事項

- ・**代替講義日**：土曜代替講義日(7/10(木), 11/7(金), 1/21(水))には、実際の曜日にかかわらず、土曜開講の授業が行われます。月曜代替講義日(11/6(木), 1/13(火))には、実際の曜日にかかわらず、月曜開講の授業が行われます。土曜または月曜開講の授業を履修している学生は、それぞれの代替講義日に注意してください(代替講義日には、土曜・月曜以外の曜日の授業は行われません)。
- ・**補講日**：補講日(7/11(金), 11/19(水)午前, 1/22(木))には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。補講実施科目については、休講・補講掲示で確認してください(補講日に設定されている曜日の授業は、補講にならない限り行われません)。また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。
- ・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務室の閉室期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時、掲示およびHPにてお知らせします。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/mado/index.html>

- ・諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益を被ることもありますので、十分注意してください。
- ・共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等にも注意してください。

一般注意事項

学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 通学定期券の発売区間は、「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は、必ず学事センターにて区間変更手続きを行ってください。なお、通学区間が適正でない場合、通学定期券の発売が停止されます。
4. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦 4 cm、横 3 cm カラー光沢仕上げ、3 ヶ月以内に撮影されたもの）1 枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料 2,000 円が必要です。
5. 返却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・卒業などで離籍した場合は、ただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板、地下 1 階掲示板および地下 2 階掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。
また、定期試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎地下 2 階掲示板を利用してください。

試験・レポート・成績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第 188 条により厳しく処分されます。このようなことが絶対ないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。定期試験の時間割は授業の時間割と異なります。なお、下記の日程が変更になる場合は、掲示等でお知らせします。

春学期末：7 月 16 日（水）～ 28 日（月）実施（春学期科目、春・秋学期セット科目および通年科目の中間試験が対象）

秋学期末：1 月 23 日（金）～ 2 月 2 日（月）実施（秋学期科目、春・秋学期セット科目、通年科目が対象）

試験に関する注意事項

定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。三田では予鈴はありません。本冊子表紙裏面に記載の試験開始時間までに指定された教室に入るようにしてください。

受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。

答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。

学生証を必ず携帯し、提示してください。

試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料 500 円が必要となります。

学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。

試験開始後 20 分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるも

の場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。ただし、電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。電車遅延等により遅刻をしても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象となりません。また、試験時間の延長もありません。

試験開始後の体調不良などの理由で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験（授業内試験）

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験期間中に定期試験を行わず、レポート・平常点・授業内試験等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。なお、三田の追加試験の振鈴時間は定期試験時と異なりますので注意してください。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・諸研究所が設置主体である併設科目についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、試験欠席の理由を明示できる医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、電車の事故（遅延）証明書、あるいは学習指導担当教員の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続を日吉で行う必要があります。なお、試験場は原則として日吉になります。

定期試験では、授業時間割と異なる時間割で試験が行われますが、試験時間が重複することがあります。その場合の追加試験取扱いは、定期試験時間割発表時の掲示を確認のうえ、手続をしてください。ただし、三田と日吉の試験が重複した場合は、原則として三田の試験を追試とします。

以上の手続を怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

その他、履修要項も参照してください。

4. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続を厳守してください。

(1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センターでは、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示を確認してください（提出にあたっては、指定時間内に指定されたボックスに投函する必要がありますので注意してください）。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日…… 8 時 45 分 ~ 16 時 45 分

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

(2) 学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2 枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2 枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。

(3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

5. 成績通知

春学期終了科目は 9 月中旬、それ以外の科目は 3 月中旬に保証人宛に学業成績表を発送し成績を通知します。それ以前には一切通知しません。

また、指定された期間内に限り学業成績表を Web 閲覧することも可能です。利用にあたっては keio.jp の慶應 ID・パスワードと学事 Web システムのパスワードが必要となります。閲覧期間等の詳細は別途お知らせします。

なお、成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌年度の 4 月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を 1 月に掲示します。

6. 評点の疑義について

経済学部では、評点の疑義についての問い合わせがある場合、科目設置地区の学事センターで質問用紙（所定用紙：学事センター設置）にて受け付けます。この他の方法では一切受け付けません（科目担当者が個別には対応しません）。詳細は掲示を確認してください。

諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届（p.31 参照）

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要の期間休学することができる。」

（学則第 152 条）

「休学の事由が消滅したならば、休学者は速やかに就学届を提出しなければならない。」（学則第 152 条）

「病気その他の事由により退学したい者は、保証人連署の上退学届を提出しなければならない。」（学則第 154 条）

2. 国外留学申請（p.32 参照）

「本大学が教育上有益と認めたときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある。」（学則第 153 条）

3. 住所変更届(本人・保証人)・保証人変更届・改姓(名)届・国籍変更

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターへ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

住所変更届: 在学カード

保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票

改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

国籍変更: 戸籍謄本(コピーでも可), 住民票

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書発行、申込み、受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。授業料等が未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】

証明書種類		三田	手数料	補記(日程等)
在学証明書	和文		200円	4月1日12:30~発行
	英文			
成績証明書	和文		200円	5月7日~ 学部4年生のみ発行
	英文			
学部卒業見込証明書	和文		200円	6月2日~発行
	英文			
履修科目証明書	和文		200円	6月中旬~年度末まで発行
健康診断証明書	和文		200円	大学保健管理センターで発行します(詳細は保健管理センターにお問い合わせください)
健康診断書	英文	×		5月7日~ 学部4年生のみ発行
卒業見込証明付成績証明書	和文		400円	
特殊証明書	旧司法試験受験用単位取得証明書		200円	所属キャンパス学事センターで申請してください
	各種資格試験等受験用単位取得証明書			
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書			
	科目等履修生・特別聴講生に関する各種証明書			
その他	学割証(JR各社共通)		無料	定期健康診断を未受診の場合には発行できません
	通学証明書			学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。
	厳封を必要とするもの(和文・英文)			所属キャンパス学事センターで申請してください 厳封が必要な場合は、証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください

凡例 自動発行機で即日発行 窓口で即日発行 窓口で数日後発行 × 発行不可

= 注意事項 =

【証明書自動発行機で即日発行する証明書】

<和文>

学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも学籍を失った場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断が未受診の場合には、学割証の発行はできません。

厳封が必要な場合は、自動発行機で発行できる証明書でも、学事センター窓口で申し出てください。

健康診断証明書は6月中旬以降、当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、お早めに保健管理センター三田分室受付に相談してください。

<英文>

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

【学事センターで日数を要して発行する証明書】

特殊証明書等(例:旧司法試験用単位取得証明書,他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、あらかじめ所属するキャンパスの学事センターで相談してください。なお、交付には、申請してから和文証明書は標準3日,英文証明書は標準7日を要しますので、余裕をもって所属するキャンパスの学事センターにお越しください。

【証明書自動発行機稼働時間】

- ・三田キャンパス 学事センター事務室内 月曜日~金曜日 8:45~16:45 (休業期間中の11:30~12:30は閉室)
- 南校舎1階 月曜日~土曜日 9:00~20:00 (休業期間中の土曜日および休日・大学休業日は除く)

注1)自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。

注2)メンテナンス,故障等により自動発行機を停止することがありますので,HP・掲示板等で確認してください。

【その他】

生協の組合員証および国際学生証は、生協事務室に直接お問い合わせください。

各種証明書の料金は、改定されることがあります。

発行日は、【各種証明書一覧】にある日程より遅くなる場合があります。

教室使用申請について

1. 受付窓口

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財担当

2. 授業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。

(2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。

(3) 申請は使用予定日の2週間前から3日前（注）まで受け付けます。

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。

(4) 「申請者控」は、研究会は学事センター、学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

(2) 学生団体は原則として、使用できません。

(3) 申請は使用予定日の3日前（注）まで受け付けます。

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の閉室期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。

(4) 「申請者控」は、学事センターでお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の閉室期間を除いた3日前とします。

学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日は閉室となります。また、8月中旬および年末年始期間も閉室します。

事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

(1) 学籍・成績・履修に関すること

(2) 授業・試験・レポート等に関すること

(3) 時間割に関すること

(4) 休講・補講に関すること

(5) 追加試験の申込み

(6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更届等

(7) 学生証の発行

(8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）

(9) 旧司法試験等受験のための単位取得証明書の発行

(10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口で取り扱います）

(11) 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口で取り扱います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（三田研究室棟または南館）

日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

（注）授業期間終了後に塾外からの出講者（講師）と連絡をとることはできません。学事センターで仲介、連絡等は一切行いません。

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

【学生生活支援】

教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の3日前(土・日・祝日を除く)までに申し込んでください。土・日・祝日・試験期間中の使用はできません。(【教室使用申請について】も参照)

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～18:00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室があります。使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

学生食堂(山食、西校舎学生食堂(生協食堂)、北館学生食堂(ザ・カフェテリア))の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、学生食堂をパーティー等で利用する場合は、学生生活支援担当が予約受付窓口となります。予約後2週間以内に学内集会届を提出し正式申込をしてください。学内集会届が提出されなかった場合、予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後、学生食堂に直接相談してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

学外行事届、団体割引の受付

公認学生団体や研究会で、合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前(土・日・祝日を除く)までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引やゴルフ場使用税免除にかかわる証明が必要な場合は申し出てください。なお、届け出があった活動は傷害保険の対象となります(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。

組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続きを行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にお問い合わせください。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、許可を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前(土・日・祝日を除く)までに申請してください。

郵便物の取り扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生総合センター内のメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

車輛入構申請の受付

塾生の車輛入構は認められていませんが、やむを得ず車輛入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジには学生が利用できるパソコンが常設されています。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として利用できます。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお、DENGONに掲示するには、学生総合センター窓口へ申し出て掲示物受付簿を記入してください。

大学生生活懇談会について

学生総合センター「大学生生活懇談会」では、講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページをご参照ください。

遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。

その他窓口配付・閲覧関係

窓口には、財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますので自由に閲覧してください。

奨学金

奨学金窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾維持会奨学金〔給付〕

地方出身者で、人物・学業ともに優れ、経済的に学業の継続が困難な者を援助することを目的とします。4月に募集日程を西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と、第二種(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)があります。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金(給付・貸与)

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度(利子給付奨学金制度付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分の一部について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」(学生総合センター窓口にも置いてあります)を参照してください。

【就職・進路支援】

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職・進路支援事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。また、ホームページでは、これら企業からの求人票、説明会案内を検索し、閲覧することができます。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったことなどがあった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室(西校舎地下2階)

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援，就職・進路支援

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室） 都合により閉室することがあります。

学生相談室

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

【学生教育研究災害傷害保険について】

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

【任意加入の補償制度について】

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は、(株)慶應学術事業会(慶應義塾関連会社)に、「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 TEL 03-3453-6098

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳などを確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。

また、風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）などの感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。

学内集団感染予防のため、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

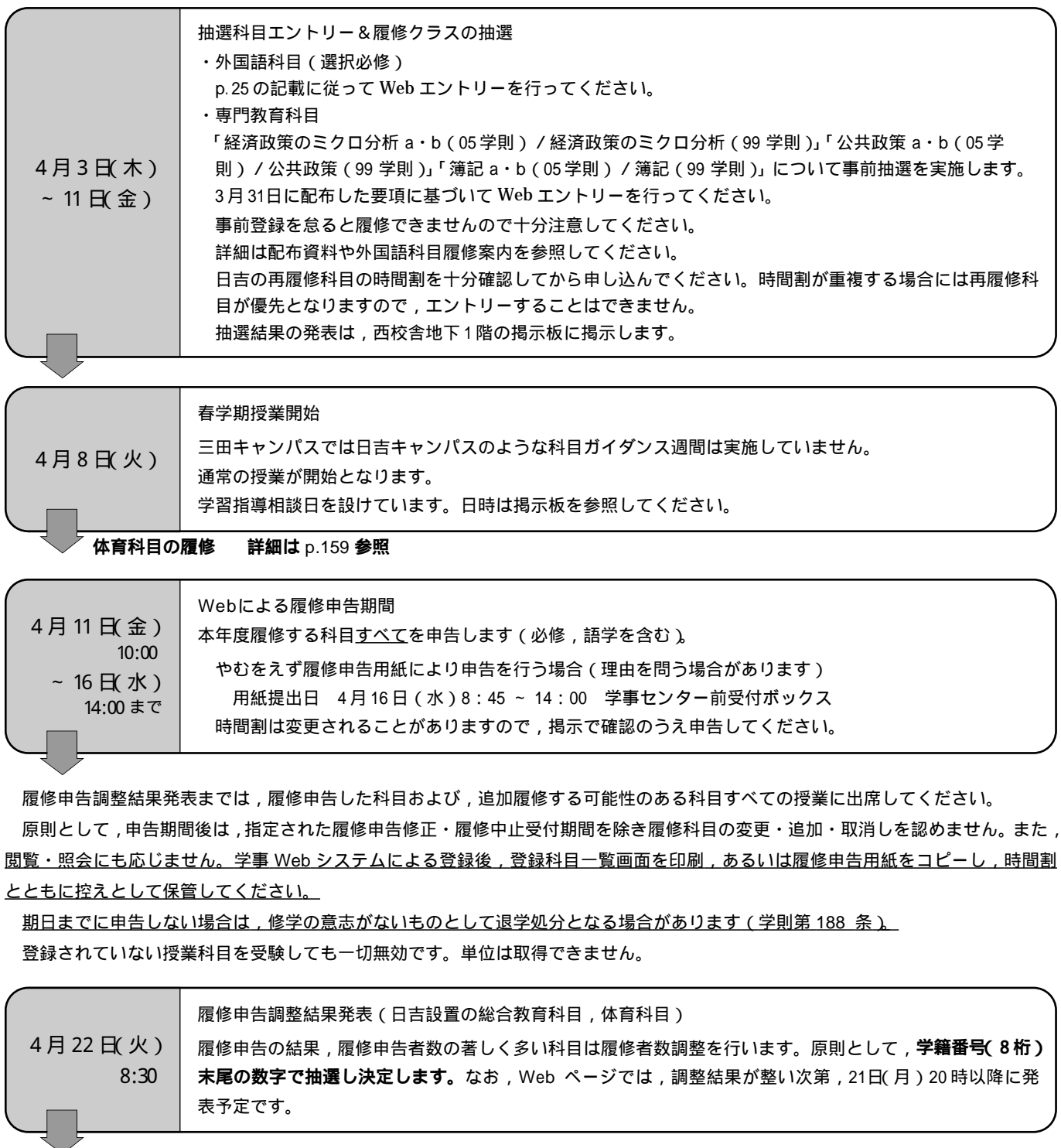
学事 Web システムを使用して下記の日程で申告を行います。学事 Web システムによる履修申告を行うと、即時にエラーチェックおよび学則による一部の履修判定が行われ、メッセージが表示されます。ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、Web 履修申告と併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、学業成績表（保証人宛に送付済）にて、取得した科目を確認し、「履修申告のしかた」（本項）および「履修要項」（次項）を熟読のうえ、申告してください。特に、誤登録・申告漏れ等によって不都合が生じることがないように（進級・卒業に影響する場合があります）十分に注意してください。

(3) 履修申告までの流れ



- (1) 発表掲示場所：西校舎掲示板および Web ページ <http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/kyotsu/risyu/seigen.html>
- (2) 調整の結果、履修が許可された科目の授業に出席してください。
- (3) 調整の結果、履修が不許可となった科目の代わりに他の科目を追加して履修する場合は、『追加履修可能科目』を掲示で確認し授業に出席してください。科目担当者・研究所等の許可を必要とする科目は、『追加履修可能科目』掲示に記載の注意事項を確認し、速やかに履修許可を得ておいてください。追加履修を予定している科目は、5月上旬の履修修正申告までの間、必ず授業に出席しなければなりません。

5月初め	<p>履修申告科目確認表送付(学生本人現住所宛)</p> <p>履修申告科目確認表を学生本人現住所宛に郵送します。履修許可科目を必ず確認してください。住所変更届等の手続は、4月中に必ず済ませておいてください。</p> <p>内容を確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題(登録番号ミスによる申告漏れ、科目間違い等)については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約1週間(詳しくは掲示により指示します)とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。</p>
------	---

学事Webシステムでも履修申告科目を確認できます。

確認画面稼働開始：4月18日(金) 9:00～

学事 Web システム URL http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html

5月上旬	<p>履修申告修正期間(履修申告科目確認表, 研究所発行履修許可証等持参)</p> <p>履修申告用紙(修正申告用)で申告します。Web画面を用いての修正申告はできません。</p> <hr/> <p>履修中止受付 [05 学則適用者のみ]</p> <p>既に履修登録済の科目について履修を中止することができます。</p> <p>履修申告用紙(修正申告用)で申告します。</p> <p>Web画面を用いての履修中止はできません。</p>
------	---

- (1) **修正申告**
履修中止[05 学則適用者のみ] } 受付場所：学事センター経済学部担当窓口
- (2) 学事センターより履修申告ミスの指摘があった場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (3) 追加履修する科目(日吉設置の総合教育科目, 体育科目の抽選もれ以外の理由で新規に科目を追加することは、履修上限内であってもできません)すべてを、この期間内に正しく申告してください。05 学則適用者は履修中止する科目も申告してください。履修申告用紙(修正申告用)に記入する登録番号は、経済学部の時間割で確認してください。
- (4) 履修申告していない科目の試験を受けたり、レポートを提出しても、成績はすべて無効となります。また履修科目を学期半ばで放棄したり、試験を受けないと不合格になります。
- (5) 指定された期日までに履修申告しない場合は、就学の意志がないものとして退学処分にすることがあります(学部学則第188条)。
- (6) **履修中止について [05 学則適用者のみ]**
 履修中止をした科目の代わりに他の科目を新しく追加することはできません。
 - A. 履修中止が認められる科目
 以下 ~ のうち、履修制限・抽選を行わなかった科目。
 - 基礎教育科目の選択必修科目と選択科目
 - 外国語科目のうち、(選択A)として登録した科目(外国語教育研究センター設置科目を除く)
 - 専門教育科目基礎科目の選択必修科目
 - 専門教育科目の基本科目
 - 専門教育科目の特殊科目
 - 専門教育科目の関連科目(経済学部設置のものに限る)
 - B. 履修中止を認めない科目
 - 必修科目
 - 外国語の選択必修科目
 - 総合教育科目
 - 他学部設置科目
 - 諸研究所設置科目
 - 上記 ~ の他、履修制限・抽選を行った科目

C. その他

進級・卒業条件を満たさなくなるような履修中止は認められません。

履修を中止した科目の成績はつきません。

9月下旬	秋学期履修修正 [05 学則適用者のみ] 既に登録済みの秋学期科目の履修を中止することができます。また、秋学期の履修単位上限 24 単位までは追加申告することも可能です。 申告方法については、掲示等で別途指示します。
10月中旬	秋学期履修中止 [05 学則適用者のみ] 既に登録済みの秋学期科目について履修を中止することができます。 履修申告用紙(修正申告用)で申告します。 Web 画面を用いての履修中止はできません。

(1) 秋学期履修修正[05学則適用者のみ](受付方法:掲示等で別途指示します)

秋学期履修中止[05学則適用者のみ](受付場所:学事センター経済学部担当窓口)

(2) 秋学期履修修正・秋学期履修中止が認められる科目

以下 ~ の秋学期設置科目のうち、履修制限・抽選を行わなかった科目

基礎教育科目の選択必修科目と選択科目

外国語科目のうち、(選択 A)として登録した科目(外国語教育研究センター設置科目を除く)

専門教育科目基礎科目の選択必修科目

専門教育科目の基本科目

専門教育科目の特殊科目

専門教育科目の関連科目(経済学部設置のものに限る)

(3) 秋学期履修修正・秋学期履修中止を認めない科目

必修科目

外国語の選択必修科目

総合教育科目

他学部設置科目

諸研究所設置科目

春学期設置科目

春学期・秋学期のセット科目

上記 ~ の他、履修制限・抽選を行った科目

(4) その他

進級・卒業条件を満たさなくなるような履修修正・履修中止は認められません。

履修を中止した科目の成績はつきません。

2. 登録番号および分野について

(1) 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。

(2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目については、1か所の登録番号を登録することで、全ての時限についても登録されます。

ただし、他学部、諸研究所、センター等と併設している科目については、それぞれに登録番号が付いていますので経済学部の時間割で登録番号を確認してください。

(3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合と、各自分野を選択しなければならない場合(申告の際は2桁のB欄分野番号を登録)があります。他学部設置の専門教育科目を履修する場合などは、2桁のB欄分野番号を登録しなければなりません。適用学則の卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位および第4「履修上の注意」(p. 28 参照)を確認してください。

(4) 大学院設置科目の先取り履修による経済学研究科設置科目の履修申告および東京工業大学工学部との相互科目履修による東京工業大学設置科目の履修申告は、所定の手続により学事センターで登録を行いますので、履修申告を別途行う必要はありません。

<登録番号のみで自動的に分野が登録される科目(「A欄」で申告,通常はこちら)>

経済学部1~4年(三田・日吉)設置の授業科目(経済学部設置関連科目を含む)
「全学部共通外国語科目履修案内(三田)」に掲載の外国語科目(他学部設置科目を含む)
経済学部の時間割に掲載の諸研究所・センター等設置科目 (言語文化研究所,体育研究所,福澤研究センター,国際センター,保健管理センター,情報処理教育室,アート・センター,知的資産センター,外国語教育研究センター)
教職課程登録者以外が履修する同センター設置科目
メディア・コミュニケーション研究生以外が履修する同研究所設置のオープン科目
メディア・コミュニケーション研究生が履修上限内で履修する同研究所設置のオープン科目

<B欄分野を選択する科目(「B欄」で申告)>

他学部設置の専門教育科目を関連科目で履修する場合
他学部設置の総合教育科目を自由科目で履修する場合
重複履修の科目を自由科目で履修する場合
メディア・コミュニケーション研究所の研究生が,履修上限内で履修する同研究所設置の研究生科目および履修上限外で履修する同研究所設置科目
教職課程登録者が,教育免許取得のために履修する他学部設置の授業科目および教職課程センター設置科目

<他大学設置科目を履修する場合>

大学交流学生履修許可願(所定用紙)を使用してください。

3. 東京工業大学工学部との相互科目履修について

30単位を限度として東京工業大学工学部設置科目を関連科目として履修することができます。

詳細は,学事センターにお問い合わせください。

(1)相手先大学設置科目の履修に関する手続について

この制度に基づく履修を希望する者は,学事センターで大学交流学生履修許可願をまず受け取ってください。その際に科目履修に関しての説明文を配布しますので,記載内容に従って手続を取ってください。

(2)履修申告について

履修登録は大学交流学生履修許可願の提出により,学事センターが行います。大学交流学生履修許可願は,4月11日(金)~16日(水)の履修申告期間内に提出してください。学事Webシステムによる履修申告の必要はありません。

(3)交流学生証について

履修が許可された場合,相手校事務室にて,交流学生証を発行します。相手校の授業に出席する場合には必ず携帯してください。

(4)相手校の授業の履修を取り止める場合

万が一,履修を学期の途中で取り止める時は,速やかに相手校の講義担当者,相手方事務担当部署,および本塾学事センターに連絡をしてください。

4. 学事Webシステムによる履修申告について

操作方法・操作上の注意は<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>を参照してください。

やむをえない理由で履修申告用紙(マークシート)により履修申告を行う場合について

履修申告用紙記入の際は,以下の点に注意してください。なお,Webシステムによる申告が行えない理由を問う場合があります。

(1)HBかBの鉛筆を使用してください。誤記,記入漏れがないように,丁寧に記入してください。特に,「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

(2)学籍等の記入方法

学部,学年,組,氏名,学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに,該当する数字をマークしてください。(学科および専攻の欄の記入は不要です。)

(3)A欄記入上の注意事項

形態欄:その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を で囲み,曜日・時限を記入します。

科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は,時間割上段に記載されている教員名を記入します。

登録番号欄:履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し,マークします。

(4)B欄記入上の注意事項

形態欄:その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を で囲み,曜日・時限を記入します。

科目名・教員名を記入します。

登録番号欄:履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し,マークします。

分野欄:第3「卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位」より2桁のB欄分野番号を記入し,マークします。

(5)「無効マーク」(A欄・B欄に共通)にマークすると,その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが,跡が残ったり,黒くこすれたりした場合は,この「無効マーク」を利用してください。

(6)履修申告用紙の再交付について

無効マーク欄を使用して無効にしても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので,その履修申告用紙を持参のうえ,学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

Webシステム

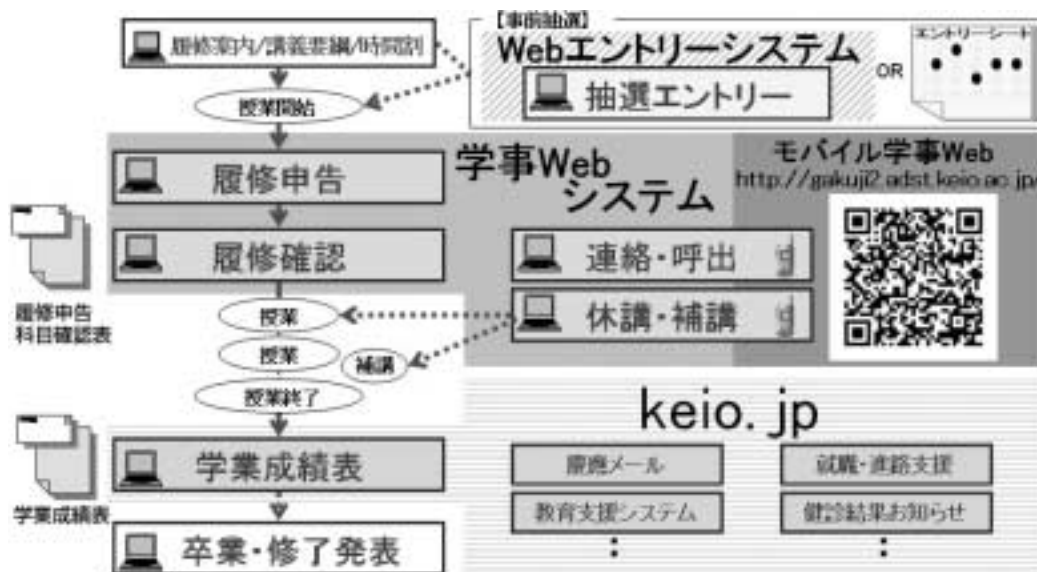
Webシステム概要

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスの利用ができます。

現在、ポータルサイト「塾生の皆様へ」で履修案内/講義要綱/時間割、卒業・修了発表など様々な情報を公開しています。また、ログインを必要とするシステムとして、「学事 Web システム」「Web エントリーシステム」「keio.jp」の3つのシステムにて、履修申告、休講・補講情報、学業成績表など各種の機能を提供しています。一部の機能では、携帯電話などの携帯端末から利用できるサービスもあります。

各システムのログインに必要なID・パスワードは、「学籍番号/学事 Web パスワード」と「慶應 ID /パスワード」の2種類があり、それぞれのシステムで必要となるID・パスワードが異なります。利用するシステムに対応したID・パスワードで利用してください。なお、学内のパソコンを利用するためのWindowsアカウントのユーザ名・パスワードとは異なりますので注意してください。

各システムで提供している機能の中で特に授業に関連する機能を中心に以下の図に示します。



Webシステムで提供する主な機能

各システムの操作方法や設定方法は、各システムのマニュアルHPにて詳しく説明しています。

その他にも新しい機能を随時提供する可能性があります。その場合は、「塾生の皆様へ」や「keio.jp」トップページなどで随時告知します。

「塾生の皆様へ」：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

「keio.jp」トップページ：<http://keio.jp/>

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。 最新のお知らせや各種ホームページのリンクなどを提供しています。
主な提供 サービス	<p>授業/ 履修/ 試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修案内/ 講義要綱/ 時間割 (PDF) の公開 ・卒業・修了発表 (学籍番号のみ公開) など <p>学生生活/ 進路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口利用案内 ・イベントや奨学金についての情報 など <p>その他, 各種の情報を提供しています。詳細は上記 URL を参照ください。</p>

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/Password	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
主な提供 サービス	<p>履修申告</p> <p>時間割や登録番号から科目を選択し, 履修申告を行うシステムです。学部・研究科もしくはキャンパスごとに決められた履修申告期間なら何度でも履修申告内容の修正が行えます。 履修申告期間については, p.14 を参照してください。 受付期間中に時間割が変更になる場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し, 必要があれば締切りまでに申告の修正を行ってください。</p> <p>履修確認</p> <p>履修中科目の一覧を表示します。学部・研究科もしくはキャンパスごとに決められた期間に利用できます。ただし, 表示される履修中科目の内容は, ある日付の暫定的な内容となります。正確な履修中科目の一覧を確認したい場合は, 本人宛に送付する履修申告科目確認表を必ず確認してください。</p> <p>休講・補講情報</p> <p>休講・補講のある授業の一覧が表示されます。履修中科目の休講・補講のみを表示, もしくは1週間や1ヶ月など一定期間中のキャンパスごとの休講・補講を表示することもできます。 休講・補講情報確認は, 携帯端末からも利用できます。 ただし, 公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので, 必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。 また, 代替講義日の休講は通常講義と異なり, 学事 Web システムの休講情報には対応していませんので, 塾生ページ (http://www.gakuji.keio.ac.jp/) および, 各キャンパスの掲示板で確認してください。</p> <p>連絡・呼出情報</p> <p>事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は, 学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡や呼出がない場合は, 何も表示されません。 連絡・呼出は, 携帯端末からのログイン時にも表示されます。</p>

Web エントリーシステム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/Password	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	<p>各種の申込み（エントリー）を行うシステムです。</p> <p>ログインには学事 Web システムと同じ学籍番号/学事 Web パスワードを利用します。パスワードを忘れた場合は学生証持参のうえ、学事センター窓口までお越しください。</p>
主な提供 サービス	<p>抽選エントリー</p> <p>事前抽選が必要な科目の抽選申し込み（エントリー）を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口へ提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。科目ごとの受付方法や受付期間は、本冊子等新年度書類配布時の封筒裏面を参照してください。</p>

共通認証システム（keio.jp）	
URL	http://keio.jp/
ID/Password	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp/
概要	<p>共通の ID（慶應 ID）で様々なサービスを提供するためのシステムです。</p> <p>利用するには、慶應 ID の取得（アクティベーション）が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために慶應 ID ・パスワードの他に第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。</p>
主な提供 サービス	<p>学業成績表閲覧 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 学部生は保証人，大学院生は本人へ郵送した学業成績表の原本から，個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は，学部・研究科，学年などで異なります。 詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。</p> <p>健診結果お知らせ 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。 結果は必ず確認してください。（結果閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします） 結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p>就職・進路支援システム 進路希望，進路届，就職体験記，求人票など その他 ・慶應メール ・教育支援システム 他 （詳しくは上記のマニュアルページで確認してください）</p>
慶應 ID 取得	<p>まだ慶應 ID を取得していない方は、「アクティベーション」を行ってください。アクティベーションの際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードを利用します。</p> <p>アクティベーション方法の詳細は，以下を参照してください。 http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</p> <p>アクティベーションは 1 度しか利用できません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は，各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>

Web システム操作上の注意

複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。

Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。

Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにするなどのセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。

氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。

Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

経済学部

履修要項

第 1 適用学則（自分がどの学則の適用を受けるか必ず確認してください）

1 05学則と99学則について

05学則：2005年度以降に第1学年に入学した者，2006年度末において第1・2学年にとどまり，99学則から05学則に移行した者，2006年度以降に第2学年に編入学した者，および2007年度以降に第3学年に学士入学した者に適用される学則。

99学則：2004年度までに経済学部へ入学した者，2005年度までに第2学年に編入学した者，および2006年度までに第3学年に学士入学した者に適用される学則。

入学年度および形態と適用される学則は以下のとおりとなります。疑問点がある場合には学事センターへ問い合わせてください。

	2004年度以前	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
1年入学	99学則	05学則	05学則	05学則	05学則
2年編入学	99学則	99学則	05学則	05学則	05学則
3年学士入学	99学則	99学則	99学則	05学則	05学則

2 学則の移行

(1) 2004年度以前入学者(99学則適用者)の適用学則は，以下のとおり2005年度以降入学者用適用学則(05学則)に移行します。

- ・2006年度末において第1・2学年にとどまった場合，2007年3月末日をもって移行しました。
- ・2008年度末において第3・4学年にとどまった場合，2009年3月末日をもって移行します。

休学および留学を予定している者は，就学時に適用される学則について留意が必要です。

99学則適用者で原級にとどまった者が，05学則への移行により進級・卒業に必要な条件を満たす場合がありますが，この場合は原級にとどめるものとし，別途履修についての指示を行います。

(2) 学則の移行が行われる際に，取得済みの科目を05学則適用者用の科目に読み替えます。読み替え等の詳細は移行時に通知します。

第 2 成績の評語

1. 評語について

履修申告しながら定期試験を受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D(不合格)」の評語がつきます。2003年度より，従来の「放棄(未受験：)」は廃止されました。ただし，2002年度以前の成績評語の修正(D)は行いません。

学則第70条に基づき，成績の評語は，「A・B・C・D」とし，「A・B・C」は合格，「D」は不合格となります。ただし，体育科目のうち「体育実技B」に関しては，その評語を「P・F」とし，「P」は合格，「F」は不合格となります。

なお，学業成績表は，保証人宛に9月中旬と3月中旬に送付します。

2. 追加試験の評語について

2006年度より，追加試験による成績評語は，定期試験の場合のその一段階下の評語となりました。(ただし，定期試験の時間割が重複した場合，電車の遅延が証明された場合，公認会計士試験の受験を理由とした場合，文部科学省が指定する学校伝染病にかかり，出席停止期間が明示された診断書を用意した場合，二親等以内の葬儀の場合はこの限りではありません。)

3. 質問制度について

評点の疑義についての問い合わせがある場合，学事センターで所定の質問用紙にて受付を行います。受付期間等は，学業成績表発送時にあわせて通知します。

この制度を利用せずに直接授業担当者に問い合わせることはできません。不正行為とみなされる場合もありますので注意してください。

2008 年度（平成 20 年度）に第 3・第 4 学年のために開講される科目と単位数は次のとおりです。

講義は 05 学則適用者については週 1 回の半期科目を，99 学則適用者については週 1 回の通年科目を原則とします。ただし，99 学則適用者については春学期または秋学期のみに毎週 2 回開講される集中講義，および週 1 回の春学期または秋学期のみの半期科目も開講されます。

なお，05 学則適用者が 99 学則適用者用の科目を履修することはできません。また逆に 99 学則適用者が 05 学則適用者の科目（科目名末尾に a, b の付く科目）を履修することもできません。

1 総合教育科目

(1) 三田設置科目は以下のとおりです。

科目名		系
05学則適用者用	99学則適用者用	
人類学 a, b (各2)	人類学(4)	系
情報処理(2)	実践自然科学(2)	
歴史 a, b (各2)	歴史(4)	系
法学 a, b (憲法を含む)(各2)	法学(憲法を含む)(4)	
近代思想史 a, b (各2)	近代思想史(4)	
美術 a, b (各2)	美術(4)	
地域研究 中国事情 (2)		
地域研究 中国事情 (2)		系
人の尊厳(社会と人権)(2)		
自由研究セミナー a, b (各2)	自由研究セミナー(4)	

()内は単位数

(2) 日吉設置科目も履修することができます。ただし，最初の授業時間に別途手続きが必要な科目もありますので，講義要綱や日吉の掲示板等に注意してください。

履修申告者多数の場合には，第 3・第 4 学年を含む全ての履修申告者を対象に履修制限（抽選）を行うことがあります。その結果，履修が許可されなかった場合には，履修申告修正期間に総合教育科目（系は選択可）の追加申請可能科目の中からの追加を認めます（詳細は別途掲示します）。ただし，これに伴う他の科目の変更・削除は認められません。

(3) 他学部設置の総合教育科目は，総合教育科目として履修できませんが，授業担当者の了解を得たうえで自由科目としての履修ができます。また，経済学部と他学部で併設している場合は，経済学部の登録番号で登録してください。時間割表・登録番号は学部ごとに異なりますので注意してください。

なお，第 3・第 4 学年でも配当されているため，卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

(4) 教養研究センターが設置（99 学則適用者には経済学部が併設）する以下の科目は総合教育科目（系）として履修できます。

99 学則適用者は経済学部併設科目の登録番号で申告を行ってください。

「生命の教養学」「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」

(5) 「実践自然科学」は，第 4 学年のみ履修が許可されています。

2 基礎教育科目

(1) 日吉設置の基礎教育科目の選択科目を履修することができますが，教室定員の都合上，配当学年の履修を優先することがあります。

(2) 選択必修「情報処理（第 1 学年設置）」「情報処理（第 1・2 学年設置）」より 2 単位について履修にあたっての取り扱い，昨年度までの取得単位数の違いにより以下のとおりとなります。

【05 学則適用者】

	各学期 1 つ目の科目	各学期 2 つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限内
1 科目取得済	履修上限内	履修上限内

【99 学則適用者】

	本年度 1 つ目の科目	本年度 2 つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限内
1 科目取得済	履修上限内	履修上限内

履修上限内で取得に至った場合には，第 3 学年における進級必要単位（28 単位）および第 4 学年における必要単位（12 単位）になります。また，第 3 学年における進級必要単位のうち，基礎教育科目 10 単位（内訳は定めない）としても数えることができます。

1 科目 2 単位の取得ができていない 05 学則適用者については，春学期の単位取得状況により，秋学期に科目の削除などの修正申告が必要になる場合があります。学事センターからの指示に従ってください。

(3) 履修タイプ の第 1 学年設置選択必修科目 4 科目（数学概論 ，数学概論 ，世界経済の現状と問題，日本経済の現状と問題）のうち 2 科目 4 単位について

履修にあたっての取り扱い，昨年度までの取得単位数の違いにより以下のとおりとなります。

【05 学則適用者】

	各学期 1 つ目の科目	各学期 2 つ目の科目	各学期 3 つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限外	履修上限内
1 科目取得済	履修上限外	履修上限内	履修上限内
2 科目取得済	履修上限内	履修上限内	履修上限内

【99 学則適用者】

	本年度1つ目の科目	本年度2つ目の科目	本年度3つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限外	履修上限内
1科目取得済	履修上限外	履修上限内	履修上限内
2科目取得済	履修上限内	履修上限内	履修上限内

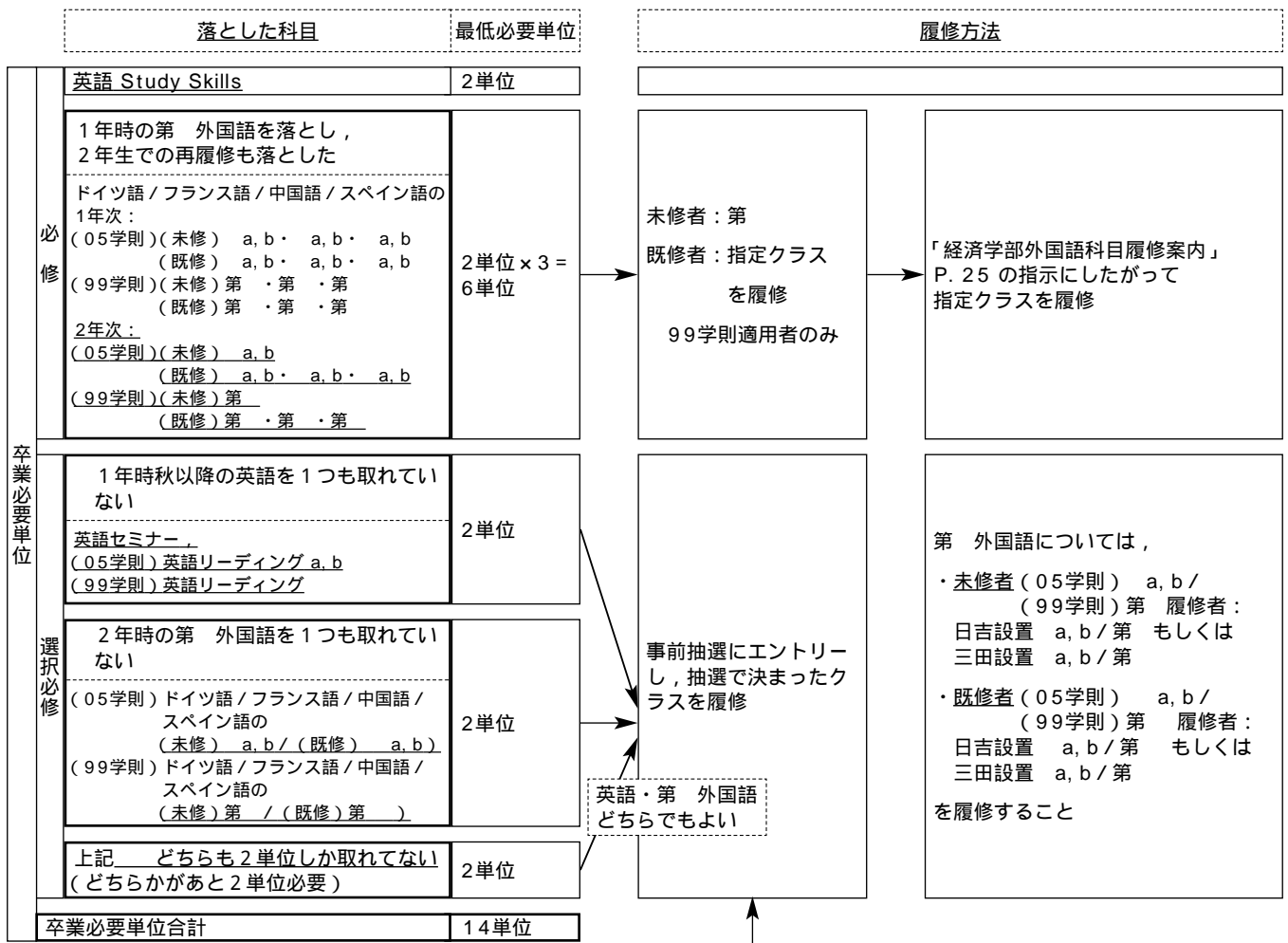
履修上限内で取得に至った場合には、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。また、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めなし）としても数えることができます。

2科目4単位の取得ができていない履修タイプの05学則適用者については、春学期の単位取得状況により、秋学期に科目の削除などの修正申告が必要になる場合があります。学事センターからの指示に従ってください。

3 外国語科目

(1) 外国語科目の履修

履修に当たっては以下の図に従ってください。なお、経済学部設置の外国語科目（必修・選択必修）は4月15日（火）以降、外国語科目（選択）は4月8日（火）以降の開講となります。



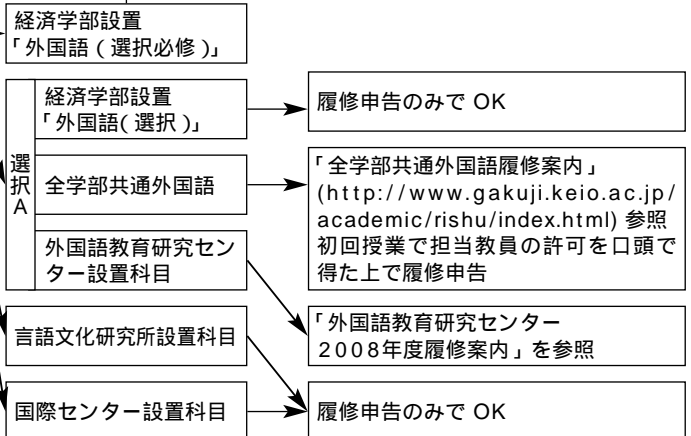
上記単位は全て取得している（卒業に必要な外国語の単位は全て取得している）が、もっと外国語を勉強したい人

外国語科目は同一科目名・同一担当者でもサブタイトルが異なる等授業内容が異なる場合は複数履修して構いません。

外国語 における語種変更（外国語）

前学年までに履修した語種と異なる語種の履修を希望する場合（外国語），日吉で実施される外国語 ガイドランスに出席し、学習指導担当者の許可を得なければなりません。また、必ず日吉設置の初習クラスを2科目4単位履修・合格しなければなりません。詳細は「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

99学則適用者で日吉設置の第1学年設置の必修外国語科目（外国語）を未取得の場合、「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を確認のうえ、履修申告してください。選択必修科目によって必修科目に代えることはできません。



等

(2) 選択必修科目の事前抽選

選択必修科目（三田・日吉設置）の履修を希望する学生は下記に従って事前に Web エントリーを行ってください（抽選に受かった場合は必ず履修しなければなりません）。

		外国語（英語）		外国語
		英語セミナー	英語リーディングa,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	
Web エントリー 期間	〔1回目〕	4月7日(月)9:00～4月8日(火)14:00	4月3日(木)9:00～4月4日(金)14:00	4月3日(木)9:00～4月4日(金)14:00
	〔2回目〕	4月9日(水)9:00～4月10日(木)14:00	4月7日(月)9:00～14:00	4月7日(月)9:00～14:00
2回目のエントリーは1回目の登録で定員に満たないクラスのみ対象となります。 2回目のエントリーに参加できる学生は、 ・1回目の抽選で履修クラスが決定しない学生 ・1回目の抽選で決定したクラスに追加して履修を希望する学生 のみです。1回目の抽選で決定したクラスを変更するためのものではありません。				
Web エントリー 結果発表	掲示場所	日吉：第4校舎B棟1階 J11番教室前経済学部掲示板 三田：西校舎地下1階掲示板		
	発表日時	〔1回目〕 4月9日(水)9:00	4月7日(月)9:00	4月7日(月)9:00
	〔2回目〕	4月11日(金)9:00	4月8日(火)9:00	4月8日(火)9:00
Webエントリー方法	1. Webシステム ^① のWebブラウザ用メニュートップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) で Webエントリーシステム ^② へのリンクボタンを押してログインする（ログインのID、パスワードは学事Webシステムと同じ。）			
	2. 「エントリー入力」のプルダウンで ・英語セミナー（春） ・英語セミナー（秋） を選び、「入力画面表示」ボタンを押す。 3. 第4希望まで選び、下の「エントリー」ボタンを押す。	2. 「エントリー入力」のプルダウンで ・英語リーディング を選び、「入力画面表示」ボタンを押す。 3. 第4希望まで選び、下の「エントリー」ボタンを押す。	2. 「エントリー入力」のプルダウンで ・ドイツ語 ・フランス語 ・中国語 ・スペイン語 を選び、「入力画面表示」ボタンを押す。 3. 第3希望まで選び、下の「エントリー」ボタンを押す。	
4. 「以下の内容で登録しますか？」と聞かれるので、よければ「登録」ボタンを押す。 5. 「登録しました」と表示される。 これで手続完了です。「申込内容確認」の「確認画面表示」ボタンを押せばエントリーされているか確認できます。				

選択必修科目エントリーコード表（三田設置科目）

事前登録種類	エントリーコード	科目名	担当者名	学期	曜日・時限
英語 リーディング	201	英語リーディング a,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	金澤 洋子	春・秋	金3
	202	英語リーディング a,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	金澤 洋子	春・秋	金4
	203	英語リーディング a,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	プラット,イアン R.	春・秋	木4
	204	英語リーディング a,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	プラット,イアン R.	春・秋	木5
	205	英語リーディング a,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	ルイス,エイミー R.	春・秋	月4
	206	英語リーディング a,b(05学則)・英語リーディング(99学則)	ルイス,エイミー R.	春・秋	月5
ドイツ語	207	ドイツ語（セミナー）a,b(05学則)・ドイツ語第（セミナー）(99学則)	七字 眞明	春・秋	水5
	208	ドイツ語（中級）a,b(05学則)・ドイツ語第（中級）(99学則)	中山 純	春・秋	月2
	209	ドイツ語（セミナー）a,b(05学則)・ドイツ語第（セミナー）(99学則)	八木 輝明	春・秋	火5
フランス語	210	フランス語（セミナー上級）a,b(05学則)・フランス語第（セミナー上級）(99学則)	ガボリオ,マリ	春・秋	木2
	211	フランス語（セミナー上級）a,b(05学則)・フランス語第（セミナー上級）(99学則)	新島 進	春・秋	水3
	212	フランス語（セミナー中級）a,b(05学則)・フランス語第（セミナー中級）(99学則)	林田 愛	春・秋	木2
中国語	213	中国語（セミナー）a,b(05学則)・中国語第（セミナー）(99学則)	宇 振領	春・秋	金3
	214	中国語（中級）a,b(05学則)・中国語第（中級）(99学則)	陳 愛玲	春・秋	木2
	215	中国語（セミナー）a,b(05学則)・中国語第（セミナー）(99学則)	道上 知弘	春・秋	水5
スペイン語	216	スペイン語（中級）a,b(05学則)・スペイン語第（中級）(99学則)	阿部 三男	春・秋	火1
	217	スペイン語（セミナー）a,b(05学則)・スペイン語第（セミナー）(99学則)	阿部 三男	春・秋	火2
	218	スペイン語（中級）a,b(05学則)・スペイン語第（中級）(99学則)	四宮 瑞枝	春・秋	木2

（注） 「英語セミナー」は2008年度は三田では開講しません。日吉設置科目のエントリーコード表は別途掲示します。

(3) 選択必修科目の事前抽選後の履修申告

決定したクラスは、自動的に履修登録されます。システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を利用した履修申告画面を開くと、抽選の結果決定したクラスが表示されます。正しく表示されているかを、履修申告期間内に必ず確認してください。

決定したクラスの変更や履修取り止めは一切できません。決定したクラス以外のクラスを履修申告しても無効です。

(4) 選択必修科目のクラス未決定者

クラスが決定しなかった者および登録をしなかった者については第2回抽選の結果発表後、三田設置科目については、三田学事センターで「三田設置外国語（英語）申請用紙」または「三田設置外国語 申請用紙」を受け取り、記入のうえ、期日までに三田学事センターに提出してください。日吉設置科目については、指定された日時（詳細別途掲示）の学習指導面接を受けてください。三田・日吉いずれもその時点で定員に満たない追加履修可能クラスの中から、履修クラスを決定します。

4 専門教育科目

1 基礎科目

日吉設置の専門教育科目（基礎科目）の選択科目も履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。

第2学年設置選択必修科目のうち2科目4単位について

2科目を取得してさらに履修する場合には履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。なお、第3学年における進級必要単位のうち、専門基礎科目16単位（内訳は定めなし）としても数えることができます。

2 基本科目

A～Jまでの10分野の中から3分野以上（それぞれの分野において少なくとも4単位以上）にわたって12単位以上（05学則）/3分野以上にわたって20単位以上（99学則）に合格しなければなりません。

原則として毎年開講されますが、一部を休講とする場合もあります。

同一科目名で複数開講されている科目は、1科目のみ専門教育科目として履修できます。複数科目履修する場合は、1科目を基本科目、他方を自由科目として申告してください。申告した科目の種類（分野）を後日変更することはできません。

3 特殊科目

各人の関心に従って第3・第4学年のいずれにおいても自由に選択履修することができます。

「単位表」に掲載されている科目は、本年度の開講科目（三田設置）を示したものであり、掲載された各科目が毎年度開講されるとは限りません。

2単位科目は、春学期または秋学期に開講される科目です。ただし、「演習」は春・秋学期で2単位、半期で1単位です。

「専門外国語講読」と「演習」は複数の授業を履修できますが、「専門外国語講読」は8単位まで、「演習」は4単位までを専門教育科目の卒業所要単位68単位に含めることができます。また、いずれも「卒業単位認定科目」の単位に加算されます。

日吉設置科目を履修することもできます。

日吉設置「簿記」を特殊科目として取得済みの場合、三田設置「簿記」を履修することはできません（2008年度抽選科目のため自由科目としても履修できません）。

「研究会」

	05学則適用者	99学則適用者
科目名と単位数	3年：研究会 a, b (各2単位) 4年：研究会 c, d (各2単位) 研究会(卒業論文)(4単位)	3年：研究会(3年)(4単位) 4年：研究会(4年)(4単位)
要件	第3学年には、春・秋学期の履修で学年末に4単位の取得ができます。第4学年には、春・秋学期の履修に加え卒業論文を提出して合格した場合、学年末に8単位の取得ができます。(卒業論文が不合格の場合は4単位のみの取得)	第3、4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に8単位の取得ができます。
単年度の履修	第3学年のみの履修は第3学年末に4単位の取得ができます。第4学年のみの履修は担当教員の承認を得たうえで「研究会認定用紙」を提出し、春・秋学期の履修に加え卒業論文を提出して合格した場合、第4学年末に8単位の取得ができます。(卒業論文が不合格の場合は4単位のみの取得)	第3学年のみの履修は認められません(評価が与えられることはありません)。第4学年のみの履修は担当教員の承認を得たうえで「研究会認定用紙」を提出し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に4単位の取得ができます。
履修申告の方法	第3学年は「研究会 a」「研究会 b」を、第4学年は「研究会 c」「研究会 d」「研究会(卒業論文)」を履修申告してください。登録番号は、「研究会 a」と「研究会 b」、「研究会 c」と「研究会 d」がそれぞれ同じになります。「研究会(卒業論文)」は登録番号が異なりますので第4学年は忘れずに申告してください。	第3学年は「研究会(3年)」のみを、第4学年は「研究会(4年)」のみを履修申告してください。登録番号が異なります。第3学年で留年をした場合は、再度「研究会(3年)」を申告する必要はありません。
再履修	再履修はできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会 c」「研究会 d」「研究会(卒業論文)」を申告してください。	再履修はできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会(4年)」を申告してください。

- ・第3学年において研究会を履修した者で、**第4学年において研究会を変更する場合は**、両方の担当教員の承認を得、「研究会認定用紙」を提出しなければなりません。
- ・研究会の退会を希望する者は、学事センターに「研究会退会届」を提出してください。提出期限は、原則として、05学則適用者の秋学期履修中止期間の最終日に準じます。
- ・入会選考に合格したにもかかわらず入会をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに「研究会辞退届」を提出してください。
- ・研究会は原則週2時限です。第3学年は第4学年の、第4学年は第3学年の時限に別の授業科目を登録することはできません。
- ・経済学部設置の研究会を複数履修することはできません。

「研究プロジェクト」 選考に合格した者のみ履修できます。

- ・1年で完結する少人数または個人プログラムで、教員がテーマを設定する誘導展開型と、学生自身がテーマを設定し、テーマに適した教員が担当する自発展開型の2つの種類があります。誘導展開型・自発展開型のいずれも、論文もしくは作品等の成果の発表が義務づけられます。
- ・第3・第4学年対象に三田・日吉両キャンパスで開講します。
- ・第3・第4学年のいずれにおいても履修できます（複数回履修できます）。
- ・「研究プロジェクト a, b」(各2単位・05学則)または「研究プロジェクト」(4単位・99学則)と「研究プロジェクト C」(成果発表, 2単位)を必ず合わせて履修しなければなりません。
- ・研究会・PCPと並行して履修することもできます。
- ・選考に合格した者の「研究プロジェクト a, b」(各2単位・05学則)または「研究プロジェクト」(4単位・99学則)と「研究プロジェクト C」(成果発表, 2単位)の登録は申請に基づき学事センターが行います。学事Webシステムによる履修申告の必要はありません。
- ・選考に合格したにもかかわらず履修を取り止める場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・選考についての詳細は以下の Web ページを参照してください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>

「プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)」 選考に合格した者のみ履修できます。ただし、本年度開講「MONETARY AND FISCAL POLICY (PCP)」は、PCPに登録していない学生も履修できます。

- ・第3・第4学年の2年間、実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ原則英語で提供するプログラムです。2008年度は「法と経済(第3学年のみ)・「ファイナンス」・「公共経済」・「国際経済」・「環境経済」の5つの専攻プログラムを開講します。
- ・第3・第4学年対象に三田キャンパスで開講します。
- ・いずれの専攻プログラムとも、第3・第4学年で指定された科目を合わせて20単位(選択を含めて22単位)履修しなければなりません。
- ・研究会・研究プロジェクトと並行して履修することもできます。
- ・選考に合格した後、コーディネーターから履修科目の認定を受けてください。認定を受けたら所定用紙を学事センター経済学部担当へ履修申告日までに提出してください。所定用紙の提出が履修申告開始日に間に合わない場合、正しく履修申告ができなくなる可能性があります。十分注意して下さい。PCP科目の登録は申請に基づき、学事センターが行います。学事 Web システムによる履修申告の必要はありません。
- ・選考に合格したにもかかわらず履修を取り止める場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・プログラムへの参加を取り下げたい場合、コーディネーターの了承を得たうえで、学事センターに「プロフェッショナル・キャリア・プログラム(PCP)辞退届」を提出してください。提出期限は、原則として、05学則適用者の秋学期履修中止期間の最終日に準じます。
- ・選考についての詳細は以下の Web ページを参照してください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/pcp/>

4 関連科目

経済学部設置科目(適用学則の単位表参照)、および他学部設置の専門教育科目を関連科目として選択履修できます(医学部設置科目を除く)。関連科目は専門教育科目の単位として12単位(05学則)/8単位(99学則)まで含めることができます。

ただし、授業担当者や設置学部の学習指導担当者等の承認が得られない場合には履修できません。

1. 他学部設置の「研究会」は関連科目として履修ができます。また、経済学部設置の「研究会」と重複して履修することもできますが、他学部設置の「研究会」を同一学年同一学期で複数履修することはできません。(自由科目として履修することもできません。)
2. 他学部設置科目を関連科目として履修する場合には、授業担当者の許可を得てください。
3. 他学部設置の専門教育科目であっても関連科目として履修できない科目は以下のとおりです。
 - ・設置学部で必修の扱いをしている科目。
 - ・履修申告の時点で開講する曜日時限等が定まっていない科目。(湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修については p. 30 参照)
 - ・他学部で専門教育科目として設置していても、経済学部では総合教育科目、外国語科目、体育科目および自由科目として設置している科目およびそれと同等とみなす科目(総合教育科目は自由科目としては履修できます)

〔例1〕「宗教学」は経済学部第1・第2学年において総合教育科目として設置しているので、履修はできません。

・経済学部の専門教育科目として履修済の同一科目、同一名称とみなす科目。(自由科目としては履修できます。)

〔例2〕経済学部基本科目の「財政論」を履修し、さらに他学部設置の「財政論」や「財政学」を履修する場合。

4. 福澤研究センターが設置(99学則適用者には経済学部が併設)する科目は関連科目として履修できます。

99学則適用者は経済学部併設科目の登録番号で申告を行ってください。

講義要綱は、p.167「福澤研究センター設置講座」を参照してください。

5. 東京工業大学工学部設置科目は関連科目として履修できます。大学交流学生履修許可願(所定用紙)を使用して、所定の手続きをとってください。なお、移動時間には十分気を付けて申告してください。

5 体育科目

2004年度より学則が一部改正され、「保健体育科目」が「体育科目」と名称変更されました。2003年度以前に取得した科目の科目名・単位数は変更しません。

卒業単位認定科目(14単位)には、以下により最大4単位含めることができます。

- 1. 2003年度以前設置「保健衛生」 1単位	- 3. 2004年度以降設置「体育学講義」 2単位	} より最大2単位
- 2. 2003年度以前設置「体育理論」 1単位	- 4. 2004年度以降設置「体育学演習」 1単位	
- 1. 2003年度以前設置「体育実技」 「体育実技」 1単位		} より最大2単位
- 2. 2004年度以降設置「体育実技A」「体育実技B」 1単位		

履修を希望する者は、体育科目(体育研究所設置科目)履修要項を参照およびガイダンスに出席のうえ、履修申告をしてください。履修申告の結果、予定定員を上回る場合は抽選により履修者を決定します。なお、誤登録など申告に不備があった場合は、抽選に加えられず、不許可となり履修できません。

「体育実技A」および「体育実技B」については同一科目(種目)でも複数回履修できます。ただし、「体育学講義」および「体育学演習」についての履修は各々1回に限りです。

抽選で不許可となった場合で、追加で許可を得た者に限り、履修申告修正期間中に履修(不許可単位数分)の追加ができます。「許可証」を提示の上、申告してください。

6 自由科目

- (1) 卒業必要単位(126単位)に含めることはできません。

- (2) 履修上限内の自由科目(分野番号【60-30-01】)は第3学年における進級必要単位(28単位)、第4学年における必要取得単位(12単位)に含めることができますが、上限外(分野番号【60-39-01】【60-39-02】【60-39-03】)は含めることができません。

- (3) 他学部設置科目を自由科目として履修する場合には、授業担当者の許可を必ず得てください。

- (4) 原則として、他学部および諸研究所設置科目を含めて担当者にかかわらず同一科目および同一名称とみなす科目を重複して履修することはできませんが(p.29参照)、自由科目としての履修は認められています。(ただし、定員等の関係で認められない場合もあります。)

- (5) 教養研究センター(日吉)、福澤研究センター(三田)、外国語教育研究センター(日吉・三田)の一部の科目は99学則適用者向けに経済学部と併設しています。それぞれ総合教育科目、関連科目、外国語科目の項を参照してください。(自由科目としては履修できません。)

- (6) 国際センター在外研修プログラムのうち、春季講座(2008年2~3月実施済)参加者は必ず履修申告を行ってください。夏季講座は、国際センターのガイダンスを受け、参加申込を行ってください。ただし、履修申告は選考に合格後、履修申告修正期間に行ってください。(この場合、履修上限単位を超える場合に限り他の科目の削除を認めます。)

- (7) 情報処理教育室設置講座は事前申込を行ったうえ、必ず、自由科目として履修申告してください。原則として履修の辞退はできません。

- (8) メディア・コミュニケーション研究所設置科目を同研究所の研究生となって履修する場合、および教員免許取得のための授業科目を履修する場合はそれぞれのガイダンスを受けてください。

メディア・コミュニケーション研究所設置の研究生用科目はメディア・コミュニケーション研究所に研究生として所属していなければ履修できません。

教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目については「教職課程登録」の手続きがなされていないと履修できません。

第4 履修上の注意

1 分野

分野とは、学則に基づいて科目の種類ごとに分類したものです。(詳細は「単位表」参照)

経済学部の時間割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。他学部の授業科目を履修する場合やひとつの科目に対して複数の分野を選択できる場合、通常とは異なる変則的な履修をする場合には、自分でB欄分野を登録しなければなりません。「単位表」を確認のうえ、必要な場合は履修申告用の2桁のB欄分野を登録してください。

また、5月上旬に送付される履修申告科目確認表および学年末の学業成績表にはこの分野で各授業科目の種類が表示されます。A欄で申告した(B欄分野を選択していない)授業科目も含め、必ずこの単位表で確認するようにしてください。

なお、履修申告科目確認表、学業成績表の再発行はできません。卒業まで各自保管してください。

2 重複履修について

(1) 曜日、時限を重複して履修することはできません。

研究会は各学年とも2時限(例:4,5時限)の履修が必要です。(各自の学年の登録番号で2時限分登録されます。)

(2) 同一名称の科目および同一名称とみなす科目(下記参照)は、原則として担当者が異なっても重複して履修することはできません。(ただし、総合教育科目については以下の表の条件に合致する場合には履修することができます。)

以下の表の 印の欄の科目は、重複履修が認められています。

総合教育科目	基礎教育科目	外国語科目	専門教育科目	体育科目	自由科目
系または担当者が異なれば可 生物学,物理学,化学は不可 自由研究セミナーは担当者が同じでも可	×	同一担当者による同内容 (類似内容)のクラスは不可	×		

(3) 他学部と併設(同じ授業)している(していた)科目は重複して履修することはできません。

同一名称とみなす科目(例)

【05学則】

経済学部設置科目		法学部設置科目	商学部設置科目	総合政策・環境情報学部
経済政策論 a・b		経済政策	経済政策	
計量経済学中級 a・b			計量経済学	
財政論 a・b		財政論	財政学	
労働経済論 a・b		労働経済論	労働経済学	
商法 a		商法 A	法学各論(商法 A)	
商法 b		商法 B	法学各論(商法 B)	
商法 a		商法 A	法学各論(商法 A)	
商法 b		商法 B	法学各論(商法 B)	
民法 a		民法 A	法学各論(民法 A)	
民法 b		民法 B	法学各論(民法 B)	
民法 a		民法 A	法学各論(民法 A)	
民法 b		民法 B	法学各論(民法 B)	
金融論 a・b			金融論	
国際金融論 a・b			国際金融論	国際金融論
世界経済論 a・b			世界経済論	
産業組織論 a・b			産業組織論	
産業社会学 a・b			産業社会学	
地域研究 中国事情	地域研究 中国事情			
NPO経済論 a	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論(2005,2006年度)			
NPO経済論 b	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論(2005,2006年度)			
EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ			

【99学則】

経済学部設置科目		法学部設置科目	商学部設置科目
簿記			簿記論
経済政策論		経済政策	経済政策
計量経済学 / 計量経済学			計量経済学 / 計量経済学
財政論		財政論 / 財政論	財政学 / 財政学
労働経済論		労働経済論 / 労働経済論	労働経済学 / 労働経済学
商法		商法 / 商法 A	法学各論(商法 A)
商法		商法 / 商法 B	法学各論(商法 B)
商法		商法 / 商法 A	法学各論(商法 A)
商法		商法 / 商法 B	法学各論(商法 B)
民法		民法 / 民法 A	法学各論(民法 A)
民法		民法 / 民法 B	法学各論(民法 B)
民法		民法 / 民法 A	法学各論(民法 A)
民法		民法 / 民法 B	法学各論(民法 B)
金融論			金融論
国際金融論			国際金融論
世界経済論			世界経済論
産業社会学			産業社会学
地域研究 中国事情	地域研究 中国事情		
NPO経済論	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論 a(2007年度~)		
NPO経済論	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論 b(2007年度~)		
EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ		

- (4) 留年者に限り、同一学年ですでに合格した科目の評価が「B」・「C」の場合、再履修することができます。ただし、**研究会は再履修できません**。評価が向上すれば、向上した評価が学業成績表に記載されます。ただし、外国語科目、総合教育科目の自由研究セミナー、専門教育科目の演習、専門外国語講読および体育科目の実技科目は、複数履修できる科目のため再履修することはできません。新たに履修してください。
- (5) 必修科目の再履修は自由科目としての履修も認められていません。

3 他学部・他地区設置科目の履修について

他学部設置必修科目の履修はできませんが、以下の場合は履修することができます。

他学部設置専門教育科目 関連科目 B欄「51」で履修

他学部設置総合教育科目 自由科目 B欄「91」で履修

他学部設置外国語科目は、「全学部共通外国語科目履修案内」(p.24 記載の URL 参照)に掲載の科目のみ 選択外国語(選択 A)として履修することができます。

ただし、上記の科目でも履修できない場合があります。履修する科目の種類(関連科目,自由科目,外国語科目)の項を参照してください。

(1) 三田の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者の許可を得てください。科目によっては他学部の学生の履修を制限する場合や設置学部の学習指導担当等の許可を必要とする場合、履修者数の制限を実施する場合がありますので、当該科目の講義要綱や設置学部の履修案内・掲示などに注意してください。当該学部の時間割で登録番号を確認のうえ、B欄分野を申告してください。

(2) 他地区の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

(1)と同様です。

なお、移動時間を十分考慮のうえ、三田設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能な履修申告については履修申告全体を無効として扱うこともあります。特に、時限が連続する(例:1時限三田,2時限日吉)履修はできません。なお、日吉設置科目については昼休みを挟んだ場合(例:2時限日吉,3時限三田)は可としますが、実際に移動できるか十分確認してください。

他地区設置科目についての掲示(時間割変更,休講,試験等)は、設置地区にのみ掲示されます。特に、時間割については変更されることがありますので、履修申告前に設置地区の掲示を確認してください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修を希望する場合は、春学期履修申告期間内に必ず三田学事センターに申し出てください。

文学部,法学部,商学部の三田設置科目を履修する場合は、学則に関わらずそれぞれ「文学部2年時間割表【07学則】」,「法学部法律学科3・4年授業時間割」,「法学部政治学科3・4年授業時間割」の2005年度以降入学用部分,「商学部3・4年授業時間割【05学則適用者用】」に記載されている科目を登録してください。

4 研究所・センター設置科目の履修について

原則として、自由科目となります。「自由科目」の項を参照してください。ただし、99学則適用者について学部設置科目と併設している授業の場合、経済学部設置科目を専門教育科目や外国語科目として履修したり、他学部設置科目を関連科目として履修することができます(05学則適用者については、「単位表」を参照してください)。99学則適用者についてはその場合、登録番号が異なりますので当該学部設置科目の登録番号を確認のうえ、申告してください。なお、履修申告後、登録された分野(科目の種類)を変更することはできません。

5 大学院設置科目の先取り履修について(本年度第4学年在籍者のみが対象)

経済学部第4学年在学時に、慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程に設置された科目を先取り履修することができます。これによって取得した単位は「大学院入学前先行科目」として修士課程入学後に修了単位として申請することができるため、修士課程の早期修了あるいは課程博士論文作成作業への早期着手が可能になります。履修を希望する場合は以下の要領に沿って申請を行ってください。

なお、この制度を利用できる者は翌年度に慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を考えている者、または合格した者とします。

- (1) 4月の履修申告前の指定された期間内に学事センターに申し出を行い「大学院設置科目履修許可願」を受領・記入の後、資格確認のために学事センターに提出してください。学事センターでは数日中に確認を行い、基準を満たしている場合には学事センター確認印を押印の後書類を戻します。

申請資格は、修士課程の第一次試験免除の基準(別途掲示を参照)とします。ただし、9月の入学試験に合格した場合は、その合格をもって申請資格を満たしたものとし、秋学期の履修申告修正期間中に申請を行うことができます。(春の履修申告時に登録した科目と曜日時限の重複するような申請はできません。)

- (2) 大学院修士課程の時間割等を参照し、履修を希望する各科目の授業に出席の上、授業担当者の許可印を「大学院設置科目履修許可願」に入手してください。

- (3) 研究科学習指導面接に赴き、「大学院設置科目履修許可願」を提出して、最終的な履修許可を得てください。この際に、大学院入学の意思確認を行います。

- (4) 履修申告期間内に「大学院設置科目履修許可願」を学事センターに提出してください。

「大学院入学前先行科目」については、Web履修申告を別途行う必要はありません。

履修することができる科目については、経済学研究科履修案内・講義要綱を確認してください。

履修することができる単位数の上限は年間で12単位以内とします。

学部での履修の取り扱い、自由科目(履修上限外)とし、卒業必要単位および第4学年で取得しなければいけない12単位にも含まれません。

学部と修士課程で併設を行っている科目を履修する場合には、修士課程設置の科目名にて履修申告を行ってください。ただし、同年度に学部設置科目としての履修と大学院設置科目の併設履修を本申請を使って同時に申告することはできません。

6 大学院認定科目について

慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程に設置されている基礎科目は経済学部設置の基本科目と併設されている場合があります。これらの基本科目を履修し成績が「A」の場合には、大学院入学後に必要な手続をとることで、大学院基礎科目(修士課程の修了に必要な基礎科目8単位以上(同一科目4単位を限度))の単位として申請することができます。ただし、大学院認定科目の制度が申請を行う当該年度に存続していることが条件となります。

2008年度に大学院基礎科目と併設されている基本科目

基本科目		大学院基礎科目
05学則適用者	99学則適用者	
ミクロ経済学 中級 a,b, a,b	ミクロ経済学	ミクロ経済学
マクロ経済学 中級 a,b *	マクロ経済学 *	マクロ経済学
計量経済学 上級 a,b	計量経済学	計量経済学 中級
確率・統計 a,b	確率・統計	数理統計学
欧米経済史 a,b, 日本経済史 a,b	欧米経済史, 日本経済史	欧米経済史・日本経済史

*尾崎裕之君のみ大学院基礎科目と併設

第5 認定用紙および申告用紙について

科目によっては、下記の所定用紙が必要になります。該当する場合には、指示された承認印を受けた上で下記の指定期日までに提出してください。

以下の所定用紙は塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html>) からダウンロードしてください。ダウンロードができない場合には用紙を配布しますので、学事センターに申し出てください。

(1)「基礎教育・専門教育科目履修認定用紙」

日吉設置のマクロ経済学初級・ミクロ経済学初級を異なる履修タイプで再履修する場合に使用。日吉の学習指導面接を受ける必要があります。

提出締切：4月10日(木) 三田学事センター

(2)「研究会認定用紙」・「研究会退会届」・「研究会辞退届」

・4年生で研究会を変更した場合や4年生で研究会に入会した場合は「研究会認定用紙」

・退会の場合は「研究会退会届」

・研究会選考(他学部含む)に合格したにもかかわらず入会をとりやめる場合は「研究会辞退届」

をそれぞれ提出してください。

(3)「外国語科目認定用紙」

外国語必修科目・選択必修科目の追加認定に使用。

日吉設置

[外国語]

[外国語]

経済学部外国語科目履修案内「第2 4 履修クラスが未決定の学生」を参照してください。

三田設置

[外国語]

[外国語]

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html> 参照もしくは三田学事センター経済学部担当で配布しています。

提出締切：4月11日(金)

以下の所定用紙は必要に応じて学事センターで配布します。

「履修申告用紙(マークシート)」「エントリーシート」(外国語選択必修科目(日吉・三田設置)の事前登録に使用)

やむをえず、学事 Web システムによる履修申告が行えない場合、申出により配布します。(理由を問う場合があります)

提出日：4月16日(水)8:45~14:00 三田学事センター

第6 休学・留学・退学

1 休学(学則第152条)

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学をすることができます。休学希望者は、休学願に事由を証する書類(病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等)を添えて、原則として履修申告日までに学習指導主任と面接し承認を受けたうえで学事センターに提出してください。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出も必要です。

休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。

授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。詳細は学生総合センター学生生活支援窓口にお問い合わせください。

	05学則適用者	99学則適用者
休学期間	休学期間は各学期毎 春学期：4月1日～9月21日 秋学期：9月22日～翌年3月31日 休学が次の学期におよぶ場合は 改めて許可を得る必要があります。	休学期間は1年度 (4月1日～翌年3月31日) 休学が次の年度におよぶ場合は 改めて許可を得る必要があります。
履修申告後の 休学願提出期限	春学期：5月30日(金) 秋学期：11月28日(金)	11月28日(金)
その他	秋学期および翌年度春学期に休学した 場合、復学した秋学期に、前年度春学 期に履修した未採点科目の継続履修を 申請することが可能です。	
進級・卒業に ついて	進級・卒業の時期は年度末に限られま すので、当該年度の秋学期に在学して いる必要があります。 進級・卒業のためには、必要単位を充 足するとともに、各学年において2学 期以上在学する必要があります。	休学した年度は原級にとどまります。

2 留学(学則第153条)

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。**語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。**

学則による留学は、留学開始日より1年以内の申請で、延長は1回に限り許可されます。また、留学期間は1年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。

留学に関する手続き(国外留学申請書の提出)はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には手続きを全て済ませてください。

学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。希望する場合は原則として就学届提出時に申請を行うものとし、遅くとも留学期間終了後1ヶ月以内に提出しなければなりません。

3年生は、外国の大学で取得した単位の認定により進級必要単位を満たし、なおかつ4年生の卒業必要単位を履修している場合に限り留学期間(1年を限度)を在学年数に算入し、進級できます(4月1日付遡及進級)。**4年生は、単位の認定による遡及卒業はできません。**

授業料等は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。

3 退学(学則第154条)

病気その他の事由により退学したい者は、速やかに学習指導主任と面接してください。あらかじめ記入した退学届に認印を受け、学生証を添えて学事センターに提出してください。

授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度(学期)までさかのぼって退学とします。(学則第171条)退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍・成績は無効となります。なお、退学後に授業料等が完納された場合でも、無効となった在籍および成績は有効にはなりません。

4 退学処分(学則第156条・第188条)

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

以下の要件に該当する場合には学則第156条により退学処分となります。

	05学則適用者	99学則適用者
退学処分の要件	第1・第2学年併せて4年在学し当該年度末に第3学年に進級し得ない者、第3・4学年併せて4年在学し当該年度末に卒業し得ない者は退学処分となります。また、第1学年もしくは第3学年在籍者で、第1学年もしくは第3学年に3年在学し当該年度末に進級し得ない者についても、学則第156条にもとづき退学処分となります。	第1・第2学年併せて4年在学し第3学年に進級し得ない者、第3・4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は退学処分となります。

05学則適用者に対する注意

第3学年の在学年数が2.5年(年度末において)の者が原級となった場合、翌年度末まで在籍が認められます。ただし、在籍が認められた年度の秋学期のみの休学は認められません。(春学期のみの半期休学または春・秋学期の1年間の休学は認められます。)

第3・4学年の在学年数が3.5年(年度末において)の者が原級となった場合、翌年度末まで在籍が認められます。ただし、在籍が認められた年度の秋学期のみの休学は認められません。(春学期のみの半期休学または春・秋学期の1年間の休学は認められます。)

また、第3学年に3.5年在籍し第4学年に進級した者については、第4学年で春学期のみ、秋学期のみの半期休学は認められません。(1年間の休学は認められます。)

次からのページで説明している下記の4つの項目については、「05学則適用者」と「99学則適用者」によって内容が大きく異なります。それぞれの学則毎にページを分けて記述していますので、自分に適用される学則の内容かどうかを必ず確認してから参照してください。

1. 単位表（卒業所要総単位）
2. 履修上限単位
3. 第3学年における進級必要単位
4. 第4学年における卒業必要単位

単位表 (05学則)

1 卒業所要総単位

学士入学者の卒業必要単位数等については別途指示します。

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位		卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目				
					1	2						
	総合教育科目 (P23)	系	10-21-01	[自然・数理系](2または4)	6		20					
			10-21-02	[自然・数理系(生物学・,物理学・,化学・)](3)								
		系	10-22-01	[人文・社会系](2または4)	10							
			10-23-01	[総合・関連系](2または4)								
		系	10-23-02	[総合・関連系(自由研究セミナーa/b,自由研究セミナー)](2または4)	4							
			10-23-91	教養研究センター設置科目								
	基礎教育科目 (P23)	履修 タイプ	必修	20-11-01	微分積分(2)	2	10					
				20-11-02	線形代数(2)							
				20-10-01	統計学(2)							
			20-10-02	統計学(2)								
			選択必修	20-25-01	情報処理(2)				2			
				20-25-02	情報処理(2)							
		選択	20-30-01	微分積分演習(1)線形代数演習(1)								
			20-30-11	微分積分入門(2)線形代数統論(2)								
			20-31-01	日本経済の現状と問題(2)世界経済の現状と問題(2)								
			20-35-01	情報処理(2)								
			履修 タイプ	必修		20-10-01	統計学(2)	2				
		20-10-02			統計学(2)							
		選択必修		20-22-01	数学概論(2)数学概論(2) 日本経済の現状と問題(2)世界経済の現状と問題(2)	4						
			20-25-01	情報処理(2)								
				20-25-02	情報処理(2)	2						
			選択	20-30-01	微分積分演習(1)線形代数演習(1)							
				20-30-11	微分積分入門(2)線形代数統論(2)							
				20-32-01	微分積分(2)線形代数(2)							
		20-35-01		情報処理(2)								
	外国語科目 (P24)	必修	外国語	30-10-01	英語 Study Skills(2)	2	14					
			外国語	30-10-02	ドイツ語 a(1)/b(1)				6			
				30-10-03	フランス語 a(1)/b(1)							
				30-10-04	中国語 a(1)/b(1)							
				30-10-05	スペイン語 a(1)/b(1)							
			30-10-31	日本語(2)(外国人留学生対象)								
		選択必修	外国語	30-20-01	英語セミナー(2)英語リーディングa(1)/b(1)	2			2			
			外国語	30-20-02	ドイツ語 a(1)/b(1)							
				30-20-03	フランス語 a(1)/b(1)							
				30-20-04	中国語 a(1)/b(1)							
				30-20-05	スペイン語 a(1)/b(1)							
				30-20-31	日本語(2)(外国人留学生対象)							
		外国語 語種変更者	30-21-02	ドイツ語 a(1)/b(1) B欄「07」で履修	(4) 語種変更した 場合、の 代わりに必要							
			30-21-03	フランス語 a(1)/b(1) B欄「08」で履修								
	30-21-04		中国語 a(1)/b(1) B欄「09」で履修									
	30-21-05		スペイン語 a(1)/b(1)									
	30-21-06		ロシア語 a(1)/b(1)									
	選択	選択A	30-30-01	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 ギリシャ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ベルシャ語								
			30-30-31	日本語(外国人留学生対象) B欄「44」で履修								
			30-30-91	外国語教育研究センター設置科目の一部								
	専門教育科目 (P26)	基礎科目 (P26)	必修	40-11-01	経済史(2)	2	68					
				40-11-02	経済史(2)							
				40-11-03	マクロ経済学初級(2)							
			40-11-04	マクロ経済学初級(2)								
			選択必修	40-12-01	ミクロ経済学初級(2)				2			
				40-12-02	ミクロ経済学初級(2)							
		基本科目 (P26)	A 経済理論	40-20-01	経済と環境(2)計量経済学概論(2) 経済思想の歴史(2)経済思想の歴史(2) マルクス経済学(2)マルクス経済学(2) 経済数学(2)経済数学(2)経済数学(2)	4						
					40-21-01				社会問題(2)社会問題(2)			
			B 計量・統計	40-22-01	ミクロ経済学中級 a(2)/b(2) ミクロ経済学中級 a(2)/b(2) マクロ経済学中級 a(2)/b(2) マクロ経済学中級 a(2)/b(2) 独占資本主義論 a(2)/b(2)	12 (1分野 4単位以上 ×3分野)						
					C 学史・思想史				40-22-02	計量経済学中級 a(2)/b(2) 計量経済学上級 a(2)/b(2) 経済統計 a(2)/b(2) 確率・統計 a(2)/b(2) 社会科学基礎論 a(2)/b(2)		
										D 経済史	40-22-03	経済学史 a(2)/b(2) 経済学史 a(2)/b(2) 社会思想 a(2)/b(2) 本年度休講 社会思想史 a(2)/b(2)
												40-22-04

履修すべき学年				種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位		卒業必要単位(種類毎)	卒業単位認定科目	
1	2	3	4									
				基本科目 (P26)	E 産業・労働	40-22-05	工業経済論 a(2)/r(2) 農業経済論 a(2)/r(2) 産業組織論 a(2)/r(2) 労働経済論 a(2)/r(2) 社会政策論 a(2)/r(2)	12 (1分野4単位以上×3分野)				
					F 制度・政策	40-22-06	経済政策論 a(2)/r(2) 財政論 a(2)/r(2) 金融論 a(2)/r(2) 日本経済システム論 a(2)/r(2) 本年度休講					
					G 現代経済	40-22-07	現代日本経済論 a(2)/r(2) 日本資本主義発達史 a(2)/r(2) 現代資本主義論 a(2)/r(2) 経済体制論 a(2)/r(2)					
					H 国際経済	40-22-08	国際貿易論 a(2)/r(2) 国際金融論 a(2)/r(2) 経済発展論 a(2)/r(2)					
					I 環境関連	40-22-09	経済地理 a(2)/r(2) 環境経済論 a(2)/r(2) 都市経済論 a(2)/r(2)					
					J 社会関連	40-22-10	人口論 a(2)/r(2) 産業社会学 a(2)/r(2) 社会史 a(2)/r(2)					
					特殊科目 (P26)	(日吉)	簿記 a(2)/r(2) 解析学入門 (2) 確率論入門 (2) 確率論入門 (2)	40	68			
						(三田)	40-30-01					ゲームの理論 a(2)/r(2) 解析学 a(2)/r(2) 解析学 a(2)/r(2) 契約理論 a(2)/r(2) 公共経済学 a(2)/r(2) 数理経済学 a(2)/r(2) 数理経済学特論「微分方程式論」 a(2)/r(2) 数理経済学特論「確率論」 a(2)/r(2) 代数学 a(2)/r(2) 資金循環分析 a(2)/r(2) 時系列分析 a(2)/r(2) ベイズ統計学 a(2)/r(2) 標本調査論 a(2)/r(2) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会経済思想史 a(2)/r(2) 日本経済思想史 a(2)/r(2) 近代経済学史 a(2)/r(2) 近代日本と東アジア a(2)/r(2) 東欧経済史 a(2)/r(2) 南アジア経済史 a(2)/r(2) 経済と法 a(2)/r(2) 経済政策のミクロ分析 a(2)/r(2) ファイナンス入門 a(2)/r(2) 公共政策 a(2)/r(2) 公共選択論 a(2)/r(2) NPO経済論 a(2)/r(2) 格差と援助の経済学 a(2)/r(2) 現代中国経済論(2) 世界経済論 a(2)/r(2) 開発経済学 a(2)/r(2) EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS(2) 地域経済論(2) 現代社会史 a(2)/r(2) アジア社会史 a(2)/r(2) ラテンアメリカ社会史 a(2)/r(2) 地方財政論(2) フランス植民地社会史 a(2)/r(2) 簿記 a(2)/r(2) 金融資産市場論 a(2)/r(2) 企業金融論 a(2)/r(2) 金融投資サービス論 a(2)/r(2)
							40-31-01					専門外国書講読 a(2)/r(2) ¹
							40-32-01					演習(1), 演習 a(1)/r(1) ²
				研究プロジェクト		40-33-01	研究プロジェクト a(2)/r(2)(誘導展開型)					
						40-33-02	研究プロジェクト a(2)/r(2)(自発展展開型)					
						40-33-03	研究プロジェクトC(2)					
				研究会		40-34-01	研究会 a(2)×3年)					
						40-34-02	研究会 b(2)×3年)					
						40-34-03	研究会 c(2)×4年)					
					40-34-04	研究会 d(2)×4年)						
					40-34-05	研究会(卒業論文)×4×4年)						
				PCP	40-35-01	MICROECONOMICS(2) MACROECONOMICS(2)						
					40-35-11	PUBLIC POLICY AND LAW(2) INTRODUCTION TO LAW AND ECONOMICS(2) ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY(2)						
					40-35-21	INTRODUCTION TO FINANCE(2) ADVANCED FINANCE(2) APPLIED FINANCE(2)						
					40-35-31	JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS(2) PUBLIC DECISION-MAKING(2)						
					40-35-41	THE JAPANESE ECONOMY FROM AN INTERNATIONAL PERSPECTIVE(2) DEVELOPMENT ECONOMICS(2) OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a(2)/r(2)						
					40-35-51	ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY(2) ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY(2) INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS(2)						
					40-35-61	MONETARY AND FISCAL POLICY(2) ³						
					40-35-91	APPLIED ECONOMETRICS(2) PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS(2) FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY(2) READING AND COMPOSITION(2) ACADEMIC WRITING(2) INDEPENDENT STUDY(2)						
				関連科目 (P27)	40-39-01	民法 a(2)/r(2) 民法 a(2)/r(2) 商法 a(2)/r(2) 商法 a(2)/r(2) 労働法 a(2)/r(2) 租税法 a(2)/r(2) 会計学 a(2)/r(2) 経営学 a(2)/r(2)						
					B欄「51」で履修	他学部設置の専門教育科目						
					B欄「52」で履修	他学部研究会(商学部研究会3年)						
					B欄「53」で履修	他学部研究会(商・理工学部研究会4年)						
					B欄「54」で履修	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年)						
					B欄「55」で履修	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年)						
						40-39-06 東京工業大学工学部設置科目						
					40-39-91 福澤研究センター設置科目							
				認定卒業科目	体育科目 (P28)	右記合計2単位までカウント	50-30-01 体育学講義(2)	14				
						50-31-01 体育学演習(1)						
						50-32-01 体育実技A(1)						
						50-32-02 体育実技B(1)						
合計								126				

1: 最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 2: 最大4単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 3: PCPに登録していない学生も履修可。
 4: 最大12単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 □: 履修上限単位に含まれないもの(卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分のみ)
 下線の付いている科目: セット履修科目 (自由科目については次ページ参照)

種類 (詳細)	分野	内容			
自由科目 (P28)	履修上限内	60-30-01	<B欄「91」で履修申告するもの> ・前年度までに取得した科目を再度履修する場合 ・今年度同一科目を複数履修申告する場合 (卒業単位に含めないものをB欄「91」で申告する) ・他学部設置の総合教育科目 <上記以外 (B欄指定不要)> ・教職課程センター設置科目 (教職課程生は下記参照) ・言語文化研究所特殊講座 ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目 (メディアコム研究生は下記参照) ・慶應義塾大学在外研修プログラム ・国際センター設置講座 ・保健管理センター設置講座 ・情報処理教育室設置講座 ・アート・センター設置講座 ・知的資産センター設置講座 ・外国語教育研究センター設置講座のうち、経済学部で自由科目として認定しているもの		
		履修上限外	メディアコム研究生のみ	60-39-01	<B欄「95」で履修申告するもの> メディア・コミュニケーション研究所研究生が、上限外で履修する同研究所設置科目
			教職課程登録者のみ	60-39-02	<B欄「96」で履修申告するもの> 教職課程登録者が上限外で履修する・教職課程センター設置科目 ・教職免許取得のための他学部設置科目
			大学院設置科目の 先取り履修	60-39-03	慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を予定している者が上限外で履修する大学院設置科目

メディア・コミュニケーション研究所研究生、教職課程登録生の履修について

メディアコム研究生がメディアコム修了に必要なため履修する科目、教職課程登録生が教職免許取得に必要なため履修する科目は、その科目を履修上限内で履修するか履修上限外で履修するか選択することが可能です。

メディアコム研究生

	オープン科目	研究生科目
履修上限内で申告したい場合	A欄 (B欄指定不要)	B欄 (分野「91」)
履修上限外で申告したい場合	B欄 (分野「95」)	

教職課程生

		他学部設置科目 (教職免許関連)	教職課程設置科目
履修上限内で 申告したい場合	専門教育科目 (関連科目扱い)	B欄 (分野「51」)	/
	非専門教育科目 (自由科目扱い)	B欄 (分野「91」)	
履修上限外で申告したい場合		B欄 (分野「96」)	

2 履修上限単位

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は**各学期24単位**です。

「研究会」を履修する場合3年生では(a, b)合わせて4単位、4年生では(c, d, 卒業論文)合わせて8単位が含まれます。

研究会(卒業論文)の単位数は、各学期にそれぞれ2単位が含まれます。研究プロジェクトCの単位数は、各学期にそれぞれ1単位が含まれます。

(1) 履修上限に含まれないもの

- ・前々項、前項の「1 卒業所要総単位」の中で、のもの。(卒業必要単位に満たないため履修する不足単位分のみ。不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれます。)
- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・第4学年在籍時に、大学院設置科目を先取り履修する場合。(履修案内 p. 30 参照)

(2) その他注意

- ・自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は、履修上限に含まれます。

- ・(留年者に限り)同一学年で既に合格した評価B・Cの科目を再度履修し、評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます。向上しなかった場合は前の評価がそのまま残ります。(ただし研究会の再履修はできません。また外国語科目や体育科目のように、同じ科目名でも重複履修可能なものは対象となりません。)この履修の単位は履修上限に含まれます。
- ・留年者については、同一学年で各学期24単位まで新たに履修申告することができます。

3 第3学年における進級必要単位 学士入学者の必要単位は別途指示します。

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、第4学年への進級はできません。

(1) 基礎教育科目 10 単位、専門基礎科目 16 単位の取得

(1)- 基礎教育科目 10 単位(内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、基礎教育科目の単位を合計して10単位に達していれば大丈夫です。

(卒業必要要件科目(「統計学」・「情報処理」)、タイプ の「微分積分」「線形代数」等)を未取得でも、卒業必要要件でない科目を取得(タイプ の学生が「日本/世界経済の現状と問題」を取得、タイプ の学生が「微分積分」「線形代数」を取得、「情報処理」を取得した上で「情報処理」も取得、等)することによって、充足する場合があります。)

(例1)(タイプ)「微分積分」を未取得だが、「線形代数」「統計学」「統計学」「情報処理」「世界経済の現状と問題」を取得している。

(例2)(タイプ)「日本/世界経済の現状と問題」「数学概論」のうち「数学概論」しか取得していないが、「統計学」「統計学」「情報処理」「情報処理」を取得している。

(1)- 専門教育科目の基礎科目 16 単位(内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、専門教育科目の基礎科目の単位を合計して16単位に達していれば大丈夫です。

(必修科目(「経済史」「マクロ経済学初級」「ミクロ経済学初級」)のいずれかが未取得でも、選択必修科目(「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学」「マルクス経済学」「経済思想の歴史」「社会問題」等)を2科目4単位を超えて取得することによって、充足する場合があります。)

(例)「ミクロ経済学初級」を未取得だが、他の必修科目10単位(「経済史」「経済史」「マクロ経済学初級」「マクロ経済学初級」「ミクロ経済学初級」)を取得している上、選択必修科目を6単位((例)「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学」)取得している。

(2) 第3学年において、履修上限の範囲内で履修した科目のうち 28 単位の取得

- ・履修上限外で履修した科目(必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても28単位に含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が2年次に未取得だった場合、3年次に再び履修して単位を取得できても、28単位には含まれません。

- ・他学部設置の研究会で第3学年と第4学年の研究会の両方の履修を義務づけ、かつ研究会の単位が第4学年末に3、4年分まとめて取得できる研究会の履修をする場合は第3学年分の研究会の単位は28単位に含まれません。

総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも28単位に含まれます。

自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は28単位に含まれます。

4 第4学年における卒業必要単位

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、卒業はできません。

(1) 第4学年において、履修上限の範囲内で履修した科目のうち 12 単位の取得

(2) 卒業所要単位 126 単位の取得

履修上限外で履修した科目(必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても(1)の12単位には含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が3年までに未取得だった場合、4年次に再び履修して単位を取得できても、12単位には含まれません。

総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも12単位に含まれます。

自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)の単位について:(1)の12単位の中に含まれます。((2)には含まれません。)


単位表 (99学則)

1 卒業所要総単位

学士入学者の卒業必要単位数等については別途指示します。

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名 (単位)	最低必要単位		卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目			
1	2	3	4								
	総合教育科目 (P 23)	系	10-20-01	[自然・数理系] (2または4)	6	4	20				
			10-20-11	[自然・数理系 (生物学・物理学・化学)] (6)							
		系	10-20-02	[人文・社会系] (2または4)	10						
			10-20-03	[総合・関連系] (2または4)							
			10-20-13	[総合・関連系 (自由研究セミナー)] (2または4)							
	基礎教育科目 (P 23)	履修 タイプ	必修	20-20-07	微分積分 (2)	2	10				
				20-20-08	線形代数 (2)			2			
				20-10-01	統計学 (2) 統計学 (2)			4			
			選択必修	20-21-01	情報処理 (2)			2			
				20-21-02	情報処理 (2)						
				選択	20-30-01				日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)	2	
		20-30-03	情報処理 (2)								
		20-30-04	微分積分演習 (1)								
		20-30-05	線形代数演習 (1)								
		20-30-11	微分積分入門 (2) 線形代数統論 (2)								
		履修 タイプ	必修		20-10-01	統計学 (2) 統計学 (2)		4			
				20-20-05	数学概論 (2)						
			選択必修	20-20-06	数学概論 (2) 日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)	4					
				20-21-01	情報処理 (2)			2			
		選択	20-21-02	情報処理 (2)							
	20-30-02		微分積分 (2) 線形代数 (2) 微分積分演習 (1) 線形代数演習 (1)	2							
	20-30-03		情報処理 (2)								
	20-30-11	微分積分入門 (2) 線形代数統論 (2)									
	外国語科目 (P 24)	必修	30-10-01	英語 Study Skills (2)	2	6	14				
			外国語	30-10-02				ドイツ語第 . . . , . . . , (2)			
				30-10-03				フランス語第 . . . , . . . , (2)			
				30-10-04				中国語第 . . . , . . . , (2)			
				30-10-05				スペイン語第 , (2)			
		30-10-31		日本語 (2) (外国人留学生対象) B欄「11」で履修							
		選択必修	外国語	30-20-01	英語セミナー (2) 英語リーディング (2)			2	2		
				30-20-02	ドイツ語第 , (2)						
				30-20-03	フランス語第 , (2)						
				30-20-04	中国語第 , (2)						
				30-20-05	スペイン語第 , (2)						
			30-20-31	日本語 (2) (外国人留学生対象)							
			外国語 語種変更者	30-20-06	ロシア語 (2)			(4) 語種変更した 場合、の 代わりに必要			
				30-20-12	ドイツ語第 , (2) B欄「07」で履修						
				30-20-13	フランス語第 , (2) B欄「08」で履修						
	30-20-14			中国語第 , (2) B欄「09」で履修							
	30-20-15	スペイン語 (2)									
	選択	選択 A	30-30-01	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 ギリシャ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ペルシャ語	2						
			30-30-31	日本語 (外国人留学生対象) B欄「44」で履修							
	専門教育科目 (P 26)	必修	40-10-01	経済史 (2) 経済史 (2) マクロ経済学初級 (2) マクロ経済学初級 (2)	8	32	68				
			40-10-02	ミクロ経済学初級 (2) ミクロ経済学初級 (2)				4			
		選択必修	40-15-01	経済と環境 (2) 計量経済学概論 (2) 経済思想の歴史 (2) 経済思想の歴史 (2) マルクス経済学 (2) マルクス経済学 (2) 経済数学 (2)	4						
			40-15-02	経済数学 A (2)							
			40-15-03	経済数学 B (2)							
			40-15-11	社会問題 (2) 社会問題 (2)							
		基本科目 (P 26)	A 経済理論	40-20-51	ミクロ経済学 (4) ミクロ経済学 (4) マクロ経済学 (4) マクロ経済学 (4) 独占資本主義論 (4)			20 (3 分野 以上)			
				B 計量・統計	40-20-52				計量経済学 (4) 計量経済学 (4) 経済資料論 (4) 確率・統計 (4) 社会科学基礎論 (4)		
					C 学史・思想史				40-20-53	経済学史 (4) 経済学史 (4) 社会思想 (4) 本年度休講 社会思想史 (4)	
									D 経済史	40-20-54	日本経済史 (4) 欧米経済史 (4) アジア経済史 (4)

履修すべき学年				種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位	卒業必要単位(種類毎)	卒業単位認定科目
1	2	3	4							
				専門教育科目(P26)	基本科目(P26)	E 産業・労働	40-20-55	工業経済論(4) 農業経済論(4) 産業組織論(4) 労働経済論(4) 社会政策論(4)	20 (3分野以上)	68
						F 制度・政策	40-20-56	経済政策論(4) 財政論(4) 金融論(4) 日本経済システム論(4) 本年度休講		
						G 現代経済	40-20-57	現代日本経済論(4) 日本資本主義発達史(4) 現代資本主義論(4) 経済体制論(4)		
						H 国際経済	40-20-58	世界経済論(4) 国際貿易論(4) 国際金融論(4) 経済発展論(4)		
						I 環境関連	40-20-59	経済地理(4) 環境経済論(4) 都市経済論(4)		
						J 社会関連	40-20-60	人口論(4) 産業社会学(4) 社会史(4)		
					特殊科目(P26)	研究プロジェクト	40-30-01	研究プロジェクト(誘導展開型)(4)	32	
							40-30-02	研究プロジェクト(自発展展開型)(4)		
							40-30-03	研究プロジェクトC(2)		
						PCP	40-30-41	MICROECONOMICS(2) MACROECONOMICS(2)		
							40-30-51	PUBLIC POLICY AND LAW(2) INTRODUCTION TO LAW AND ECONOMICS(2) ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY(2)		
							40-30-52	INTRODUCTION TO FINANCE(2) ADVANCED FINANCE(2) APPLIED FINANCE(2)		
							40-30-53	JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS(2) PUBLIC DECISION-MAKING(2)		
							40-30-54	THE JAPANESE ECONOMY FROM AN INTERNATIONAL PERSPECTIVE(2) DEVELOPMENT ECONOMICS(2) OPEN ECONOMY MACROECONOMICS(4)		
							40-30-55	ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY(2) ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY(2) INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS(2)		
							40-30-56	MONETARY AND FISCAL POLICY(2) ¹		
						(日吉)	40-30-61	APPLIED ECONOMETRICS(2) PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS(2) FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY(2) READING AND COMPOSITION(2) ACADEMIC WRITING(2) INDEPENDENT STUDY(2)		
							(三田)	40-30-71		
				研究会	40-30-72	専門外国書講読(4) ²				
					40-30-73	演習(2または1) ³				
				関連科目 ⁴ (P27)	40-30-81	民法(4) 民法(4) 商法(4) 商法(4) 労働法(4) 租税法(4) 会計学(4) 経営学(4) 近代日本研究(2) 近代日本研究(2) 近代日本研究演習(2) 近代日本研究演習(2) 明治期日本女性論と福澤諭吉(2) 明治期日本女性論と福澤諭吉(2) (以上経済学部設置)				
						B欄「51」で履修	他学部設置の専門教育科目			
					B欄「52」で履修	40-30-82	他学部研究会(商学部研究会3年)			
					B欄「53」で履修	40-30-83	他学部研究会(商・理工学部研究会4年)			
					B欄「54」で履修	40-30-84	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年)			
					B欄「55」で履修	40-30-85	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年)			
				卒業単位認定科目	ガイダンス科目	40-30-86	東京工業大学工学部設置科目			
						01-30-01	経済学の視点と方法(2)(2004年度以前設置)			
					右記合計2単位までカウント	51-30-21	保健衛生(1)(旧保健体育科目)			
						51-30-22	体育理論(1)(旧保健体育科目)			
						51-30-11	体育学講義(2)			
						51-30-12	体育学演習(1)			
					右記合計2単位までカウント	51-30-23	体育実技(1)(旧保健体育科目)			
						51-30-24	体育実技(1)(旧保健体育科目)			
						51-30-13	体育実技A(1)			
						51-30-14	体育実技B(1)			
合計								126		

- 1: PCPに登録していない学生も履修可
2: 最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
3: 最大4単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
4: 最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
 : 履修上限単位に含まれないもの(卒業必要単位に満たないために履修する不足単位のみ)

(自由科目については次ページ参照)

種類 (詳細)	分野	内容			
自由科目 (P28)	履修上限内	60-30-01	< B欄「91」で履修申告するもの > <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までに取得した科目を再度履修する場合 ・今年度同一科目を複数履修申告する場合 (卒業単位に含めないものを B欄「91」で申告する) ・他学部設置の総合教育科目 		
			< 上記以外 (B欄指定不要) > <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程センター設置科目 (教職課程生は下記参照) ・言語文化研究所特殊講座 ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目 (メディアコム研究生は下記参照) ・慶應義塾大学在外研修プログラム ・国際センター設置講座 ・保健管理センター設置講座 ・情報処理教育室設置講座 ・アート・センター設置講座 ・知的資産センター設置講座 ・外国語教育研究センター設置講座のうち、経済学部で自由科目として認定しているもの 		
			メディアコム研究生のみ	60-39-01	< B欄「95」で履修申告するもの > メディア・コミュニケーション研究所研究生が、上限外で履修する同研究所設置科目
			教職課程登録者のみ	60-39-02	< B欄「96」で履修申告するもの > 教職課程登録者が上限外で履修する・教職課程センター設置科目 ・教職免許取得のための他学部設置科目
	大学院設置科目の 先取り履修	60-39-03	慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を予定している者が上限外で履修する大学院設置科目		

メディア・コミュニケーション研究所研究生、教職課程登録生の履修について

メディアコム研究生がメディアコム修了に必要なため履修する科目、教職課程登録生が教職免許取得に必要なため履修する科目は、その科目を履修上限内で履修するか履修上限外で履修するか選択することが可能です。

メディアコム研究生

	オープン科目	研究生科目
履修上限内で申告したい場合	A欄 (B欄指定不要)	B欄 (分野「91」)
履修上限外で申告したい場合	B欄 (分野「95」)	

教職課程生

		他学部設置科目 (教職免許関連)	教職課程設置科目
履修上限内で 申告したい場合	専門教育科目 (関連科目扱い)	B欄 (分野「51」)	/
	非専門教育科目 (自由科目扱い)	B欄 (分野「91」)	
履修上限外で申告したい場合		B欄 (分野「96」)	

2 履修上限単位

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は各学年とも、**44単位**です。

「研究会」を履修する場合3年生、4年生でそれぞれ4単位が含まれます。

(1) 履修上限に含まれないもの

- ・前々項、前項の「1 卒業所要総単位」の中で、のもの。(卒業必要単位に満たないため履修する不足単位分のみ。不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれません。)
- ・(留年者に限り)同一学年で既に合格した評価B・Cの科目を再履修する場合。(評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます。向上しなかった場合は前の評価がそのまま残ります。)ただし研究会の再履修はできません。
- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・第4学年在籍時に、大学院設置科目を先取り履修する場合。(履修案内 p. 30 参照)

(2) その他注意

- ・留年者が同一学年で既に合格した科目は、履修上限に含まれます。(例：留年者が前年度8単位取得していた場合、今年度の上限は36)

単位になります。)

- ・自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は、履修上限に含まれます。

3 第3学年における進級必要単位

学士入学者の必要単位は別途指示します。

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、第4学年への進級はできません。

(1) 基礎教育科目 10 単位, 専門基礎科目 16 単位の取得

(1)- 基礎教育科目 10 単位(内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、基礎教育科目の単位を合計して10単位に達していれば大丈夫です。

(卒業必要要件科目(「統計学」・「情報処理」, タイプ の「微分積分」「線形代数」等)を未取得でも、卒業必要要件でない科目を取得(タイプ の学生が「日本/世界経済の現状と問題」を取得, タイプ の学生が「微分積分」「線形代数」を取得, 「情報処理」を取得した上で「情報処理」も取得, 等)することによって、充足する場合があります。)

(例1)(タイプ)「微分積分」を未取得だが、「線形代数」「統計学」「統計学」「情報処理」「世界経済の現状と問題」を取得している。

(例2)(タイプ)「日本/世界経済の現状と問題」「数学概論」のうち「数学概論」しか取得していないが、「統計学」「統計学」「情報処理」「情報処理」を取得している。

(1)- 専門教育科目の基礎科目 16 単位(内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、専門教育科目の基礎科目の単位を合計して16単位に達していれば大丈夫です。

(必修科目(「経済史」「マクロ経済学初級」「ミクロ経済学初級」のいずれかが未取得でも、選択必修科目(「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学 A/B」「マルクス経済学」「経済思想の歴史」「社会問題」等)を2科目4単位を超えて取得することによって、充足する場合があります。)

(例)「ミクロ経済学初級」を未取得だが、他の必修科目10単位(「経済史」「経済史」「マクロ経済学初級」「マクロ経済学初級」「ミクロ経済学初級」)を取得している上、選択必修科目を6単位((例)「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学 A」)取得している。

(2) 履修上限 44 単位の範囲内で履修した科目のうち 28 単位の取得

- ・研究会の3年生分4単位は含まれません(他学部設置の研究会で第3学年と第4学年の研究会の両方の履修を義務づけ、かつ研究会の単位が第4学年末に3,4年分まとめて取得できる研究会の履修をする場合も同じ)
- ・履修上限外で履修した科目(必修の外国語科目, 必修・選択必修の基礎教育科目, 必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても28単位に含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が2年次に未取得だった場合、3年次に再び履修して単位を取得できても、28単位には含まれません。

総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも28単位に含まれます。

自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は28単位に含まれます。

4 第4学年における卒業必要単位

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、卒業はできません。

(1) 履修上限 44 単位の範囲内で履修した科目のうち 12 単位の取得

(2) 卒業所要単位 126 単位の取得

履修上限外で履修した科目(必修の外国語科目, 必修・選択必修の基礎教育科目, 必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても(1)の12単位には含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が3年までに未取得だった場合、4年次に再び履修して単位を取得できても、12単位には含まれません。

総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも12単位に含まれます。

自由科目のうち履修上限内(分野番号【60-30-01】)は、(1)の12単位の中に含まれます。(2)には含まれません。

研究会は、第3・第4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合に8単位を取得できます。卒業必要単位のカウント方法については以下のとおりです。

- ・(1)には、4学年分の4単位のみが12単位に含まれます。
- ・(2)には、特殊科目として8単位カウントされます。

経済学部設置科目

講義要綱

「授業の計画」のうち、講義内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

05 学則

科目名の末尾に a, b がついているものは、セット履修・半期完結履修いずれかの履修形態が設定されています。

「セット履修」と表示のあるものは、必ず a, b を組み合わせて履修しなければなりません。

表示のないものは半期完結履修です。

99 学則

開講学期は、通年・春集・秋集・春学期・秋学期のいずれかになります。

表示を確認してください。

〔 専門教育科目 〕

(1) 基本科目

ミクロ経済学中級 a [05学則] (春学期)
ミクロ経済学中級 b [05学則] (秋学期)
ミクロ経済学 [99学則] (通年) 准教授 津 曲 正 俊

ミクロ経済学中級 a [05] / ミクロ経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 a では、消費者行動と生産者行動の理論分析が主要な講義内容となる。

テキスト：

特にもない。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴村興太郎『ミクロ経済学』、岩波書店、1985年、88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年
- ・Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis (3rd ed.)*, Norton, 1992.

授業の計画：

1. 消費者行動の理論
2. 生産者行動の理論
3. 不確実性下の経済行動

1と2の内容について、それぞれ5週間ほど、3の内容については3週間ほどかけることを予定している。なお、授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

履修者へのコメント：

ミクロ経済学の基本的な内容のうち、ゲーム理論、厚生経済学などに関しては詳しく触れない。これらの内容に関しては併設講義「ミクロ経済学中級」 「ゲーム理論」 「契約理論」 を履修することを薦める。

成績評価方法：

試験の結果による評価：期末試験の結果70%、授業内で行う小テストの結果30%。

ミクロ経済学中級 b [05] / ミクロ経済学 (秋) [99]

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 b では市場均衡の分析が基本的な内容となる。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 社会的選択理論
2. 完全競争市場
3. 厚生経済学の基本定理
4. 市場の失敗

授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

ミクロ経済学中級 a [05学則] (春学期)
ミクロ経済学中級 b [05学則] (秋学期)
ミクロ経済学 [99学則] (通年) 教授 中 村 慎 助

ミクロ経済学中級 a [05] / ミクロ経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

ミクロ経済学中級 a 及び b を通じてミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。従って秋学期中村担当のミクロ経済学中級 b を併せて履修することを強く希望する。

消費者行動	厚生経済学の基本定理
生産者行動	不完全競争市場
不確実性下の経済行動	ゲームの理論
完全競争市場	社会的選択の理論

なお、授業の進捗状況により、授業内容が多少変更する可能性もある。

テキスト：

テキストは特に用いない。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴村興太郎『ミクロ経済学』、岩波書店、1985年、88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年

授業の計画：

ミクロ経済学 a においては上記の前半部分を取り扱う。

履修者へのコメント：

必ず授業に出席し、不明な点をその場で質問するようにしてもらいたい。

成績評価方法：

春学期末に試験を行う。なお、必要に応じてレポート / 授業内小試験を行うことがある。

ミクロ経済学中級 b [05] / ミクロ経済学 (秋) [99]

授業科目の内容：

ミクロ経済学中級 a 及び b を通じてミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。従って春学期中村担当のミクロ経済学中級 a をあらかじめ履修していることを前提とする。

消費者行動	厚生経済学の基本定理
生産者行動	不完全競争市場
不確実性下の経済行動	ゲームの理論
完全競争市場	社会的選択の理論

なお、授業の進捗状況により、授業内容が多少変更する可能性もある。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

ミクロ経済学 b においては上記の後半部分を取り扱う。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

秋学期末に試験を行う。なお、必要に応じてレポート / 授業内小試験を行うことがある。

ミクロ経済学中級 a [05学則] (春学期)
ミクロ経済学中級 b [05学則] (秋学期)
ミクロ経済学 [99学則] (通年) 准教授 石 橋 孝 次

ミクロ経済学中級 a [05] / ミクロ経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

ゲーム理論が経済学に浸透して以来、ミクロ経済理論がカバーする範囲は大きく広がってきた。伝統的には、完全競争市場の一般均衡分析がミクロ経済学の骨格とされてきたが、ゲーム理論によって基盤を与えられた産業組織の理論や情報とインセンティブの理論は、

現代ミクロ経済学の新たな骨格を形成している。伝統的な均衡理論については、ミクロ経済学中級 で扱われる。このミクロ経済学中級 では、まず全体の理論的な基盤となるゲーム理論を解説した後、産業組織・情報とインセンティブを中心に、市場の失敗やオークションについての講義を行う。授業内容はミクロ経済学中級 と並行して学ぶべきもので、ミクロ経済学中級 の履修を前提としているわけではない。

まず春学期のミクロ経済学中級 a では、ゲーム理論・部分均衡分析・産業組織の諸問題を主なテーマとする。

参考書：

- ・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995 (Parts , and).
- ・Jehle and Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, Second Edition, Addison-Wesley, 2000.
- ・Watson, *Strategy: An Introduction to Game Theory*, Norton, 2002.
- ・ギボンズ(福岡・須田訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995年
- ・塩澤修平・石橋孝次・玉田康成(編著)『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣, 2006年

授業の計画：

：ゲーム理論

1. 戦略型ゲーム
2. 展開型ゲーム
3. 不完備情報ゲーム

：部分均衡分析

4. 一般均衡と部分均衡
5. 総余剰と厚生分析

：産業組織

6. 寡占の静学モデル
7. 寡占の動学モデル
8. 製品差別化
9. 戦略的行動と参入阻止

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業内で行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ミクロ経済学初級および微分積分の知識は前提とする。

成績評価方法：

授業内の小テスト 20%・学期末試験 80%

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

ミクロ経済学中級 b [05] / ミクロ経済学 (秋)[99]

授業科目の内容：

春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学中級 a」に引き続き、市場の失敗・契約理論の諸問題・オークションを主なテーマとする。

参考書：

「ミクロ経済学中級 a」を参照。

授業の計画：

：市場の失敗

10. 外部性
11. 公共財

：情報とインセンティブ

12. 期待効用理論
13. モラル・ハザード
14. アドバース・セレクション
15. シグナリング
16. スクリーニング

：オークションとメカニズム・デザイン

17. 私的価値オークションと収入等価定理
18. メカニズム・デザインと最適オークション

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業内で行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ミクロ経済学初級および微分積分の知識は前提とする。パラ科目ではあるが、春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学

中級 a [05] / ミクロ経済学 (春)[99]」で扱う程度のゲーム理論の知識は前提とする。

成績評価方法：

授業内の小テスト 20%・学期末試験 80%

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

マクロ経済学中級 a [05学則](春学期)

マクロ経済学中級 b [05学則](秋学期)

マクロ経済学 [99学則](通年) 教授 尾崎 裕之

マクロ経済学中級 a [05] / マクロ経済学 (春)[99]

授業科目の内容：

マクロ経済学は、「集計された」経済変数について、その水準、動向、他のそれとの関係、などを明らかにする経済学の一分野である。この講義では、その分析に用いられる手法に焦点を当てて解説を行うが、それによって、マクロ経済学という「方法」を参加者が習得する事を本講義の目的としたい。具体的には

1. 競争均衡マクロモデル
2. 非線形連立方程式の理論

を解説する。(1)では古典派的なマクロ経済観を、単純なモデルを用いて解説する。特に、貨幣の中立性が示される。これに続いて(2)では、線形連立方程式の解法、微分による線形近似、陰関数定理、などの若干の数学的準備を経て、非線形連立方程式の解法を解説する。その応用として、いわゆる「IS-LM分析」にも触れ、このモデルでは貨幣が均衡に影響を与え得ることを示す。

マクロ経済学中級 b [05] / マクロ経済学 (秋)[99]

授業科目の内容：

本講義では、「古典派 vs ケインジアン」という対立軸を超えるものとしての「ミクロ的な基礎付け」を持った新しいマクロ経済分析の手法を中心に解説を行う。具体的には、

1. 新しい古典派経済学とマクロ経済学のミクロ的基礎
2. 貨幣の理論

を解説する。「IS-LM分析」はミクロ的な基礎を欠いており、経済主体の期待形成、あるいは、政策変更に対するフィードバックを的確にモデル化することができない、等の大きな問題点がある。そこで(1)では、「IS-LM分析」の手法に代わるものとしての、「ルーカス革命」以降のマクロ経済分析の手法を詳しく解説する。本講義の中心的部分である。特に、経済主体の「合理性」、および、経済の「均衡」という2つの概念を中心に、現在のマクロ経済学の標準的な考え方を説明する。(2)では、世代重複モデル、清滝=ライト・モデルを用いながら、(1)で用いたようなマクロ経済学的方法論で貨幣の持つ本質的な意味を考える。時間が許せば、(1)の手法に基づく経済成長モデル、あるいは、サンスポット均衡の理論を解説する予定であるが、講義の進捗状況によっては割愛する事も有り得る。

マクロ経済学中級 a [05学則](春学期)

マクロ経済学中級 b [05学則](秋学期)

マクロ経済学 [99学則](通年) 准教授 白井 義昌

授業科目の内容：

教科書にそって講義を行う。毎週の小テストおよび期末試験の合計点で成績を評価する。本講義のウェブサイトについては授業開始時に通知する。

テキスト：

・Abel, Bernanke, and Croushore, *Macroeconomics*, 6th edition. Addison Wesley

授業の計画：

各週教科書1章分の講義を行う。(12章分)

1章終わるごとに小テストと宿題提出を行う。

授業内で中間試験と期末試験を行う。(各90分)

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：期末試験
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価：宿題と小テストそれぞれ数回

マクロ経済学中級 a [05学則] (春学期)
マクロ経済学中級 b [05学則] (秋学期)
マクロ経済学 [99学則] (通年) 准教授 伊藤 幹 夫

マクロ経済学中級 a [05] / マクロ経済学 (春) [99]

授業科目の内容:

マクロ経済学のうち、動学に関連した部分を主として扱う。ただし、導入部分では、マクロ経済学に関する基礎的な事柄の復習を行う。特に、国民経済計算の部分については、ある程度時間を費やす。その上で、実際のマクロ経済データを示しつつ、そこから必要なことを学ぶ。その後、マクロ経済時系列データの特性を概観し、標準的な経済変動理論の類型を学ぶ。

テキスト:

特に、指定しない。

参考書:

吉川洋『現代マクロ経済学』創文社

授業の計画:

- ・マクロ経済学の枠組み 国民経済計算の基礎 (2週)
- ・経済変動の実際: (a)日本経済のデータ (b)成長と変動の要因 (2週)
- ・経済成長理論の基礎 (a)ハロッド・ドーマーの理論 (b)新古典派成長理論 (c)カルドアの定型化された事実 (d)最適成長 (4週)
- ・技術進歩と成長 (a)中立技術進歩 (b)内生的技術進歩 (c)内生成長理論の意義と限界 (3週)
- ・成長理論の実証 (2週)

履修者へのコメント:

マクロ経済学の基礎的な枠組みを丁寧に解説し、本質的な理解ができるような講義です。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問用の e-mail アドレスと、Wiki サイトのアドレスを授業中に提示する予定。

マクロ経済学中級 b [05] / マクロ経済学 (秋) [99]

授業科目の内容:

マクロ経済学のうち、動学に関連した部分を主として扱う。動学的なマクロ経済学を展開するために必要な数学モデルの特性について、先に概観する。その上で、実際のマクロ経済データを示しつつ、そうしたマクロ時系列データと整合する理論が、どのような観点に注目して開発されたかを示す。当然、標準的な経済変動理論の類型を学ぶが、財政・金融政策が実物経済に影響を与えるか否かという点に注目して、理論の比較を行う。

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

- ・経済変動とは何か (1週)
- ・日本経済のマクロデータと経済変動 (2週)
- ・古典的な景気変動理論 (a)サミュエルソン・ヒックスの乗数加速度理論の系譜 (3週)
- ・極限閉軌道モデルからカオスモデルに至る、非線形景気循環理論の系譜 (4週)
- ・外生ショックモデル (a)ルーカス・パローモデル (b)実景気循環モデル (c)経済政策と景気循環 (3週)

履修者へのコメント:

景気変動に関する、実際のデータと典型的な理論の関係を、丁寧に解説します。

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

独占資本主義論a [05学則] (春学期) セット履修
独占資本主義論b [05学則] (秋学期)
独占資本主義論 [99学則] (通年) 准教授 延 近 充

授業科目の内容:

2年生を対象に設置されているマルクス経済学では、資本主義社会の経済構造と運動法則を原理的かつ体系的に明らかにすることが課題とされた。そこで明らかにされた資本主義の一般的運動法則は、資本主義が資本主義であるかぎり根底において貫徹しているが、現代のいっそう複雑化した経済問題を解明するためにはそれだけでは十分ではない。

資本主義の一般的運動法則は競争の全面的支配を特徴とする資本主義においては「鉄の必然性」をもって貫徹するのであるが、資本主義の発展過程はその内的メカニズム自体によって競争の作用を一部制限するようになる。主要な生産部門が少数の巨大資本によって支配され、独占的市場構造が形成されてくるのである。そうした資本主義の構造変化・独占段階への移行にともなって、資本主義の一般的運動法則は一定程度変容し矛盾の現われ方も異なったものとなってくる。さらに、そのような矛盾に対処するために経済過程に国家が介入することが必要とされ、特に第2次大戦後では社会主義世界体制の成立・冷戦のもとで国家の果たす役割はいっそう大きくなっていった。

したがって、現代の経済を分析するためには、資本主義の一般的運動法則を基礎としつつ、このような資本主義の歴史的な段階変化その構造と動態を明らかにする理論が必要とされる。この講義では、競争の全面的に支配する段階から独占と競争とが絡み合う段階への移行の問題と現代資本主義を基本的に特徴づける独占資本主義の構造と動態を明らかにすることを中心課題とする。

テキスト:

・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣

または

・北原・本間・鶴田(編)『資本論体系 10 現代資本主義』有斐閣

授業の計画:

以下の順で講義を行う。春学期(05学則では独占資本主義論a)に1~5, 秋学期(同, 独占資本主義論b)に6~9の予定。

1. 資本主義の一般的運動法則と段階変化
2. 独占的市場構造の成立と特徴
3. 独占的競争と市場・価格支配
4. 独占価格と設備投資原則
5. 独占利潤の源泉と収奪構造
6. 独占企業の投資行動の動態
7. 独占段階における景気循環の変化
8. 帝国主義と国家独占資本主義
9. 現代資本主義分析と独占資本主義論

履修者へのコメント:

マルクス経済学を履修済であることを前提とし、現代資本主義論、現代日本経済論も履修されることが望ましい。

成績評価方法:

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

質問・相談:

講義内容や成績評価など、より詳しくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nobu/index.html> を参照してください。

計量経済学中級a [05学則] (春学期) セット履修
計量経済学中級b [05学則] (春学期)
計量経済学 [99学則] (春集) 准教授 田 中 辰 雄

授業科目の内容:

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎(不偏性・効率性・古典的仮定, t 値, F 検定など), (2)不均一分散, (3)系列相関, (4)同時方程式, (5)VARによる因果性, (6)パネルデータ分析, (7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行う事になる。一部屋のパソコンの台数に限りがあるので、受講生は多少の不便を生じうるのを覚悟されたい。成績は2回のレポートと学期末試験でつける予

定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する（最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかっておればよい）

計量経済学中級a [05学則] (春学期)	セット履修
計量経済学中級b [05学則] (春学期)	
計量経済学 [99学則] (春集)	准教授 中 妻 照 雄

授業科目の内容：

計量経済学は、経済理論の実証分析に不可欠であるばかりでなく、経済政策の決定や金融などの実務においても重要な役割を果たしています。本講義では計量経済学の基礎知識の習得を目指します。また、計量経済学の理論だけでなくコンピュータによる経済の実証分析にも力を入れます。インターネット経由で入手できるフリーの計量経済分析ソフトである gretl を使って実際に実証分析をどのように進めるべきかを指導します。

テキスト：

浅野哲，中村二郎『計量経済学』有斐閣，2000年

参考書：

- ・山本拓『計量経済学』新世社，1995年
- ・戸田裕之，山田宏『計量経済学の基礎 統計的手法の理論とプログラミング』東京大学出版会，2007年

授業の計画：

1. 計量経済学の目的
2. 説明変数が1つの場合の回帰モデル
3. 最小二乗推定量の性質
4. 各種統計量の解釈
5. 実証分析結果の報告作用
6. 説明変数が2つ以上の場合の回帰モデル
7. 回帰係数間の関係の検証
8. 標準的仮説からの逸脱と対処法
9. 高度な手法：同時方程式体系
10. 高度な手法：パネル・データ分析
11. 高度な手法：質的従属変数モデル
12. 高度な手法：時系列モデル
13. まとめ

履修者へのコメント：

授業内容を理解するためには統計学，微分積分，線形代数の知識が必要です。

成績評価方法：

・レポートによる評価

学期末に実際のデータを用いた分析結果をレポートにして提出してもらい，その内容で講義の理解度を評価します。

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

毎週出席を取り講義への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

計量経済学上級a [05学則] (春学期)	
計量経済学上級b [05学則] (秋学期)	
計量経済学 [99学則] (通年)	准教授 河 井 啓 希 准教授 宮 内 環

計量経済学上級a [05] / 計量経済学 (春)[99]

授業科目の内容：

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく，(1) その理論的背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする，(2) 経済分析にどのように応用することができるのかを知る，(3) PCを使った実習を通じて自分で分析ができるようにする。予備知識としては統計学，微分積分，行列の知識，さらには「計量経済学概論」または「計量経済学中級」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも，この時間で習得できるよう工夫する。

テキスト：

第1回目の授業で指示する。

参考書：

- ・ 養谷千鳳彦『計量経済学大全』東洋経済新報社，2006年
- ・ William H. Greene, *Econometric Analysis 5th ed.*/ISE, Prentice Hall IE, 2003
- ・ Jeffrey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001
- ・ Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

授業の計画：

1. Introduction：経済分析における統計的方法（1回）
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定（5回）
最小2乗法とその統計的性質，最尤法とその統計的性質，仮説検定，モデルの評価
3. 一般化最小2乗法（5回）
分散不均一性の問題，自己関連の問題
4. 操作変数法（2回）

履修者へのコメント：

計量経済学の理論と実際の応用分析に興味のある学生は是非履修してください。

成績評価方法：

実証分析に関するレポートで決定する。

質問・相談：

クラスページ（urlは授業にて報告する）を通じてレジュメやデータの配布を行う。質問や相談については掲示板で履修者全員が共有できるようにする。

計量経済学上級b [05] / 計量経済学 (秋)[99]

授業科目の内容：

マイクロデータの計量経済学的分析に不可欠な離散的従属変数（discrete dependent variable），制限された従属変数（limited dependent variable）の問題について講義と演習を行う。マイクロデータの整備によって，消費者や企業の行動に関して集計の度合いの低い観測が行われるようになり，合計や平均値などのように集計された変数についての分析方法とは異なる方法が要求されるようになってきている。問題の所在を2つの例によって示そう。第一の例として「就業率」と就業という状態について。「就業率」という変数は就労可能な労働力人口に属する多くの主体について観察し，そのうち就業している主体の割合を示したもので，「就業確率」の点推定値と考えられる。これに対しマイクロデータでは，個々の主体が就業の状態にある（ $y=1$ ）のか無業の状態にある（ $y=0$ ）のかを観察されている。この場合，「就業率（確率）」という変数は就業状態にあるか否かを示す離散変数 y とどのような関係にあり， y の値の発生をどのように叙述するのが適切なのだろうか。第二の例として賃金と限界生産力について。賃金によってある主体の限界生産力が測定できるとすれば，賃金の観測値が得られるのは，主体が就業している場合に限られる。他方，就業していない主体の限界生産力はゼロとは限らない。すなわちその就業していない主体がもし働いたら得られるであろう賃金はゼロであるとは限らない。仮にある水準以上の限界生産力を持つ主体のみが就業するとすれば，就業している主体の賃金のみによって得られる賃金の観測値の平均値は，潜在的なも含めた限界生産力の平均値とは系統的に乖離することになってしまうであろう。以上に述べた問題については，観測資料の発生仕組みを叙述する確率モデルと観測値との関係を詳細に吟味することが必要であり，これらの間の関係を中心にして講義と演習を進める。演習はパーソナルコンピュータを用いながら行う。用いるソフトウェアについては，講義や演習の中で述べるので，この点の予備知識は履修の前提としない。

授業の計画：

授業の進め方はおおよそ次のとおり。

1. 離散的確率変数の分布，回帰分析，最尤法の復習
2. 見えない変数と離散的従属変数のモデル：経済学における展開を主として
3. 二値選択モデル：Probit model, Logit model
4. 二値選択モデルの演習
5. 制限のある変数：truncated data, censored data, モーメント
6. Tobit model, Sample Selection model：主体均衡論からの考察

7. Tobit model, Sample Selection model の演習

履修者へのコメント：

講義では具体的事例を含め演習も行いますので積極的に参加してください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：離散的選択モデル，制限のある従属変数のモデルに関する基礎知識を問う
- ・レポートによる評価：離散的選択モデル，制限のある従属変数のモデルに関する演習

質問・相談：

「教育支援システム」で受け付けます。

経済統計a [05学則] (春学期)	セット履修
経済統計b [05学則] (秋学期)	
経済資料論 [99学則] (通年)	教授 辻村和佑 教授 清水雅彦 (秋)

経済統計a [05] / 経済資料論 (春) [99]

授業科目の内容：

国民経済における所得（純生産）の発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネッツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に国民経済をひとつのシステムとして捉え、国民経済システムに内在する構造的性質を計量的に分析するための理論体系としてレオンティフの投入・産出分析理論（産業連関分析モデル）が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの整備・拡充と計量経済学の発展に伴い、分析理論の現実妥当性を検証（テスト）する方向を辿ってきた。分析対象とする経済事象の観測事実（統計データ）に基づく分析理論の実証である。この講義では、国民経済に関する実証分析のための基礎資料となる経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系（a system of national accounts: SNA）を中心として説明する。SNAは、国民経済において観測される一次統計データ（primary statistical data）を国民経済システムの要素に対応して集計した二次統計データ（secondary statistical data）の体系である。春学期には、このようなSNAを理解するために、その基本構造を、内部整合性の担保という観点から解説する。

参考書：

参考文献については、テーマごとに指示する。

授業の計画：

1. 経済統計としての国民経済計算体系の意義
2. 国民経済計算体系とマクロ経済学の枠組み
3. 国民経済計算体系と計量経済学の発展
4. 国民経済計算体系の学際的位置づけ
5. 国民経済計算体系の歴史的展開（コーブランドのマネーフロー表）
6. 国民経済計算体系における内部整合性の担保
7. フローとストック
8. 多部門勘定体系
9. 主体の内部均衡
10. 主体間均衡
11. 異時点間の整合性
12. 取得価額と再取得価額
13. 国民経済計算体系の表象形式

履修者へのコメント：

授業計画については履修者のレベルや希望を勘案して変更する場合があります。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

経済統計b [05] / 経済資料論 (秋) [99]

授業科目の内容：

国民経済における所得（純生産）の発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネッツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に国民経済をひとつのシステムとして捉え、国民経済システムに内在する

構造的性質を計量的に分析するための理論体系としてレオンティフの投入・産出分析理論（産業連関分析モデル）が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの整備・拡充と計量経済学の発展に伴い、分析理論の現実妥当性を検証（テスト）する方向を辿ってきた。分析対象とする経済事象の観測事実（統計データ）に基づく分析理論の実証である。この講義では、国民経済に関する実証分析のための基礎資料となる経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系（a system of national accounts: SNA）を中心として説明する。SNAは、国民経済において観測される一次統計データ（primary statistical data）を国民経済システムの要素に対応して集計した二次統計データ（secondary statistical data）の体系である。秋学期には、SNAの推計方法を理解するために、一時統計データの作成過程と二次統計データへの集計過程を解説する。

参考書：

参考文献については、テーマごとに指示する。

授業の計画：

1. 国民経済の統計的把握
2. 国民経済計算体系の歴史的展開（クズネッツの国民所得統計とケインズの一般理論）
3. 国民経済計算体系の歴史的展開（レオンティフの投入・産出分析理論）
4. 国民経済計算体系の基本図式
5. 国民経済計算体系の5勘定
6. 一次統計と二次統計
7. 工業統計調査
8. サービス業基本調査
9. 特定サービス業実態調査
10. 商業統計調査
11. 産業連関表の解説
12. 産業連関分析理論の解説

履修者へのコメント：

授業計画については履修者のレベルや希望を勘案して変更する場合があります。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

確率・統計 a [05 学則] (春学期)	セット履修
確率・統計 b [05 学則] (秋学期)	
確率・統計 [99 学則] (通年)	教授(有期) 稲葉由之

授業科目の内容：

本授業では、確率論や数理統計学に関する基本的な内容を扱い、確率・統計に関連した問題を解くために必要な知識を修得することを目的とする。

授業は、確率・統計に関する基礎的な理論を導くことを中心に進めていく。また、例題を参考にして簡単な問題を解くことにより、理論に関する理解の徹底と応用力養成をはかる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

必要に応じて紹介する。

授業の計画：

1. 事象と確率
2. 確率変数と確率分布
3. 期待値と積率
4. 大数の法則と中心極限定理
5. 統計的推定
6. 統計的検定
7. モデル推定とモデル選択

履修者へのコメント：

練習問題を課題として提示します。毎週、それらの問題を解くことを履修の条件とします。

成績評価方法：

学期末試験による評価

質問・相談：

第1回の講義において指定します。

社会科学基礎論a [05学則] (春学期) セット履修
社会科学基礎論b [05学則] (秋学期)
社会科学基礎論 [99学則] (通年) 准教授 宮内環

社会科学基礎論a [05] / 社会科学基礎論(春)[99]

授業科目の内容:

『社会科学基礎論 a [05] / 社会科学基礎論(春)[99]』では、まず科学の一般的目的と、その目的を達成するために採用されてきた一般的方法について考察する。この考察をふまえ、つぎに自然科学と社会科学の方法を対比させながら、社会科学のなかでも最もよく開拓された経済学の方法を中心に、その適切な分析作法について議論をすすめる。

自然科学の領域では、実験室における統御実験の方法がよく開発され、この統御実験のもとで、多くの法則性を把握することに成功してきた。一方、社会科学の領域では、近年の実験経済学の進展も見られるものの、その適用範囲は限定的である。経済学をはじめとする社会科学においては、実験室における統御実験を行うことが困難な状況にあることは否定できない。このように実験が困難な場合には、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえて観測の方法を工夫することが不可欠となる。そこで、『社会科学基礎論 a [05] / 社会科学基礎論(春)[99]』では、法則性の把握における実験の意義をまず明らかにし、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら、つぎに経済学における分析対象への接近法の方法論的意義を明らかにする。

テキスト:

小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

参考書:

- ・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社、1998年
 - ・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房、1977年
- その他は講義中に示す。

授業の計画:

1. 科学の目的、法則性の把握と予測、法則性把握の意義、政策
2. 法則性の定性的把握・定量的把握、確率的予測、非確率的予測、法則の把握のし易さと理論の役割
3. 科学の方法、観測と理論; 科学の一般的方法、理論の反証可能性(検証可能性)、数学モデルと実験計画、条件付き予測
4. 観測方法の改良、理論の改善、理論が妥当する範囲
5. 数学、統計学、経済学の間関係、公理 定理体系の意義、
6. 母集団概念、確率的理論構成の意義、理論の進歩とは?(理論の一般性と特殊性、理論がもたらす情報の多さ)
7. 観測の方法と理論構成、資料発生機構のモデル、外生変数と内生変数、実験の2つのタイプ(統御実験、風洞実験)、識別問題、統御実験の意義
8. 実験計画と識別、主体の集計・細分化と識別、単位期間の集計・細分化と識別
9. 確率的モデル、系統的因子、非系統的因子、確率的モデルとその意義、確率的モデルの3つのタイプ(shock model, error model, shock and error model)
10. 確率的モデルのタイプと資料発生機構、測定誤差、条件付き予測の誤差
11. 受動的観測者の困難、変数と取り落としによるバイアス重共線性
12. 連立方程式バイアス
13. 選択バイアス

履修者へのコメント:

理論構成と観測が相互に関連しながら科学の方法が進歩していることを学んでください。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

keio.jpの「教育支援システム」で受け付けます。

社会科学基礎論b [05] / 社会科学基礎論(秋)[99]

授業科目の内容:

『社会科学基礎論 b [05] / 社会科学基礎論(秋)[99]』では、『社会科学基礎論 a [05] / 社会科学基礎論(春)[99]』における議論

を踏まえ、経済学の分析における理論構成と観測の関係についてより立ち入った議論を行う。

経済学をはじめとする社会科学においては、多くの場合統御実験が困難であり、我々は受け身の観測者の立場に立たされる場合が少なくない。このような場合においては、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえて観測の方法を工夫することが不可欠となる。

『社会科学基礎論 b [05] / 社会科学基礎論(秋)[99]』では、法則性の把握における実験の意義を確認し、実験が困難な場合における法則性把握の作法を、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら、経済学における実際の分析事例にそくして講義する。

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

1. 経済学における変数の測定と誤差
2. 予測のし易さと理論の構成; 構造方程式測定の意義
3. 構造方程式の測定(その1); 構造方程式と誘導形方程式
4. 構造方程式の測定(その2); 最小2乗法(2SLS, 3SLS)と最尤法(LIML, FIML)の考え方および方法
5. 方程式の自律度(degree of autonomy)とパラメタの安定性
6. 観測と理論の対応(その1); ラグナー・フリッシュ限界効用の測定
7. 観測と理論の対応(その2); デューゼンベリー消費関数の測定
8. 観測と理論の対応(その3); 離散変数の観測と理論構成(Latent Variables, Dummy Endogenous Variables)
9. 観測と理論の対応(その4); 制限のある観測値と資料発生機構(Truncated Date, Censored Data)
10. 観測と理論の対応(その5); Self Selection Bias, Sample Selection Bias
11. 観測と理論の対応(その6); 労働供給モデルを始めとするいくつかの事例
12. 測定および条件付き予測と政策(その1); 最低必要臨界量と市場の安定
13. 測定および条件付き予測と政策(その2); ダグラス ロング有沢法則と市場の安定

履修者へのコメント:

理論構成と観測が相互に関連しながら科学の方法が進歩していることを学んでください。

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

経済学史 a [05学則] (春学期) セット履修
経済学史 b [05学則] (秋学期)
経済学史 [99学則] (通年) 准教授 神代光朗

経済学史 a [05] / 経済学史(春)[99]

授業科目の内容:

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に17~19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすめたい。経済学史 a [05] / 経済学史(春)[99]では、とりわけ、近代の経済学史の出発点と考えられる重商主義から、その批判としての重農学派とアダム・スミスまでを中心に講ずることによって、近代市民社会の科学としての経済学の成立を解明し、又、それが、政策論や経済思想(経済倫理や市民社会の思想を含む)とどう関連しているかを明らかにしたい。

テキスト:

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、自らノートを執ること。参考書は学生諸君の理解の補助にはなるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はあることを

忘れないでほしい。

参考書：

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社，1968年（同社の復刻版もあり）
または『内田義彦著作集』第2巻 岩波書店，1989年（2001年より増刷）
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣，1997年
- ・早坂忠（編）『経済学史 経済学の生誕から現代まで』ミネルヴァ書房，1989年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社，1952年 又は泉文堂（16刷）

授業の計画：

1. 経済学史の課題と方法。経済学史をどこから始めるか。（2回）
2. 重商主義の経済思想（4回）
3. 重農学派とテュルゴー（3回）
4. アダム・スミスの経済学（4回）

但し、各項目にわりあてられる回数や内容については、多少の変動があることを承知しておいて頂きたい。いずれにしても、経済学、とりわけスミスにおいてはじまったとみなされる古典派経済学の成立までを中心に春学期 13回を講じる。なお、学習の理解を深める上で、履修可能な人には私の担当の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b (セット)」を合わせて履修することを勧めたい。

履修者へのコメント：

受講者は、以下の諸点を心掛けてください。講義への出席、講義内容を自らノートに執ること、古典文献そのもの及び参考文献を各人が独自に学習すること。社会認識上の知性を養い、主体的に自らの問題意識を形成すること。なお、同科目 b とセット科目であることを注意してください。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

成績評価は原則的には春秋年2回の期末筆記テスト又はそれに準ずるものによるが、05学則対象者は a, b (春, 秋) セット科目なので、a, b ととも合格することが合格には必要である。

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

日常の出席状況等も考慮の対象となるが、詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。平常点は単純に出席の数のみの問題ではなく、又、単純にパーセンテージで決めるものでもない。肝要なのは講義内容の理解の程度である。

質問・相談：

学問内容についての質問・相談は歓迎するが、評価方法等については上記の通りなので、原則的には応じられない。質問は講義終了時に教室で、用紙（自ら用意してください。）に書いて出すこと。その際、学年、クラス、氏名、学籍番号を必ず記入し、簡潔にすること。

経済学史 b [05] / 経済学史 (秋)[99]

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に17～19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすめたい。経済学史 b [05] / 経済学史 (秋)[99] では、とりわけ、アダム・スミスを創始者としてリカードゥにおいて頂点に達した、古典派経済学とりわけリカードゥとリカードゥ学派が、その後、イギリス近代資本主義内部の矛盾とイギリスとより後発的なヨーロッパ大陸の資本主義との矛盾の中で、経済思想的にどのような形で批判を生じたかを、イギリスにおけるリカードゥ学派の分解過程、初期の社会主義経済思想、大陸とりわけ、ドイツの国民経済学や歴史学派を通じて、学説史的にも、方法論的にも解明し、更に「経済学批判」としてのマルクス『資本論』体系の性格をも明らかにしたい。それらを通じて、今日の経済学のあり方をも考えられれば有意義だと思われる。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 古典学派とその展開 アダム・スミスとデーヴィット・リカードゥ（4～5回）
2. リカードゥ学派とその分解過程（1回）
3. リカードゥ直後のリカードゥ批判 T. R. マルサスと R. ジョーンズ（1回）
4. 大陸経済学の古典派とりわけリカードゥ批判 シモンド・ド・シスモンディ（1回）
5. 古典学派の最強の代表者としての J. S. ミル（1回）
6. リカードゥ派社会主義と空想的社会主義（1回）
7. 経済学の国民的傾向 F. リストとドイツ歴史学派、その他の大陸の経済学（1回）
8. マルクスの「経済学批判」と『資本論』体系（2回）
9. 経済思想と今日の諸問題（1回）

但し、各項目にわりあてられる回数や内容については、多少の変動があることを承知しておいて頂きたい。なお、「経済学史 b」は a (春) の継続であり、セットである。又、履修可能な人には私の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b (セット)」を合わせて履修することを勧めたい。

履修者へのコメント：

受講者は、以下の諸点を心掛けてください。講義への出席、講義内容を自らノートに執ること、古典文献、参考文献を各人が独自に学習すること。社会認識上の知性を養い、主体的に自らの問題意識を形成すること。なお、同科目 a とセット科目であることを注意してください。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済学史 a [05学則] (春学期)	セット履修
経済学史 b [05学則] (秋学期)	
経済学史 [99学則] (通年)	教授 丸山 徹
	教授 中山 幹夫 (秋)

経済学史 a [05] / 経済学史 (春)[99]

授業科目の内容：

現代の経済理論に関する理解を確認しながら、経済学の主要な史的展開過程を眺望する。

参考書：

・ J. Niehans, *A History of Economic Theory*, Johns Hopkins Univ. Press, 1990.

・ 丸山徹『新講経済原論』第二版（岩波書店，平成18年。）

授業の計画：

- ・ 1870年前後のヨーロッパ
- ・ ワルラスの一般均衡理論
- ・ クールノーとフランスの数学
- ・ イタリアの主観的価値学説 スコラ思想からガリアーニへ
- ・ 効用理論の展開
- ・ パレート
- ・ 英国古典学派の理論構造 価値・分配・セイの法則と貨幣・貿易
- ・ 限界生産力説の展開
- ・ ジェヴォンズ・マーシャルの経済学
- ・ メンガーの経済哲学と独・奥の経済学
- ・ 1914年前後のヨーロッパ
- ・ 戦間期ウィーンの数学・哲学・経済学
- ・ ゲーム理論の誕生と成長 ノイマンからナッシュまで
- ・ 経済変動の解明
- ・ ケインズとその時代

経済学史 b [05] / 経済学史 (秋)[99]

授業の計画：

経済学史 a [05] / 経済学史 (春)[99] の続論。

社会思想史a [05学則](秋学期)	セット履修
社会思想史b [05学則](秋学期)	
社会思想史 [99学則](秋集)	教授 高草木 光 一

授業科目の内容：

本年度は、近代フランスを中心に講義する。講義内容は以下のとおりである。

- (1) 「近代」を歴史的にどう捉えるか
- (2) フランス啓蒙思想の課題と特色
- (3) フランス革命の射程
- (4) 反フランス革命の思想
- (5) 19世紀フランス社会思想の課題
- (6) 科学主義と産業主義
- (7) 理性主義批判の思想
- (8) 市民の思想と労働者の思想
- (9) 能力主義の超克
- (10) 集権と分権
- (11) 国家とアナキズム
- (12) 1848年革命とパリ・コムューン

参考書：

的場昭弘・高草木光一編『一八四八年革命の射程』御茶の水書房
成績評価方法：

秋学期末試験（定期試験期間内の試験）およびレポートによる評価

日本経済史a [05学則](春学期)	セット履修
日本経済史b [05学則](春学期)	
日本経済史 [99学則](春集)	教授 杉山 伸也

授業科目の内容：

この授業は、「いつでも、どこでも」を基本とする 100% e-learning による授業である。したがって、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web 上で配信される講義を、曜日あるいは時間帯を問わずに、2008年7月20日（日）午後10時までの約3カ月半のあいだに自分のスケジュールにあわせて履修することになる。履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のいずれかを選択し、それにもとづいて成績評価を行う（ただし、面接を課すこともある）。

講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観するが、特に日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他（編）『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会

授業の計画：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、ホームページあるいは教育支援システム内で公開する。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」期へ
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920年代の日本経済

- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と1930年代の日本経済
- (20) 1930年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

履修者へのコメント：

【重要】この授業の基本的な考え方、Web 講義へのアクセス方法などについては、4月8日（火）1限に説明会を開催するので、履修希望者は説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。履修希望者数が多い場合には、受講者数を制限することもある。なお、2007年度に別途登録申請をしたにもかかわらず、履修しなかった学生の受講は基本的に認めない。併設科目になっている法学部政治学科および経済学研究科以外の他学部の受講希望者は、説明会後各自もうしでること。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/>の「日本経済史」を参照。

成績評価方法：

履修者は、レポート3回か、あるいはレポート2回+期末試験のいずれかを選択し、それにもとづいて総合的に評価する（ただし、面接を課すこともある）。

質問・相談：

「教育支援システム」あるいは e-mail を利用して受け付ける。

欧米経済史a [05学則](秋学期)	セット履修
欧米経済史b [05学則](秋学期)	
欧米経済史 [99学則](秋集)	教授 飯田 恭

授業科目の内容：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的発展の世界史における特異性と、その地域的多様性の根源を、農村史の中に探求することを主たる目標としたい。具体的な講義内容はおよそ以下の通りである（若干の変更がありうる）。

・序論：研究史と本講義の基礎視角

1. 「発展段階」の理論
2. 農業発展の「二つの道」（アメリカ型・プロシア型）ないし「ドイツの特殊な道」
3. 「ヨーロッパの特殊な道」

・古代の概観

1. 農業の発達と母系制・父系制
2. 古代ローマと古ゲルマン

・中世 「ヨーロッパの特殊な道」の起源

1. 中世初期の「農業革命」と「ヨーロッパ」の生成
2. 封建社会の構造：在地領主制・フーフエ制・三圃制・「西洋家族」
3. 中世盛期の人口・経済発展と「ヨーロッパ」の拡大
4. 中世後期の農村荒廃

・近世 「ヨーロッパ」の多様化

1. 領土支配：近世ヨーロッパ農業の二元性（エルベの東西）
2. 家族・相続慣行：ヨーロッパの地域的個性の根源
3. 人口動向：ヨーロッパ的結婚パターンと受胎調節の始まり（フランスなど）
4. 「封建制」対「資本主義」？ プロイセン・ドイツの位置づけ

・近代

1. 「農民解放」の概念と諸類型：農村における自由と個人主義の射程
2. 「農民解放」と産業革命

・ヨーロッパと日本の農村発展 異文化間比較

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

リストを配布する。

授業の計画：

目安として、a にあたる最初の13回で、授業科目の内容の～を、b にあたる後半の13回で、授業科目の内容の～を扱う。

成績評価方法：

試験の結果による評価

定期試験期間内試験の結果による。

アジア経済史a [05学則] (春学期) セット履修
アジア経済史b [05学則] (秋学期)
アジア経済史 [99学則] (通年) 教授 古田 和子

アジア経済史a [05] / アジア経済史 (春) [99]

授業科目の内容:

本講義では、16世紀から20世紀前半のアジアを対象にして、そこで暮らした人々の社会経済の歴史を検討する。

講義の前半は「比較」という視点を念頭において、国民国家とは異なる原理を備えていた中華世界の特徴を考察し、18世紀に急増した巨大な人口を支えてきた中華帝国経済とは、一体どのようなタイプの経済であったのかを考える。

後半は「関係」という視点に立って、中国・日本・東南アジア・インドなどアジア諸地域間の国際経済史を検討する。アジア銀経済圏はいつ形成されたのか、国際労働力移動（華僑・印僑）の点で長い歴史を持つアジアにはどのような域内経済関係が形成されていたのか、シンガポール、香港、上海などの諸都市はアジア経済史のなかでどのような役割を果たしていたのかなど、アジア経済史を考える上で重要なテーマを選んで考察していく。

テキスト:

テキストは用いません。

参考書:

- ・ロイド・イーストマン『中国の社会』平凡社、1996年
- ・古田和子「中国における市場・仲介・情報」三浦徹・岸本美緒・関本照夫(編)『比較史のアジア 所有・契約・市場・公正』東京大学出版会、2004年
- ・上田信「山林および宗教と郷約」『地域の世界史 10 人と人の地域史』山川出版社、1997年
- ・宮嶋博史「東アジア小農社会の形成」『アジアから考える6 長期社会変動』東京大学出版会、1994年 など

授業の計画:

1. なぜ、アジア経済史なのか
2. アジア観の変遷(1)
3. アジア観の変遷(2)
4. 世界帝国 vs. 国民国家
5. 中華帝国とは
6. 人口の長期変動
7. 移住・開発・環境
8. 食糧と農業生産
9. 小農経済論
10. 貨幣制度
11. 手工業の展開
12. 地域と国家
13. 市場・仲介・情報

履修者へのコメント:

初回の授業で具体的な計画を示します。

成績評価方法:

試験を行います。

アジア経済史b [05] / アジア経済史 (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

テキストは用いません。

参考書:

- ・岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社、1998年
- ・浜下武志『近代中国の国際的契機』東京大学出版会、1990年
- ・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会、2000年
- ・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年

授業の計画:

1. 東アジア銀経済と国際交易ブーム
2. アジア三角貿易
3. 東アジアの開港
4. 中華世界周辺部の変容
5. 上海ネットワーク

6. 境域の経済秩序 中国・朝鮮・日本
7. 境域の経済秩序と通貨圏の選択
8. アジア国際分業体制の形成
9. 南・東南アジアにおける植民地経済
10. 東南アジア経済をどう見るか
11. 労働力移動と送金のネットワーク
12. 両大戦間期のアジア経済
13. まとめ

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

工業経済論a [05学則] (春学期)

工業経済論b [05学則] (秋学期)

工業経済論 [99学則] (通年) 教授 植田 浩史

工業経済論a [05] / 工業経済論 (春) [99]

授業科目の内容:

日本の工業を中心に、工業を構造的に把握するための視点の検討と実際の工業の現状について検討する。春学期は、いくつかの産業部門を取り上げ、グローバル競争下における実態と課題について紹介する。

参考書:

適宜指示する。

授業の計画:

- 序章 工業経済論の課題
- 第1部 工業経済把握のために 工業とは何か
- 第1章 工業の発展
- 第2章 グローバル経済と工業
- 第3章 産業分類
- 第2部 日本の工業の現状
- 第5章 鉄鋼業
- 第6章 化学工業
- 第7章 自動車産業
- 第8章 電機・エレクトロニクス産業
- 第9章 その他機械産業
- 第10章 繊維産業
- 第11章 その他工業

終章 総括

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

工業経済論b [05] / 工業経済論 (秋) [99]

授業科目の内容:

秋学期は、中小企業と関係が深い工業部門や工業における中小企業の役割などについて検討していく。

参考書:

春学期参照

授業の計画:

- 序章 工業における分業と中小企業の役割
- 第1部 サプライヤ・システム
- 第1章 サプライヤ・システムとは
- 第2章 サプライヤ・システムの形成と確立
- 第3章 経済環境の変化とサプライヤ・システム
- 第4章 サプライヤ・システムの国際比較
- 第2部 産業集積と中小企業
- 第5章 産業集積とは
- 第6章 産業集積の展開
- 第7章 産業集積政策
- 第8章 産業集積の課題
- 第3部 ものづくり中小企業の課題
- 第9章 ものづくり中小企業の現状
- 第10章 ものづくり中小企業の発展の方向性と課題
- 第11章 創造的中小企業への道

終章 総括

成績評価方法：
春学期参照

農業経済論a [05学則] (春学期)	セット履修
農業経済論b [05学則] (秋学期)	
農業経済論 [99学則] (通年)	教授 寺 出 道 雄

農業経済論a [05] / 農業経済論 (春) [99]

授業科目の内容：

この講義では、現代の農業問題を理解するための基礎について述べる。

参考書：

最初の授業でおおまかに参考文献を紹介し、個別の問題については、その話題にふれるごとにやや詳しく紹介する。

授業の計画：

1. 農業問題理解のための基礎
2. 農業生産と自然
3. 西欧の伝統的農業と近代化
4. 日本の伝統的農業
5. 戦前の日本農業
6. 生物の個体数と人口
7. 生態系の利用

各項ほぼ2回の講義で、別掲の を秋期にあてるが、若干の異同はありうる。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・授業内試験の結果

学年末試験とともに、授業中の小テスト・出欠等にもとづいて行う。小テスト合格は、単位取得の必要条件である。詳しくは第一回目の授業で説明する。

質問・相談：

講義後に質問を受ける。時間を要する質問については、その際時間を指定する。

農業経済論b [05] / 農業経済論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

8. 現代の先進国農業
9. 現代の農業技術
10. 現代の食料問題
11. 食料問題をめぐる予測
12. 農家行動のミクロ的基礎
13. 現代の日本農業

各項ほぼ2回の講義で、 を秋期にあてるが、若干の異同はありうる。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

産業組織論a [05] / 産業組織論 (春) [99]

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) は、1930年代の経済不安定期に、問題の根源を見出し備えるために登場した幾つかの研究分野の一つであるが、今は多層的構造になっている。そもそもの市場観は、時代を反映し、大企業の市場支配力・市場における寡占性・交渉力における力の非対称性などから経済問題が発生する可能性を

基本的ヴィジョンとしていた。これを産業組織論の基層とすれば、第2層は、柔軟かつ頑健な価格メカニズムをつよく信ずる立場から、問題は寡占性などにはなく、非市場的な要素特に政府規制にあるとするヴィジョンのものである。第3層は、市場観に特徴があるわけではなく、分析用具としてゲーム論を寡占経済分析に使った研究群である。従来の理論分析とは段違いの明度と深度をともなった多彩な研究の集団である。第1・第2層を伝統的産業組織論とよび、後者を新産業組織論 (New IO) とよぶ。この講義の編成は、基本的に、時間的な流れを軸にし、春学期 (産業組織論 a) では、伝統的産業組織論のテーマと議論を紹介する。秋学期 (産業組織論 b) では、春学期のテーマを再度とりあげながら、New IO では、伝統的な研究がどのように否定・修正・強化・拡張されたかを紹介する。IOのテーマは多いので、独禁政策を念頭に、これに関連の濃いものをテーマに選ぶ。

テキスト：

指定しない。それぞれのテーマにかかわる資料を、クラスで配布。

参考書：

- ・小田切『新しい産業組織論』有斐閣
 - ・ロジャー・クラーク『現代産業組織論』多賀出版
 - ・ウイリアムソン『市場と組織』日本評論社
 - ・ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
 - ・柳川・川浜『競争の戦略と政策』有斐閣
 - ・Stephen Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・Prajit k. Dutta, *Sytrategies and Games*, MIT Press
 - ・F.M. Scherer, *Industrial Market Structure and Economic Performance*, Mifflin
 - ・Wolfstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge
 - ・Gibbons, *Game Theory for applied economics*, Princeton (福岡・須田訳)
 - ・Axelrod, *The Complexity of Cooperation*, Princeton
 - ・Carrol and Hannan, *Organization in Industry*, Oxford
 - ・J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT
- その他の参考文献は、テーマ毎にクラスで紹介する。

授業の計画：

1. 産業組織論の系譜
2. ベインのトライコトミー・アプローチの評価
3. 市場構造の諸指標と市場観
4. 費用構造 (規模・範囲・学習曲線・劣加法性)
5. 製品差別性の影響
6. 参入障壁論
7. 垂直合併の決定要因と企業本質論

履修者へのコメント：

1) 各人はそれぞれの市場観を、無意識的に持っていると思われる。それをより顕在化し、自分の立場を固めることができる。担当者の市場観に同調する必要は全くない。

2) 数式が登場するが、解説はできるだけ絵解きで行うので、演算が不得意でも履修不可能ではない。

成績評価方法：

・秋学期末試験 (春学期末は、授業科目の内容で述べた講義編成の性質から行いません。)

・クラス中で行うクイズ (ミニ試験)

質問・相談：

メールによる質問は受け付けていませんが、授業の後などの質問はもちろん自由です。

産業組織論b [05] / 産業組織論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

(番号は春学期からの一連番号)

8. 製品差別性再論
9. New IO と参入阻止戦略
10. コンテストابل・マーケット論
11. 水平的合併再論

12. カルテルの安定性
13. 参入・合併・カルテル等の実証分析
14. CR の意味 (Weiss vs Demsetz)
15. コーポレート・ガバナンスの仕組み
16. 付録 (独禁法と IO・オークション)

履修者へのコメント：

講義の意味であるが、多様な視点を紹介するので、一つの確固たる真理を求める向きには、モザイク的にすぎるかもしれないが、少なくとも各人の市場観の形成とか再吟味には有用かと思われる。独禁政策に関連する研究を経済学的にするものには、有用である。数式が少々登場するが、重要な部分ではできるだけ絵解きで補うので、演算が不得意でも履修不可能ではないし、評価上も不利にはならない。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

労働経済論a [05学則] (春学期)	セット履修
労働経済論b [05学則] (秋学期)	
労働経済論 [99学則] (通年)	教授 赤林英夫 (春)
	教授 太田聡一 (秋)

労働経済論a [05] / 労働経済論 (春) [99]

授業科目の内容：

労働経済論では、雇用、労働時間、賃金格差、昇進、などの、職業人生にとって重要な要素が市場でどのように決まるのか、これらに関わる政策にはどのような意義があるのか、経済理論と統計分析を利用して理解する。さらに、近年の労働経済学は、家庭や教育などを含め、およそ個人の一生に関わるすべてを包含する理論と実証分析を展開しつつある。その意味で、労働経済論を学ぶことは、容易にとらえることのできない「個人」を分析対象としながら、我々自身が日々何を求めて働き、生きているのかを振り返るといふ、きわめてリアルな作業でもある。そのような視点から、本講義では、労働経済学の標準的な内容を概観し、経済理論と現実の労働市場、そして政策との関わりを考察する。

春学期では、労働者の主体的行動に重点を置きながら、賃金格差の決定要因について、その主たる要素を議論する。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画：

- ・労働経済の基礎：労働の需要と供給
- ・労働供給：静学モデル、家事労働モデル
- ・教育と訓練：人的資本、シグナリング、企業内訓練
- ・賃金格差：差別、補償賃金、賃金関数
- ・労働移動：トダロモデル

履修者へのコメント：

日吉のミクロ経済学初級，マクロ経済学初級，統計学の知識を前提とします。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価

質問・相談：

講義に関する質問は、講義の前後で受け付ける。また、Eメールの連絡も受け付ける（アドレスについては初回講義時に発表する）。

労働経済論b [05] / 労働経済論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期につづいて標準的な労働経済学の内容を講義する。ここから議論のウェイトは、企業による労働需要、企業内労働市場の諸問題、失業問題などに移していく。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ・労働需要：静学モデル，動学モデル（雇用調整速度）

- ・最低賃金，解雇規制などの応用トピック
- ・雇用契約，インセンティブ，昇進
- ・失業と企業および労働者のサーチ活動

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

社会政策論a [05学則] (春学期)	セット履修
社会政策論b [05学則] (秋学期)	
社会政策論 [99学則] (通年)	准教授 山田篤裕 (春)
	教授 駒村康平 (秋)

授業科目の内容：

人口減少・少子高齢社会のなか、労働政策と社会保障を包摂する社会政策の重要性は益々大きくなっています。

社会政策論a（春学期）では、社会政策の存在理由に関する経済理論を学んだ上、個別制度として労働政策（労働保険を含む）と低所得者対策（生活保護制度等）を取り上げ、現行制度の歴史と体系、現行制度が抱える問題点、最近の改革動向について学びます。

社会政策論b（秋学期）では、春学期に引き続き、年金・医療・介護・福祉など社会保障制度を中心に引き上げ、春学期と同様にからについて学びます。

テキスト：

- ・駒村康平（最新改訂版）『福祉の総合政策』創成社

参考書：

- ・国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東京大学出版会，2005年
- ・城戸喜子，駒村康平編『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会，2005年
- ・厚生労働省『厚生労働白書』

授業の計画：

春学期（社会政策論a）

社会政策の理論

社会政策概略史（社会保障成立までの史的展開）

労働政策（労働基準・最低賃金・労働組合）

労働保険（雇用保険と労働者災害補償保険）

貧困と不平等の概念と測定（所得保障の評価方法）

生活保護制度

秋学期（社会政策論b）

年金制度（歴史と制度，財政問題，2004年改革）

医療保障制度（歴史と制度，財政問題と政策動向，2006年改革）

介護保険制度

障害者福祉制度

児童福祉制度他関連制度

履修者へのコメント：

本講義の目的は以下の2点です。

社会保障制度を学ぶ機会はいわゆる限られています。履修者は、負担者あるいは受給者として、各社会保障制度の仕組みを理解してください。

社会保障制度の改革が急速に行われています。受講者は社会保障制度の在り方，問題，改革について有権者として自分で評価・判断できるようになってください。

成績評価方法：

出席，レポート（中間テスト），各学期末試験

質問・相談：

個別の質問・相談にかんしては毎回講義の最後に時間を設けます。

経済政策論a [05学則] (春学期)	
経済政策論b [05学則] (秋学期)	
経済政策論 [99学則] (通年)	教授 大村達弥

経済政策論a [05] / 経済政策論 (春) [99]

授業科目の内容：

経済政策を学ぶ上で必要な基礎理論として、経済システム、厚生経済学（効率・公正）、情報の経済学、マクロ経済学（目的と手段）

から必要な理論をかいついで講義する。余裕があれば公共選択に関する理論も講義する。

テキスト：
指定なし。

参考書：
講義の進行に合わせ、授業中に指示する。

授業の計画：
経済システムと経済政策
社会的選択
厚生経済学（効率・公正，厚生経済学の基本定理）
情報の経済学（情報の非対称性とインセンティブ問題）
マクロ経済学（政策目的と手段）
市場の失敗・政府の失敗と経済政策
公共財，外部経済，規模の経済

成績評価方法：
期末試験の結果による評価
質問・相談：
授業時間外はメールで受け付ける。

経済政策論b [05] / 経済政策論 (秋)[99]

授業科目の内容：
現代日本の経済政策の主要課題としての一連の構造改革政策を検証し，日本的経済システムの下で右肩上りの発展を続けてきた日本経済の前に立ち塞がった長期停滞の原因は何か，また，金融，財政，国際，企業制度等の分野での改革のねらい，手段，および問題点は何かを講義する。なお積極的な学習を促すため，具体的な政策をテーマにレポートの提出を求める。

テキスト：
春学期参照

参考書：
春学期参照

授業の計画：
構造改革政策概要
日本の経済システムの形成の歴史的背景
構造改革政策各論：金融・財政，規制緩和，産業政策

履修者へのコメント：
受講にあたっては経済政策論a [05] / 経済政策論 (春)[99] を履修していることを要件とする。

成績評価方法：
期末試験の結果による評価
レポートによる評価
なお最終評価は と の結果をほぼ1:1のウエイトで総合する。
質問・相談：
春学期参照

財政論a [05学則] (春学期)
財政論b [05学則] (秋学期)
財政論 [99学則] (通年) 教授 山田太門

財政論a [05] / 財政論 (春)[99]

授業科目の内容：
財政学の基礎的理論を解説する。財政学は経済学に劣らぬ歴史をもつが，公共経済学における公共部門の分析に相当する部分と，政治経済学的部分を有している。そこでこの講義においては，公共財の理論から出発して，政府の予算制度や社会保障制度を種々の経済理論を用いて説明する。

テキスト：
貝塚啓明『財政学』東京大学出版会

参考書：
・小塩隆士『コア・テキスト財政学』新世社
・山田太門『公共経済学』（日経文庫）日本経済新聞社

授業の計画：
1. 財政学の学説史
2. 公共財の理論
3. 公共選択論の意義
4. 予算制度と歳出
5. 税負担と歳入

6. 社会保障制度
以上の項目を2~3回の講義を行う予定。
成績評価方法：
試験の結果による評価
質問・相談：
各授業の終了時に質問を受ける。

財政論b [05] / 財政論 (秋)[99]

授業科目の内容：
財政学の最も重要な部分である税制を中心に政府の財政活動を解説する。またこれに付随して国債の問題や政府のマクロ経済政策についても説明する。これらの講義を通して政府の経済活動を市場経済の中でどう評価すべきかを検討する予定である。

テキスト：
春学期参照

参考書：
春学期参照

授業の計画：
1. 租税制度のあり方
2. 所得税とは何か
3. 法人税と消費税
4. 国債の費用負担論
5. マクロ経済政策について
6. 大きい政府か小さい政府か
以上の項目について2~3回の講義を行う予定。

成績評価方法：
春学期参照
質問・相談：
春学期参照

金融論a [05学則] (春学期)
金融論b [05学則] (秋学期)
金融論 [99学則] (通年) 教授 吉野直行 (春)
教授 塩澤修平 (秋)

金融論a [05] / 金融論 (春)[99]

授業科目の内容：
日本の資金循環，各経済主体の金融活動，資産価格の変動，債券市場・株式市場，為替レートの動きについて，制度・データなどを用いた計量的な観点から概述する。

テキスト：
特になし

参考書：
・吉野直行・高月昭年『入門・金融 第2版』有斐閣
・吉野直行・藤田康範・土居丈朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
その他の参考文献は，講義の中で説明する。

授業の計画：
主な講義内容は以下の通りである。
(1) 日本の資金循環の変遷と日本経済の動き
(2) 金融機関の種類とその役割
(3) 家計の金融行動（マクロ経済学のミクロ的基礎）
(4) 企業の金融行動（ ” ” ）
(5) 政府の国債発行による金融活動
(6) 銀行貸出と銀行行動
(7) 中小企業金融
(8) 債券市場・株式市場
(9) 為替レートの決定とアジア通貨危機
(10) 固定相場制・変動相場制・バスケット通貨制
(11) 金融政策手段
(12) 金利コントロールとインフレ目標
(13) 財政政策と金融政策
以上が主な内容である。2回ほど，外国人のゲスト・スピーカーの講義を含める予定。

履修者へのコメント：

春学期・秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・講義の中で何回か小テストを実施する予定
- ・学期末試験と小テストの結果により成績評価を行う。

質問・相談：

講義の最後に質問を受け付ける。

金融論b [05] / 金融論 (秋)[99]

授業科目の内容：

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

- ・塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

1. 金融現象の基本構造
2. 貨幣需要のマクロ的定式化
3. 貨幣需要のミクロ的基礎
4. 債券価格と利子率
5. 株式価格
6. 効率的証券市場と金融契約
7. IS-LM 分析と金融政策
8. 総需要・総供給関数
9. インフレ需要・インフレ供給関数と合理的期待
10. 為替レートの決定
11. 開放マクロ経済学と金融政策
12. 金融派生商品の一般的特質
13. 金融派生商品の価格決定

履修者へのコメント：

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎があることが望ましい。経済学部と法学部等の学生には異なる評価基準を適用する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- 授業中の問題演習の結果を加味する。

質問・相談：

毎回、講義後に質問・相談の時間をとる

現代日本経済論a [05学則] (春学期)	セット履修
現代日本経済論b [05学則] (秋学期)	
現代日本経済論 [99学則] (通年)	教授 北村 洋基

現代日本経済論a [05] / 現代日本経済論 (春)[99]

授業科目の内容：

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。最後に、日本経済の課題と展望を考察する。現代日本経済論a [05] / 現代日本経済論 (春)[99] では、1980年代末までを扱う。

テキスト：

北村洋基『岐路に立つ日本経済』大月書店

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- はじめに
- 第1章 日本をとりまく内外の環境変化 1970年代
 - 第2章 1970年代の危機と日本の対応
 - 第3章 1980年代前半の日本経済
 - 第4章 1980年代後半の日本経済

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

現代日本経済論b [05] / 現代日本経済論 (秋)[99]

授業科目の内容：

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。最後に、日本経済の課題と展望を考察する。現代日本経済論b [05] / 現代日本経済論 (秋)[99] では、1990年代以降を扱う。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 第5章 平成大不況第1局面 (1990年代初頭 - 97年春)
- 第6章 平成大不況第2局面 (1997年春 - 2000年末)
- 第7章 平成大不況第3局面 (2001年 - 04年度末)
- 第8章 日本資本主義の新段階と課題

成績評価方法：

春学期参照

日本資本主義発達史a [05学則] (春学期)	セット履修
日本資本主義発達史b [05学則] (春学期)	
日本資本主義発達史 [99学則] (春集)	教授 植田 浩史

授業科目の内容：

この講義では、日本における資本主義、経済システム、産業システムの展開について、他の先進国や中進国、後発国と比較しながら検討し、その特徴と構造について考察する。時期的には、幕末・開港期から現在までを対象とする。講義では、マクロ的な視点と同時に、個別の産業、企業、地域などを対象にしたミクロ的なデータも用いながら進める。

授業の計画：

- 序章 日本資本主義発達史の課題と方法 (1回)
- 1章 多様な資本主義発展と資本主義タイプ (2回)
 - 2章 「日本型資本主義」とは何か (3回)
 - 3章 日本資本主義の生成：19世紀末～20世紀初 (2回)
 - 4章 日本資本主義の発展 (1)：20世紀初～1945 (3回)
 - 5章 日本資本主義の発展 (2)：1945～高度成長期 (5回)
 - 6章 日本資本主義の発展 (3)：1970年代～1985 (4回)
 - 7章 日本資本主義の転機：1985～21世紀初頭 (5回)
- 終章 日本資本主義発達史の総括 (1回)

履修者へのコメント：

「日本経済史」や「現代日本経済論」も合わせて履修すると、一層理解が深まる。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

2ヶ月に一度、質問カードを配布し、質問を直接受け付けるようにする。

現代資本主義論 a [05 学則] (春学期)	
現代資本主義論 b [05 学則] (秋学期)	
現代資本主義論 [99 学則] (通年)	講師 屋嘉 宗彦

現代資本主義論 a [05] / 現代資本主義論 (春)[99]

授業科目の内容：

現代資本主義経済を把握するための方法・視覚についての諸議論を検討する。

参考書：

北原勇『現代資本主義をどうみるか』青木書店、1997年

授業の計画：

- ・19世紀の資本主義と20世紀的資本主義の異同
 1. マルクスの資本主義像
 2. 資本主義の「純粋モデル」と現実
 3. 巨大企業と独占の成立
- ・資本主義の不純化をキー概念とする現代資本主義把握

1. 宇野弘蔵
 2. 大内力
 3. 加藤栄一
 4. 伊藤誠
 5. 80年代以降の「再逆転」をどうみるか
- レギュレーション学派
1. 概説
 2. 展開
 3. 若干の問題点
- 制度学派他

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

毎回の講義終了後、もしくは yaka@hosei.ac.jp にメールのこと

現代資本主義論 b [05] / 現代資本主義論 (秋)[99]

授業科目の内容：

現代資本主義経済の諸相と諸問題について考察する。

参考書：

- ・北原勇他編『資本論体系第10巻 現代資本主義』有斐閣、2001年
- ・井村喜代子『日本経済 混沌のただ中で』勁草書房、2005年

授業の計画：

- ・現代資本主義（第二次大戦後の）の編成原理
 1. 旧植民地の独立
 2. IMF・GATT体制
 3. 「冷戦」と安全保障体制
 4. 福祉国家原理
- ・戦後資本主義の編成原理の変質過程
 1. 過剰生産
 2. 自由貿易と貿易摩擦、途上国の困難
 3. 国際的不均衡発展と国家をまきこんだ競争
 4. 現実資本と貨幣資本ギャップ
- ・IMF体制の崩壊と貨幣資本の暴走
 1. 新自由主義とグローバリズム
 2. 旧社会主義の崩壊・冷戦の終結
 3. 新たな世界市場をめぐる大競争と独占の再編成
 4. 世界経済のグローバル化のなかでのアジアの発展の意義
- ・現代資本主義と日本経済の展望

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

毎回の講義終了後、もしくは yaka@hosei.ac.jp までメールで

経済体制論a [05学則] (春学期)	セット履修
経済体制論b [05学則] (秋学期)	
経済体制論 [99学則] (通年)	准教授 駒形哲哉

経済体制論a [05] / 経済体制論 (春)[99]

授業科目の内容：

計画経済から市場経済への転換がヤマ場を迎えている中国を事例に、建国以来、国民経済の再生産構造がなぜどのように変化してきたのかについて講義を行う。国民経済の再生産構造の検討は「工業化」の検討と表裏一体の関係にあり、本講義のテーマは「中国の工業化」であるといってもよい。中国が「世界の工場」(世界の生産現場)といわれるようになってすでに数年がたち、なお、工業生産において世界を揺るがす影響力を増していることに鑑み、前年度までとは講義内容をほぼ一新して、このようなテーマを掲げることにした。具体的には、工業力形成の戦略とプロセス、工業力の主体、工業力の源泉(生産要素)という3本の柱を立て、開発経済としての共通性と中国のもつ固有性とを具体的に論じていく予定である。

なお、本講義は春(a)秋(b)セット履修科目であり、片方のみの履修は認めない。

テキスト：

必要に応じて講義資料を配布する。

参考書：

必要に応じて紹介する。

授業の計画：

- 第1回 講義の趣旨と背景説明
- 第2回 ビデオ(建国から社会主義市場経済まで)
- 第3回 中国工業化論の視角
- 第4回 中国工業化論の視角
- 第5回 工業化と政治・国際関係
- 第6回 工業化と政治・国際関係
- 第7回 工業化と政治・国際関係
- 第8回 授業内レポート
- 第9回 開発戦略
- 第10回 開発戦略
- 第11回 開発戦略
- 第12回 開発戦略
- 第13回 予備

履修者へのコメント：

講義を妨げ、他の履修者に迷惑をかける者には厳しい措置をとる。

成績評価方法：

授業内レポート()と期末筆記試験()により決定する。履修者数によっては出席等()を成績に加味する場合もある。

経済体制論b [05] / 経済体制論 (秋)[99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 第1回 国有企業の役割
- 第2回 国有企業の役割
- 第3回 外資系企業の役割
- 第4回 外資系企業の役割
- 第5回 民間企業と産業集積
- 第6回 民間企業と産業集積
- 第7回 授業内レポート
- 第8回 技術移転と中国的な技術革新
- 第9回 技術移転と中国的な技術革新
- 第10回 労働市場と中国の労働現場
- 第11回 工業化と教育・ジェンダー
- 第12回 工業化と資金(金融)
- 第13回 総括

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

世界経済論 [99学則] (通年)

[05学則] は(2) 特殊科目を参照のこと

教授 竹森俊平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

授業科目の内容 :

本授業の目的は、国際貿易論(直接投資を含む)の標準的内容を理解し、国際貿易にかかわる諸問題を自ら経済学的に考察できる基礎的能力を養成することである。歴史・制度・現状の説明は必要最小限とし、経済理論的な考え方に重点を置いて講義する。

1. 一般均衡による国際貿易均衡

自由貿易の下での経済均衡を、部分均衡モデルから始めて一般均衡モデルによって説明する。自給自足均衡との比較を通じて貿易利益の概念を理解し、交易条件の変化と貿易利益、経済成長と貿易利益との関係を考察する。またオファー曲線、貿易均衡の安定性など、貿易モデルの主要な考え方や分析用具も紹介する。一般均衡モデルで貿易均衡の分析が自らできるようにする。

2. リカード・ミルの貿易理論

生産技術の国による違いが国際分業(貿易)の原因となることに注目したリカードによる貿易理論を紹介する。比較優位の概念を一般均衡モデルで理解できるようにする。

3. ヘクシャー=オリーンの貿易理論

生産要素の賦存状態の違いが国際分業(貿易)の原因となることに注目したヘクシャー=オリーンの貿易理論(HO理論)を解説する。とくに、2財2要素モデルで4つの代表的な定理を取り上げる。具体的には、要素賦存量と財の生産量との関係(リブチンスキー定理)、財価格と要素価格との関係(ストルパー=サミュエルソン定理)、要素価格均等化定理、要素賦存と比較優位との関係(国際分業定理)を理解する。

4. 特殊要素モデル

HO理論を各財の生産部門間を移動できない生産要素がある場合の貿易モデルに修正した特殊要素モデルを取り上げる。

5. 規模の経済性・不完全競争の下での国際貿易理論

規模経済性、製品差別化の下で生じる国際貿易の理論を取り上げる。産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易均衡の性質や必要となる政策などを扱う。

6. 完全競争市場の下での貿易政策

完全競争のもとでの政府の貿易制限政策の効果を、主に一般均衡モデルで考察する。輸入関税、輸入数量制限、輸出補助金、生産・消費政策、最適関税の理論を取り上げる。

7. 不完全競争市場下での貿易政策

不完全競争の下での貿易政策として、主に戦略的貿易政策の議論を紹介する。

8. 資本移動・直接投資・産業保護政策

貿易と密接に関連する国際資本移動や多国籍企業の活動を考察する。国際要素移動・直接投資と貿易均衡、幼稚産業保護論などを取り上げる。

9. その他

授業時間に余裕があれば、近年増加しつつある地域経済統合、政治経済学の議論にも触れる。

テキスト :

特に指定しない。

参考書 :

- (a) 伊藤元重・大山大道広『国際貿易』岩波書店, 1985年
- (b) Krugman, P. and M. Obstfeld, *International Economics: Theory and Policy*, Addison Wesley

などが代表的であるが、授業で参考文献リストを配布する予定。

授業の計画 :

「授業科目の内容」の欄に記載した各テーマに2~3回程度を割り当てることにし、ほぼその順序での授業を進めることを予定している。授業進度や学生の興味により、ある程度の調整・修正をする可能性がある。

履修者へのコメント :

(a) 講義で取り上げる内容の多くはミクロ経済学を基礎としているので、日吉でのミクロ経済学の経済原論の内容を理解していることを前提とする。

(b) 講義を聴き文献を読むことはもちろん、図解や数式を用いて自分でモデルを解く練習も必要である。

成績評価方法 :

- ・試験の結果による評価(学年末試験を1月に行う)
- ・レポートによる評価(学生の取組みに応じて課す可能性がある。)

質問・相談 :

当面は授業後に教室等で受けるが、学生からそれ以上の要望があるときは対応する用意がある。

国際金融論a [05学則] (春学期)

国際金融論b [05学則] (春学期)

国際金融論 [99学則] (春集)

教授 櫻川 昌哉

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99]

授業科目の内容 :

この講義では、国際金融論を幅広く、市場取引を中心とした金融論と位置づけて講義を行う。為替レート決定理論、サブプライム問題、国債の維持可能性、地価などの資産価格の決定と世界的バブルの問題も取り扱う。

テキスト :

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

参考書 :

岩田・宮川(編)『失われた10年の真因は何か』東洋経済新報社

授業の計画 :

為替レート決定理論3回、サブプライム問題4回、国債の維持可能性3回、世界的バブルについて2回の予定

履修者へのコメント :

暗記するのではなく、論理的に考えるようにしてください。

成績評価方法 :

試験の結果による評価

質問・相談 :

授業のあと、メールでもOK

国際金融論b [05] / 国際金融論 (春) [99]

授業科目の内容 :

この講義では、国内外の金融のトピックスを取り扱う。特に、株式市場に代表される市場取引と銀行システムに代表される相対取引を対比させるかたちで講義を行う。さらに、新しい金融の仕組みとして注目されるファンドについても取り扱う。銀行システム、株式市場、ファンドの諸問題について、情報の経済学やインセンティブの経済学を駆使して説明を行う。

テキスト :

・櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

・村瀬英彰『新エコノミクス金融論』日本評論者

授業の計画 :

ファンド4回、銀行行動4回、株式市場4回の予定

履修者へのコメント :

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99] 参照

成績評価方法 :

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99] 参照

質問・相談 :

国際金融論a [05] / 国際金融論 (春) [99] 参照

経済発展論a [05学則] (春学期)

経済発展論b [05学則] (秋学期)

経済発展論 [99学則] (通年)

准教授 秋 山 裕

経済発展論a [05] / 経済発展論 (春) [99]

授業科目の内容 :

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をするべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア

ア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。

経済発展論a [05] / 経済発展論 (春)[99] ではマクロレベルの分析が中心になります。(経済発展論b [05] / 経済発展論 (秋)[99] では、産業レベルの分析が中心になります。)

また、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：

秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社、1999年

参考書：

個別テーマの参考文献は講義時に指示します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 経済発展とは
3. 経済発展の指標
4. 経済発展の観察 (その1)
5. 経済発展の観察 (その2)
6. 古典派の経済発展観
7. 経済発展段階説、貧困の悪循環
8. ハロッド=ドーマー・モデル
9. 新古典派成長モデルによる成長要因分析
10. 新古典派成長モデルの特徴
11. 最適成長理論
12. 内生的成長理論
13. 総括

履修者へのコメント：

講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっていきます。したがって、「講義は欠席しない」という意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2007年度以前のクラスの概要などについては、担当者 Web ページ <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/> にて見ることができます。

また、履修にあたっては、経済発展論 b [05] / 経済発展論 (秋)[99] と併せて履修することを強く薦めます。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・その他 (講義内演習)

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の講義にて指示します。

経済発展論b [05] / 経済発展論 (秋)[99]

授業科目の内容：

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をするべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。

経済発展論b [05] / 経済発展論 (秋)[99] では産業レベルの分析が中心となります。(経済発展論a [05] / 経済発展論 (春)[99] では、マクロレベルの分析が中心になります。)

また、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 2部門経済発展理論 (その1)

2. 2部門経済発展理論 (その2)
3. 2部門経済発展理論 (その3)
4. 3部門経済発展理論
5. 産業の技術特性
6. 産業連関表
7. 産業連関分析 (その1)
8. 産業連関分析 (その2)
9. 産業構造変化の決定メカニズム
10. 産業構造変化の要因分解分析
11. 経済発展と国際金融
12. 経済発展と経済安定化
13. 総括

履修者へのコメント：

講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっていきます。したがって、講義は欠席しないという意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2007年度以前のクラスの概要などについては、担当者 Web ページ <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/> にて見ることができます。

また、講義は、経済発展論 a [05] / 経済発展論 (春)[99] の履修を前提として行います。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済地理a [05学則] (春学期)	セット履修
経済地理b [05学則] (秋学期)	
経済地理 [99学則] (通年)	教授 杉浦章介

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに関心のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

杉浦章介『都市経済論』岩波書店、2003年

参考書：

杉浦章介他『人文地理学』慶應義塾大学出版会、2005年

授業の計画：

春学期：集積の経済地理

1. 分業と規模の経済性の空間的展開
2. 集積の利益と外部性
3. 資本財生産と技術革新
4. 産業集積の国際比較

秋学期：トランスナショナル化の経済地理

5. 国際分業と生産・物流ネットワーク
6. TNC と経済機能の集中と分散
7. グローバル都市システムの形成
8. New Transnational Economic Regime

履修者へのコメント：

時事経済についても関心を深める為、新聞等の経済記事はよく読むように。

成績評価方法：

試験の結果による評価 (春・秋それぞれの期末試験の評価を合計し、最終評価とする。)

質問・相談：

適宜 (質問は教室で時間内に行うことを原則とする。授業中の質問を歓迎する。)

経済地理a [05学則](春学期)	セット履修
経済地理b [05学則](秋学期)	
経済地理 [99学則](通年)	教授 武山 政直

経済地理a [05] / 経済地理 (春)[99]

授業科目の内容：

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。

特に立地行動や立地パターンに関する諸概念や理論的研究手法の導入をテーマに、空間的モデルの構築やシミュレーションの技法について解説します。

この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、都市計画や空間デザインに興味を持つ学生を対象としています。

授業の計画：

「立地の空間的ロジック」

- 1) オリエンテーションと問題提起
- 2) ものの見方と学問のアプローチ
- 3) 経済地理をどう読むか
- 4) 立地ゲームと科学的推論
- 5) 産業立地の経済地理モデル
- 6) 情報・文化産業と都市の再生
- 7) 隣接・集積の外部性と都市計画
- 8) 立地を生み出すモデルとゲーム
- 9) 立地パターンの自己組織性
- 10) マルチエージェント・シミュレーション
- 11) 協調行動とソーシャルキャピタル
- 12) 複雑系としての都市と社会
- 13) 春学期まとめ

成績評価方法：

学期中のレポート、学年末の試験によって成績評価を行います。

経済地理b [05] / 経済地理 (秋)[99]

授業科目の内容：

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。

特に、情報通信技術 (ICT) の発展と普及にともなって実現するユビキタス都市社会の経済活動の特性について、最新の事例を通じて多面的な分析を試みます。

この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、情報通信技術と経済社会の関わりに興味関心を持つ学生を対象としています。

授業の計画：

「ユビキタス社会の経済地理」

- 1) 財のモビリティと技術革新
- 2) デジタル製品と私的経験価値
- 3) ケータイ世代の時間消費と空間消費
- 4) バーチャル世界の楽しい経済
- 5) 楽しさの経済政策
- 6) 情報ネットワーク経済とピアプロダクション
- 7) 融合するプレゼンスとテレプレゼンス
- 8) メディアとコンテンツの立地論
- 9) 融合する架空世界と都市空間
- 10) 融合する架空世界と都市空間
- 11) ユビキタス都市のデザイン
- 12) ユビキタス環境と経済活動の身体性
- 13) 総括

成績評価方法：

春学期参照

環境経済論a [05学則](春学期)	セット履修
環境経済論b [05学則](春学期)	
環境経済論 [99学則](春集)	教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容：

経済活動の枠組みが、さまざまな側面で、環境とのかかわりを考慮したものに変わりつつある。たとえば、無制限に放出されていた二酸化炭素も、京都議定書の発効とともに制限されることになった。経済活動はますます環境保全と両立するものであることを求められている。環境経済学はそのような変化する経済システムの設計に大きな役割を果たしている。本講義では、経済活動と環境の相互依存関係の理解をした上で、市場メカニズムの中での環境政策の役割を概説する。あわせて、将来世代の状況を重視する環境経済学の特徴的な視点である、持続可能な発展についても述べる。

テキスト：

ターナー、ピアス、ペイトマン『環境経済学入門』東洋経済新報社
参考書：

授業中にその都度紹介する。

授業の計画：

1. 環境経済学とは何か：従来の経済学との違いと目標
2. 外部性・市場の失敗：市場メカニズムと環境悪化の関連
3. 外部性の是正とピグー税：外部費用の内外部化
4. 直接規制：汚染上限の設定の効果
5. 許可証取引制度：汚染総量の設定と汚染許可証の市場取引による効果
6. 所有権とコースの定理：自然資源の所有権の多様性と自発的交渉による最適状態の実現の可能性
7. 再生可能資源：持続的生産量とオープンアクセス
8. 非再生可能資源：その経済的特徴と時間を通じた効率的な利用ルール
9. 将来世代と持続可能な発展：ハートウィック・ルール、割引率、持続可能性指標

成績評価方法：

試験の結果による評価：学期末試験を行う (120 点満点)。また、毎回小テストを行う (各 10 点満点)。小テストを高得点順に 8 回分を足し合わせ (すなわち 80 点満点)、さらに学期末試験と足し合わせ評価する。

質問・相談：

随時受け付ける (アポイントメントを取る)。

都市経済論a [05学則](春学期)	セット履修
都市経済論b [05学則](秋学期)	講師 直井 道生 (春)
都市経済論 [99学則](通年)	教授 瀬古 美喜 (秋)

都市経済論a [05] / 都市経済論 (春)[99]

授業科目の内容：

本講義の目的は、主に価格理論に基づいて、市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点から、日本の都市問題を時には外国の都市問題と比較しながら、経済学的に考察することにある。

テキスト：

DiPasquale and Wheaton (瀬古美喜・黒田達朗訳) 『都市と不動産の経済学』創文社、2001 年

参考書：

- ・宮尾尊弘『現代都市経済学・第 2 版』日本評論社、1995 年
- ・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社、1996 年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社
- ・山田・西村・綿貫・田淵編『都市と土地の経済学』日本評論社、1995 年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社
- ・(財) 日本住宅総合センター『季刊住宅土地経済』各版
- ・藤田昌久他 (小出訳) 『空間経済学』東洋経済新報社
- ・佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣
- ・山田浩之編『地域経済学入門』有斐閣

授業の計画：

春学期の講義内容は、以下のとおりである。

1. 都市経済学と都市問題

- (a) 都市経済学とは何を研究する学問か
 - (b) 都市化と都市問題
 - (c) 都市化の原因
 - (d) 集積の経済（地域特化の経済と都市化の経済）
 - (e) 新経済地理学（ポール・クルーグマンの中心・周辺モデル）
 - (f) 伝統的な経済学との比較・対比
2. 都市集中のメカニズム
 - (a) 交通費と集中
 - (b) 競争と集中
 - (c) 立地と価格競争
 - (d) 都市集中のパターン
 3. 大都市圏の成長と衰退
 - (a) 都市の発展段階
 - (b) 都市の成長分析
 - (c) 地域経済成長の3部門モデル
 - (d) 地域乗数モデル
 - (e) 都市の衰退分析

履修者へのコメント：

授業にきちんと出席して、特に復習を行うこと。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：学期末試験（春学期定期試験期間内の試験）
- ・レポートによる評価：授業内小テスト
- ・平常点：出席カードの配布と授業内レポート
- ・その他：特になし

都市経済論b [05] / 都市経済論（秋）[99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

1. 都市の住宅問題
 - (a) 日本の住宅問題
 - (b) 付け値地代曲線
 - (c) 住宅立地
 - (d) 住宅需要分析（ヘドニック）
 - (e) 住宅供給分析
 - (f) 住宅市場分析
 - (g) 住宅政策
2. 都市の土地問題
 - (a) 日本の土地問題
 - (b) 土地サービスと地代
 - (c) 地代と地価の関係
 - (d) 土地税制
3. 都市の交通問題
 - (a) 交通手段の選択と需要
 - (b) 交通混雑の分析
 - (c) 交通投資の分析
4. 都市の財政問題
 - (a) 日本の都市財政の推移
 - (b) 都市財政と地方公財

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- 上記による総合評価

人口論a [05学則] (春学期)	セット履修
人口論b [05学則] (春学期)	
人口論 [99学則] (春集)	教授 津谷典子

授業科目の内容：

近年さまざまな人口問題が関心を集めている。60億を超えなお増加する世界人口、それをもたらす発展途上地域の急速な人口増加と資

源・環境への影響、一方では先進諸国の超低出生率とその背景にある女性の社会的地位の変化と晩婚化や離婚の増大などが広く議論され、政策的認識も高まっている。人口はその国の社会経済発展・開発と強く結びついており、労働力や消費などへの影響を通して経済成長を左右する。

本講義は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎についても実際の統計データを用い手ほどきする。このため確率や統計学の基礎的知識があることが望ましい。講義内容の詳細は第一回授業時に配布するシラバスに説明する。なお参考書は授業に先立ち通知し、資料も随時配布する。

テキスト：

河野稔『世界の人口〔第2版〕』東京大学出版会、2000年

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況およびクラス内小テスト）

産業社会学a [05学則] (春学期)	セット履修
産業社会学b [05学則] (春学期)	
産業社会学 [99学則] (春集)	教授 金子勝

産業社会学a [05] / 産業社会学（春）[99]

授業科目の内容：

グローバリゼーションの波が世界を覆うとともに、分裂と不安定の時代が始まった。明らかに、経済社会は大きな歴史的転換期を迎えている。この講義は、グローバリゼーション、冷戦型イデオロギーの終焉、リベラリズムと経済理論、市場と人間社会、日本経済の長期停滞、制度改革といった問題群を扱う。経済学だけでなく政治理論や社会学をも踏まえて、自由でラディカルな発想から新しい社会経済学を構想する。

テキスト：

金子勝『戦後の終わり』筑摩書房

参考書：

- ・金子勝『セーフティーネットの政治経済学』ちくま新書
- ・共著『逆システム学 市場と生命を解き明かす』岩波新書

授業の計画：

講義は、つぎの項目にしたがって行う。

1. 市場理論と人間像 所有と自由・合理性の限界
2. セーフティーネットと市場 市場像の転換
3. 長期停滞の時代
4. 日本の格差社会
5. どのような制度改革が必要なのか
6. 逆システム学の方法

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

産業社会学b [05] / 産業社会学（春）[99]

授業科目の内容：

金融システム危機と不良債権処理過程において、日本経済はどのような構造に変化したのか。その過程で生み出された経済格差の諸相を明らかにするとともに、社会制度の歪みや問題点を考察する。その中で、市場原理と政府介入、効率性と公平性、功利主義と契約理論など社会哲学の基本に立ち返って、経済学の原理を省察したい。

テキスト：

産業社会学a [05] / 産業社会学（春）[99] 参照

参考書：

金子勝・児玉龍彦著『逆システム学』岩波新書

授業の計画：

1. 戦後体制の終焉 1930年代との比較
2. バブル崩壊後の日本経済
3. 格差問題の諸相
4. 社会哲学から将来社会を考える

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業の前後に受け付ける。

社会史a [05学則] (秋学期)	セット履修
社会史b [05学則] (秋学期)	
社会史 [99学則] (秋集)	教授 矢野 久

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99]

授業科目の内容：

社会史は、「下からの歴史」と「総合の学」を構築することを目的としている。権力の側からではなく民衆からみた歴史を描くこと、分断化された研究領域の総合化をめざすこと、この二点を目的としている。ヨーロッパにおける現在の社会史研究の状況を述べ、社会史の具体的・歴史的展開を講じる。

テキスト：

・矢野久『ナチス・ドイツの外国人 強制労働の社会史』現代書館、2004年

・Faust・矢野久編著『ドイツ社会史』有斐閣、2001年

授業の計画：

1. 社会史の方法
2. 社会史の具体的展開
 - ・社会の中の 他者
 - ・消費と日常
 - ・生活環境

履修者へのコメント：

受講し、自らの脳細胞を使って主体的に思考することを望む。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

社会史b [05] / 社会史 (秋) [99]

授業科目の内容：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

テキスト：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

授業の計画：

2. 社会史の具体的展開 (続き)
 - ・家族
 - ・犯罪
 - ・国家の犯罪
3. 「戦争と虐殺」の社会史

履修者へのコメント：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

成績評価方法：

社会史a [05] / 社会史 (秋) [99] 参照

(2) 特殊科目

ゲームの理論 a [05学則] (春学期)	
ゲームの理論 b [05学則] (秋学期)	
ゲームの理論 [99学則] (通年)	教授 グレーヴァ香子 (春)
	教授 中山幹夫 (秋)

ゲームの理論 a [05] / ゲームの理論 (春) [99]

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明するが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、CとDの境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特になし。

参考書：

- ・小澤・中村・グレーヴァ (編)『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2004年、第5章
- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年
- ・ギボンズ (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年

授業の計画：

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 展開形ゲームとその解
4. ルーピンシュタイン型交渉ゲーム
5. 繰り返しゲーム
6. ベイジアンゲーム
7. シグナリングゲーム

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

授業の前後、あるいは学期の最初に指定するオフィスアワーに直接研究室に来るか、電子メールによる。

電子メールの場合、件名に受講者であることを明記すること。添付書類は不可。

ゲームの理論 b [05] / ゲームの理論 (秋) [99]

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論について、特に協力ゲームの応用を中心とした講義を行う。用いる数学は難しくはないが、ロジカルに考えることが必要である。経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、CとDの境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特になし。適宜、資料配布。パワーポイントなど使用。

参考書：

- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年
- ・小澤・中村・グレーヴァ (編)『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2004年、第5章
- ・ギボンズ (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

授業の計画：

1. 協力ゲームとは、提携値と配分。例：公共財の供給、湖の汚染、滑走路の費用、談合
2. 協力ゲームの解：仁、コア、安定集合、シャープレイ値
3. 応用コア分析：ゴミ戦争、補償、排出量取引
4. コアが存在と平衡ゲーム、市場ゲーム
5. 応用コア分析：公共財、共有地の悲劇、TUアルファコア
6. 応用コア分析：社会選択ゲーム、多数決ゲーム、賄賂と拒否権者
7. 破産問題と仁、情報の拡散防止取引

成績評価方法：

定期試験

解析学 a [05学則] (春学期)	
解析学 b [05学則] (秋学期)	
解析学 [99学則] (通年)	教授 宮崎直哉

解析学 a [05] / 解析学 (春) [99]

授業科目の内容：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部生の前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、かなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について、学んだ内容と表現方法を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目およびその統論「解析学 b [05] / 解析学 (秋)[99]」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性を記述するための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定乗数法の周辺、(4) 積分論の深い展開となる。前期のこの科目では、以上の(1)および(2)に重点を置く事にする。

この講義では、論理性を重視する。理解するためには、かなりの自習を必要とすることを注意します。

参考書：

- ・戸瀬信之『経済数学』新世社
- ・小平邦彦『解析入門』岩波書店

授業の計画：

- (1) 実数列、ベクトルの列の極限
- (2) 集合、距離空間、位相空間
- (3) 1変数の連続函数の諸性質
- (4) リーマン積分

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・レポートによる評価
 - ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- この3点を総合的に用いて判定する。

質問・相談：

塾内のメールアドレス以外からの質問メールは読まないことにする。

解析学 b [05] / 解析学 (秋)[99]

授業科目の内容：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部生の前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、かなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは函数の連続性について、学んだ内容と表現方法を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目およびその先行科目「解析学 a [05] / 解析学 (春)[99]」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性を記述するための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定乗数法の周辺、(4) 積分論の深い展開となる。後期のこの科目では、以上の(3)および(4)に重点を置く事にする。

この講義では、論理性を重視する。理解するためには、かなりの自習を必要とすることを注意します。

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

解析学 a [05 学則](春学期)	セット履修
解析学 b [05 学則](秋学期)	教授 丸山 徹(春)
解析学 [99 学則](通年)	准教授 新井 拓 児(秋)

解析学 a [05] / 解析学 (春)[99]

授業科目の内容：

位相空間の一般論および函数解析の基礎について述べる。

1. 位相
2. 点列の収束と連続写像
3. 完備距離空間
4. コンパクト
5. 連結性
6. Banach 空間と Hilbert 空間
7. 有界線形作用素

テキスト：

丸山 徹『数理経済学の方法』(創文社)平成7年。

解析学 b [05] / 解析学 (秋)[99]

授業科目の内容：

測度論に関する講義を行う。面積や長さといった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して2コマ程度の時間を割り当てる。

長さ・面積・体積

測度の構成

リーマン積分からルベーグ積分へ

ルベーグ積分の定義と諸性質

収束定理と積分記号の交換

もし時間があれば、ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

履修者へのコメント：

集合論、集合位相、微分積分学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法：

試験またはレポートによる。

契約理論 a [05 学則](春学期)

契約理論 b [05 学則](秋学期)

契約理論 [99 学則](通年)

准教授 玉田 康成

契約理論 a [05] / 契約理論(春)[99]

授業科目の内容：

現実の経済では情報の非対称性由来するインセンティブの問題が数多く見られる。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードやアドバースセレクションなどの問題が発生し、個別企業に代表される経済の効率性を損なうことになる。また、市場経済そのものの信頼を損なう要因にもなり得る。本講義では、経済主体に対して適切なインセンティブを与えるための契約や組織、制度について、インセンティブ設計という観点から理論的に講義する。さらに、議論に必要なゲーム理論や期待効用理論などの分析道具についても説明を加える。

テキスト：

なし

参考書：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論 交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
- ・神戸 伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤 秀史、小佐野 広(編)『インセンティブ設計の経済学 契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤 秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press

授業の計画：

1. インセンティブ問題と契約理論
2. 期待効用理論
3. モラルハザード：基本理論
4. モラルハザード：複数エージェントやチーム問題への展開
5. モラルハザード：企業内のインセンティブシステムや金融契約への応用
6. アドバースセレクションとシグナリング

履修者へのコメント：

前提知識は要求しないが、日吉のミクロ経済学初級の内容は踏襲する。また、契約理論 b と併せて履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・授業内演習（2回）：20%
- ・学期末試験：80%

質問・相談：

オフィスアワーを設ける。

契約理論 b [05] / 契約理論 (秋)[99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論 交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
- ・ロバーツ『現代企業の組織デザイン 戦略経営の経済学』NTT出版
- ・柳川 範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社
- ・神戸 伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤 秀史、小佐野 広(編)『インセンティブ設計の経済学 契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤 秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press
- ・Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structures*, Oxford Univ Press

授業の計画：

1. アドバースセレクションとスクリーニング
2. オークション理論
3. 企業組織の理論：不完備契約と企業統合
4. 企業組織の理論：企業内のインセンティブ

履修者へのコメント：

日吉のミクロ経済学初級の内容と契約理論 a の内容は踏襲する。履修者は契約理論 a と合わせて履修することを強く勧める。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

公共経済学 a [05 学則] (春学期)

公共経済学 b [05 学則] (秋学期)

公共経済学 [99 学則] (通年)

総合政策学部 教授 小澤 太郎

公共経済学 a [05] / 公共経済学 (春)[99]

授業科目の内容：

テキストに沿って、公共経済学の理論について一通りの解説を行う。公共財の理論，社会的選択の理論，公共選択論（政府の失敗含む），ゲームの理論の応用（動学的不整合性含む）といったテーマを扱う。公共経済学のアプローチの大枠に関する理解を得てもらう事が目標である。

テキスト：

中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社，2003年（第部 公共経済学のパスベクティブ；第部 ゲームの理論と公共経済学への応用）

参考書：

- ・D.C.Mueller, *Public Choice*, Cambridge University Press, 2003
- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣，1997年
（他は必要に応じ，授業の際に適宜紹介する。）

授業の計画：

- 第1回：ガイダンス 公共経済学とは何か
- 第2回：ミクロ経済学と市場の失敗（テキスト第1章1）
...厚生経済学の基本定理
- 第3回：ミクロ経済学と市場の失敗（第1章2~4）
...市場の失敗（公共財）
- 第4回：社会的選択と投票システム（第3章1,2）

...アローの定理

第5回：社会的選択と投票システム（第3章3~5）

...ギバード=サタスウェイトの定理

第6回：政策科学と公共選択論へのアプローチ（第4章）

...民主主義の経済分析

第7回：ゲームの理論の概観（第5章1~3）

...標準形ゲーム，展開形ゲーム

第8回：ゲームの理論の概観（第5章4~7）

...繰返しゲーム，不完備情報ゲーム

第9回：ゲームの理論と経済政策（第6章1.1）...逆選択

第10回：ゲームの理論と経済政策（第6章1.2）

...モラル・ハザード

第11回：ゲームの理論と経済政策（第6章2）

...動学的不整合性

第12回：ゲームの理論と政治過程（第7章）

...有権者・政党の行動

第13回：補論と総括

履修者へのコメント：

一般的には，直観的な理解を重視した骨太な説明を試みたいと考えている。しかしテーマによって，やや理論的にテクニカルな内容が含まれる場合があるが，全体の議論の流れがつかめれば細部まで十分理解できなくても気にする必要はない。

成績評価方法：

期末試験の結果による評価を基本とする。

質問・相談：

授業終了後にしてもらおうのが1番良いが，あまり長い回答を要さないものであれば，メールによる質問も受け付ける（yossy@sfc.keio.ac.jp）

公共経済学 b [05] / 公共経済学 (秋)[99]

授業科目の内容：

テキストに沿って公共経済学の応用について一通り学んだ後に，テキストでカバーされていないテーマについて引き続き解説を行う。情報の非対称性・不確実性に基づく市場の失敗への対処の具体的事例，潜在能力アプローチ，ネットワークの外部性（複数均衡含む）等，扱うテーマはまさに多岐にわたる。抽象と具象の間をダイナミックに行き来する事で，厚生経済学とも財政学とも一味違う公共経済学の世界を体験してもらいたい。

テキスト：

中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社，2003年（第部 公共経済学の実践；第部 公共経済学の系譜 個人主義と公共政策）

参考書：

- ・伊藤元重・奥野正寛編『通商問題の政治経済学』日本経済新聞社，1991年
- ・西條辰義編『地球温暖化対策：排出権取引の制度設計』日本経済新聞社，2006年
- ・兪炳匡『「改革」のための医療経済学』メディカ出版，2006年
- ・鈴木興太郎・後藤玲子『アマルティア・セン：経済学と倫理学』改装新版，実教出版，2002年
（他は必要に応じ，授業の際に適宜紹介する。）

授業の計画：

- 第1回：ガイダンス（公共経済学 a 要約と期末試験問題解説）
- 第2回：インターネット金融取引・電子商取引の安全性（第9章）
- 第3回：中小企業金融における公共部門の役割（第10章）
- 第4回：生活保障システムの経済学（第11章）
- 第5回：公共経済学の系譜 個人主義と公共政策（第部）
- 第6回：輸入制限の政治経済学（レントシーキング）
- 第7回：スーパー 301 条の戦略的意義（動学的不整合性）
- 第8回：ネットワークの外部性（複数均衡）
- 第9回：地球温暖化対策（排出権取引）
- 第10回：少子化の経済分析（子供を持つ事の便益と費用）
- 第11回：医療制度改革への視点（医療費高騰の原因）
- 第12回：社会的選択と厚生（潜在能力アプローチ）
- 第13回：総括及び公共経済学の今後の展望

履修者へのコメント：

一般的には，直観的な理解を重視した骨太な説明を試みたいと考えている。しかしテーマによって，やや理論的にテクニカルな内容

が含まれる場合があるが、全体の議論の流れがつかめれば細部まで十分理解できなくても気にする必要はない。

成績評価方法：

期末試験の結果による評価を基本とする。

質問・相談：

授業終了後にしてもらおうのが1番良いが、あまり長い回答を要さないものであれば、メールによる質問も受け付ける (yossy@sfc.keio.ac.jp)。

三田における数学・数理経済学関係の講義体系について

経済学部専門課程での数学・数理経済学関係の講義は、次のような体系で編成されている。

まず経済分析に数学的・統計的手法を適用する際、最低限必要と思われる基本事項を解説するために、代数学/代数学a, b, 解析学 / 解析学 a, b の二講座を用意している。

この基本的知識を前提とし、経済分析に有用な、さらに進んだ数学の諸分野についても、以下のような講座を設ける。

解析学 / 解析学 a, b

数理経済学 / 数理経済学 a, b

数理経済学 / 数理経済学 a, b

数理経済学特論 [微分方程式論] /

数理経済学特論 a, b [微分方程式論]

数理経済学特論 [確率論] / 数理経済学特論 a, b [確率論]

また数理経済学は

一般均衡理論の数理

動学的経済分析の数理

を隔年に開講することとし、本年度は をその内容とする。

学生諸君には、この講義体系をよく検討され、有効に利用していただきたいと思う。
(丸山 徹)

数理経済学 a [05 学則] (春学期) セット履修
数理経済学 b [05 学則] (秋学期)
数理経済学 [99 学則] (通年) 教授 須田 伸一

数理経済学 a [05] / 数理経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

動学的経済分析の基礎となる数学および経済モデルについて講義する。経済モデルとしては離散時間の最適成長理論や動学的一般均衡理論を取り扱い、証明を重視する。以下のテキストにほぼ沿った講義を行う予定であるが、必要に応じて内容を取捨選択する。

テキスト：

Le Van and Dana, *Dynamic Programming in Economics*, Kluwer Academic Publishers, 2003

参考書：

西村和雄, 矢野誠『マクロ経済動学』岩波書店, 2007年

授業の計画：

[春学期]

1. 数学的な準備
2. ラムゼー・モデル
3. 最適成長モデル

なお 1. の内容については履修者の学習段階を考慮して決定する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

必要に応じてレポートを課すことも検討する。

質問・相談：

毎回の授業終了後にしてもらおうのが望ましいが、必要ならアポイントメントをとっての相談にも応じる。

数理経済学 b [05] / 数理経済学 (秋) [99]

授業科目の内容：

動学的経済分析の基礎となる数学および経済モデルについて講義する。経済モデルとしては離散時間の最適成長理論や動学的一般均

衡理論を取り扱い、証明を重視する。以下のテキストにほぼ沿った講義を行う予定であるが、必要に応じて内容を取捨選択する。

テキスト：

Le Van and Dana, *Dynamic Programming in Economics*, Kluwer Academic Publishers, 2003

参考書：

西村和雄, 矢野誠『マクロ経済動学』岩波書店, 2007年

授業の計画：

[秋学期]

3. 最適成長モデル (つづき)
4. 最適成長モデルと競争均衡
5. ターンパイク性

時間があれば最適成長モデルにおける循環やカオスの可能性についても講義する。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

必要に応じてレポートを課すことも検討する。

質問・相談：

毎回の授業終了後にしてもらおうのが望ましいが、必要ならアポイントメントをとっての相談にも応じる。

セット履修

数理経済学特論 a [微分方程式論] [05 学則] (春学期)

数理経済学特論 b [微分方程式論] [05 学則] (秋学期)

数理経済学特論 [微分方程式論] [99 学則] (通年)

講師 稲葉 寿

数理経済学特論 a [微分方程式論] [05] /
数理経済学特論 [微分方程式論] (春) [99]

授業科目の内容：

時間的に変化する自然現象や社会現象を数学的に分析するためのモデルは微分方程式を用いて定式化されることが多く、微分方程式は数理学としての経済学を学ぶ上でも重要なツールである。本講義では、基礎的な微分積分の知識をもとにして、演習も交えて常微分方程式の基礎的な解法を学ぶ。

参考書：

M. ブラウン『微分方程式』(上)(下), シュプリンガー・フェアラーク東京, 2001年

授業の計画：

- (1) 1階微分方程式の理論と演習
- (2) 2階線型微分方程式の理論と演習
- (3) 上記の微分方程式を用いた数理モデルの紹介

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

数理経済学特論 b [微分方程式論] [05] /
数理経済学特論 [微分方程式論] (秋) [99]

授業科目の内容：

微分方程式論 a に続いて、線形常微分方程式の一般論と非線形微分方程式の基礎的な定性的理論を学ぶ。

参考書：

佐藤總夫『自然の数理と社会の数理』, 日本評論社, 1992年

授業の計画：

- (4) 連立微分方程式
- (5) 微分方程式の定性的理論
- (6) 上記の微分方程式を用いた数理モデルの紹介

数理経済学特論 a [確率論] [05 学則] (春学期) セット履修

数理経済学特論 b [確率論] [05 学則] (秋学期)

数理経済学特論 [確率論] [99 学則] (通年)

講師 黒田 耕嗣

授業科目の内容：

確率論の基礎概念を学び、確率過程論のファイナンスへの応用について解説する。

テキスト：

特になし。

参考書：

- ・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press
- ・Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

授業の計画：

春学期は離散確率空間をもとにして以下の内容で講義する。また、生保数理、損保数理への応用についても講義の中で取り上げる。

1. Random walk を例にとり、確率空間、確率変数、確率分布について解説する
2. 確率分布の期待値、分散及びモーメント母関数の性質について述べる
3. 有限確率空間をもとにした information structure と離散時間株式市場モデル、条件付期待値とマルチンゲールについて
4. 平衡価格測度と裁定戦略
5. 離散確率解析を用いたオプション価格の導出と Black Sholes の公式について

秋学期は連続系を取り扱う。

1. リーマン積分からルベグ積分へ
2. 測度空間とルベグ積分の定義について
3. ルベグの収束定理について
4. 測度論的確率論の概要（確率変数列の収束、大数の法則、中心極限定理）
5. Random walk から Brown 運動へ
6. Brown 運動の性質（Markov 性、マルチンゲール性、Maximal process について）
7. 確率積分と Ito の公式について
8. ファイナンスへの応用について（数理ファイナンスへの序論）

履修者へのコメント：

高校での数 C の知識に習熟していることが必要であり、線形変換とその表現行列との関係、テイラー展開、多重積分、座標変換についての知識がある事が望ましい。大学レベルの微積分についての復習は授業中に行うが、高校レベルの数学についての復習は行わないので、高校数学は各自で身につけておくこと。

成績評価方法：

問題演習を授業中に行い、これにより評価を行う。後期は特に、多変数関数の微積分の知識（多変数関数のテイラー展開、多重積分、極座標変換）を必要とする。

代数学 a [05 学則] (春学期)

代数学 b [05 学則] (秋学期)

代数学 [99 学則] (通年)

教授 小木曾 啓 示

授業科目の内容：

学部 1 年次に、連立方程式論（はき出し法）と行列式に基づいて展開した数ベクトル（空間）・行列の様々な理論は、ベクトル（線形）空間・線形写像というより抽象化された高度な立場から見ることで最も透明な形で理解でき、幅広い応用が可能となる。線形空間・線形写像の概念とその扱いについて、その背後にあり重要となる多項式（環）の基本的な性質とともに解説する。当面の最終目標は Jordan 標準形である。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・西岡久美子『代数学入門』
- ・斉藤正彦『線型代数入門』東大出版会
- ・佐武一郎『線型代数学』裳華房
- ・斉藤毅『線形代数の世界』東大出版会

授業の計画：

- ・ベクトル空間（線形空間）と線形写像
- ・代数学の基本定理、多項式（環）の性質とその応用
- ・線形写像と行列、ケーリー・ハミルトンの定理と最小多項式
- ・Jordan 標準形：存在と一意性の証明と計算法（以上春学期）
- ・行列の指数関数と定数係数線形（常）微分方程式
- ・非負行列の理論 Perron-Frobenius の定理
- ・線形空間のより進んだ概念 商空間、双対空間、テンソル積と普遍性（以上秋学期）

履修者へのコメント：

学部 1 年次に学んだ数ベクトルと行列及び行列式の計算にある程度慣れていることが望ましい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

講義後あるいは E-mail で (oguiso@hc.cc.keio.ac.jp)

資金循環分析 a [05 学則] (春学期)

セット履修

資金循環分析 b [05 学則] (秋学期)

資金循環分析 [99 学則] (通年)

教授 辻村和佑

資金循環分析 a [05] / 資金循環分析 (春) [99]

授業科目の内容：

資金循環分析の基礎となる資金循環表とは、家計の貯蓄がどのような金融機関や有価証券を経由して、最終的に企業や政府が行う投資に帰着するのかを描写する経済統計である。同統計には家計、企業、政府に金融部門と海外を加えた各制度部門間の資金の流れが記録されており、これを基に一国全体の資金循環構造の仕組みを解説する。資金とは何か、経済活動において資金はどのような役割を果たしているのかといった根本的な問題に立ち返りながら、統計上の数値から日本経済の姿を読み解いていきたいと考えている。また、一国の金融政策上主要な役割を果たしている中央銀行に着目して、資金循環表上に表象される中央銀行の機能についても論じる。本来、資金循環構造を包括的に理解するためには、背後にある我が国の金融制度に対する網羅的な理解が不可欠であるので、可能な範囲で主要な制度の解説も行いたい。

テキスト：

辻村和佑・溝下雅子『資金循環分析 基礎技法と政策評価』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・辻村和佑編著『バランスシートで読みとく日本経済』東洋経済新報社
- ・辻村和佑編著『資金循環分析の軌跡と展望』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

1. 資金とは何か
2. 経済活動における資金の役割
3. 資金循環分析の歴史
4. 資金循環表の構成 制度部門と金融商品
5. フロー表とストック表
6. 資金過不足と金融資産・負債差額
7. 貸借対照表形式とマトリクス形式の資金循環表
8. 資金循環にみる因果序列構造
9. 資金の需要と供給の非対称性
10. 日本銀行の金融政策
11. 日本の資金循環構造の歴史の変遷
12. 今日の資金循環構造とその課題

履修者へのコメント：

この授業科目に関連する当該時点のニュースや話題を優先して解説する場合がある。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

資金循環分析 b [05] / 資金循環分析 (秋) [99]

授業科目の内容：

資金循環表は元来、一国経済の資金の流れを描写する統計であり、分析対象も国内に留まることが多かった。しかしグローバル化の進行と、金融危機の多発をきっかけに、1990 年代末以降、国際機関による国際資金フローもしくは国際資本移動に関する統計の整備が進むことになった。例えば IMF による国際証券投資調査 (Coordinated Portfolio Investment Survey: CPIS) や、国際決済銀行 (Bank for International Settlements: BIS) による国際与信統計 (Consolidated Banking Statistics: CBS) があげられる。これらの統計を基礎に、国際的な資金の流れを把握することを目的として講義を

すすめていく。また世界経済に及ぼす影響について話題を集めているユーロ圏の通貨統合と今後の拡大についても論じていきたい。

テキスト：

辻村和佑・辻村雅子『国際資金循環分析 基礎技法と応用事例』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

1. 国際資金循環とは
2. 貸借対照表形式の国際資金循環統計
3. 金融連関表形式の国際資金循環統計
4. 主要国の資金調達と資金運用
5. 各種指標に見る国際資金循環構造
6. 国際資金循環分析の理論の系譜
7. 国際資金循環分析への計量経済学の応用
8. 国際金融における諸問題
9. 資金過不足と金融資産負債差額の国際比較
10. 共通通貨ユーロと中央銀行の貸借対照表
11. 外国為替平衡操作と不胎化政策の資金循環分析
12. 国際的な資金取引に関する今後の展望

履修者へのコメント：

この授業科目に関連する当該時点のニュースや話題を優先して解説する場合がある。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

時系列分析 a [05 学則] (秋学期)	セット履修
時系列分析 b [05 学則] (秋学期)	
時系列分析 [99 学則] (秋集)	准教授 田中辰雄

授業科目の内容：

学部3, 4年生と大学院生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く、そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利率など金融データだけでなく、マネーサプライと物価などマクロ変数や、さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく、話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み、その上で、実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは(1)差分方程式の安定性と確率過程の定常性,(2)ARMA モデルの同定, 推定, 予測,(3)ユニットルート過程とその ADF 検定,(4) Cointegration (共和分) と Error collection モデル,(5) VAR モデルと因果性のテスト,(6) パネル分析, などになる予定である。

実際に使えるようにするためには、データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって、演習として何回か課題を出してもらう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い、それを提出することになる。

出発点で前提とする知識として計量経済学概論レベルの知識を前提とする。すなわち古典的仮定のもとでの回帰分析の経験があることを前提とする。計量経済学中級の授業の知識があれば役立つが、本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。大学院生も含む講義ではあるが、できるだけ基礎から組み上げていく方法をとるので、意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので、課題演習により、理解を確認しながらすすみたい。

ベイズ統計学 a [05 学則] (春学期)	
ベイズ統計学 b [05 学則] (秋学期)	
ベイズ統計学 [99 学則] (通年)	准教授 中妻照雄

ベイズ統計学 a [05] / ベイズ統計学 (春) [99]

授業科目の内容：

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数(パラメータ)を確率変数として扱い、データが与えられた下での条件付確率分布(事後分布)を使ってパラメータの分析を行う統計学です。ベイズ統計学はデータがもたらす情報だけでなく個人の主観的な判断や専門家

の意見などのデータ以外の情報も分析に組み入れることができるという特徴を持っています。また、ベイズ統計学は不確実性の下での意思決定と親和性が高いため、アカデミックな分析のみならず実務での応用も広がりつつあります。ベイズ統計学は日吉の「統計学 & 」で習った統計学(古典的統計学)とはかなり異なるアプローチなので最初は戸惑うかもしれませんが、基本的にベイズの定理を適用するだけなので慣れてしまえばベイズ統計学の方が楽です。「ベイズ統計学 a」では、ベイズ統計学の基本的流れを理解することを目指します。

テキスト：

中妻照雄『入門ベイズ統計学』朝倉書店, 2007年

参考書：

- ・繁柳算男『ベイズ統計入門』東京大学出版会, 1985年
- ・渡部洋『ベイズ統計学入門』福村出版, 1999年

授業の計画：

1. ベイズ統計学の概要
2. ベイズの定理で見えないものを類推する
3. 不確実性の下での意思決定
4. 尤度, 事前分布, 事後分布
5. 点推定と区間推定
6. 仮説の検証と予測
7. 正規分布のベイズ分析
8. ポートフォリオ選択への応用
9. ポアソン分布のベイズ分析
10. 指数分布のベイズ分析
11. 回帰モデルのベイズ分析
12. 事前分布の選択
13. まとめ

履修者へのコメント：

授業内容を理解するためには統計学, 微分積分, 線形代数の知識が必要です。

成績評価方法：

・レポートによる評価

学期末にベイズ統計学を実際のデータに応用したレポートを提出してもらい、その内容で講義の理解度を評価します。

- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
毎週出席を取り講義への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

ベイズ統計学 b [05] / ベイズ統計学 (秋) [99]

授業科目の内容：

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算が極めて重要な役割を果たしています。特に近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ(MCMC)法と呼ばれる手法によって分析に必要な各種の計算を行うようになってきています。「ベイズ統計学 b」では、「ベイズ統計学 a」の内容を踏まえて MCMC 法によってベイズ分析を行う方法を学びます。

テキスト：

中妻照雄『入門ベイズ統計学』朝倉書店, 2007年

参考書：

- ・伊庭幸人他『計算統計 マルコフ連鎖モンテカルロ法とその周辺』岩波書店, 2005年
- ・和合肇他『ベイズ計量経済分析 マルコフ連鎖モンテカルロ法とその応用』東洋経済新報社, 2005年

授業の計画：

1. ベイズ統計学とモンテカルロ法
2. 擬似乱数の生成法
3. マルコフ連鎖の定義と性質
4. マルコフ連鎖サンプリング法
5. ギブズ・サンプラーの原理
6. ギブズ・サンプラーの応用例
7. データ拡大法の原理
8. データ拡大法の応用例
9. M-H アルゴリズムの原理
10. M-H アルゴリズムの応用例
11. MCMC 法の応用() パネル・データ分析

12. MCMC 法の応用 () プロビット・モデル

13. まとめ

履修者へのコメント：

授業内容を理解するためには統計学、微分積分、線形代数の知識が必要です。

成績評価方法：

・レポートによる評価

学期末にベイズ統計学を実際のデータに応用したレポートを提出してもらい、その内容で講義の理解度を評価します。

・平常点(出席状況および授業態度)による評価

毎週出席を取り講義への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

標本調査論 a [05 学則] (春学期)

セット履修

標本調査論 b [05 学則] (秋学期)

標本調査論 [99 学則] (通年) 教授(有期) 稲葉由之

授業科目の内容：

集団やそれに含まれる個体の状況を把握する方法の一つとして、調査を実施して、得られた調査データを分析する方法が挙げられる。この方法は、調査データの収集と分析という2つの段階に分けることができる。本講義の目的は、調査データの収集に関する能力を育成することである。

「標本調査」とは、ある集団の状況を知るために、その集団の一部を調べて推測を行う統計的方法である。集団全てを調べる全数調査に対して、標本調査は費用と時間を節約することができる。また、標本抽出方法などは集団の特徴に合わせて設定されるため、データを分析する際には調査の内容を理解しておくことが必要である。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

・浅井昇『調査の技術』日科技連, 1987年

・松井博『標本調査法入門』日本統計協会, 2007年

他は講義中に紹介する。

授業の計画：

1. 標本調査の基礎理論
2. 標本設計
3. 標本抽出方法
4. 標本誤差と非標本誤差
5. 標本抽出の事例
6. 調査計画
7. 調査票の設計
8. 調査の実際
9. 調査結果のデータ化
10. 調査内容が分析に及ぼす影響

履修者へのコメント：

標本抽出方法や標本誤差に係わる内容を理解するには、統計学の基礎的な知識が必要となります。

成績評価方法：

学期末試験とレポートの結果による評価。

質問・相談：

第1回の講義において指定します。

近代日本社会思想史 [05 学則] [99 学則] (春学期)

専任講師 鷲木能雄

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の導入と展開に関する史的考察を通して近代日本の社会主義思想について理解を深めることにある。

テキスト：

テキスト無し

参考書：

・糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』()法政大学出版局, 1979年

・太田雅夫『初期社会主義史の研究』新泉社, 1991年

・荻野富士夫『初期社会主義思想論』不二出版, 1993年 他

授業の計画：

年度開始の授業においてガイダンス1回。以下、次の内容について講義する予定。

- ・1868(明治元)年～1896(明治29)年 近代社会思想の導入
 1. 「社会」、「社会思想」及び「社会主義」概念の導入について
 2. 「東洋社会党」結成前後と「自由民権」運動の思想的系譜
- ・1896(明治29)年～1911(明治44)年「社会問題」と「社会主義」の展開期
 1. 社会問題研究会と社会主義研究会
 2. 社会主義協会の設立とその活動
 3. 社会民主党の結成
 4. 『新社会』と龍溪矢野文雄「転換期」と日本における「社会主義」について
 5. 明治社会主義の終焉 大逆事件

履修者へのコメント：

社会主義思想、社会思想(史)に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

特に基準を設けることはしないが、時に応じて、小テストを課すことがある。

現代日本社会思想史 [05 学則] [99 学則] (秋学期)

専任講師 鷲木能雄

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の導入と展開に関する史的考察を通して現代日本の社会主義思想の理解を深めることにある。

テキスト：

テキスト無し

参考書：

- ・松沢弘陽『日本社会主義の思想』筑摩書房, 1973年
- ・渡辺徹・飛鳥井雅道 編『日本社会主義運動史論』1973年
- ・糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』, 法政大学出版局, 1980年, 1982年
- ・岡本宏『日本社会主義研究』成文堂, 1988年

授業の計画：

秋学期開始最初の授業においてガイダンス1回。以下、次の内容について講義する予定。

- ・1912(大正元)年～1919(大正8)年「冬の時代」と第一次大戦
 1. 友愛会とその時代
 2. ロシア革命と米騒動 第一次世界大戦下の動向
 3. 大正デモクラシーの潮流
 4. 「社会思想」の全面的展開
- ・1919(大正8)年～1926(昭和元)年
 1. 社会主義同盟の結成
 2. 「アナ・ボル」論争
 3. 日本共産党の創立
 4. 総同盟の分裂
- ・1926(昭和元)年～1931(昭和6)年 普通選挙と社会主義
 1. 「無産政党」と社会主義運動
 2. 「左派」と「右派」の対立 日本社会主義の原型をめぐる問題
 3. 「労農派」の結成
- ・1932(昭和7)年～1945(昭和20)年「ファシズム」と「社会主義」
 1. 「32年テーゼ」とコミンテルン
 2. 日本資本主義論争と「講座派」
 3. 戦時下における日本の抵抗運動
 4. 戦前期日本における社会主義運動と日本の「社会主義思想」その「連続性」と「非連続性」及び「再生と復活」に寄せて

履修者へのコメント：

社会主義思想、社会思想(史)に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

特に基準を設けることはしないが、時に応じて、小テストを課す

ことがある。

東欧・ロシア社会経済思想史 a [05 学則] (春学期) セット履修
東欧・ロシア社会経済思想史 b [05 学則] (秋学期)
東欧・ロシア社会経済思想史 [99 学則] (通年)

准教授 神代光朗

東欧・ロシア社会経済思想史 a [05] /
東欧・ロシア社会経済思想史 (春) [99]

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊から、すでに17～19年を経過した。その後の体制転換過程に伴うこれらの国々の矛盾に充ちた変動と、更に21世紀初頭の中・東欧のEU加盟と、その後の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であり、又、これらの事象は多くの人々の関心をひくに足るものであろう。

しかし、こうした事象を理解するには、これらの国々の歴史的諸問題の理解が不可欠である。本講義a(05学則 春学期)では、ヨーロッパからアジアにまたがる後発の大国ロシアの近代化とその社会経済思想の展開を、17, 18世紀～20世紀初頭の時期について、いわゆる中・東欧との比較を考慮しながら講ずる予定である。その際、基軸をなすのは、社会経済思想と民族または国民の問題である。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。履修者は必ず講義に出席をし、ノートを手記する心掛けをもってほしい。また、必要に応じ、講義中にプリントやコピー類を配布することもある。

参考書：

講義の進行に応じ適宜指示するが、当面、森宏一『ロシア思想史』(同時代社1990年)、トマーシュ・G・マザリック、石川達夫訳『ロシアとヨーロッパ』(成文社2002年)、同、石川・長與訳『ロシアとヨーロッパ』(成文社2004年)、同、石川・長與訳『ロシアとヨーロッパ』(成文社2005年)、石川郁男『ゲルツェンとチェルヌィシェフスキー』(未来社1988年)、『ロシア史2, 18～19世紀』(山川出版1994年)、Andrzej Walicki, *A History of Russian Thought*, Oxford, 1988 等がある。

授業の計画：

1. 序 イントロダクション。講義で扱う学問領域とその意義、講義の概観と計画、特に社会経済思想史の対象としての「東欧」とロシア、これに関連する西欧経済思想
2. いわゆる「本源的蓄積」論と「東欧」・ロシアの問題
3. アダム・スミスの「先行的蓄積」論と「東欧」・ロシアの近代化
4. ピョートル、エカテリーナの改革とロシアの啓蒙思想
5. ロシアの啓蒙思想とロシアのインテリゲンチヤ
6. スラヴ主義と西欧主義および革命的民主主義
7. 古典的ナロードニキの代表的文献
8. ナロードニキ主義とマルクスの理論、特に『資本論』、ロシアとポーランドの比較を含む
9. ロシア資本主義論争とその諸段階、哲学論争
10. ロシア資本主義論争、経済論争
11. プレハーノフの経済思想とロシア社会論
12. マルクス、エンゲルスとロシア、他
13. 19～20世紀初頭のロシアの大学の経済学者達及び総括

履修者へのコメント：

基本的には、授業への出席、自ら講義内容をノートに執ること、及び、この科目の主題への学問的関心を主体的にもってほしい。授業計画は、上記の通りであるが、多少の変動は、順番、内容ともありうる。また、同科目b(秋)とセットであることを注意すること。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

成績評価基準は、原則的には春秋年2回の期末筆記テスト又はそれに準ずるものによるが、05学則対象者はa, b(春, 秋)セット科目なので、a, bとも合格することが、合格には必要である。

・平常点(出席状況および授業態度)による評価

日常の出席状況も考慮の対象となるが、詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。

質問・相談：

学習内容についての質問・相談は歓迎するが、評価方法については、上記のとおりなので、原則的には応じられない。質問は、講義終了時に教室で、学年、クラス、氏名、学籍番号を書いて、用紙(自家用意)で提出のこと。

東欧・ロシア社会経済思想史 b [05] /
東欧・ロシア社会経済思想史 (秋) [99]

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊から、すでに17～19年を経過した。その後の体制転換過程に伴うこれらの国々の矛盾に充ちた変動と、更に21世紀初頭の中・東欧のEU加盟と、その後の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であり、又、これらの事象は多くの人々の関心をひくに足るものであろう。

しかし、こうした事象を理解するには、これらの国々の歴史的諸問題の理解が不可欠である。本講義b(05学則 秋学期)では、講義a(春)の続きとして、我が国では比較的認識の浅い中・東欧、とりわけ、主にポーランドを中心に、社会経済思想と民族または国民の問題を基軸に講ずる。その際、必要に応じてロシアや他の中・東欧諸国にも関係して言及する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

当面、南塚信吾(編)『東欧の民族と文化』(彩流社1989年)、阪東宏(編著)『ポーランド史論集』(三省堂1996年)、キエニエーヴィツチ『歴史家と民族意識』(未来社1989年)、同氏(編著)『ポーランド史』(恒文社1986年)、『講座スラヴの世界』(弘文堂1996年)、伊東・井内・中井(編)『ポーランド・ウクライナ・バルト史』(山川出版1999年)、南塚(編)『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版1999年)、柴(編)『バルカン史』(山川出版1999年)、谷川稔(編)『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』(山川出版2003年)、小倉一(編)『近世ヨーロッパの東と西』(山川出版2004年)、白木太一『近世ポーランドの「共和国」の再建』(彩流社2005年)、

又、英文として、Jerzy Jedlicki, *A Suburb of Europe*, Budapest 1999, M. Albertone & A. Mascero, *Political Economy and National Realities*, ed. Torino 1994 等がある。

授業の計画：

1. イントロダクション。講義の概観と計画、社会経済思想史の対象としての中・東欧、特にポーランド
2. いわゆる「東欧」概念と東西ヨーロッパの相違と格差についての諸説
3. 分割前ポーランドの国家と社会、この時期のポーランドの経済思想
4. ポーランド分割とポーランドの啓蒙思想、特に、ポーランドの重農主義
5. 19世紀前半のポーランド史の主要問題とこの時期のポーランドの国民経済学
6. 19世紀後半のポーランドの社会経済思想の主な潮流(1) organic work (praca organiczna)
7. 19世紀後半のポーランドの社会経済思想の主な潮流(2) ナショナリズムと社会主義
8. ワルシャワ・ポジティヴィズムとポーランド社会主義思想としてのクルシンスキ派
9. 農業問題をめぐるポジティヴィズム、社会主義、ナロードニキのポーランドにおける1883-4年の論争
10. L. クシヴィツキと彼の名著『農業問題』(1903年)について
11. 「東方市場」論争とポーランドの工業化
12. R. ルクセンブルクの経済思想と民族問題
13. ポーランド以外の中・東欧の経済思想について、及び総括

履修者へのコメント：

受講者は以下の点を心掛けてください。

講義への出席、自ら講義ノートを手記すること、この科目への学問的関心を主体的にもつこと。上記計画の多少の変動はありうる。同科目a(春)とセットであることを注意すること。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：
春学期参照

日本経済思想史 a [05 学則] (春学期) セット履修
日本経済思想史 b [05 学則] (春学期)
日本経済思想史 [99 学則] (春集) 教授 小室正紀

授業科目の内容：

経済社会をどのようにとらえるか、またいかに経済社会に対処すべきか、さらにどのような経済社会を理想とするか。このような経済についての思考は、実は、国により、また時代により歴史的にさまざまであり、こうした思考の特質を認識することなしに自他の経済社会を深く理解することはできない。このような観点から、この講義では日本における経済思想の原点を江戸時代と明治時代に探ってみよう。江戸時代にまで遡るのは、経済社会の展開とともに、この時代に経済思想の「原型」が次第に形成され、それが明治以降にまで影響を与えたと考えるからである。また、明治時代には、欧米という異なった社会で形成された経済思想が流れ込み、それを独自に受け止めながら、それまでの経済思想が変容されていったと見るからである。このような歴史的な考察を通して日本における経済観の特質に迫ってみたい。なお、明治期に関しては、時間の関係から、福沢諭吉の経済思想を中心としながら考えることとする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』勁草書房、1992年
- ・経済学史学会（編）『日本の経済学』東洋経済新報社、1984年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房、1999年
- ・逆井孝仁他（編）『日本の経済思想四百年』日本経済評論社、1990年
- ・テッサ・モーリス 鈴木『日本の経済学』岩波書店、1984年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂、1998年
- ・川口浩（編）『日本の経済思想世界』日本経済評論社、2004年

授業の計画：

1. 日本代経済思想史の課題
2. 儒学の受容と社会経済認識：朱子学を中心として
3. 江戸時代経済民論の原型：熊沢蕃山・山鹿素行
4. 民間経済社会認識の原型：伊藤仁斎
5. 経験的社会経済認識の成立：荻生徂徠・新井白石
6. 元禄・享保期農民の思想：宮崎安貞・田中丘隅
7. 元禄・享保期町人の思想：井原西鶴・石田梅岩
8. 「藩重商主義」への流れと国益思想：太宰春台・林子平・海保青陵
9. 江戸時代後期の民間経済思想：三浦梅園・本居宣長・草間直方
10. 危機への対処と新体制への展望：後期水戸学・本田利明・佐藤信淵
11. 幕末農民の精神と民富の思想：二宮尊徳・大蔵永常 etc.
12. 福沢諭吉の経済思想：明治前期
13. 福沢諭吉の経済思想：明治後期

履修者へのコメント：

履修にあたって留意すべき点については、最初の講義の時に話す。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

授業時間内。あるいは授業時間に時間を調整して面談。

近代経済学史 a [05 学則] (春学期)
近代経済学史 [99 学則] (春学期) 教授 池田幸弘

授業科目の内容：

今日の政策論議の多くが、小さな政府対大きな政府という座標軸から発していることは周知の事実である。この授業では、経済思想史、経済政策思想史研究という見地から、イギリス古典派から、大きな政府論が台頭するドイツ歴史学派、ウィリアム・ベバリッジ、ジョン・メイナード・ケインズまでを扱う。後期に開講される近代経済学史 (b) とあわせて履修されることをお勧めする。

テキスト：

テキストは用いない。

参考書：

個別の授業については毎回指示するが、全体にわたるものとしてはつぎのものを参照されたい。

- ・小峯敦編著『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版
- ・同『福祉国家の経済思想』ナカニシヤ出版

授業の計画：

概ね以下のように進むが、細かいところで微調整は必要となろう。

1. 大きな政府と小さな政府：経済政策思想史研究の立場から
2. イギリス古典派の経済政策思想：アダム・スミス
3. イギリス古典派の経済政策思想：トマス・ロバート・マルサスの農業保護論
4. イギリス古典派の経済政策思想：救貧論争
5. ドイツ歴史学派の台頭とビスマルク・レゾーム
6. ウィリアム・ベバリッジの『失業論』
7. ケンブリッジ学派の経済政策思想：アルフレッド・マーシャルとアーサー・セシル・ピグー
8. ジョン・メイナード・ケインズの経済政策思想：『一般理論』の政策的意義
9. ウィリアム・ベバリッジの『自由社会における完全雇用』
10. 戦後福祉国家の台頭
11. 総括

履修者へのコメント：

当然のことだが、私語は厳禁！

成績評価方法：

試験の結果による評価（学年末に行う試験で判定する。）

質問・相談：

授業時はもちろんその他にも応ずる。アポイントメントをとっていただければ幸いである。

近代経済学史 b [05 学則] (秋学期)
近代経済学史 [99 学則] (秋学期) 教授 池田幸弘

授業科目の内容：

今日の政策論議の多くが、小さな政府対大きな政府という座標軸から発していることは周知の事実である。この授業では、経済思想史、経済政策思想史研究という見地から、レーガノミックスやサッチャリズムの思想的背景として新自由主義の名で呼ばれる政治経済思想、とりわけフリードリッヒ・ハイエクのそれを扱う。前期に開講される近代経済学史 (a) とあわせて履修されることをお勧めする。

テキスト：

テキストは用いない。

参考書：

個別の授業については毎回指示する。

授業の計画：

1. 大きな政府と小さな政府：経済政策思想史研究の立場から
2. 小さな政府論の台頭：歴史的背景
3. サッチャリズムとは何か
4. レーガノミックスとは何か
5. オーストリア学派の鳥瞰図
6. フリードリッヒ・ハイエクの自生的秩序論
7. ハイエクの社会的正義論批判
8. 社会主義経済計算論争とハイエク
9. ハイエクの『貨幣発行自由化論』
10. ハイエクとフリードマン：同床異夢の経済的自由主義者
11. カール・メンガー、初期オーストリア学派の政策論
12. まとめ

履修者へのコメント：

当然のことだが、私語は厳禁！

成績評価方法：

試験の結果による評価（学年末に行う試験で判定する。）

質問・相談：

授業時はもちろんその他にも応ずる。アポイントメントをとっていただければ幸いである。

近代日本と東アジア a [05 学則] (春学期)	セット履修
近代日本と東アジア b [05 学則] (秋学期)	
近代日本と東アジア [99 学則] (通年) 教 授 柳 沢 遊	

授業科目の内容：

この講義は、近代日本の資本主義的発展と東アジア諸地域との相互関係を、1900～1940年代に限定して考察するものである。満鉄をはじめとして、多くの企業が、日露戦争後から、東アジア諸地域（特に都市）に進出し、営業を展開していた。本講義のねらいは、20世紀前半期の日本企業のアジア進出の諸形態と論理を、歴史的に明らかにすることにある。こうした作業によって、近代日本が、中国を中心とした東アジア諸地域になぜ深いかわりをもち、外交面での不安定化を生じて、戦争を遂行していったかが、マイクロストーリーの次元から明らかになるであろう。それは、21世紀初頭のわたしたちの「東アジア」への向きあひ方を再考するささやかな一歩となるかもしれない。

テキスト：

- ・柳沢遊『日本人の植民地経験 大連日本人商工業者の歴史』青木書店、1999年
- ・大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社、1992年

参考書：

- ・柳沢遊・木村健二（編）『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社、2004年
- ・松村高夫他編『満鉄労働史』日本経済評論社、2002年

授業の計画：

1. 帝国主義時代の日本と東アジア（2回）
2. 満鉄（南満州鉄道株式会社）の設立（2回）
3. 20世紀初頭の日本人の「満州」進出（2回）
4. 第1次大戦期、帝国日本の膨張（3回）
5. 「慢性不況」下の在華日本人経済界（2回）
6. 「満州」侵略の社会経済的基盤（3回）
7. 「満州国」体制下の都市経済（2回）
8. 「大東亜共栄圏」形成の衝動（2回）
9. 日本人の「引揚げ」（2回）
10. 日本資本主義の発展と東アジア（2回）
11. 近代日本と東アジア（小括）（2回）

履修者へのコメント：

講義にできるだけ出席し、配布されるレジュメをもとに自分の頭で、疑問をもちながら講義内容を考えていってください。受講生はレポートを提出することもできます。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・1ヶ月に1度、質問カードを配布します。

質問・相談：

講義の直後に質問する。1ヶ月1回の質問カードに疑問を記述する。

東欧経済史 a [05 学則] (秋学期)	セット履修
東欧経済史 b [05 学則] (秋学期)	
東欧経済史 [99 学則] (秋集)	准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本講義では、東欧諸国の近代から現代までの変化を概観する。対象はエルベ川以東ウラル山脈以西の地域である。ロシアをはじめ、ウクライナ、ベローロシア、ポーランド、ハンガリー、チェコ・スラヴァキア、ルーマニア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアなどがここに入る。

本講義の問題意識と内容は、以下のようである。

第1に、東欧諸国（特にロシア）の前近代社会（特に農村社会・家族構造）は、西欧や中欧諸国のそれとは異なる性質を有している。前近代社会の特質は近代社会への移行に大きな影響を及ぼすため、東欧諸国の前近代社会の特質と近代化過程の特殊性についての解明は、東欧諸国の史的発展の基底を理解し、西欧諸国のそれを相対化するために有益である。

第2に、東欧諸国と中欧の多くの諸国は、ヨーロッパの「周辺」として位置づけられながら、社会主義体制を経験するという特殊性を有している。ロシアにおける社会主義革命の勃発は当地の前近代社会の特質に深い根を持つと同時に、ロシア型社会主義システムも

それに大きく規定されている。一方、中欧諸国における社会主義体制への移行は第2次世界大戦の結果として外部からもたらされた側面が大きいが、それぞれの伝統社会の特質とぶつかり合い、そのため、同じ社会主義国家であっても東欧諸国と中欧諸国の間では相違点が出てくる。東欧諸国と中欧諸国とにおいて社会主義システムがどのように形成されかつ変貌したのかは、西欧中心のヨーロッパ経済史では十分に取り扱うことができなかった20世紀最大の問題の一つである。

第3に、旧社会主義圏の東欧諸国と中欧諸国は、現在、社会主義から資本主義への移行を経験する中でダイナミックな変化を経験している。ソ連の崩壊によって歴史としての社会主義は事実上終焉を告げ、それらの諸国は資本主義への移行と土地の私有化・国営企業の民営化など西欧諸国がはるか前に経験した課題に直面している。そうしたなかで、多くの国はすでにEUに加入し、ウクライナまでEUへの加盟が焦点となっている。他方、各国における私有化と民営化の過程はかなりの相違が見られているが、そこには社会主義以前の社会的特質が影響している。

テキスト：

特に指定しません。講義資料のプリントを配布します。

参考書：

随時紹介する。

授業の計画：

講義内容は、以下のとおりである。

1. ヨーロッパの二元性：農奴制
2. 東欧諸国の農民共同体とロシアのミル共同体
3. 東欧諸国とロシアの農民家族と人口
4. 農奴（農民）解放
5. 東欧諸国とロシアの工業化
6. 農民運動・労働運動と社会主義運動
7. 農業の変革とストルィピン農業改革
8. 第1次世界大戦
9. 1917年ロシア革命とNEP（新経済政策）
10. 大戦の結果と東欧の再建
11. 集団化とスターリン体制の成立
12. 社会主義体制下の工業化と計画経済システム
13. 戦間期の経済構造
14. 第2次世界大戦と東欧社会主義諸国の成立
15. スターリン主義と「新経路」
16. 均衡的発展の模索とフルシチョフ改革
17. 東欧諸国の成長と停滞
18. コメコンと社会主義経済ブロック
19. ソ連経済の停滞とペレストロイカ
20. 東欧の民主革命
21. 東欧諸国とロシアにおける経済体制の移行
22. 農業改革と私有化
23. 自由市場体制の導入と民営化
24. 労働市場の構造と労使関係

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：定期試験期間内の試験
- ・レポート
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

南アジア経済史 a [05 学則] (春学期)	セット履修
南アジア経済史 b [05 学則] (秋学期)	
南アジア経済史 [99 学則] (通年)	准教授 神 田 さやこ

授業科目の内容：

近年インドは目覚ましい経済発展をとげており、経済的にも政治的にも国際社会における発言力を増加させている。同時に、インドをはじめとする南アジア地域は、貧困や格差、環境、エネルギーなどの国際社会が共有する深刻な問題も数多く抱えている。本科目では、こうした南アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび社会・経済の諸問題への理解を深めるために、歴史的背景と同地域のさまざまな経済制度やそれらを形づくってきた社会的・文化的特徴について学習する。

テキスト：

なし

参考書：

授業時に適宜指示する。

授業の計画：

本科目は、効果的な学習ができるように、通史・概説（春学期）と各論（秋学期）の2部構成とする。初回では、本講義のイントロダクションとして近年のインド経済の興隆とその背後にある貧困や格差、環境などの諸問題を取りあげ、本講義で考察すべき課題を明らかにする。春学期には、1500年頃から約500年間の南アジア経済・社会の長期的変化を、世界経済の動向および国際環境のなかでの変化と内生的変化の2つを軸に時系列的に考察する。

秋学期には、南アジア経済・およびその歴史を理解する上で重要なトピックスを取りあげて個別に考察を行い、ヨーロッパ、イスラム世界、日本、中国などの他地域との比較を通じて、「南アジア的」経済発展のあり方や「南アジア的」経済諸制度の特徴について理解を深める。主要トピックスには、環境、エネルギー、商取引制度、市場、経営、人口変動と移住、労働、金融制度、農業、土地制度、貧困、統合のあり方（「国家」とカースト）などが含まれる。最終回では、南アジアの長期的な経済発展（あるいは経済的停滞）に関する経済史の理論や比較史的アプローチなどの議論を紹介し、1年間の総括を行う。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

授業内小テスト（春学期・秋学期各2回）

・レポートによる評価

秋学期末に提出

質問・相談：

授業後およびオフィス・アワーに対応。

経済と法 a [05 学則] (春学期)	セット履修
経済と法 b [05 学則] (秋学期)	
経済と法 [99 学則] (通年)	教授 中澤敏明 産業研究所 准教授 石岡克俊

経済と法 a [05] / 経済と法 (春) [99]

授業科目の内容：

本講義は経済学を学ぶ学生に、現実の経済社会において法が経済にどのように関係しているかを明らかにし、将来企業において経済活動に携わる場合、また公務員として経済政策、経済組織等に係わる場合、さらに研究者として経済研究に携わる場合に必要とされる「経済と法」に関する基本的知識および思考方法を付与することを目的とする。従って、法現象を経済学的手法を用いて分析する「法の経済分析」という名の経済学と比較すれば法解説の色彩が濃い。しかし、「法の経済分析」の成果も視野に入れながら講義を展開していく。

経済理論は、ある条件の下で市場原理の素晴らしい予定調和的な機能を明らかにするとともに、この条件が満たされないときの機能の限界を示し、それに対する処方箋を提示しています。後者に属する問題の一部は政治的プロセスによって対処されていますが、例えば経済活動にともなう外部不経済の問題の多くが法によって対処されています。この問題にかかわる財産権の問題・交渉力における優劣の問題・情報の非対称性や格差の問題・フリーライダーや機会主義の問題などに、呼称の違いはあるにしても、法は体系的に対応しています。経済学と法学とは同じ問題を扱うという意味で境界を接しているところがあります。経済学も目に見えないながら逆らう者を罰する経済力学のコードを研究しているといえますが、現実にも実定法をもって経済社会をコントロールする法の知識も備えることは望ましいことです。

この講義は、経済学部学生にリーガルコンシャスネスを獲得してもらうことを狙いとしています。憲法・民法・商法・社会法・後者に含まれますが経済法の大枠を、特に経済活動とのかかわりに光をあてながら概説します。法律の条文を独りで丹念に見ても、法の正しい理解には至りません。法学を志す者でさえ、多くの年月をかけてリーガルマインドとよばれるものを身につける過程で、法体系を理解し、その基盤の上で条文が正しく理解されるわけです。一年間の講義には大きな限界がありますが、小さな一歩でも法の世界に足を踏み入れ、これになじみを感じていただければと思います。講義は、法学の側面を主軸に行われますが、受講者は経済学の知識を基礎にして、経済学との異同を見出し、新しい論点の発見に努めて

もらいたいと考えます。

テキスト：

新しい科目であり適切な教科書がありませんので今年度も教科書は使用しません。六法を使用しますが、講義で案内します。

参考書：

各回の講義の内容に応じて参考書は適宜示したいと思います。「履修者へのコメント」にあげたウェブサイトにもいくつか示される予定ですので、参照してください。

授業の計画：

総論（経済と法）

- 1 経済秩序と法秩序の関係
- 2 法の目的から見た「経済と法」
- 3 法の機能から見た「経済と法」
- 4 法的思考方法 (legal thinking) と経済
- 5 現代市民社会における法の基本的原理と経済

法の専門家の養成が目的ではないので、法体系を基礎から順々に綿密に語る正攻法をとらず、重要な判決や新しい判決を例にとりながら、どこが重要な点か、何が新しいかを論ずることを通じて、法の姿をつかんでもらうアプローチをとっています。

講義体系を石岡と中澤で相談し、法の主たる講義を石岡が、経済学からの視点を中澤が、担当します。

履修者へのコメント：

各回の講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当の下記ウェブサイトを通じて公表されます。ウェブサイトの URL は以下の通りです。

OFFICE ISHIOKA <http://www.ishioka.org/>

成績評価方法：

学期末試験

質問・相談：

履修にあたっては、初回の講義の際に受け付けます。授業については、授業の後に応じています。メールでは受け付けていません。

経済と法 b [05] / 経済と法 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

各論（現代市民社会における経済と法の関係）

- 1 自由主義経済（市場）社会と法
- 2 自由主義経済社会を実現するための法による経済制度設定
- 3 法による自由な経済活動の保障
 - 3.1 経済活動の主体に関する保障
 - 3.2 経済活動の客体に関する保障（所有制度）
 - 3.3 経済活動そのものに関する保障（契約制度）
- 4 経済への国（政府）の関与
 - 4.1 私的経済分野への国の関与
労働法・社会保障法・経済法等の出現
 - 4.2 公的機関による財・サービスの提供
公共調達・公的サービスをめぐる法と経済

法にかかわる主たる講義を石岡が、経済学からの視点を中澤が、担当します。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済政策のミクロ分析 a [05 学則] (春学期) セット履修
経済政策のミクロ分析 b [05 学則] (秋学期)
経済政策のミクロ分析 [99 学則] (通年)

准教授 藤田 康 範

経済政策のミクロ分析 a [05] / 経済政策のミクロ分析 (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では、政策論議への関心を高め、ミクロ経済理論に基づいて様々な経済政策について分析する能力を身につけることを目標とします。ゲーム理論、新産業組織論、契約理論などの近年の進展をも踏まえて講義を行います。可能な限り平易に説明するように努めますので、特別な予備知識は不要です。

何らかの事情で欠席した場合でも復活可能にするため、2~3回で1つのまとまりにする予定です。

詳細については、第1回の講義の際に説明します。

テキスト:

特にありません。毎回レジメを配布します。

参考書:

・藤田康範『よくわかる経済と経済理論』学陽書房
・藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 必要な経済理論の復習 (2回)
3. 貿易政策のミクロ分析 (3回)
4. 環境政策のミクロ分析 (3回)
5. 医療政策のミクロ分析 (3回)
6. まとめ

順番や内容は状況によって前後する可能性があります。

履修者へのコメント:

暗記することよりも考えることを重視し、楽しんでいただきながらみなさんの潜在能力を引き出そうと思っています。

成績評価方法:

確認のための試験 (持込可)、レポート、平常点に基づいて総合的に判断します。

詳細については、第1回の講義の際に説明します。

質問・相談:

随時受け付けます。

経済政策のミクロ分析 b [05] / 経済政策のミクロ分析 (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 必要な経済理論の復習 (2回)
3. 途上国支援政策のミクロ分析 (3回)
4. 財政政策のミクロ分析 (3回)
5. 金融政策のミクロ分析 (3回)
6. まとめ

順番や内容は状況によって前後する可能性があります。

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

ファイナンス入門 a [05 学則] (春学期)
ファイナンス入門 b [05 学則] (秋学期)
ファイナンス入門 [99 学則] (通年) 准教授 新井 拓 児

ファイナンス入門 a [05] / ファイナンス入門 (春) [99]

授業科目の内容:

本講義では、主にポートフォリオ選択理論の基礎を扱う。特に、CAPM を習得することがこの講義の主目的である。さらにその発展型である APT を紹介し、実務の世界でどのように応用されているかについても紹介する。数学に関しては、高等学校レベルのものしか用いない。

テキスト:

なし

参考書:

授業中に紹介する。

授業の計画:

1. イントロダクション
2. 確実性下のモデルと金利の期間構造 (2回)
3. 確率論の基礎 (3回)
4. 効用関数と無差別曲線
5. 最適ポートフォリオと分離定理
6. 資産価格モデル (CAPM) の導出 (2回)
7. マーケットモデルと CAPM の評価
8. 裁定価格理論 (APT) (2回)

履修者へのコメント:

ファイナンス入門 b も履修するとより効果的である。

成績評価方法:

試験の結果による

質問・相談:

メールまたはオフィスアワー

ファイナンス入門 b [05] / ファイナンス入門 (秋) [99]

授業科目の内容:

本講義では、金融派生商品の価格付け理論の基礎を扱う。最も単純なモデルである 1 期間 2 項モデルを取り上げ、裁定機会やマルチンゲール確率などの諸概念の意義を講義する。さらに、最近注目されているファイナンスのトピックも紹介する。数学に関しては高等学校レベルのものしか用いない。

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

1. 価格付け理論へのイントロダクション
2. 金融派生商品の紹介 (2回)
3. 1 期間 2 項モデルにおけるオプション価格付け理論 (3回)
4. 数理ファイナンスの基本定理
5. 天候デリバティブ
6. 保険デリバティブ
7. 信用リスクとクレジットデリバティブ
8. 証券化
9. リスク管理と VaR (2回)

履修者へのコメント:

ファイナンス入門 a を履修していることが望ましい。

成績評価方法:

試験による

質問・相談:

春学期参照

公共政策 a [05 学則] (春学期)
公共政策 b [05 学則] (秋学期)
公共政策 [99 学則] (通年) 准教授 土居 丈朗
グローバルセキュリティ研究所 教授 (有期) 竹中 平蔵

公共政策 a [05] / 公共政策 (春) [99]

授業科目の内容:

我が国の公共政策の立案過程において、経済理論の知識を求められる機会が増えている。この科目は、公共政策の多種多様な課題に対応するため、より総合的、応用的な視点に立って、政策を分析・評価するのに資する経済学的素養を習得することを目指す。

他の科目と比したこの科目の特徴は、具体的な政策課題に対して具体的な分析手段を示しながら政策形成過程を紹介する点である。例えば、郵政民営化の立案過程において、郵政事業の現状での問題点や郵政民営化の利点をどのように分析し、その具体策をどのように取りまとめるに至ったかを、具体的事例を交えて講義する。

このような公共政策の立案について、経済学の立場からしっかりとした見識を体得するには、現行制度の理解とともに経済理論に裏打ちされた視座が必要である。この講義で取り上げるそれぞれの政策について、現行制度と経済理論をバランスよく理解を深められるように講義を進める。適宜、経済財政諮問会議や各種審議会等での議論や提出資料も紹介する。

主な講義内容は、以下の通りである。

1. 公共政策の評価に必要な知識
2. 公共政策の経済学的評価手法 (理論分析)
3. 公共政策の経済学的評価手法 (計量分析)
4. 政策の具体的事例研究
 - ・郵政民営化
 - ・政策金融改革
 - ・規制改革 等

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・竹中平蔵『構造改革の真実』日本経済新聞社
 - ・土居丈朗『財政学』日本評論社
 - ・ヒルマン『入門財政・公共政策』勁草書房
- その他参考文献は、講義中に適宜指示する。

公共政策 b [05] / 公共政策 (秋) [99]

授業科目の内容:

我が国の公共政策の立案過程において、経済理論の知識を求められる機会が増えている。この科目は、公共政策の多種多様な課題に対応するため、より総合的、応用的な視点に立って、政策を分析・評価するのに資する経済学的素養を習得することを目指す。公共政策 b [05] / 公共政策 (秋) [99] は、公共政策 a [05] / 公共政策 (春) [99] で学んだ公共政策の経済学的評価手法を基礎として、政策の具体的事例研究に重点を置く。

他の科目と比したこの科目の特徴は、具体的な政策課題に対して具体的な分析手段を示しながら政策形成過程を紹介する点である。例えば、歳出歳入一体改革の立案過程において、財政赤字の削減という政策課題に対して、これを実現するために歳出削減や増税がいくらか必要かをどのように分析し、その具体策をどのように取りまとめるに至ったかを、具体的事例を交えて講義する。

このような公共政策の立案について、経済学の立場からしっかりとした見識を体得するには、現行制度の理解とともに経済理論に裏打ちされた視座が必要である。この講義で取り上げるそれぞれの政策について、現行制度と経済理論をバランスよく理解を深められるように講義を進める。適宜、経済財政諮問会議や各種審議会等での議論や提出資料も紹介する。

主な講義内容は、以下の通りである。ただし、公共政策 a を受講していることが望ましい。

1. 公共政策の経済学的評価手法 (要約)
2. 政策の具体的事例研究
 - ・2004年の年金改革
 - ・医療制度改革
 - ・三位一体改革

・歳出歳入一体改革 等

テキスト:

土居丈朗『財政学』日本評論社

参考書:

ヒルマン『入門財政・公共政策』勁草書房
その他参考文献は、講義中に適宜指示する。

成績評価方法:

期末試験に基づき評価する。

公共選択論 a [05 学則] (春学期)

公共選択論 b [05 学則] (秋学期)

公共選択論 [99 学則] (通年) 講師 川野辺 裕 幸

公共選択論 a [05] / 公共選択論 (春) [99]

授業科目の内容:

公共選択論の入門講義です。政治を経済学の分析道具で研究する学問分野が近年急速に拡大してきました。私利私欲を追求する個人を出発点にして政治現象を研究する公共選択論は、政治学の分野では合理的選択論 (Rational Politics) または合理主義政治学と言われていて、アメリカ政治学会では主流派を形成するようになってきています。わが国でも、経済政策論を研究する上で、政府の特性や政治的な意思決定を分析することが必要であると見なされるようになり、公共選択論は経済政策学において欠くことのできない分野を形成するに至っています。

講義では政府を構成する市民、政治家、利益集団、官僚等の行動を公共選択論にしたがって解説します。それとともに最近のトピックについても触れたいと思います。

テキスト:

加藤寛 (編)『入門公共選択: 政治の経済学』勁草書房

参考書:

授業中に随時提示します。

授業の計画:

1. 外部性と集合的行動
 - ・公共選択論の前提
 - ・集合的行動の前提
2. 民主主義的意思決定の特徴
 - ・意思決定に伴う外部性と投票のパラドックス
 - ・中位投票者定理と画一性
 - ・選好の強度とログ・ローリング
 - ・選好の強度を反映させる仕組み
3. 代議制民主主義下の意思決定の特徴
 - ・政党と政治家: 空間競争モデル
 - ・有権者: 合理的無知と近視眼的選好
 - ・利益集団とレント・シーキング
 - ・官僚: 独占的供給主体
4. わが国の政治システムの特徴
 - ・利益集団型民主主義
 - ・選挙制度改革と政策決定
5. 公的部門の改革

履修者へのコメント:

春学期の公共選択論 a [05] / 公共選択論 (春) [99] は基礎的な理論を考えますが、できるだけ現実に即した例を挙げて考えていこうと思います。Web に履修者専用のページを設けます。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価 5割 期末に行います。
- ・レポートによる評価 5割 中間に課題を出します。

質問・相談:

分からないところは授業中に随時受け付けますが、(成績以外の質問は) メールで受け付けます。kawanobe@mail.pem.u-tokai.ac.jp

公共選択論 b [05] / 公共選択論 (秋) [99]

授業科目の内容:

公共選択論の応用講義です。安倍政権になって構造改革はどうなるのか、小泉政権とは何だったのか。この10年の大きな制度転換を、公共的意思決定システムを中心に考えることをこの講義の目的とします。対象は具体的で、講義は問題解決的です。いままでの制度の特徴は何か、なぜいままでの制度がうまく機能しなくなってし

まったのか、構造改革はどのような制度転換をもたらそうとしたのか、それはどう評価すべきか、どのような制度設計が必要なのか等について、公共選択論と新制度学派の経済理論に基づいて検討します。

キーワードは、裁量対ルール、自己統治、少子・高齢化、IT革命、グローバル化、成熟化、地方分権。

現代日本政治経済論というジャンルにはいるので、この分野に興味のある学生に向いています。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 制度転換・講義の方針とルール
2. 公共選択論と新制度学派経済学
3. 日本型システム
 - ・始まりはいつか
 - ・日本は特殊か
4. 日本型政策決定システム
 - ・政治制度
 - ・財政運営・中央対地方政府
 - ・マクロ政策・金融行政・産業政策
5. 構造改革とは
 - ・制度転換の契機：IT革命とグローバル化・少子・高齢化・成熟化
 - ・制度間競争と制度転換の理念：自己統治

履修者へのコメント：

秋学期の公共選択論 b [05] / 公共選択論 (秋) [99] はアップデートなテーマを扱います。履修者数にもよりますが、できるだけ皆さんに考えて発表してもらいながら、あるべき制度を考えていこうと思います。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

NPO 経済論 a [05 学則] (春学期)

NPO 経済論 [99 学則] (春学期) 教授 山田 太門

授業科目の内容：

近年、政府の財政における諸々の制約を原因として、政府に代わって民間部門が公共的財・サービスを供給する活動が注目されている。いわゆるボランティア活動や企業のフィランソロピー活動などの非営利公益活動がこれに当たる。これらの活動は個々に行われるだけでなく、むしろそれらの活動が複合した形で様々に組織化されており、各種の財団、社団などの公益法人が存在している。この講義の目的は、これらの民間非営利組織とその活動が全体の経済の中にどのように位置づけられるかを理論経済学的に説明し、またこれら非営利部門（第3セクター）に対する全体および個別の制度、政策がどうあるべきかを公共経済学の理論を用いて検討することである。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

・山内直人『ノンプロフィット・エコノミー』日本評論社、1997年
・島田晴雄（編著）『開花するフィランソロピー』TBSブリタニカ、1993年

授業の計画：

1. マクロ経済における NPO 部門
2. 政府部門と NPO
3. 寄付行動とボランティア活動
4. 非営利活動の経済理論
5. 租税制度と非営利活動
6. 公益法人制度
7. 企業のフィランソロピー活動
8. NPO と民間営利企業の関係
9. 助成活動と事業活動（ファンド・レイジング）
10. 福祉・医療と NPO
11. 教育と NPO
12. 文化・芸術と NPO（文化経済学）

履修者へのコメント：

できるだけ NPO 経済論 とセットで履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

NPO 経済論 b [05 学則] (秋学期)

NPO 経済論 [99 学則] (秋学期) 講師 西村 万里子

授業科目の内容：

今日、公共サービス改革（行政改革）の進展に伴い、NPO は、福祉（介護、児童、障害者）、教育、環境、貧困（ホームレス、ニート）、地域再生などの多様な分野において、公共サービス提供の担い手として注目されている。

本講義では、まず、公共サービス分野における NPO の位置づけと特性を理論的に検討し、次に、NPO をめぐる法政策を概説する。続いて、近年の行政改革と関連する NPO の動向に焦点をあてて、日本および海外の事例もとりあげながら考察する。期末には、NPO や協働の事例について学生による報告を行う。

テキスト：

特定の教科書は使用しない。講義レジュメを用意する予定である。

参考書：

- ・『NPO と新しい社会デザイン』同文館出版、2004年
- ・『イギリス非営利セクターの挑戦』ミネルヴァ書房、2007年

授業の計画：

1. 経済・社会における NPO
2. NPO の主要理論（経済・政治理論）
3. NPO の規模・構造、法政策
4. NPO の税制、ガバナンス
5. 英国の行政改革と NPO：行政と NPO のパートナーシップ
6. 日本の行政改革と NPO：福祉改革、地域開発政策と、行政と NPO の協働
7. 日本の行政改革と NPO：民間委託、指定管理者制度と NPO
8. NPO と企業の協働
9. NPO とコミュニティ・ビジネス、社会的企業
10. NPO 及び協働の事例について学生による報告

成績評価方法：

- ・期末の試験（あるいはレポート）、学生報告による評価
- ・平常点（積極的な発言、不規則の出欠調査も考慮）

格差と援助の経済学 a [05 学則] (春学期)

格差と援助の経済学 b [05 学則] (秋学期)

格差と援助の経済学 [99 学則] (通年) 准教授 大平 哲

格差と援助の経済学 a [05] / 格差と援助の経済学 (春) [99]

授業科目の内容：

経済格差を理解するための経済理論、およびその応用例を学習する。くわしくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> に掲載。

格差と援助の経済学 b [05] / 格差と援助の経済学 (秋) [99]

授業科目の内容：

援助の実際を理解する。格差に関する経済理論の知識があることを前提にする。くわしくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> に掲載。

現代中国経済論 [05 学則] [99 学則] (春学期)

准教授 駒形 哲哉

授業科目の内容：

本講義では、「中小企業」を切り口に、中国の体制移行と市場経済化を論ずる。

雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。他方、中小企業は資本主義経済では、大企業との関わりにおいて固有の問題をもち、それゆえに「中小企業論」は

一つの独立した学問分野となっている。中国においても「反独占法」(独禁法に相当)が2007年に全国人民代表大会(国会)の常務委員会を通過したが、このことから「中小企業論」の基盤が形成されつつあると把握してよいのだろうか? この講義では、中国における中小企業の動態、諸特徴、政策等について、主に担当者が参加したプロジェクトの成果や実際に調査を行った個別事例にもつきながら論じ、体制移行期にある中国経済に固有の中小企業論の構築を試みる。

テキスト:

拙著『移行期・中国の中小企業』(税務経理協会, 2005年7月)を用いる。必要に応じて講義資料を配布する。

参考書:

講義のなかで紹介する。

授業の計画:

以下の各テーマについて、1~2回を使って論じていく。

- (1) なぜ中小企業なのか 企業区分尺度の収斂が意味すること
- (2) 郷鎮企業が村を変えた 天津郊外村にみる村営企業の役割と地域変容
- (3) 「異端」から「主役」へ 市場経済形成のリーディングエリア・温州
- (4) 「王国」の再興 天津・自転車産業の事例
- (5) 産地市場の「秘密」 紹興・合織産業の事例
- (6) 産業集積の「興亡」 瑞安の靴下加工とウールセーター産業の事例
- (7) 借金の保証人をつくれ 中小企業金融と信用保証制度の現状
- (8) 中国の市場経済は「若い」のか 東アジアのなかの中国中小企業
- (9) 移行期・中国の中小企業論 その射程

成績評価方法:

基本的に定期試験によるが、履修者数によっては出席を加味したり、授業内レポートを課したりする場合がある。

世界経済論 a [05 学則] (春学期)	セット履修
世界経済論 b [05 学則] (秋学期)	
[99 学則] は (1) 基本科目を参照のこと	
教授 竹 森 俊 平	

授業科目の内容:

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・ Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・ 拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・ 拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

開発経済学 a [05 学則] (春学期)	セット履修
開発経済学 b [05 学則] (秋学期)	
開発経済学 [99 学則] (通年)	教授 高 梨 和 紘

開発経済学 a [05] / 開発経済学 (春) [99]

授業科目の内容:

開発の途上にある諸国の経済現象を分析し、特定の開発目標を達成するための政策手段を検討することが、この学問の狙いである。分析にあたっては、新古典派の経済理論が基本に据えられる。しかし、開発途上諸国においては経済活動の指針となるはずの財、サービス、生産要素等の『価格』は、市場それ自体の分断性や硬直性等の理由のために歪みを伴っている。また経済開発の初期段階から制約要因

としての環境、エネルギー、ジェンダー等の問題を抱えている。したがって、市場が正常に機能することを前提に右肩上がりの経済成長をひたすら追及する近代経済学の分析手法をそのまま当てはめる訳にはいかない。このような理由から、開発経済学を学ぶ際にわれわれに求められる学問の姿勢としては、開発とは何かという問題意識を鍛え上げつつ、新古典派経済学の分析手法を中心に据えながらも、隣接する諸学問の知識を動員し、開発の諸問題に取り組みることが望まれる。その方向でこの講義を進めていきたい。

テキスト:

- ・ 山形辰史, 黒田卓『開発経済学』日本評論社, 2003年
- ・ 高梨和紘(編著)『開発経済学』慶應義塾大学出版会, 2005年

参考書:

- ・ 速水佑次郎『開発経済学』創文社, 2000年
- ・ 高梨和紘(編著)『アフリカとアジア 開発と貧困削減の展望』慶應義塾大学出版会, 2006年

授業の計画:

経済開発の理論的展開と国際機関による国際開発政策の評価を13回に分けて行う。

履修者へのコメント:

常に問題意識を持って、聴講してほしい。

成績評価方法:

- ・ 試験の結果による評価
- ・ 平常点(出席状況)による評価

開発経済学 b [05] / 開発経済学 (秋) [99]

授業科目の内容:

経済開発政策のうち、発展途上諸国の低開発地域に焦点を絞り、マイクロファイナンス、OTOP等の最貧困層をターゲットとした開発政策、教育のあり方や途上国政府のガバナンスの問題をとり上げる。

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

内発的發展を導く、様々なプロジェクトを事件として分析の対象にする。また、人的開発についても後半に扱い、全体で13回にわたって実践の開発政策を分析する。

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS [05 学則] [99 学則] (秋学期)

講師 林 秀 毅

授業科目の内容:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts. In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class, composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

テキスト:

Gilson, Julie, *Japan and the European Union A partnership for the Twenty-First Century?*, Palgrave Macmillan, 2000 (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

参考書:

Kaji, Hama, Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999

授業の計画：

Part 1.

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s-80s (2, 3)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Europe (4)
- Chapter 4 European Integration and its Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (8)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (9)
- Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century (10)

Part 2.

- Germany, France and Benelux (11)
- Italy, Spain, Portugal and Greece (12)
- UK, Ireland, Nordic and Central/Easter European Countries (13)

履修者へのコメント：

Any students who are interested in Europe are welcome, regardless of the faculties and the grades.

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価 30% (End-of-term Examination)
- ・レポートによる評価 60% (Aggregate score of each weekly report)
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価 10% (According to the contribution of students by active questions and comments)

質問・相談：

Anytime during class, also by e-mail

地域経済論 [05 学則][99 学則](春学期)

講師 高橋 孝明

授業科目の内容：

経済構造の質的転換の中で、国民経済の内部における成長地域と停滞地域が明確になるとともに、国境を越えた生産や消費のネットワークが築かれるようになり、国を越えた地域経済間の競争と協力も現実のものとなっている。また、EUをはじめ、地域経済統合の行方が世界経済の今後を決める要因の一つとなろうとしている。本講義は、このような背景の下で地域経済への関心が高まっている現実を踏まえて、地域経済の分析と課題について、入門的な講義を行い、地域経済の基礎的理解を深めることを目的とする。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

時間の制約に応じて、以下の項目から適宜選択して講義を進める。

1. はじめに
 - (1) 地域経済学とは
 - (2) 地域経済学の目的
 - (3) 地域経済学の方法
 - (4) グローバル経済のサブ・システムとしての地域経済，国民経済のサブ・システムとしての地域経済
2. 国民経済の地域的構成
 - (1) 地域経済計算
 - (2) 地域所得の決定
 - (3) 地域内・地域間産業連関分析
3. 地域経済の成長
 - (1) 需要主導型モデル
 - (2) 供給主導型モデル
 - (3) 需給混合型モデル
4. 地域間格差と地域間人口移動
 - (1) 地域間格差の概念
 - (2) 地域間格差縮小の理論
 - (3) 地域間格差が存続する理由
 - (4) 地域間人口移動
5. 地域経済の空間構造
 - (1) 産業立地の理論
 - (2) 空間的競争の理論

(3) 経済活動の集中：集中の理由

(4) 経済活動の集中：集中のメカニズム

6. 地域経済の階層構造

(1) 中心地と都市システム

(2) 地域経済における階層構造の生成メカニズム

(3) グローバル都市ネットワークと地域経済

7. おわりに

生産と消費の場としての地域経済

履修者へのコメント：

意欲的な学生の参加を希望する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

随時オフィスアワーを設けるが、事前にメールで担当教員に連絡をとり、日時を決めること。

連絡先：takaaki-t@sis.utokyo.ac.jp

現代社会史 a [05 学則](春学期)

セット履修

現代社会史 b [05 学則](春学期)

教授 清水 透

現代社会史 [99 学則](春集)

教授 高草木 光一

授業科目の内容：

本年度は「いのち」をテーマに下記のプログラムで行う。ただし、内容に若干の変更を加えることはありうる。講義の詳細については、4 月はじめに発行するこの科目独自のシラバス(冊子体)を参考にすること(西校舎の経済学部掲示板下に平積みする)。

成績評価は、試験による。

授業の計画：

序

04/12 「いのち」の視点から世界を考える

高草木光一(慶應義塾大学経済学部教授)

大村 次郷(フォトジャーナリスト)

いま医療現場で何が起きているのか 現代医療の問題点

04/19 生体移植，脳死・臓器移植

河野 太郎(衆議院議員)

山口研一郎(現代医療を考える会代表)

04/26 遺伝子操作，生殖医療

福岡 伸一(青山学院大学理工学部教授)

迫田 朋子(NHK チーフディレクター)

05/10 優生思想と自己決定権

田中 智彦(東京医科歯科大学教養部准教授)

長沖 暁子(慶應義塾大学経済学部准教授)

05/17 [討論会(1)]

「生老病死」から近代医学はどう見えるか 「東洋」の発想

05/24 チベットの視点，ウイグルの視点

小川 康(薬剤師)

マリア・サキム(元新疆医学院副教授)

06/07 『医心方』の世界，神道の自然観

榎 佐知子(古典医学研究家)

鎌田 東二(京都造形芸術大学教授)

06/14 宗教と医学の間

島園 進(東京大学大学院教授)

清水 透(慶應義塾大学経済学部教授)

06/21 [討論会(2)]

「いのち」とは何か われわれの「生命倫理」へ

06/28 「いのち」と社会

吉岡 忍(ノンフィクション作家)

米沢 慧(評論家)

07/05 「いのち」の軽さ

最首 悟(和光大学名誉教授)

立岩 真也(立命館大学大学院教授)

07/12 「いのち」を守る社会へ

芹沢 俊介(評論家)

伊勢崎賢治(東京外国語大学大学院教授)

アジア社会史 a [05 学則] (春学期) セット履修
アジア社会史 b [05 学則] (秋学期)
アジア社会史 [99 学則] (通年) 教授 倉 沢 愛 子

アジア社会史 a [05] / アジア社会史 (春) [99]

授業科目の内容:

新しい文明の到来, 外国による植民地支配, さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

前期は, 先ず東南アジアという世界の領域, 歴史, 社会的特性などについて基礎的な全体像を講義する。さらに, 東南アジア諸国が推し進めている開発政策の特徴や, それに関連して行われている国際機関や諸外国の経済協力の実態について概観する。

参考書:

倉沢愛子『「大東亜」戦争を知っていますか』講談社新書, 2002年
授業の計画:

- (1) 東南アジアとは?
- (2) (3) 東南アジアの伝統社会と新文明 (中国文明, ヒンドゥー文明, イスラム文明の到来)
- (4) (5) 植民地支配下の東南アジア社会 (植民地経済, 西洋文明, 近代化 etc)
- (6) (8) 日本軍の占領と東南アジア社会
- (9) 東南アジア諸国の独立と国家建設
- (10) 東南アジア諸国における経済開発の開始
- (11) 外資の導入と工業化
- (12) (13) 経済協力の諸問題

履修者へのコメント:

新聞で報道される東南アジア関係記事程度の予備知識は用意してきて欲しい。

成績評価方法:

試験の結果による評価

三分の二以上の出席が無い場合は受験資格がない。(正規の課外活動や, 就職試験などやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出れば考慮する)

質問・相談:

火曜日3限に研究室にて。それ以外の時間はメールにてアポイントをとること。

アジア社会史 b [05] / アジア社会史 (秋) [99]

授業科目の内容:

新しい文明の到来, 外国による植民地支配, さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

後期は, そのような開発政策のもとで現実にかかえている様々な社会問題や社会現象を個別にとりあげて詳細に見てゆく。具体例を提示するために対処をインドネシアに絞る, 倉沢が調査を続けている, ジャカルタの低所得者居住地区と, ジョクジャカルタの農村とを例にとりあげる。映像などを使いながら授業を進める。

テキスト:

『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社, 1991年

参考書:

倉沢愛子編著『都市下層の生活構造と移動ネットワーク』明石書店

授業の計画:

- (1) (2) 大都市の変容 (都市計画とスラムの破壊)
- (3) 農村社会の変容 (緑の革命 etc)
- (4) 伝統社会の崩壊と日本式隣保制度
- (5) 教育
- (6) 公衆衛生
- (7) 環境問題
- (8) 開発と女性 (ジェンダー問題)
- (9) 新中間層の台頭
- (10) 開発と宗教
- (11) グローバル化する文化
- (12) メディア
- (13) 労働力移動

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

ラテンアメリカ社会史 a [05 学則] (春学期) セット履修
ラテンアメリカ社会史 b [05 学則] (秋学期)
ラテンアメリカ社会史 [99 学則] (通年)

教授 清水 透

ラテンアメリカ社会史 a [05] / ラテンアメリカ社会史 (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では, 西欧文明とインディオ社会との関係系を具体例をとりあげ, 現代の諸問題の原点を近代以降の歴史のなかにさぐります。同時に, 政治史・経済史を中心に描かれてきた従来の歴史叙述と歴史の方法について, 社会史の視点から検討を加えます。

具体的には, 25年以上にわたり私が通いつづけてきたメキシコのマヤ系インディオ村落チャムーラ社会でのフィールドワークの体験を織りまぜつつ, 「発見」以降のラテンアメリカの歴史を, 一インディオ村落の側から見つめなおし, そこから見えてくる歴史と「未開」社会の価値の世界が, テロと報復戦争で幕を開けた21世紀に生きる私たちに, 何を問いかけているか, じっくり考えてみたいと思います。究極的には, 「近代といのち」というテーマを追究することとなります。

テキスト:

清水透『エル・チチョンの怒り メキシコ近代とアイデンティティ』東京大学出版会, 2005年

授業の計画:

- 1) インディオと私
: 自分史
: 研究対象と自己
- 2) 1492年と他者の創造
: 「発見」の現代性
: 外延的他者化・内延的他者化
- 3) 「文明」の空間と「野蛮」の空間
: 植民地支配と空間構造の再編
: 境界領域の主体性
- 4) 「文明」の神とインディオの神
: アメリカ大陸へのキリスト教の伝播
: 民族衣装を着せられたキリスト
- 5) 「野蛮」の抵抗
: 「敗者の歴史」再考
: 逃亡という名の抵抗・共生という名の抵抗
- 6) 市民社会・国民国家と「釣り合わない軀」
: メノナイトと「釣り合わない軀」
: 国民国家と「釣り合わない軀」

履修者へのコメント:

下記の成績評価方法からも明らかとなり, 就職活動等による欠席は, 成績評価の際に全く考慮されない点を, 十分承知したうえで, 聴講するか否かを決めること。

成績評価方法:

レポートによる評価

- ・講義内容の論点・コメント・批判・疑問点について, 毎回レポートを提出すること。字数制限なし。
- ・レポートは次週の講義中に回収する。代理提出は認めない。
- ・欠席して提出できなかったレポートは, その次の講義までに提出する。
- ・提出されたレポートについて7段階評価を行い, 最終講義日までの総得点のみにより, 成績評価を行う。したがって, 追加レポート, 追試験等は実施しない。

ラテンアメリカ社会史 b [05] / ラテンアメリカ社会史 (秋) [99]

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

授業の計画：

- 7) 近代化のなかの「野蛮」
 - ：白色国民国家構想
 - ：「野蛮」の清算と未征服空間の征服
- 8) 近代化と共同体
 - ：インディオ村落と近代化法制
 - ：「野蛮」の祭りと資本主義
- 9) 「自分探し」と混血性
 - ：死せるインディオ・生けるインディオ
 - ：安住の地「メソティソ論」
- 10) メキシコ革命とインディオ共同体
 - ：「自由自治体法」と共同体の自治
 - ：カルゴ・システムの空洞化
- 11) 村の液状化・都市の液状化
 - ：越境するインディオ
 - ：都市のインディオ化
- 12) サバティスタ運動から見えるもの
 - ：インディオの蜂起と低強度戦争
 - ：虐殺の村、アクテアルで考える
- 13) 「文明」とは？「近代」とは？
 - ：「文明」と 他者
 - ：「文明」と身体・いのち

履修者へのコメント：

- 春学期参照
- 成績評価方法：
- 春学期参照

地方財政論 [05 学則] [99 学則] (秋学期)

教授 金子 勝

授業科目の内容：

「三位一体」改革に示されるように、日本の国と地方の財政関係は大きな転機を迎えている。その中で地域間の格差拡大が進み、とりわけ夕張市の財政再建団体への転落をはじめ、大都市や輸出産業が立地している地域以外の地方財政がしだいに困難に陥り始めている。その過程を追いながら、あるべき国と地方の財政関係のあり方について考える。

参考書：

- ・林健久（編）『地方財政読本』東洋経済新報社
- ・神野直彦・金子勝『地方に税源を』東洋経済新報社

授業の計画：

1. 日本における政府間関係：戦後の歩み
 - 1) 高度成長期における集権分散システムの形成
 - 2) 石油ショック後の田中角栄型利益政治の合理性と非合理性
 - 3) 1990 年代における景気対策の歪み
 - 4) 地方分権推進をめぐる対立点
2. 進行する地方財政格差
 - 1) 夕張市の財政再建団体転落
 - 2) 進む地域間格差
 - 3) 医療・介護制度の動揺
 - 4) 市町村合併と地方財源のあり方
3. 地域経済問題と再生の動き

成績評価方法：

定期試験を実施して評価する。

フランス植民地社会史 a [05 学則] (春学期)

セット履修

フランス植民地社会史 b [05 学則] (春学期)

フランス植民地社会史 [99 学則] (春集)

准教授 難波 ちづる

授業科目の内容：

かつて世界第二の規模をもつ植民地帝国を築いていたフランスにおいて、過去の植民地支配をめぐる問題は依然として濃い影をおとし続けている。フランスが現在抱える移民問題をはじめとする様々な問題だけでなく、広くフランス社会や文化を理解するためにも、植民地支配の実態を把握することが不可欠である。植民地主義がもたらした影響を理解し、フランス革命の理念である「自由、平等、博愛」を掲げる「人道的」な共和主義と植民地主義がどのようにリンクして発展していったのかを把握することを目的とする。主に 19 世

紀以降のフランスによる植民地支配の歴史を、主にインドシナを中心に、マダガスカル、アフリカ、カリブ海諸国も対象とし、日本やイギリスなど他の列強諸国による植民地統治との比較という視点をおりこみながら講義をする。長らく帝国史の支配的な枠組みであった、経済、外交、軍事的側面だけではなく、教育、家族、性、都市、文化、日常生活など、「社会史」が歴史の重要な分析対象として扱ってきた分野を射程にいれることによって、「全体的」な植民地支配の歴史の把握をめざす。

テキスト：

講義中に指示する。

参考書：

講義中に指示する。

授業の計画：

以下の問題を春学期集中で講義する。

- ・現代フランスにおける植民地支配の遺産
- ・フランス植民地支配の通史
- ・植民地支配と教育、家族、性、都市、文化、日常生活
- ・植民地支配と戦争（第一次世界大戦、第二次世界大戦、独立戦争）
- ・植民地支配と移民問題
- ・フランス、イギリス、日本の比較

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

講義終了時に随時受け付ける。

簿記 a [05 学則] (春学期)

セット履修

簿記 b [05 学則] (秋学期)

簿記 [99 学則] (通年)

講師 千葉 洋

簿記 a [05] / 簿記 (春) [99]

授業科目の内容：

会計は企業における経済活動を企業資本の機能活動の具現形態とみなし、その運動の経過ないしは末を計数的に測定・描写して企業資本の統一的・全体的な管理を行おうとする技術的な行為であり、複式簿記はこうした企業資本の統一的・全体的な管理を行うためのいわば装置としての役割を果たすものである。

本講義では複式簿記の基本構造とその一巡の主要手続きとを体系的に解説する。なお理解を深めるために随時演習も課す予定である。

テキスト：

山榎忠恕『複式簿記原理（新訂版）』千倉書房

授業の計画：

ガイダンス（1回）

複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質 (計 2 回)
2. 勘定科目の設定 (計 2 回)
3. 取引の仕訳 (計 2 回)
4. 元帳への転記 (計 2 回)
5. 試算表の作成 (計 2 回)
- 勘定科目詳説 (その 1) (計 2 回)

決算の諸手続き

1. 決算予備手続き
2. 決算本手続き
- 精算表と財務諸表

簿記 b

総括

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業時および終了時に受け付けます。

簿記 b [05] / 簿記 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

授業の計画：

ガイダンス

・複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質
2. 勘定科目の設定
3. 取引の仕訳
4. 元帳への転記
5. 試算表の作成

簿記 a

・勘定科目詳説（その2）（計6回）

・決算の諸手続き

1. 決算予備手続き（計3回）
2. 決算本手続き（計3回）

・精算表と財務諸表

総括（1回）

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

演習（半期）[05 学則][99 学則]（春学期）水3

専任講師 赤林 由雄

授業科目の内容：

この科目では、各種の統計資料をとくに国民経済計算（SNA）を中心に体系的に理解することを目的としています。

諸君はマクロ経済学を一・二年生で学ぶわけですが、そのマクロ経済学に登場するさまざまな変数について概念としては知っていても、では実際に現実にそれらの数値がどのような値をとっているか、その数値はどのように推計されているのか、について理解している学生はあまり多くありません。おそらく「国民経済計算」と言われてそれが日本のマクロ統計のおおもとであることすら知らない学生もいるのではないかと思います。

そこでこの演習では、国民経済計算を中心とする、実際の統計データを使って、そのデータを整理しながら、国民経済計算の枠組みを理解していくこととなります。もちろん国民経済計算のデータだけでなくすべてが完結するわけではありませんので、その国民経済計算と関係するその他の統計データについても扱うこととなります。

実はこの内容は「経済資料論」と一部重複します。が、「経済資料論」は大教室での講義という性格上、十分な演習は行うことはなかなかできません。しかし少人数でのこの授業ではそれが可能です。受講者を「統計資料まみれ」状態にすることで、各種の統計についての理解を深めさせる、というのがこの演習の目的です。キツイようですが、そうすることが理解を深めるための早道だと私は信じています。したがってかなり多くの宿題が課されることは覚悟の上で受講してください。

また、この演習においては、大量のデータを整理し、集計する必要がありますが、この授業ではその作業をパーソナルコンピュータの表計算ソフト Microsoft Excel を使って行います。ただし「情報処理」の授業ではありませんので、Excel の使い方までをここで教える余裕はありません。この授業は、受講者諸君が最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として行います。Excel が使えない場合にはこの演習にはついてくることができませんのでその点も了解した上で受講してください。

追加的な情報について、WWW でお知らせすることがありますので、受講の前に <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をみておいてください。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・勘定体系の考え方
- ・日本の SNA の概要
- ・統合勘定

・制度部門別勘定を使った統合勘定の組み換え

・米国の SNA

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業は行います。

またインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC、教育支援システムを利用しますので、三田 ITC の Windows アカウント、keio.jp のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習（半期）[05 学則][99 学則]（春学期）水4

専任講師 赤林 由雄

授業科目の内容：

この科目では、産業連関分析、ならびにその前提としての国民経済計算（SNA）を体系的に理解し、現実の経済を分析するための手法をみにつけることを目的としています。

また演習においては現実のデータである公表された産業連関表を用いてさまざまな分析を受講者諸君にやってもらう予定です。

産業連関分析はかなり強力なツールですが、分析のために膨大な量の計算を必要とします。ある程度型にはまった分析であれば、公表された表に付随している計数表をみることでわかることもありますが、特定の部門について詳細に分析したいときや、さまざまな仮定においてシミュレーションを行いたいときには、自分でそのような計算をやらなければなりません。2行2列の行列演算で足りるような仮設例としての産業連関表での分析であれば筆算や電卓でも計算できますが、いやしくも現実の経済を分析しようというのならここでは数十から数百部門の行列での掛け算や逆行列計算が必要になります。そのためには、コンピュータを使った計算ができなければお話になりません。

これらの計算は、以前であれば、プログラミングができなければ難しかったのですが、最近では Excel のような表計算ソフトによって（小規模の表であれば）行うことは可能です。この演習では、この Microsoft Excel を使ってさまざまな産業連関分析の計算を行う予定です。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・SNA と産業連関表
- ・産業連関分析の理論的枠組
- ・日本の産業連関表の特徴
- ・実際の表を使った基本的な分析

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業は行います。

またインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC、教育支援システムを利用しますので、三田 ITC の Windows アカウント、keio.jp のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習 a [05 学則] (春学期)	セット履修
演習 b [05 学則] (秋学期)	
演習 [99 学則] (通年)	教授 池田 幸弘

授業科目の内容：

担当者が在外研究から帰国したばかりなので、特別な措置として演習を設けている。実質的には研究会と重ねて開講する。また、研究会のメンバーのみに履修を認める。

テキスト：

研究会の項を参照

参考書：

研究会の項を参照

授業の計画：

研究会の項を参照

履修者へのコメント：

履修者相互の活発な議論を期待する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時応ずるが、可能な限り事前にアポイントメントを取っていただけだと思います。

演習 a [05 学則] (春学期)	セット履修
演習 b [05 学則] (秋学期)	
演習 [99 学則] (通年)	教授 (有期) 稲葉 由之

授業科目の内容：

統計的方法を用いて社会・経済を説明した文献を読むことにより、仮説の設定や状況の表現方法を学ぶ。春学期は、記述統計に基づいて社会問題を分析した文献を輪読する。秋学期は、実際のデータや発表資料に基づいた分析を行い、それらをレポートとしてまとめる。

テキスト：

ハンス・ザイゼル『数字で語る 社会統計学入門』新曜社 他

成績評価方法：

レポートと平常点（出席状況及び授業態度）による評価

演習 (半期) [05 学則] [99 学則] (春学期)	教授 太田 聡一
---------------------------------------	----------

授業科目の内容：

テーマは若年雇用問題とし、若年失業、七五三離職、ニート等の問題を考える上で参考になる日本語文献を、読んでいきたい。必要に応じて、経済学のみならず教育社会学や産業社会学の文献も視野に入れてゆく。形式としては、最初は基礎的な文献を示し、そのいくつかを輪読の形で読んでいくが、参加者の関心に基づいた報告も行ってもらうことを考えている。

テキスト：

初回到論文・著書などの紹介を行う。

参考書：

玄田有史『働く過剰 大人のための若者読本』NTT 出版

履修者へのコメント：

学生の主体的な参加を希望しているので、意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

適宜メール等でも行えるように考える。

演習 a [05 学則] (春学期)	セット履修
演習 b [05 学則] (秋学期)	
演習 [99 学則] (通年)	教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容：

大沼研究会が本年度は4年生のみ(1コマ)となるので、研究会につなげる形で開講する。大沼研究会所属以外の意欲ある学生諸君 10~15名の受講を可能とする。授業は、内外の環境問題に関する論文

(日本語及び英語)をレポートしてもらい、それについてディスカッションを行う。論文は、基礎的な環境問題に関する知識やマイクロ・マクロ経済学の予備知識を必要とするものである。

成績評価方法：

毎回の授業での出席及びレポートの内容により評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

演習 (半期) [05 学則] [99 学則] (春学期)	准教授 神田 さやこ
---------------------------------------	------------

授業科目の内容：

本演習では、経済史研究における主要テーマのなかから1つをとりあげ、その切り口から今日にいたるまでの人類の経済活動を長期的な視点で学習する。本年度は「環境」をテーマにする。

テキスト：

初回の授業で指示する。

参考書：

授業内で適宜指示する。

授業の計画：

主要文献を輪読し、報告担当者の報告に基づいて議論を行う。各回の担当者には、文献の要約や討論の内容をまとめてもらう。参加人数にもよるが、参加者の関心に基づいた報告やグループでの研究報告も予定している。学期末には、いくつかの課題に基づいたレポートを提出してもらう。

履修者へのコメント：

- ・初回の授業で進め方、文献、報告者を決めるので、受講希望者は必ず参加すること。
- ・経済史研究、環境問題に関心があり、積極的に課題にとりくむ学生の参加を期待する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業後およびオフィス・アワー。e-mailによる事前予約にも対応。

演習 a [05 学則] (春学期)	セット履修
演習 b [05 学則] (秋学期)	
演習 [99 学則] (通年)	バリアフリー・ユニバーサルデザイン

准教授 駒形 哲哉
教授 中野 泰志

授業科目の内容：

現在、我が国の少子・高齢化傾向は加速し、高齢化率は世界でも最高に近い水準に達しています。法的に認定された障害者だけでも600万人を超えており、65歳以上の高齢者も2500万人以上に達しています。このように、単純に人口比から考えただけでも、障害者・高齢者は、すでに全国民中の一部のマイノリティーグループとは呼べない規模に増大しています。さらに、疾病や事故・災害等での一時的な障害も含め、短期的に心身のコンディションにハンディを持つ人は多く、何よりも「すべての人が加齢とともにやがて確実に高齢者になる」という現実を考慮すれば、バリアフリー問題は、すなわち国民全体のテーマであるといえます。

若くて、健康な人にとって、特別な理由がない限り「高齢」や「障害」ということを意識することは少ないと思います。しかし、一生を考えてみると、不自由なく、移動したり、考えたり、覚えたりできる状態に身体を保つことができるのは、一時的なことです。例えば、誰も乳幼児のときには一人では上手に食事もできなかったわけです。また、いつ病気や事故等に遭遇するかもわかりませんし、老化を避けることは誰にもできません。この意味で障害や加齢は身近な問題であり、障害や加齢の状態にある人にも住みよい社会を創っていくことは、すべての人にとって大切な課題だと言えるでしょう。

このセミナーでは、すべての人が快適に生活できる「バリアフリー（バリアのない）社会」を実現するために必要な事項について実践を行いながら、ディスカッションを行います。様々な障害のある状態を擬似的に体験するワークショップ、ノートテイク等の支援の実習、キャンパスや街のバリアチェック等の実践を通して、バリアフリー・ユニバーサルデザインについて学びます。実習は、講義時

間以外にも実施することがありますので、意欲のある学生の参加を期待します。

なお、新学則にもとづく「演習 a」と「演習 b」とはセット科目(セット履修科目)とします。

本演習で一定以上の知識・技術を修めた学生には、学部長から修了証を授与いたします。

テキスト：

講義内容のポイントをまとめた資料は、web サイト「<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/>」よりダウンロードできます。ただし、web サイトは、パスワードによるアクセス制限をかけています。パスワードは、講義の際にお伝えします。

参考書：

- ・中島隆信『障害者の経済学』東洋経済新報社
- ・吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓『大学ノートテイク入門』人間社
- ・白澤麻弓・徳田克己『聴覚障害学生サポートガイドブック』日本医療企画

授業の計画：

本演習では、以下に列挙するテーマに関する実習を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する知識・技術の修得を目指します。

テーマ1. 障害の理解と支援

障害とは何かについて疑似体験を通して学びます。また、障害のある人への支援のあり方について、聴覚障害がある人への情報提供学習(ノートテイク)を通して学びたいと思います。

テーマ2. 病気、障害、健康の概念

病気、障害、健康、高齢等のバリアフリーに関連する概念がどのように定義され、社会の中でどのように使われているかについて検討します。また、これらの概念が歴史的にどのように変遷してきたかについても調べていきたいと思います。

テーマ3. バリアフリーとユニバーサルデザイン

バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉がどのように定義され、使われてきたかについて検討します。

テーマ4. 教育のバリアフリー(特別支援教育)

障害のある子供達への教育は今、大きな転換期を迎えています。特殊教育から特別支援教育への変革です。教育を受ける権利と義務にも言及しながら、教育のバリアフリーについて検討します。

テーマ5. リハビリテーションと福祉サービス

高齢者や障害者の介護や自立支援の問題は、経済の観点から見ても重要な問題になりつつあります。ここでは、リハビリテーションや福祉サービスの現状について調査し、最低限の生活の保障と財政問題をどのように解決すればよいかについて検討します。

テーマ6. 科学技術の活用

今や科学技術は生活の様々な場面で有効利用されています。障害者や高齢者の生活にも深く関係しています。ここでは、障害者や高齢者の生活を支える様々な支援技術を紹介し、また、支援技術の適切な活用方法について事例や実習を交えながら検討します。

テーマ7. 障害者や高齢者の就労支援

組織の成員として、障害者・障害者をどのように理解すべきでしょうか? 職業を通じた社会参加の機会はずべての人に平等なのでしょうか? 従来、障害者の就学や雇用問題は、障害のある個人の問題として考えられてきました。しかし、WHO が 2001 年に障害の概念を環境との関係として捉え直したのを機に、障害者の問題ではなく、障害を作り出している環境(人的環境を含む)の問題として捉えられるようになりました。ここでは、障害のある人達の就学・就労における支援、ジョブコーチ、ワークシェアリング等について検討します。

履修者へのコメント：

本講義は、ゼミナール形式で実施します。基礎的な知識・技術についての解説だけでなく、理解を深めるために実習や討議を重視します。また、それぞれがテーマを選び、プレゼンテーションを行っていただきます。したがって、積極的に講義に参加できる学生を歓迎します。

成績評価方法：

平常点(出席と毎回提出を求めるショートレポート)、プレゼンテーション、レポートの得点で評価します。なお、配点は、平常点(出

席とショートレポート)3割、プレゼンテーション3割、実習レポート4割です。

質問・相談：

講義に関する質問等は、講義時間の前後もしくは電子メールで受け付けます。なお、電子メールのアドレスについては、講義の際に紹介します。

演習 a [05 学則](春学期)	セット履修
演習 b [05 学則](秋学期)	
演習 [99 学則](通年)	教授 須田 伸一

授業科目の内容：

担当者の研究会(3年)に準じるので、研究会の項目を参照のこと。この演習は担当者の研究会(3年)と2時限続きで開講されるものであり、履修者は研究会会員に限定する。

演習 a [05 学則](春学期)	セット履修
演習 b [05 学則](秋学期)	
演習 [99 学則](通年)	教授 高梨 和 紘

授業科目の内容：

2008 年度を通して研究会としての特定の調査プロジェクトを立ち上げ、そこで扱う研究テーマについて、理論、計量、歴史、政策の各分野を分担して調査、分析し、その結果を学術雑誌に投稿する。

テキスト：

- 高梨和紘(編著)『開発経済学』慶應義塾大学出版会, 2005 年
- 参考書：
- 高梨和紘(編著)『アフリカとアジア』慶應義塾大学出版会, 2006 年

演習 a [05 学則](春学期)	セット履修
演習 b [05 学則](秋学期)	
演習 [99 学則](通年)	専任講師 蔦木 能 雄

演習 a [05] / 演習(春)[99]

授業科目の内容：

本演習では「慶應義塾と近・現代日本」をテーマにして福澤諭吉の思想と門下生たちの業績を取り上げる。今年度は転換期日本における社会問題と「社会主義思想」の関連を議論する予定である。

テキスト：

福澤諭吉『文明論之概略』他

参考書：

- ・丸山真男『文明論之概略を読む』岩波新書(上・中・下), 1986 年
- ・飯田鼎著作集 第6巻『福澤諭吉と自由民権運動 自由民権運動と脱亜論』御茶の水書房, 2003 年

授業の計画：

新年度開始にガイダンス 1 回

春学期では『文明論之概略』のうち「緒言」についての考察。

- 巻之一 第一章 議論の本位を定る事
- 第二章 西洋文明を目的とする事
- 第三章 文明の本旨を論ず
- 巻之二 第四章 一国人民の智徳を論ず
- 第五章 前論の続き までを読了予定。

履修者へのコメント：

- ・「社会思想(史)」に関心のある学生諸君の参加を期待する。
- ・学ぶことに積極的な学生諸君を希望する。
- ・毎回報告、毎回報告要旨作成の必要あり。無断欠席厳禁。

成績評価方法：

- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- ・出席重視。授業態度重視。無断欠席厳禁。

演習 b [05] / 演習(秋)[99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期では春学期に続いて『文明論之概略』のうち

巻之三 第六章 智徳の弁

巻之四 第七章 智徳の行わるべき時代と場所とを論ず

第八章 西洋文明の由来

巻之五 第九章 日本文明の由来

巻之六 第十章 自国の独立を論ず を読了予定。

全体の読了後、出席者全員による討論。早期に読了した場合、出席者の要望に応じ授業科目に即した内容の関連著書を取り上げる。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

演習 a [05 学則] (春学期)

セット履修

演習 b [05 学則] (秋学期)

演習 [99 学則] (通年)

教授 寺 出 道 雄

授業科目の内容：

現代の農業問題について輪読と個人研究の指導を行う。

テキスト：

第一回目の授業で受講者の希望も聞いて決定するので、必ず第一回目の授業に出席すること。

授業の計画：

前半期 上記テキストの講読

後半期 テキストの講読と個人研究の指導

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
 - ・平常点（出席状況および授業態度）
-

金融資産市場論 a [05 学則]

セット履修

(野村ホールディングス株式会社寄附講座)(春学期)

金融資産市場論 b [05 学則]

(野村ホールディングス株式会社寄附講座)(秋学期)

金融資産市場論 [99 学則]

(野村ホールディングス株式会社寄附講座)(通年)

教授 吉 野 直 行

准教授 藤 田 康 範

金融資産市場論 a [05] / 金融資産市場論 (春) [99]

授業科目の内容：

この講義は、野村ホールディングスからの寄附講座であり、毎回、学部金融の専門の講師をおよびして講義を行う。現場の金融行政、金融政策、貸出、資産運用などの経験から、さまざまな金融を取り巻く実情をお話いただく。前期と後期の2単位となっているが、通年で聞くことが望ましい。

講師は、金融庁、日本銀行、財務省、地方の財務局などの公的な機関、IMF（国際通貨基金）、World Bank（世界銀行）、ADB（アジア開発銀行）などの世界の公的機関、銀行、証券、信託、保険など民間金融機関の方々による講義である。2・3回、外国人の講師による英語での講義も含まれることもある。

一年間を通じて、金融資産市場でのプレーヤー、政策当局、金融活動を営む企業・個人の動きを、大きく理解できるように、講義を構成する。よって、前期と後期の両方を聴講することが望ましい。

講義には、2/3以上の出席が必要で、毎回の講義の最後15分間で、講義の要点をまとめて提出すること。最終の成績は、(i)毎回の要旨、(ii)学期末試験、の合計で判断する。

テキスト：

なし

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年（編）『入門・金融』有斐閣
- ・吉野直行・藤田康範（編）『中小企業金融と金融環境の変化』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- ・日本の金融活動の流れ
-

- ・家計の貯蓄行動
- ・預金保険制度と金融機関の破綻
- ・金融庁の金融行政
- ・日本銀行の金融政策
- ・証券行政（証券取引市場監視委員会）
- ・貸出債権の証券化
- ・不動産市場と不動産金融
- ・日本の証券市場
- ・財政投融資と新しい政系金融
- ・日本の信託
- ・保険の機能と役割
- ・日本郵政の行動と郵便貯金などのテーマを扱う予定

履修者へのコメント：

セット科目のため、春学期・秋学期をともに履修する必要がある。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業の要点ノート）による評価

質問・相談：

毎回の講義の最後に質問時間を設ける。

金融資産市場論 b [05] / 金融資産市場論 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ・金融行政の変化とその変遷
- ・世界の公的機関の活動（IMF、世界銀行、アジア開発銀行など）
- ・銀行行動
- ・証券会社の行動
- ・信託の活動
- ・保険の行動
- ・年金運用
- ・資産運用
- ・為替の動きと資金フロー
- ・国際協力銀行の業務と役割
- ・アジアの資金フローとアジア債券市場
- ・日本の国債市場
- ・日本の社債市場
- などのテーマを扱う予定

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

毎回提出される授業での小テストと学期末試験の成績を合計して評価する。

質問・相談：

春学期参照

企業金融論 a [05 学則]

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座)(春学期)

企業金融論 b [05 学則]

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座)(秋学期)

企業金融論 [99 学則]

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座)(通年)

教授 塩 澤 修 平

准教授 土 居 丈 朗

企業金融論 a [05] (寄附講座) / 企業金融論 (春) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

ファイナンスは、企業金融論と投資理論および資産市場論の2本柱から構成される。本講義は、もちろん前者を中心とする。それに伴い、本年度の特殊科目「ファイナンス入門 a, b」は、後者を中心に講述される予定である。

企業金融論の場合には、理論と実践のバランスがとりわけ重要で

ある。そのために、講義では、実務経験の豊富な外部講師に多くを担当してもらう。ただし、その場合でも、理論的な整合性等には最大限の配慮を払うように依頼し、同一者に1回限りではなく2~3回の講義を担当してもらうことで、できるだけ体系的な説明がなされるようにする。

加えて受講者には、講義への参加とともに、積極的に自習を行うことを求めたい。具体的には、企業金融論の最も標準的なテキストである Brealey & Myers, *Principles of Corporate Finance* の邦訳を指定教科書とし、その内容を講義の予習復習として自習することを受講の条件とする。

テキスト：

リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ『コーポレート・ファイナンス(第8版)』日経BP社、上巻(近刊予定)

参考書：

・大村敬一・他『経済学とファイナンス』東洋経済新報社、2004年
・池尾和人(編著)『エコノミクス・入門金融論』ダイヤモンド社、2004年

授業の計画：

春学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の上巻の構成に対応させて、ガイダンス(1回)のあと、

- 第1部 価値(2回)
- 第2部 リスク(2回)
- 第3部 資本支出予算における実際的な問題(2回)
- 第4部 資金調達決定と市場の効率性(3回)
- 第5部 配当政策と資本構成(3回)

という順序で講義を行う。

講義は、外部講師を招いて実施することを基本とするが、当初は、基礎的なファイナンスの知識を受講生に与えることが不可欠なので、前半6回のうち、4回を割いて講述する。その間に、企業金融・財務の活動について幅広い経験をもった実務家とコーポレート・ガバナンス(企業統治)に関する見識の高い経営者をゲスト講師として招へいし、それぞれ1回ずつ担当してもらう。

後半の第4部は証券会社、第5部は事業会社の財務部門の実務家を招いて、それぞれ3回構成で講義を行ってもらう。

履修者へのコメント：

企業金融論(ファイナンス)の基礎知識は、財務や経理の分野で職を得ようとする者のみにとどまらず、現代の社会に生きるすべての者にとって、いまや必要不可欠なものとなっている。その意味では、企業金融論は、就職を控えた経済学部4年生は全員履修してもおかしくない科目である。

しかし同時に、企業金融論の内容を十分に修得するためには、かなりの学習量を必要とする。それゆえ、既述のように、受講生にはしっかりとテキストの自習を行い、ファイナンス理論の理解を深めるように十分に努力することが求められる。この点では、真に学習意欲の高い学生でなければ、本講義から十分な成果を得ることは難しいといえる。

成績評価方法：

成績の評価は、春学期・秋学期の各々終了時に試験を実施し、その得点による。出席点は特に考慮しない。試験の出題範囲は、講義中に述べられたもののみならず、指定テキストの内容も含むものとする。

企業金融論 b [05] (寄附講座) / 企業金融論(秋) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の下巻の構成に対応させて、春学期の復習(1回)のあと、

- 第6部 オプション(3回)
 - 第7部 負債による資金調達(2回)
 - 第8部 リスク管理(2回)
 - 第9部 財務計画と短期の財務管理(2回)
 - 第10部 合併および企業のコントロールとガバナンス(3回)
- という順序で講義を行う。

第6部については、デリバティブ全般について、実務家と大学研究者の組み合わせで3回の講義を行う。第10部についても、同様の構成を考える。第7, 8, 9部については、それぞれ証券会社、銀行、事業会社の適切な実務家を外部講師として招へいし、2回ずつの講義を担当してもらう。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

金融投資サービス論 a [05] 学則] (株式会社東京金融取引所寄附講座)(春学期)	セット履修
金融投資サービス論 b [05] 学則] (株式会社東京金融取引所寄附講座)(秋学期)	
金融投資サービス論 [99] 学則] (株式会社東京金融取引所寄附講座)(通年)	
	教授 吉野直行 准教授 藤田康範

金融投資サービス論 a [05] (寄附講座) / 金融投資サービス論(春) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

複雑化する金融商品の種類、取引手法、それが取引される金融市場に関する知識は必須のものとなりつつある。「金融商品取引法(投資サービス法)」も制定され、金融サービス業や企業の財務分野で活躍することを目指す学生にとっては、金融商品・取引・金融市場を学ぶことは、必要不可欠となってきている。「金融投資サービス論」を学ぶことにより、幅広く金融に関するより専門的な知識が身に付くことを目指すものである。なお、寄附講座「金融資産市場論」と同様に、専門的な実務経験を有する外部講師による講義を行う予定である。

授業の計画：

講義の概要は以下の予定である。

- (1) ガイダンス(1回)
- (2) 金融商品の種類・その取引(2回)
- (3) 金融機関と金融市場(2回)
- (4) 金融政策の金融商品市場への影響(2回)
- (5) 金融行政と金融商品市場(2回)
- (6) 為替市場の変動と為替先物(2回)
- (7) 国際金融市場における金融商品取引(1回)
- (8) 金融行政と金融機関の行動(1回)
- (9) 東京市場と海外の取引所との比較
- (10) アジアの金融取引市場
- (11) 金融先物取引の特徴
- (12) オプション・スワップ取引
- (13) 日本の株価の変動要因
- (14) 債権先物市場

以上の予定。

履修者へのコメント：

セット科目のため、春学期・秋学期をともに履修する必要がある。

成績評価方法：

学期末試験を実施するとともに、学生の理解を調べる小テストを毎回、実施する。

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点(出席状況および毎回提出の小テスト)による評価
- 質問・相談：
講義の終りに受け付ける。

金融投資サービス論 b [05] (寄附講座) / 金融投資サービス論(秋) [99] (寄附講座)

授業科目の内容：

春学期参照

授業の計画：

講義の概要は以下の予定である。

- (1) 金融行政と金融市場(1回)
- (2) 預金保険制度と銀行行動(1回)
- (3) 金融商品取引法(1回)

- (4) 金融経済教育(1回)
- (5) 家計の金融資産の選択行動(1回)
- (6) 企業の金融資産選択行動(1回)
- (7) 証券取引監視委員会の機能と役割(1回)
- (8) 生保・損保の金融商品とその役割(2回)
- (9) 中小企業金融機関と金融取引(2回)
- (10) 地域金融と金融取引(2回)

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

毎回提出の小テストと学期末試験の評価を合計する。

質問・相談:

講義の終りに受け付ける。

専門外国書講読 a [05 学則] (英) (春学期) セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (英) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (英) (通年)

教授 太田 聡

専門外国書講読 a [05] (英) / 専門外国書講読 (春) [99] (英)

授業科目の内容:

米国の労働経済をわかりやすく分析している, Richard B. Freeman “America Works: Critical Thoughts on the Exceptional U.S. Labor Market” を輪読する。Freeman はハーバード大学教授でアメリカの労働経済分析の泰斗である。それだけに内容的には大変濃い本であり, こうした書物に取り組み意欲のある学生に参加してほしい。基本的には, 書物の各パートを学生が担当し, 書いてあることをまとめて日本語で報告する形式をとる。

テキスト:

Richard B. Freeman, *America Works: Critical Thoughts on the Exceptional U.S. Labor Market*, Russell Sage Foundation Publications, April 30, 2007

参考書:

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画:

輪読なので特になし。

履修者へのコメント:

英書を読みながら, アメリカの労働市場の実態を(日本と比較しながら)考えるセミナー的なものになりたいと思っている。意欲のある人の参加を希望する。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度による評価)

専門外国書講読 b [05] (英) / 専門外国書講読 (秋) [99] (英)

授業科目の内容:

春学期に引き続き, 労働市場の動向に洞察を与えると思われる書物を選定し, 輪読する。まだ正式には決めていないが, Francine D. Blau and Lawrence M. Kahn, “At Home and Abroad: U.S. Labor Market Performance in International Perspective (Paperback)” を候補に考えている。

テキスト:

Francine D. Blau and Lawrence M. Kahn, *At Home and Abroad: U.S. Labor Market Performance in International Perspective* (Paperback), Russell Sage Foundation Publications, April 5, 2007

参考書:

春学期参照

授業の計画:

春学期参照

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

専門外国書講読 a [05 学則] (英) (春学期) セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (英) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (英) (通年)

教授 高梨 和 紘

授業科目の内容:

国際経済学に関する文献を選び, 精読することによって専門的知識を吸収する。

2006 年度は, H. ミント教授と J. サックスの文献を選んで開発理論におけるユニークな考え方を学んだ。

テキスト:

特にナシ

参考書:

特にナシ

授業の計画:

13 回に渡って, 受講者の積極的参加を促しながら進める。

履修者へのコメント:

専門的知識を吸収することに積極的であってほしい。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度)による評価

質問・相談:

授業終了直後

専門外国書講読 a [05 学則] (英) (春学期) セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (英) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (英) (通年)

専任講師 蔦木 能 雄

専門外国書講読 a [05] (英) / 専門外国書講読 (春) [99] (英)

授業科目の内容:

Thomas E. Willey, *Back to Kant*, 1978 を用いて 1860 年から 1914 年に至る時代と「ドイツ社会主義思想史」を講義してみたいと考えている。

「Back to Kant」の表題から判るように, この時代はカント主義が復活した時期であるが, 一方では資本主義の全盛期を迎え, 他方では労働者運動と社会主義思想が興隆期を迎える時代でもある。それはまた経済学にとっても「新しい時代」を迎えることにもなった時代である。

本講義では, そうした「新しい時代」を迎えた社会的背景を考察しながら, では何故「カントへ返れ」という動きが生じてきたのか, その思想的・哲学的基礎を考察してみる。

本講義で用いるテキストの構成は以下の如くである。

1. The Political and Intellectual Setting
2. Back to Criticism: Rudolf Hermann Lotze
3. Hegelians Manque: Kuno Fischer and Eduard Zeller
4. Friedrich Albert Lange: Kantian Democrat
5. Neo Kantian Socialism
6. The Southwestern School
7. Individuality, Society, and Humanity: The Consequences of Neo-Kantianism

テキスト:

履修者数に応じて当方で用意する。

参考書:

- ・関嘉彦『社会主義の歴史』1, 2, 力富書房, 1987 年
- ・水田洋『新稿社会思想史』ミネルヴァ書房, 2006 年

授業の計画:

春学期では近代ドイツ史をめぐる問題を含めて 13 回。

履修者へのコメント:

社会主義思想, 社会思想(史)に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法:

- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- ・出席重視。授業態度重視。無断欠席厳禁。

専門外国書講読 b [05] (英) / 専門外国書講読 (秋) [99] (英)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期では、春学期での成果を踏まえて「ドイツ社会主義思想」の各論について13回を予定している。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

専門外国書講読 a [05 学則] (独) (春学期) セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (独) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (独) (通年)

教授 飯田 恭 (春)

講師 森 涼子 (秋)

専門外国書講読 a [05] (独) / 専門外国書講読 (春) [99] (独)

授業科目の内容：

ドイツ社会の歴史と現状に関するドイツ語の論文・評論・講演・記事などをテキストとして取り上げ、それを日本語に翻訳する。履修者にテキストの訳稿を作成・提出してもらい、それについて担当教員が添削指導を行うことで、ドイツ語のテキストを正確に読みこなす能力を養う。そして時間の許す限り、テキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

テキスト：

初回に提示する。

参考書：

授業中に紹介する。

成績評価方法：

提出してもらった訳稿にもとづいて評価する。

専門外国書講読 b [05] (独) / 専門外国書講読 (秋) [99] (独)

授業科目の内容：

ドイツの社会・歴史および、ドイツ人の視点からみた日本文化などに関する文献を講読する。ドイツ語文献を文法的に正確に理解し、自力で的確に読みこなせるようになるよう訓練する。ただ単に一文一文を翻訳するにとどまらず、全体の論旨を理解することを目標とし、時間の許す限りテキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

テキスト：

初回にプリントを配布する。

参考書：

授業中に挙げる。

授業の計画：

初回に授業の進め方とテーマについてのガイダンスを行う。その後、文献を講読する。文法事項を復習し、文章構造を確認しながら、テキストを読み進める。各回の発表および分担に関しては、出席者の自発性を重視する。必要に応じて、内容に関するまとめを行う。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲のある学生を歓迎する。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

授業後に受け付ける。

専門外国書講読 a [05 学則] (仏) (春学期)

セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (仏) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (仏) (通年)

講師 篠原 洋治

授業科目の内容：

本講義では思想史の新たな方法論を模索するために、アナル派に端を発する社会史、あるいは精神分析学的手法を用いた歴史など、歴史学における近年の意欲的な試みを扱った論文や著作の抜粋を読みたい。

授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をする。

テキスト：

コピーを配布する。

履修者へのコメント：

履修者には、毎回の出席と予習を要求する。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

授業時のテキストの音読と読解により評価する。

専門外国書講読 a [05 学則] (仏) (春学期)

セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (仏) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (仏) (通年)

准教授 難波 ちづる

授業科目の内容：

現代フランス社会や歴史 (近現代史)、歴史方法論に関する文献を講読する。フランス社会における諸問題と、それに関連する過去の歴史的事実をリンクさせながら、フランス現代史への理解を深める。

テキスト：

講義時に配布する。

参考書：

講義中に指示する。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

専門外国書講読 a [05 学則] (中) (春学期)

セット履修

専門外国書講読 b [05 学則] (中) (秋学期)

専門外国書講読 [99 学則] (中) (通年)

講師 馬 挺

授業科目の内容：

この授業では、中国経済の現状に関するトピックを新聞、雑誌、ウェブから選択して読む。できるだけ経済的背景をもって読み進めるが、中国経済を中国語で読む場合、言葉としての中国語だけでなく、中国の文化、社会の現状、そして中国人のものの考え方などがある程度理解することも不可欠になってくる。

したがって、本授業は上記の内容を目標としつつ、中国語文章の解読・文法・朗読などを練習・解釈することも重視する。同時に、学生の要望を応じて、映像などの資料を用いて、中国事情について説明や討論も行う予定である。

テキスト：

メイン：プリントを配る。

サブ (必備)：三瀧正道・陳祖A 『2008 年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

参考書：

授業時指示

授業の計画：

最初の2回程度は受講者のレベルを把握しつつ試行授業を行う。

春学期は上記テキスト (三瀧正道・陳祖A 著) を用い、発音の練習をはじめとして、中国語の文法の基本や解読の要領に重点をおく。後期は、3. 内容に記したように、最近の中国経済などに関する文章を読み、訳および見解の発表と討論など、実践的に授業を進めていく。

履修者へのコメント：

指示に従って辞書などを準備すること。

<http://www.aoni.waseda.jp/tingma/index.html>

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

アドレスにメールで連絡。メールの「件名」に必ず「慶応 三田」と名前を記入すること。

専門外国書講読 a [05 学則] (西) (春学期) セット履修
専門外国書講読 b [05 学則] (西) (秋学期)
専門外国書講読 [99 学則] (西) (通年)

教授 清水 透

専門外国書講読 a [05] (西) / 専門外国書講読 (西) (春) [99]

授業科目の内容：

- ・すでにスペイン語文法を習得した方々を対象とします。
- ・ラテンアメリカ地域研究へ向けて、基礎的学術論文を読み取る能力の向上をはかります。
- ・ただし、入門スペイン語を終え、さらに語学力を高めたい方々も歓迎します。
- ・使用テキストの内容は、ラテンアメリカ文化論・社会史が中心となります。

テキスト：

適宜配布します。

参考書：

なし。

授業の計画：

夏季休暇前までは、テキストの緻密な読みに徹します。

履修者へのコメント：

昨年度は受講生4名で、本当に充実した授業になりました。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）による評価

毎回の報告内容により評価する。

専門外国書講読 b [05] (西) / 専門外国書講読 (西) (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期からは、テキストの内容の把握に重点をおき、速読を原則として授業を進めます。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

専門外国書講読 a [05 学則] (露) (春学期) セット履修
専門外国書講読 b [05 学則] (露) (秋学期)
専門外国書講読 [99 学則] (露) (通年)

准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

基礎的ロシア語文法を習得した、ロシアに関心のある学生を対象に、ロシア地域についての理解を深めると同時に、語学力の向上を図ることを目的とする。

ロシア語初級コースを終了した人なら誰でも読解できるやさしい文章のテキストから始まる。テキストは示唆的かつ読みやすい短い記事や論文とするが、学生の要望や問題意識に柔軟に応じて、新聞やインターネットなどから広く取り上げる。さらに、よりリアルな理解を図るために視聴覚的媒体を用いる。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

随時紹介する

授業の計画：

授業は、全員によって提出される訳文の教員による訂正と添削を通じて、読解を進めていく形を取るが、さらに、テキストの内容についての理解と議論を通じて、ことばだけでなく、ロシア社会・経済・歴史・政治などについての理解を深めていくと同時に、幅広い知識の共有を図る。

成績評価方法：

平常点

〔研究会〕

研究会 a・b (3 年) [05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) [05 学則]
研究会 (3 年) [99 学則]
研究会 (4 年) [99 学則] 教授 赤林 英夫

授業科目の内容：

この研究会では、応用ミクロ経済学、教育の経済学、家族の経済学、政策評価方法論を中心に扱います。

教育の経済学と家族の経済学は、労働経済学から派生し、今では各々、独立した分野として確立されています。そこで扱うテーマとしては、教育や出生などの問題だけでなく、犯罪や宗教など、従来経済学があまり取り上げてこなかったような、社会と個人が複雑に絡み合う問題も含まれます。アプローチとしては、個人の最適化行動と均衡概念などの経済学的視点から現在を理解する、「応用ミクロ的」手法を重視します。具体的なテーマのイメージとしては、秋学期開講の「家族と教育の経済学」の履修案内をご覧ください。研究会では、同時に、労働経済学の基礎知識についても学習します。

政策評価方法論は、私たちが直面する社会問題に対して行われる政策の有効性を、ミクロ的かつ実証的に検証する手法を考える分野です。教育、労働、家族に関する理論を学ぶと、自然に、税制、社会保障制度、保育政策、教育政策、雇用政策などの意義と有効性を考えることとなります。しかし、どの政策にもプラスマイナスがあり、政策がどのような効果を与えるか、理論的には予想できないことがほとんどです。そのときに必要となるのが統計的な手法を用いた厳密な政策評価です。特区を利用して様々な政策が試みられている現在、政策評価は、最も必要とされている研究分野の一つであるだけでなく、実務でも、シンクタンクや国際機関などを目指す人にとって、必須の技術となるでしょう。それらの手法について、本研究会では、理論的学習に引き続き、可能な限り使っていきたいと思っています。

授業の計画：

3 年生は、輪読による基礎的な学習に続き、三田祭での発表を目標としてグループ研究を行います。

履修者へのコメント：

現在の、教育や少子化などの世間での論争に、自分なりの疑問を持っている人、思いつきではなく、論理とデータで、これらの問題に迫ってみたい人、「経済分析」があまり行われていない領域を積極的に発掘したい人、を歓迎します。ゼミでの活動には、ミクロ経済学と統計学の基礎の理解が必要です。また、私のホームページ <http://www.econ.mita.keio.ac.jp/staff/hakab/index.html> には、より詳細な情報がかかれていますので、志望する際には必ず目を通してください。

成績評価方法：

- ・レポート（卒論）
- ・平常点（ゼミへの貢献度）

研究会 a・b (3 年) [05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) [05 学則]
研究会 (3 年) [99 学則]
研究会 (4 年) [99 学則] 准教授 秋山 裕

授業科目の内容：

本研究会は、経済発展に関わる問題について計量経済学的手法を活用した実証を中心とした研究を行います。経済現象の分析にあたっては、「経済問題」、「経済理論」、「経済統計」をバランスよく組み合わせることが不可欠です。本研究会では、経済発展という幅広く

重要な問題について、理論を踏まえながら、実証的に研究することを柱とします。

そのため、本ゼミでは、経済発展に関わる「経済問題」と「経済理論」を中心に学習し、サブゼミでは、コンピュータを用いながら実証分析の実際を中心に学習し、オフィス・アワーでは、4年次での卒業論文の作成を念頭に置きながら、個別プロジェクトの進展をはかっていきます。また、本研究会では共同研究を重視しています。三田祭での研究発表はもちろん、本ゼミでの学習においてもグループ単位での準備、発表、討論によって、より質の高い研究を行うことができるように心がけています。

研究会 a (3年)[05] / 研究会 (3年)(春)[99]
・基礎トレーニング(プレゼンテーション, 文献輪読, コンピュータ)
・研究トレーニング(三田祭共同論文の企画書の作成, テーマの決定, 分担作業)

研究会 b (3年)[05] / 研究会 (3年)(秋)[99]
・研究トレーニング(三田祭共同論文の論文執筆, パネル作成, スライド作成, プレゼンテーション)
・卒業論文(経済発展に関するテーマならばテーマは自由)の企画書の作成, テーマの決定

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

[春学期] 卒業論文の論文執筆, プレゼンテーション
・基礎トレーニング(文献輪読)
・研究トレーニング(三田祭共同論文の企画書の作成, テーマの決定, 分担作業)

[秋学期] 卒業論文の論文執筆, プレゼンテーション
・研究トレーニング(三田祭共同論文の論文執筆, パネル作成, スライド作成, プレゼンテーション)

テキスト:

研究会 a, b (3年)[05] / 研究会(3年)[99]
第1回授業時に本ゼミにおける輪読文献を指示します。

参考書:

研究会 a, b (3年)[05] / 研究会(3年)[99]
個別テーマの参考文献は授業時に指示します。

授業の計画:

授業の構成は以下のとおりです。(それぞれの授業回数は進度に依って調整します。)

研究会 a (3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
1. プレゼンテーションの練習(2回)
2. 基本文献の輪読(6回)
3. 共同論文の企画立案のための発表・討論(5回)

研究会 b (3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]
1. 共同論文の発表, 討論(8回)
2. 卒業論文の企画立案のための発表・討論(5回)

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

[春学期]

1. 基本文献の輪読(6回)
2. 卒業論文の発表, 討論(2回)
3. 共同論文の企画立案のための発表・討論(5回)

[秋学期]

4. 共同論文の発表, 討論(5回)
5. 卒業論文の発表, 討論(8回)

履修者へのコメント:

「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはいえませんが、この経済的進歩に少しでも貢献できることが重要であると思います。そして、研究会活動を通じて、社会で通用するエコノミストになれるように、互いに切磋琢磨していけたらと思います。そのため、研究会活動には常にある水準以上の行動が必要であると考えています。

研究会活動については学生が管理している秋山裕研究会 Web サイト (<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/akiyama/>) を参照してください。

成績評価方法:

研究会 a (3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
・研究会での発表およびその資料

・研究会での発言
・グループワークでの貢献

研究会 b (3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

・研究会での発表およびその資料
・研究会での発言

・グループワークおよび共同論文での貢献
研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
・研究会での発表およびその資料
・研究会での発言
・グループワークおよび共同論文での貢献
・卒業論文

質問・相談:

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の授業にて指示します。

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]	
研究会(3年)[99 学則]	
研究会(4年)[99 学則]	准教授 新井 拓 児

授業科目の内容:

ファイナンス理論に関するゼミを行う。特に、金融派生商品の価格付け理論を中心に、その基本的考え方を理解することを目的とする。3年生は日本語で書かれた確率論のテキストを輪読する。

4年生はファイナンスに関するテキストを輪読し、卒業論文の作成を行う。

テキスト:

第1回の授業の時に紹介する。

参考書:

授業中に紹介する。

履修者へのコメント:

研究会参加者は「ファイナンス入門」、「確率・統計」の講義を履修すること。その他、数学関連の講義を多く履修していることが望ましい。

成績評価方法:

レポートと平常点(出席と授業態度)

質問・相談:

メールまたはオフィスアワー

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]	
研究会(3年)[99 学則]	
研究会(4年)[99 学則]	教授 飯田 恭

授業科目の内容:

本研究会では、ヨーロッパを中心とした比較社会経済史の研究を行う。具体的には、この共通テーマに関する基礎文献をメンバー全員で輪読すると同時に、各メンバーが個別の研究テーマを設定し、それについて三田祭論文及び卒業論文を完成させることとなる。

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会(3年)[99 学則]	教授 池田 幸弘

授業科目の内容:

私の研究会では、開講以来小さな政府の主張者であるフリードリッヒ・ハイエクを中心に研究してきた。在外研修から帰国するのを契機として、今年度は大きな政府、福祉国家の経済思想について学習することにしたい。具体的には、ウィリアム・ベバリッジ、ジョン・メイナード・ケインズあたりを想起されたい。現在行われている大きな政府対小さな政府の論争、そして福祉国家の将来像について、経済思想史研究、経済政策思想史研究からのアプローチをはかる。

テキスト:

研究会 a (3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

さしあたり、下記のを輪読する。

小峯敦編著『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版

研究会 b (3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

後期については未定。

参考書:

適宜指示する。

授業の計画:

研究会 a (3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

主としては、上記のものを含めた書物の輪読によるので、定ま

った講義計画というものはない。ほかに、大学院生によるサブゼミなどを予定している。

研究会 b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(秋)[99]

研究会 a (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春)[99] に同じ。

ほかに、後期には大学相互間のインター・カレッジのセミナーなどを予定している。

履修者へのコメント：

議論好きな学生の参加を心待ちにしています。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時受け付ける。研究会以外の時間については、事前にアポイントメントをとりたい。

研究会 a・b (3 年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則]

研究会 (3 年)[99 学則]

研究会 (4 年)[99 学則]

准教授 石橋 孝次

授業科目の内容：

ミクロ経済学の応用分野である産業組織および企業理論の研究を行う。ゲーム理論と契約理論を分析用具とした上で、企業組織・企業行動や経営戦略などについて学ぶことを目的とする。

授業の計画：

通常の授業は、参加者によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

研究会 a (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春)[99]

ゲーム理論のテキストと産業組織のテキストを用いた基礎的学習を行う。

研究会 b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(秋)[99]

契約理論とその応用に関する文献を学習する。また、パートゼミの活動に基づいたパート別の共同論文の発表を行う。

研究会 c, d, 卒業論文 (4 年)[05] / 研究会 (4 年)[99]

春学期に卒業論文のテーマ設定と研究計画の立案を繰り返し行う。テーマについてはある程度幅広く許容するが、現実の経済問題を取り上げて理論分析と実証分析を行うことを求める。夏合宿で第 1 回の中間報告を行い、秋学期には第 2 回と第 3 回の中間報告を行う。卒業論文は 11 月に中間提出し、1 月に最終提出する。

研究会 a・b (3 年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則]

研究会 (3 年)[99 学則]

研究会 (4 年)[99 学則]

准教授 伊藤 幹夫

授業科目の内容：

研究会 a (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春)[99]

この研究会では金融に関連するマクロ経済学のトピックに関して、理論と実証の両面から学習・研究を行う。前期は、金融に関するミクロ経済学を学ぶために必要な数学、金融制度、歴史を学ぶ。

研究会 b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(秋)[99]

後期においては、実証分析に必要な計量経済学の基礎ならびに、計量作業に必要な統計言語 R の習得と、金融に関する論文の輪読と、実証作業を行う。

研究会 c, d, 卒業論文 (4 年)[05] / 研究会 (4 年)[99]

4 年生は、3 年生時に研究会で行った題材の中から、自らが興味をもった題材について、卒業論文を作成する。

テキスト：

研究会 a (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春)[99]

池田昌幸『金融経済学の基礎』朝倉書店

研究会 b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(秋)[99]

乾孝治・室町幸雄『金融モデルにおける推定と最適化』朝倉書店

参考書：

研究会 a (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春)[99]

舟尾暢男・高浪洋平『データ解析環境「R」』工学社

研究会 b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(秋)[99]

『The R Tips』九天社

授業の計画：

研究会 a (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春)[99]

1. ゼミ学習に必要な IT スキルの習得 (3 週)

2. 金融制度の学習 (3 週)

3. 金融理論と経済理論の基礎の学習 (3 週)

4. 数学と統計学の学習 (4 週)

研究会 b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(秋)[99]

5. 統計言語 R の習得 (3 週)

6. 計量経済学の基礎 (3 週)

7. 選択された論文の輪読と実証作業 (7 週)

研究会 c, d, 卒業論文 (4 年)[05] / 研究会 (4 年)[99]

卒論指導 (適宜)

履修者へのコメント：

学部生にとってややレベルが高いことを課すことがあるので、真面目にやった学生諸君は、非常な達成感が得られるでしょう。

成績評価方法：

研究会 a, b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)[99]

平常点

研究会 c, d, 卒業論文 (4 年)[05] / 研究会 (4 年)[99]

卒論

質問・相談：

質問用の e-mail アドレスと、Wiki サイトを用意する予定。

研究会 a・b (3 年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 (3 年)[99 学則]

教授 (有期) 稲葉 由之

授業科目の内容：

本研究会の目的は、社会・経済における問題について根拠を挙げて説明するとともに、問題解決に向けての考察を行う能力を育成することにある。問題を把握するための方法の一つとして、社会調査やデータ分析などの統計的方法がある。本研究会では、統計的方法を用いて説明に根拠を示すための知識と技術を学ぶ。

テキスト：

第 1 回目に指定する。

参考書：

適宜、紹介する。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

研究会 a・b (3 年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則]

研究会 (3 年)[99 学則]

研究会 (4 年)[99 学則]

教授 植田 浩史

授業科目の内容：

研究会 a, b (3 年)[05] / 研究会 (3 年)(春, 秋)[99]

研究会では、日本や海外の製造業を中心とした産業や企業の動きを通じて、現代経済の動きについて学び、現実の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察できる力を養っていくことを目的とする。ゼミは輪読を中心とするが、夏季休暇などには大企業、中小企業などの企業訪問、工場見学なども実施し、現実の姿からも学んでいきたい。

研究会 c, d, 卒業論文 (4 年)[05] / 研究会 (4 年)[99]

大学生活最後の年として、卒論の執筆に向けた指導を行っていく。

テキスト：

参加者と相談の上、決定する。

参考書：

後日指定する。

授業の計画：

後日指定する。

履修者へのコメント：

現実の産業や企業を、歴史的、現状分析的、現場的な視点をバランスよく使いながら、見ていくことを勉強していきたいと思っています。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 太田 聡 一

授業科目の内容:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
労働経済についての基礎的な文献を読み、それ以降の本格的な研究の導入とする。やさしい教科書から始まり、様々なトピックスについての雑誌論文などに進んでいきたい。
研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]
分析的な手法を身につけることを主眼とする。計量経済学の知識を使って、実際のデータで労働市場の分析を行ってみる。
研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
「経済格差」についての最近の研究を輪読する。

参考書:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
太田聡一・橋本俊詔『労働経済学入門』有斐閣
研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]
大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社

履修者へのコメント:

この研究会は少人数を旨として運営してゆく。また、英語文献も含めて多くの文献を読みたいので、意欲のある学生に参加してほしい。
成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談:

適宜受け付ける。

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会(4年)[99学則] 教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容:

この研究会では、環境経済学のディシプリンを身に付けながら、現実の環境問題に適用することにより、その有効性と可能性を考察していきます。代表的なテキストの一冊を輪読・議論していきますが、並行して、環境経済学のカバーする諸領域から特に各自関心のある問題・テーマを選択し、理論・実証の両側からの学習を進展させてもらいます。

また、毎回、一定の時間、内外の最新の環境問題のニュースを簡潔に報告してもらい、それぞれの問題について議論する予定です。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度)

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 准教授 大平 哲

授業科目の内容:

地域開発に関する理論を学習する。くわしくは研究会のウェブサイト参照すること。

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 大村 達 弥

授業科目の内容:

戦後わが国は日本型経済システムの下で右肩上りの発展を経験してきたが、20世紀末において国際政治経済の大きな枠組みに変化が現われ、経済のグローバル化・情報化が進む中、わが国では金融システム上の問題が発生したにもかかわらず変化への対応は緩慢であった。80年代から始まった構造改革政策はようやく先が見える段階にきたものの、財政改革、少子高齢化対策などに課題を抱えている。そこでこれまでの構造改革政策の成果を検証するとともに、今後の経済政策のあり方に目を向けてゆく。授業では、構造政策、長期経済政策等に関する先行研究等の文献に当たり、研究発表形式で授業を

進めてゆく。

テキスト:

授業の最初に指示する。

参考書:

必要に応じ随時指示する。

授業の計画:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
プログラム 毎回4限では、指示したテキストの1章分を材料に、関連したテーマについて発表を行う。5限では発表内容について討論を行う。プログラム 4年生の卒論中間報告内容について討論、プログラム 夏期休暇前に共同論文の構想を発表し、夏期休暇を利用して論文を作成し、夏合宿で発表する。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

プログラム (a) に準じたプログラム、プログラム 討論会・コンファレンス発表準備、プログラム 4年生の卒論中間報告内容について討論

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

上記 ~ に対応したプログラムにより発表と討論を行う(卒論の中間報告を含む)

成績評価方法:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

平常点(合宿や諸行事を含む)による評価

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

平常点および進級レポートの結果による評価

研究会 c(4年)[05] / 研究会(4年)(春)[99]

平常点(合宿や諸行事を含む)および卒論中間報告の結果による評価

研究会 d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)(秋)[99]

平常点および卒論(中間報告・最終版)の結果による評価

質問・相談:

授業中以外は、メールまたはアポにより行う。

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 尾崎 裕之

授業科目の内容:

「ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論の応用」を研究テーマとし、最終的には卒業論文の完成を目標とする。卒業論文のテーマとしては、それが、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のいずれか(あるいは、その全て)の応用であれば何でもかまわない(公共経済学、国際経済学、環境経済学、労働経済学、都市経済学、医療経済学、産業組織論、などなど)。研究テーマそのものよりも、経済学的直感を養い、理論を正しく応用できるようになることに主眼を置く。

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 嘉治 佐保子

授業科目の内容:

本研究の目的は、(1)国際マクロ経済学を中心とした経済理論の理解を深めること、(2)自分で考える力を身につけること、(3)英語による情報収集と意思疎通の能力を高めることである。これらの目的の達成に適した文献を輪読する。卒業論文のテーマは、各学生が自らの興味にしたがって選択する。

成績評価方法:

・平常点(出席状況および授業態度による評価)

・卒業論文

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 金子 勝

授業科目の内容:

制度派経済学の知的革新を考えながら、現状の経済問題と制度改

革について取り上げ学ぶ。世界経済、財政金融、社会保障と社会福祉、地域経済、産業と企業のあり方...等々、取り上げるべきテーマが広範囲に及ぶので、学生諸君と協議しつつテーマを絞りたい。論理的に考え、文章を書き、人と議論するのが好きな学生諸君の参加を望む。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する。

授業の計画：

前期はテキスト輪読から入り、テーマを絞って自分たちで問題を設定し、自分たちで調べて報告討論する。夏合宿より三田祭論文に合わせて、討議と報告書を作る。4年生は定期的に卒業報告会を行い、年末に発表会を行う。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・論文と卒論を評価として重視する。

研究会 a・b(3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]	
研究会(3年)[99 学則]	
研究会(4年)[99 学則]	准教授 河井 啓 希

授業科目の内容：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

産業組織論の理論とその実証分析についての研究を行う。伝統的な独占や寡占の議論にとどまらず、重要性が高まっている製品品質と差別化、情報の非対称性、ネットワーク外部性といった問題についてもとりあげる。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

パート別に分かれて三田祭論文作成に向けて専門論文を読んだり、データを収集して実証研究を行うことを通じて、論文作成の方法を学ぶ。

研究会 c(4年)[05] / 研究会(4年)(春)[99]

英文のテキストの輪読を行う。

研究会 d(4年)[05] / 研究会(4年)(秋)[99]

Reading List でとりあげられる重要な貢献をした専門論文(Rand Journal of Economics や Journal of Political Economy などから引用する)を読み、基礎的な理論が実証分析ではどのように応用されているかについて学ぶ。

研究会(卒業論文)(4年)

各自の興味に応じて卒業論文のテーマを決め、分析を進めながら、論文を作成する。

テキスト：

最初の時間に指示する

参考書：

研究会 a, b(3年)[05] / 研究会(3年)[99]

ベサンコ・ドラノブ・シャンリー『戦略の経済学』ダイヤモンド社

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

Carlton DW & Perloff JM, *Modern Industrial Organization* 4rd ed, Addison-Wesley, 2004

授業の計画：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

1. ミクロ経済学の基礎（需要と供給，企業，ゲームと戦略）
2. 完全競争と独占
3. 寡占（寡占，カルテル，市場支配力）

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

4. 価格戦略と非価格戦略（価格差別，垂直統合，製品差別化）
5. 情報の経済学（情報の経済学，広告）
6. 参入と退出（参入退出，戦略的行動）
7. 技術戦略（研究開発，ネットワークと標準化）

研究会 c(4年)[05] / 研究会(4年)(春)[99]

英文のテキストの輪読

研究会 d(4年)[05] / 研究会(4年)(秋)[99]

Reading List の輪読

研究会(卒業論文)(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

卒業論文の中間報告

履修者へのコメント：

授業ではミクロ経済学と統計学の知識が必要となる。

成績評価方法：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

報告内容、議論への貢献で評価する

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

三田祭報告論文で評価する

研究会 c, d(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

報告内容、議論への貢献で評価する

研究会(卒業論文)(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

卒業論文で評価する

質問・相談：

クラスページを通じて、質問や相談に応じる。

研究会 a・b(3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会(3年)[99 学則]	准教授 神田 さよこ

授業科目の内容：

近年、インドは目覚ましい経済発展をとげている。同時に、インドをはじめとする南アジア地域は、貧困や格差、環境、エネルギーなどの国際社会が共有する深刻な問題も数多く抱えている。本研究会では、こうした経済発展のダイナミズムおよび経済・社会の諸問題を理解するうえで重要な歴史的背景やそのなかでつくられてきた社会的・文化的特徴について、長期的視点にたった研究を行う。主な研究対象は、イギリス植民地期（18世紀後半～20世紀半ば）の南アジア経済史とする。ただし、研究（卒論）テーマでは、近世南アジア経済史や20世紀後半を視野に入れた現代南アジア経済史、他地域との比較経済史、イギリス帝国史、南アジア経営史などを選んでかまわない。

なお、本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることにあるので、各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。

テキスト：

初回に指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

3年生の春学期には、(1)南アジア経済史に関する基本文献の輪読と討論を通じて、基礎知識および研究の基本的フレームワークを習得し、(2)自分たちの研究課題（三田祭共同研究あるいは個人研究）を設定する。夏休み中には、その課題に基づいて多くの文献を読み、研究を進める。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

3年生の秋学期には、(1)三田祭報告にむけた報告・討論をおこない、報告論文を作成する。三田祭後には、(2)各自の卒業論文のテーマを明確に設定し、資料や文献を探し、研究に着手する。

履修者へのコメント：

卒業論文作成に向けての約2年間、多くの文献（英語文献中心）を読み、議論し、報告し、書いてもらうことになるので、そのつもりで参加してください。

成績評価方法：

三田祭論文および平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

研究会後およびオフィス・アワー。e-mailでの事前予約にも対応。

研究会 a・b(3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]	
研究会(3年)[99 学則]	
研究会(4年)[99 学則]	教授 北村 洋基

授業科目の内容：

本研究会は、現代日本経済論が主たる対象範囲であるが、特に日本の産業経済の実態の批判的分析と理論的検討に中心的なテーマを置く。その際、今日の日本経済ならびに産業構造を、一方では世界経済との関わりにおいて、他方では日本経済の歴史的展開における現段階の到達点との関わりにおいて、位置づけ解明することに留意したい。

テキスト：

テキスト等は第一回研究会の際に指定する。

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 准教授 神代光朗

授業科目の内容:

当研究会の研究領域は、経済学(思想)史および中・東欧の歴史と経済体制を研究の対象とするものである。担当者の当面の主な専門研究分野は、19~20世紀のポーランドの社会経済思想、とりわけ、ポーランドの今日の社会経済的諸問題の原型が形成されてくる19~20世紀転換期の市場問題、農業問題、民族問題等と、ポーランドのポジティヴィズム、ナショナリズム、社会主義等の社会経済思想史的関連が中心であるが、研究会としては、ポーランドのみに限らず、ポーランドを含む中・東欧の近・現代史や今日の体制転換、中東欧のEU加盟にかかわるテーマについても、広い意味で経済学史的な関心を持ち、歴史的な方法による研究を志す者の入会を認めている。また、より広く、経済学史・経済思想史に関するテーマの研究を志す者の入会をも認めているが、担当者の専門領域が「経済学史」、「経済思想の歴史」であることから、私の指導範囲と入会者の希望を考慮して個別的に適否を検討する。当研究会の会員は是非、私の担当する「経済学史 a, b」と「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b」を合わせて履修してほしい。05学則対象者(3年)はa, bとなるので、第3学年末には充分内容のある研究レポートを卒論の前段階として書くことを、単位取得の条件とする。

テキスト:

毎年、輪読用のテキストと、夏季合宿用のテキストを別々に、2~3の文献を討論・輪読のために準備するが、通常のテキストは4月の開講時に決める予定である。英文テキストを用いることもある。

参考書:

- ・A・スミス『国富論』(邦訳)
- ・K・マルクス『資本論』(邦訳)
- ・高島善哉『社会科学入門』岩波新書
- ・木戸・伊東(編)『東欧現代史』
- ・ベレント、ラーンキ『東欧経済史』中大出版
- ・キューニェヴィッチ『ポーランド史』恒文社
- ・阪東宏(編著)『ポーランド史論集』三省堂
- ・伊東・井内・中井(編)『ポーランド・ウクライナ・バルト史』
- ・南塚(編)『ドナウ・ヨーロッパ史』
- ・小倉欣一(編)『近世ヨーロッパの東と西』山川出版
- ・谷川稔(編)『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版、2003年
- ・白木太一『近世ポーランドの「共和国」の再建』彩流社
- ・羽場・小森田・田中(編)『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店

授業の計画:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

春学期 a は、最初の1~2回を研究会の専門分野のイントロダクションにあて、3年生は6月一ぱいまで、共通テーマによる文献の輪読を行う。7月の2回は、3年生の卒業論文研究計画の提出と、それについての発表、討論・指導を行う。研究計画提出は義務である。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

秋学期 b は、3年生はほぼ10月中か11月の第一週までを、文献の輪読・討論にあて、11月から1月までを、aにおいてたてた研究計画にもとづく、中間発表期間とする。発表の際にレポートを出すことはいうまでもなく、1月最後の研究会で、第3学年単位取得の条件となるレポート(卒論の前段階)提出を義務とする。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

4年生は春学期に、3年生とともに輪読・討論に参加することは当然のことであるが、主として6月より7月までは卒業論文の中間発表を行い、また、夏季休暇中の研究計画をたてる。秋学期は、10月下旬より卒業論文の最終報告を行い、1月に最終チェック、提出となる。全体として、輪読と卒業論文発表を、ほぼ半分づつのスケジュールで行う。

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 倉沢愛子

授業科目の内容:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

開発とその結果生じた社会変容、さらに民主化の波に揺れる東南アジア社会を総合的に研究する。開発論や、政策論ではなく、そこにすむ人々の生活に焦点をあて、生産活動、商業活動、浪費形態、居住環境、宗教、教育、保健衛生、移動などの問題を考える。3年生の夏にインドネシアへ10日ないし二週間程度の研修旅行を行い、ジャカルタの低所得者居住区と、バリ島の、まだ観光化されていない伝統的な村にホームステイする。

3年生の研修旅行前の前期の授業は、研修旅行に際して必要な基本的知識の習得とインドネシア理解に力を置く。その間に自分の関心テーマを見つけ、研修の際にはその関心に沿って見学先や訪問先を決める。

この年度の研修テーマを何にするかは、前期の研究会の授業の中で全員でディスカッションしながら決定する。単なる旅行ではなくそのテーマに沿って研修計画を立案する。

なお、研究会に参加を希望する学生は、平行して火曜日二限(予定)の「アジア社会史」の受講と、日吉並びに三田で開講されている「インドネシア語」の受講を義務付ける。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

研修旅行の成果を全員で話し合うとともに分担を決めて報告書の原稿を作成し、三田祭のころをメドに100ページ程度の冊子を完成させる。それと平行して四年生で執筆する卒論のテーマの選定を開始する。研修旅行で見聞したインドネシア社会の諸問題に題材をとることとし、できうる限り現地でフィールド調査(調査票とインタビュー)を行って書く。ゼミ生全員での合同論文の執筆を原則としている。そのためにどのようなトピックをとりあげたいかをこの時期に検討する。トピックの選定のために必要な文献探しや先行研究状況の把握をし、各自が発表する。トピックが決まった段階でそれに関する基礎的な文献を幅広く読む作業を開始する。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[99] / 研究会(4年)[99]

フィールド調査を行い、ゼミ生全員が合同でひとつの卒論を制作するが、その目的はフィールド調査の方法を学ぶとともに、共同で1つのものを制作することを通じてチームワークを身につけることを学ぶことである。しかしながら論文は基本的にフィールド調査のみならず、文献からの知識や知見をも基礎にして書くことをめざすため、まず充分な文献調査を行う。ただし文献の探索とその読破作業は三年生まででできるだけ終了させ、四年生前期は、就職活動と平行させながら、調査票の作成にとりかかる。調査は対面形式で、口頭で質問することを原則とするが、インドネシア語能力の限界などを考慮し、また各ゼミ生による質問内容を画一化させるために、調査票を使用する。そして前期はこの調査票の作成に時間をかける。その際にどのような属性の人を何名選んで話を聞かかをまず定める。そして、解明しようと思っている問題について、限られた原語能力でできるだけ正確な、本音に近い回答を短い表現で聞きだすためにもっとも有効な質問表現を探し出す。

夏休みに再びインドネシアへ赴き、この質問票を使ったフィールド調査を10日程度行う。(調査には倉沢も同行する)やむをえない理由でフィールド調査に行けない場合には、少なくとも調査票作成に参加したり、日本在住のインドネシア人とのインタビューなどに参加する。調査許可取得の制約や、応援体勢の充実などを考え、原則として調査地は、例年同じジャカルタの1つの町内会を対象としている。(前年度のホームステイ地域)

秋学期には調査の成果を全員で集計して共有し、論文執筆にとりかかる。

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 グレーヴァ 香子

授業科目の内容:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
ミクロ経済学の理論, 応用またはゲーム理論について学び, 理解するのみならず, 他の人に説明できるようにする。
研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]
引き続き, ミクロ経済学の理論, 応用またはゲーム理論について学び, 自分でも簡単な研究を始められるようにする。
研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
ミクロ経済学の理論, 応用またはゲーム理論について学び, 卒業論文をまとめる。

テキスト:

研究会 a, b(3年)[05] / 研究会(3年)[99]
最初の授業の日までに指定する。

参考書:

研究会 a, b(3年)[05] / 研究会(3年)[99]
サブゼミで必要に応じた書籍を指定する。

授業の計画:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストを輪読する。前期は特にレジュメの作り方, 理論的発表のしかたについても学ぶ。
研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]
引き続き, ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストまたは論文を輪読する。1月に担当者と個人的に面談し, 卒論のテーマを決め, 研究計画を立てる。
研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストまたは論文を輪読する。また, 夏合宿にて卒業論文の中間報告, 12月に卒業論文の3/4報告を行い, 完成へと持って行く。

成績評価方法:

平常点

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 准教授 駒形 哲哉

授業科目の内容:

中国の動向は周知のとおり, 世界の経済と安全保障に大きなインパクトを及ぼすようになっており, 中国はもはや単なる好き嫌いで済まされる対象ではない。ただし, 中国が国際社会でとる行動を理解するには, その政治経済体制や国土の大きさ, 多様性がもたらす様々な背景を, 歴史的過程も踏まえて理解する必要があり, 相応の訓練を要する。

当研究会の目標は「中国通」の養成ではない。現代中国経済を題材に, 現実を理解し, その理論を論理的に把握したうえで, 次にその論理的確に表現する訓練を行うという, 大学でなければできない能力形成を目指している。

テキスト:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
牧野文夫, 南亮進(編)『中国経済入門』日本評論社をまず精読する。

参考書:

研究テーマごとに必要に応じて適宜紹介する。

授業の計画:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]
基本文献の輪読とビデオ学習により現代中国経済と周辺状況の基礎的理解をかため, 考え方を学ぶ。
研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]
夏合宿までに選択した研究テーマにもとづき, 個人研究報告を行い, 期末に卒論の前段階となる「プレ卒論」を提出する。
研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
春学期は3年生の文献輪読・報告を指導すると並行して, 卒論の準備を進め, 夏合宿から卒論報告を繰り返し, 卒論を仕上げる。

成績評価方法:

セット履修科目であるため通年で評価する。評価は研究会活動への参加の度合い, プレ卒論・卒論の出来具合によって決定する。

質問・相談:

個別に随時応じる。

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 駒村 康平

授業科目の内容:

本研究会は, 社会政策, 社会保障制度に関する研究を行う。日本社会は, すでに人口減少・高齢化社会に突入し, 年金, 医療, 介護, 生活保護, 福祉(児童福祉, 障害者福祉および関連制度), 労働保険といった分野での改革が集中的に行われている。

本研究会では, 上記の課題について, 受講者の関心に応じて, 1) 社会保障制度研究チーム, 2) 社会・経済システム研究チーム(人口, 労働, 地域福祉, NPO など社会保障制度と密接に関わる分野に関する研究), 3) 公民連携研究(企業年金, 医療・保健ビジネスなど公と民の新しい連携分野に関する研究) チームに分けて, 研究を進める。また, 夏期合宿や他大学との討論会・共同研究会などを行いたい。

テキスト:

開講時に指定する。

参考書:

- ・駒村康平(最新改訂版)『福祉の総合政策』創成社
- ・国立社会保障・人口問題研究所(編)『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東大出版会, 2005年
- ・城戸喜子, 駒村康平(編)『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会, 2005年

授業の計画:

春学期: 各自の関心テーマにそった予備研究, 夏期報告会
秋学期: 報告会, 討論会など

履修者へのコメント:

受講者が自ら問題意識を持ち, 主体的・積極的に研究会に参加することを求めます。

成績評価方法:

平常点・出席, レポート・論文による。

質問・相談:

オフィスアワーを中心に随時。事前にメールにて調整

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 小室 正紀

授業科目の内容:

日本の経済思想の歴史を中心として, それと関連する思想史・経済史・政治史・社会史・文化史についての研究を行う。指導の目標は, 各自の論文作成の過程を通じて, 社会科学における歴史的な考え方と, その楽しさを知ってもらうことである。

具体的には文献講読と論文作成指導を学習の柱とする。文献講読では, 春学期には概説的な比較的易しい文献を出来るだけ多く速読し, また秋学期には専門研究書を取り上げ, これ等を題材に質疑応答と討議をする。また適宜に, 指定した基本的文献の読書報告を求める。論文作成については, 研究の技術的な方法については講義をし, また個々の研究内容については個別面接も繰り返しながら指導を行う。履修者はできるだけ早い時期に課題を決定し, 文献探索・研究史の整理を行い, 関連史料を捜し, 秋からはそれぞれの研究の中間発表を行う。

なお, 私自身の現在の研究領域は江戸時代から明治期までである。この時代の研究がもっとも指導しやすいが, 経済思想などを中心とした歴史的考察であるかぎり, 履修者の研究課題は必ずしもこの時代でなくてもよい。

テキスト:

随時指定する。

参考書:

随時指定する。

授業の計画：

開講時に年間スケジュールを配布する。

履修者へのコメント：

正当な理由なく欠席をしたり、発表やレポートの提出を怠った場合には、その後の履修を認めない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(出席状況による評価)
- ・その他(卒業論文)

質問・相談：

定期的に個人面接の時間を設定するが、それ以外でも、随時、質問・相談に応じる。

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 櫻川昌哉

授業科目の内容：

研究会 a, b(3年)[05] / 研究会(3年)(春, 秋)[99]
春は、教科書を指定して、ゼミ生が順番に発表する。秋は三田祭・インターカレッジの発表会に向けて論文を作成する。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
卒業論文の作成と発表

テキスト：

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

参考書：

W. バーンスタイン『豊かさの誕生』日本経済新聞社
他、良書に親しんでもらう。

授業の計画：

未定

履修者へのコメント：

本を多く読んでもらいたい。

成績評価方法：

研究会 a, b(3年)[05] / 研究会(3年)[99]
ゼミでの態度、発表の上手さ
研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
卒論の内容

質問・相談：

ゼミ中

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 教授 塩澤修平

授業科目の内容：

現実の経済現象を分析する手段としての理論経済学、および金融問題の理論的分析に興味を有する学生を対象とした演習である。

取り上げる文献として、理論的分析手法の基礎を身につけるもの、金融の実態を扱ったもの、日本経済あるいは国際経済の概要を把握するためのものなどを予定しているが、詳しくは最初の授業時間に指示する。

また各履修者は理論パート・金融パート・応用パートの少なくともひとつに所属し与えられたテーマのもとでの共同研究、ならびに個別の研究プログラムを進めていくことが求められ、適宜個別指導を行う。

テキスト：

授業中に配布する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

授業の計画：

- 1~4. 指定テキスト購読
- 5~11. パート別論文報告
12. 13. 個別研究報告

履修者へのコメント：

積極的な参加意欲をもつ学生を対象とする。無断欠席は厳禁である。

成績評価方法：

提出レポート、報告、授業態度ならびに卒業論文

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会(4年)[99学則] 教授 清水透

授業科目の内容：

論文作成の個別指導
成果の中間報告と集団討論

テキスト：

適宜指示する。

授業の計画：

- 1) 前年度末提出レポートを基礎とする報告と集団討論
- 2) レポート提出(6月30日)
- 3) 夏合宿(提出レポートを基礎とする報告)
- 4) 論文執筆
- 5) 卒論仮提出(11月1日)
- 6) 個別指導
- 7) 卒論締切(12月31日)

履修者へのコメント：

定期的な報告、レポート、合宿参加等、研究会の義務を果たせない者は、自動的に参加資格を失う点、十分認識しておくこと。各自のテーマは、社会史の枠内である限り、時代・地域を問わない。これまでのゼミ生の卒論テーマについては、研究会ホームページ参照。新4年からの入ゼミも可。

研究会(4年)[99学則] 春・秋セット履修
教授 清水雅彦

授業科目の内容：

本年度は履修者として4年生のみを対象とし、主に卒業論文の研究指導を行う。研究会における4年生の課題は、これまで学習してきた経済学と現実経済に対する認識に基づいて、卒業論文で取り上げる分析テーマを選択することである。分析テーマが決まった段階で、分析に必要な専門的知識に関する文献リストを作成し、各自で文献を精読する。なお、春学期前半(5月半ばまで)は、現実の日本経済に関わる制度・政策について講義する。春学期後半から夏合宿までには、各自が選択した卒業論文の分析テーマについて発表し、全員で討議する。秋学期からは、分析結果に関する中間発表を行い、12月17日(水)までに卒業論文をまとめる。

テキスト：

春学期前半の講義については、講義時に参考文献を紹介する。本年度は4年生の卒業論文研究が中心となるので、共通のテキストは指定しない。

参考書：

適宜、授業時間中に参照すべき参考書あるいは参考文献を指示する。

授業の計画：

上記「授業科目の内容」の通りであるが、本研究会では必要に応じて討論のテーマに即した講義を行う。

履修者へのコメント：

4年生の研究会は、上述のように卒業論文の研究に取り組むことが中心となる。したがって、経済分析に関心がなく自発的な学習意欲に欠ける者は、最初から履修(参加)すべきではない。

成績評価方法：

4年生のみの研究会であることから、成績は卒業論文における分析結果の内容によって評価する。

質問・相談：

研究会(授業)時間の終了後に、適宜受け付ける。

研究会 a・b(3年)[05学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05学則]
研究会(3年)[99学則]
研究会(4年)[99学則] 准教授 白井義昌

授業科目の内容：

研究会 a, b(3年)[05] / 研究会(3年)[99]

3年次に学術論文の読解・発表そして共同研究を行っていくことにより卒業論文作成に必要なリサーチスキルを身につける。国際経済学の研究トピックスを扱う。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

3年次の準備の下に卒論作成を行う。

授業の計画：

- 研究会 a (3年)[05 学則] / 研究会 (3年)(春)[99]
研究論文輪読(発表, レポート)(4回)
共同研究 プレリサーチ(1回)
研究論文輪読(発表, レポート)(4回)
共同研究テーマと研究計画立案(4回)
- 研究会 b (3年)[05] / 研究会 (3年)(秋)[99]
共同研究 研究計画修正(2回)
研究論文輪読(発表, レポート)(4回)
共同研究 中間報告(4回)
共同研究 最終報告(1回)
卒論プレリサーチ(3回)
- 研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]
4~5月 研究計画実行報告書提出(毎週)
6~7月 卒論中間発表
研究計画建てなおしと夏休み研究計画書提出
9月 合宿での中間報告
研究計画建てなおしと秋学期研究計画書提出
10~11月 研究計画実行
12月 卒論発表
1月 卒論提出

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 杉浦章介

授業科目の内容：

杉浦担当の基本科目「経済地理」の履修を前提に、経済地理学の基礎と応用を学習する。ゼミにおいては現代経済の現実を空間的(地理的)視点から分析する能力を涵養するために、下記の教材を用いながら、それぞれのテーマを見出し、それについて分析調査を行い、さらにその結果について報告し、討議を行うこととしたい。

テキスト：

未定

参考書：

適宜紹介する。

授業の計画：

前期は、経済地理学の基本的文献を輪読するとともに、空間的データ処理の演習ならびにフィールドワークを行う。
後期は、三田祭発表にむけた共同研究(3年)、卒論研究(4年)を行う。

履修者へのコメント：

学生時代で最も勉強した、と後から言えるようにしてほしい。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

ゼミの時間中、適宜行う。

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 杉山伸也

授業科目の内容：

この研究会のおもな焦点は、第2次世界大戦までの、日本とアジアの経済史・経営史であるが、日本・東南アジア関係史や日米経済関係史などの対外関係史、日本とヨーロッパ諸国あるいはアジア諸国との比較社会・経済史などの研究テーマも対象とする。

研究会の最終目的は、大学生生活の集大成として、卒論を完成させることにある。卒論では、原則として自分で課題を設定し、資料や研究文献をさがし、自分の設定したテーマを解明していくことになる。その過程で、適宜レポートの提出と口頭発表をしてもらうが、課題を十分にクリアできない場合は、退会してもらうこともある。3年生の段階では、経済史の基礎的な研究文献の講読と発表が中心となる。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会(3年)[99 学則] 教授 須田伸一

授業科目の内容：

本研究会は、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論についての専門的知識を身につけ、それを応用して現実経済を分析する能力を養うことを目的としている。本年度は3年生のみで運営されるためテキストの輪読が中心となるが、次年度には卒業論文作成に向けての指導も行う。

テキスト：

テキストはゼミ開講時に指示する。

履修者へのコメント：

担当者の演習も合わせて履修する必要がある。

成績評価方法：

- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- ・卒業論文

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 瀬古美喜

授業科目の内容：

本研究会では、理論経済学、計量経済学、都市経済学、公共経済学について、ミクロ経済学とマクロ経済学に基づいた研究を行う。春学期には、理論経済学の中でも主にミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を洋書を用いて固め、併せて応用経済学としての都市経済学の教科書を輪読する予定である。秋学期には、より専門的な本や論文の輪読を行う。3年生は、1年間で卒業論文のテーマを選ぶこととなる。

テキスト：

瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年参考書：

主な文献として、以下のようなものを挙げておく。

- ・ブランシャール『マクロ経済学上・下』東洋経済新報社
- ・Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, *Microeconomics*, Prentice Hall
- ・伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社、1998年
- ・藤田昌久, ポール・クルーグマン他(小出訳)『空間経済学』東洋経済新報社、2000年
- ・山田浩之(編)『交通混雑の経済分析』劉草書房、2001年
- ・Robert W. Wassmer ed., *Readings in Urban Economics Issues and Public Policy*, Blackwell
- ・Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

授業の計画：

テキストの輪読、実際のデータを用いた実証分析、三田祭論文のグループでの作成、卒論執筆を、総合的に行います。

履修者へのコメント：

経済理論、現実の問題など、幅広い興味を持って、総合的な観点で学ぶことを、希望します。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

研究会 a・b(3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 高草木光一

授業科目の内容：

本研究会は、社会思想史、とりわけ近代ヨーロッパ社会思想史を研究対象とする。私自身は19世紀フランス社会思想史を専攻しているが、卒業論文のテーマは、各人の自発的問題意識に従って広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。研究会の活動は、基礎的な文献の輪読と卒業論文作成のための個人報告を柱とする。サブ・ゼ

ミの運営等については開講時に参加者と相談の上決めたい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会 c・d・卒業論文（4年）[05 学則] 春・秋セット履修
研究会（4年）[99 学則] 教授 高 梨 和 紘

授業科目の内容：

現地調査の成果を踏まえ、卒業論文の作成に取り組む。

テキスト：

高梨和紘（編著）『開発経済学』慶應義塾大学出版会，2005 年

参考書：

高梨和紘（編著）『アフリカとアジア』慶應義塾大学出版会，2006 年

研究会 a・b（3年）[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）[05 学則]
研究会（3年）[99 学則]
研究会（4年）[99 学則] 教授 竹 森 俊 平

授業科目の内容：

国際経済学のミクロ理論の検討と、卒業論文の指導を行う。本年用いるテキスト等は第1回研究会の際に指定する。

研究会 a・b（3年）[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）[05 学則]
研究会（3年）[99 学則]
研究会（4年）[99 学則] 教授 武 山 政 直

授業科目の内容：

研究会 a（3年）[05] / 研究会（3年）(春)[99]

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を学びます。特に、都市のフィールドワークや社会調査に基づく消費行動の分析と、問題発見のための発想法や概念構築メソッドを実践的に学習します。

研究会 b（3年）[05] / 研究会（3年）(秋)[99]

都市生活者のライフスタイルや消費行動を空間とメディアという2つの視点において調査分析し、商業施設や文化・アメニティー施設の立地や空間デザイン、情報コンテンツのマーケティング戦略を立案します。

確認 c, d 卒業論文（4年）[05] / 研究会（4年）[99]

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を用いて研究を行います。特に、都市生活者のライフスタイルや消費行動を空間とメディアという2つの視点において調査分析し、人々を都市に引き寄せる施設の立地や空間デザイン、情報コンテンツのマーケティング戦略へ応用を行います。

研究のスタイルとして、文献の読解をはじめ、現実の施設や都市のフィールドワークを実施することで概念的な知識と感覚的・体験的な知識との相互補完的な理解を促進します。

授業の計画：

研究会 a（3年）[05] / 研究会（3年）(春)[99]

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディアを利用した都市フィールドワーク

研究会 b（3年）[05] / 研究会（3年）(秋)[99]

場所や地域の特性を踏まえた情報コンテンツ・サービスの企画提案。

研究会 c, d, 卒業論文（4年）[05] / 研究会（4年）[99]

本年度は下記のテーマを中心に研究活動を進めます。

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディアを利用した都市フィールドワーク手法の開発
- 4) 場所や地域の特性を踏まえた情報コンテンツ・サービスの企画提案
- 5) 施設や都市空間に関連するイメージや意識の調査
- 6) 映像地誌の編集

成績評価方法：

平常点

研究会 a・b（3年）[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）[05 学則]
研究会（3年）[99 学則]
研究会（4年）[99 学則] 准教授 田 中 辰 雄

授業科目の内容：

情報産業を主として実証的に分析する。情報産業とは、狭い意味では、情報（技術、知識、映画音楽などコンテンツ）と、それを処理し通信する機器（コンピュータ、インターネット、携帯電話など）からなり、広い意味では情報通信技術を利用する経済活動（企業の情報投資、電子取引など）からなっている。この分野はインターネットの急成長、企業取引の電子化、ブロードバンドの普及、情報家電など急激な変化が続いている分野である。ここ10年の日本経済衰退の一因はIT産業にあったが、次第に日本経済でもIT化が進み、携帯電話・ブロードバンド・情報家電などでは世界のトップランナーになりつつある。

経済理論の面から見ると、IT産業では技術革新が非常に早い・ネットワークの外部性が働きやすい・費用逓減が起こりやすいなどの特徴があり、標準的理論が当てはまりにくい。実証的分析も、観察される現象がここ数年であるためデータが取りにくく、まだ十分にされていない。逆に言えば既存の研究例が少ない分、自分の頭で考えて仮説を考えることができる。特に、インターネットや携帯電話、パソコン、映画・音楽・ゲーム・アニメなどのコンテンツ等に関する個別知識などでは学生の方が先生より優る面もあるわけで、意欲的な学生の参加を期待したい。

本研究会では理論の勉強を行いつつも、実証をメインにする。データの収集は既存のデータベースが存在しないので、データの収集自体が作業の中心のひとつとなる。国会図書館や業界団体に出かけたり、web上の資料から自動部プログラムやマニュアルで集めるなどの作業が必要となる。その作業を厭わない人を歓迎する。なお、研究会参加者は三田で計量経済学中級の講義を受講することが望ましい。

研究会 a・b（3年）[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）[05 学則]
研究会（3年）[99 学則]
研究会（4年）[99 学則] 准教授 玉 田 康 成

授業科目の内容：

本研究会では理論経済学、特にミクロ経済学の専門的知識としての習得を第一の目的とし、さらに、その考え方を様々な経済現象に応用して検討する。従来の価格理論に加え、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論などを分析ツールとして獲得したことにより、経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し、それは産業組織論、公共経済学、労働経済学（人的資源管理）などの多分野に及んでいる。そのキーワードのひとつとして、「インセンティブ」を挙げることができる。広いテーマとしては、いかにして経済主体に対して適切なインセンティブを与えるかという問題意識を設定し、経済現象に関する議論をしていきたい。

テキスト：

授業にて指示する。

参考書：

授業にて指示する。

授業の計画：

研究会 a, b（3年）[05] / 研究会（3年）[99]

本ゼミでは、教科書ももちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、3年生はサブゼミとパートゼミに参加する。サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け、本ゼミで取り扱うことのできない重要な文献を輪読する。パートゼミでは関心ある研究テーマについてパートに分かれ、三田祭論文の作成を目指す。また、適宜インゼミ等の論文報告の機会を設ける予定である。

研究会 c, d, 卒業論文（4年）[05] / 研究会（4年）[99]

本ゼミでは、教科書ももちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分

析した応用的文献を読む。さらに、4年生は1年を通じて卒論を作成する。卒論は、研究会に参加したことから得た経済学の知識と自らの具体的な関心を1つの構築物として作成するものであり、研究会活動の目標と位置づけられる。テーマ選びの自由度は高いが、研究会を通じて獲得した経済理論の知識の発揮が求められる。

履修者へのコメント：

研究会 a, b (3年)[05] / 研究会 (3年)[99]

日吉のミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の内容は踏襲する。

また、適宜、必要な授業の履修を要求する。

研究会 c, d, 卒業論文 (4年)[05] / 研究会 (4年)[99]

適宜、必要な授業の履修を要求する。

成績評価方法：

研究会 a, b (3年)[05] / 研究会 (3年)[99]

本ゼミでのプレゼンテーションと宿題、三田祭論文などを通じて総合的に判断する。

研究会 c, d, 卒業論文 (4年)[05] / 研究会 (4年)[99]

本ゼミでのプレゼンテーションと卒業論文などを通じて総合的に判断する。

質問・相談：

特に制限を設けず、自由に質問を受け付ける。

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]

研究会 (3年)[99 学則]

研究会 (4年)[99 学則]

准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀初頭のロシアの社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済史の研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族」、「共同体」、「土地」、「人口」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「人口」、「エネルギー源」、「植民と移民」、「宗教」、「農民運動」、「社会主義」、「労働運動と労使関係」などもその射程に入る。

前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（三田祭論文と卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

適宜紹介する。

履修者へのコメント：

経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有すること、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

成績評価方法：

・三田祭論文

・卒業論文

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]

研究会 (3年)[99 学則]

研究会 (4年)[99 学則]

教授 辻村和佑

授業科目の内容：

本研究会では、実証分析の基礎に立って、制度と経済のパフォーマンスの問題を取り扱う。具体的には我が国の金融市場を共通の研究テーマとして取り上げ、短期金融、債券、株式、外国為替などの各市場のしくみと相互依存関係を経済全体との関連で考察してみたい。個々の参加者の研究課題については、実証分析を伴うものであれば上記の範囲に限定しないが、具体的なテーマが設定されていることが不可欠である。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

・卒業論文

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]

研究会 (3年)[99 学則]

研究会 (4年)[99 学則]

准教授 津 曲 正 俊

授業科目の内容：

経済分析の道具である「経済理論」をじっくり学び習得することが、当研究会の一番の目標である。特に本年度は、ゲーム理論、契約理論、情報の経済学などミクロ経済学の比較的新しい内容についてしっかり学ぶことに重点をおきたい。これら分野は、現実の経済問題の分析に幅広く応用されているが、特に経済が機能する基盤である「制度」の分析に大きな威力を発揮している。それは金融制度・税制度といった経済制度のみならず、政治制度、法制度など社会のあらゆる制度の意義を分析するためにも活用されている。現実の問題が、しばしば「制度」の問題として認識されている状況で、これらの分析手法の基礎をしっかりと身につけることは、社会の多くの問題の本質を見抜くためにきわめて有用である。研究会では、これらの分野を解説するテキストを読み議論することで理論的なベースを確実にすることをまず目指したい。また理論の現実の経済問題分析への応用の場としてパートごとの共同研究を推進する予定である。同時に、卒業論文執筆のための準備をしよう。

テキスト：

最初の授業で指示する。

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]

研究会 (3年)[99 学則]

研究会 (4年)[99 学則]

教授 津 谷 典 子

授業科目の内容：

本研究会は、人口学の主要研究領域である死亡と死因、出生、結婚と家族・世帯、人口の年齢構造と高齢化、都市化と人口移動、ジェンダーと人口問題などについて、理論的枠組と統計を使っての計量分析の方法を学ぶことを目的とする。3年生時の春学期は、英語および日本語の文献を基に人口学の基礎理論を学習し、また実際のデータを使って人口統計分析の基礎を実習する。3年生時の秋学期は、さらに専門的な応用をめざし、各自が研究テーマを選び、既存文献の収集と検討を行い、データの収集や分析方法についても話し合い計画を立てる。4年生時は、卒業論文の作成に集中するが、内容の中間報告をして研究発表を随時行い、それについての質疑応答とクラス討論を実施する。

なお、研究対象とする人口・社会は現代のみでなく、戦前もしくは近世の歴史人口でも良い。これらの人口データや統計についても説明し、研究・分析を指導し援助する。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

卒業論文の作成と、それに関する発表をクラス内およびゼミ合宿にて行う。

研究会 a・b (3 年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則]
研究会 (3 年)[99 学則]
研究会 (4 年)[99 学則] 教授 寺 出 道 雄

授業科目の内容：

この研究会では、主に農業問題について学ぶ。受講者の関心事は、狭い意味での農業問題でなくても、何らかの意味で自然と経済の関わりについてであればかまわない。

文献の輪読、幾つかのグループに分かれての共同研究、何回かのディベート等を行う。

輪読する文献については、最初の授業で受講者の関心事も考慮して決定する。他の点についても、最初の授業で説明する。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度)
- ・卒業論文

研究会 a・b (3 年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則]
研究会 (3 年)[99 学則]
研究会 (4 年)[99 学則] 准教授 土 居 丈 朗

授業科目の内容：

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に公共投資政策、地方分権改革、社会保障政策、税制改革、量的金融緩和と政策、国債管理政策を対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。特に、最近では、経済学的に専門性が高い政策課題に直面し、高度の政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上で経済学的な素養が必要となってきています。

ちなみに、近年における経済学の潮流の中で、「政治経済学 (political economy)」が台頭しています。これは、従来の政治の経済分析であった公共選択論の成果を取り入れつつも、主に次のような点でそれとは異なる特徴があります。まず、政治活動を行う主体は、標準的なミクロ経済学やゲーム理論で想定している効用や利潤や利得を最大化することを前提に、その行動を分析することです。また、現実の政治現象を、政治過程にかかわる主体に内在する要因 (目的や選好) よりも、政治過程を取り巻く制度に伴う要因で説明する志向が強いことです。例えば、官僚が汚職をするのは、官僚が予算やレントを追求する目的 (関数) を持っていたり、そうした選好が強かったりするという要因より、自らの効用や利得を最大化するという意味で合理的な官僚に、汚職をする誘因を生む現行制度 (予算配分の権限や決め方など) が与えられているという要因を強調します。

本ゼミでは、2007 年度までは、春学期に 3 年生を中心に様々な文献の輪読を行うとともに、4 年生には卒業論文の中間発表を行ってきました。2008 年度から、春学期には、3 年生と 4 年生が合同で、研究テーマ別にいくつかのグループに分かれて、そのテーマについて調査分析して発表する形式に変更する予定です。夏休みから秋学期にかけては、2007 年度までと同様、三田祭論文や卒業論文を執筆し、その進捗報告・指導を行うとともに、他大学とのインゼミなどの準備を行います。

分析手法は、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を中心に使います。ただ、最近の経済政策は現行の財政金融制度の理解も不可欠なので、制度を解説した文献を通じて理解を深めてゆく予定です。より詳細については、最初の授業で説明します。

経済分析に不慣れな 3 年生を中心に、サブゼミを別途開き、下記参考書を教材として基礎的な能力を養います。

現実の経済政策について高い関心を持ち、経済学の理論を駆使してそれらを説明したいという強い意欲のある学生を歓迎します。専門的な文献が英文でしか得られない場合があるため、英文を読むことに抵抗を感じない学生の参加を望みます。

テキスト：

研究会の進行に合わせて紹介します。

参考書：

- ・土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社
- ・井堀利宏・土居丈朗『財政読本 (第 6 版)』東洋経済新報社
- ・土居丈朗『経済政策 財政金融政策』放送大学教育振興会
- その他、研究会の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

春学期では、教科書等を用いて経済政策を政治経済学的に分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な問題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、論文を作成することを予定しています。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 (4 年)[99 学則] 教授 中 澤 敏 明

授業科目の内容：

研究会 c (4 年)[05] / 研究会 (4 年)(春)[99]

産業組織論の基礎を学習します。コーポレート・ガバナンス・経済と法・中小企業論・個別市場についての分析などから、学生の興味も斟酌しながらテーマをきめ、参考書を選んで輪読します。研究会 d (4 年)[05] / 研究会 (4 年)(秋)[99]

秋学期から本格化する卒論作成を視野におきながら、輪読や個別発表を行います。競争政策についての理論や実証分析についての英語文献などに挑戦してもらいたいと考えています。秋学期は、中間発表が 2 回くらい終わった段階で、輪読にもどる予定です。

テキスト：

年度はじめに、下記のもの他オプションを提示し決めます。

参考書：

- ・S. Martin, *Advanced Industrial Organization*, Blackwell
- ・M. Motta, *Competition Policy*, Cambridge
- ・金子晃他 (編)『企業とフェアネス』信山社

授業の計画：

学生に自主性を活かした運営となり、講義形式ではありません。輪読では、1 回の発表で 1 章程度進むのが普通のペースになります。学生に現実の新しい経済事象に興味をもってもらうために、今日の話題 と称して、学生が興味をもったものについて調べ発表する場を設けています。これを卒論につなげる例もあります。

履修者へのコメント：

産業組織論の履修を義務付けています。この単位をとれていることが、卒論提出の条件です。計量経済学の履修を勧めます。

成績評価方法：

研究会への貢献 (本ゼミ・サブゼミ・夏季合宿・共同研究) を見て平常点でつけます。

質問・相談：

口頭であれメールであれ、質問は歓迎することはいうまでもないことです。

研究会 a・b (3 年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年)[05 学則]
研究会 (3 年)[99 学則]
研究会 (4 年)[99 学則] 准教授 中 妻 照 雄

授業科目の内容：

ファイナンスは金融市場における資金の調達と運用に関する様々な問題を解決するための手法を学ぶ学問です。例として金融市場で資金を調達する側である企業と資金を運用する側である投資家の直面する問題を考えましょう。企業にとって投資する事業 (工場・店舗の建設、企業の買収・合併など) の決定とそのための資金調達手段 (増資、起債など) の選択は極めて重要な問題です。事業の収益とリスクは投資を正当化できるものであるか、資金調達のために如何なる手段を用いるべきかなどの様々な問題に対処する方法が研究者や実務家の間で考えられてきました。これを体系的に研究する学問分野をコーポレート・ファイナンスと呼びます。一方、投資家が資金の運用を行う際には、どの企業の株式や債券をいくら購入すべきか、資産の購入価格は妥当であるか、資産保有に伴うリスクは許容範囲にあるかなどの問題に対処しなければなりません。つまり投資家は収益とリスクのバランスを考慮しつつ保有する資産の構成を決定するという問題に直面していることとなります。この資産構成の決定方法の研究もファイナンスの主要な分野となっています。さらに近年ファイナンス理論の応用範囲は保険、年金、不動産などへと拡大しており、その重要性は益々高まっています。中妻研究会はファイナンスの理論とその応用を学ぶことを目的としています。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

参考書のリストは研究会の中で随時配布します。

授業の計画：

研究会 a, b (3年)[05] / 研究会 (3年)[99]

〔春学期〕

本ゼミ

経済金融関連の時事問題を討論する。

サブゼミ

MATLAB を使ったファイナンスにおける数値計算手法を学ぶ。

パートゼミ

三田祭発表に向けて各パートの専門分野の学習を進める。そして、三田祭発表の研究テーマを決める。

〔夏合宿〕

三田祭発表の中間報告を行い、今後の方向性を決める。

〔秋学期〕

本ゼミ

経済金融関連の時事問題を討論する。

サブゼミ

ファイナンスに関する演習を行い、ファイナンス理論の理解を深める。

パートゼミ

三田祭発表の研究を進め、報告の準備、論文の執筆、最終報告を行う。

研究会 c, d, 卒業論文 [05] / 研究会 (4年)[99]

本ゼミ, サブゼミ, パートゼミで3年生を指導しながら、卒業研究を行い論文にまとめる。

履修者へのコメント：

中妻研究会は初めてファイナンスを学ぶことを前提に進めていきますので安心してください。また、研究会の中だけでファイナンスに関する必要な知識を全て学ぶことは不可能です。可能な限り

金融関連科目 金融論, 国際金融論, 企業金融論, ファイナンス入門

計量経済学関連科目 計量経済学中級, 計量経済学上級, 時系列分析, ベイズ統計学

確率論関連科目 確率・統計, 数理経済学特論 [確率論]

などを平行して履修するようにしましょう。

成績評価方法：

研究会 a, b (3年)[05] / 研究会 (3年)[99]

・レポートによる評価

三田祭発表論文の完成度で学習の成果を評価します。

・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

毎週出席を取り研究会への参加状況を見ます。

研究会 c, d, 卒業論文 (4年)[05] / 研究会 (4年)[99]

・レポートによる評価

卒業研究論文の完成度で学習の成果を評価します。

・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

毎週出席を取り研究会への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]

研究会 (3年)[99 学則]

研究会 (4年)[99 学則]

教授 中村 慎 助

授業科目の内容：

本研究会においては、理論経済学及び公共経済学を中心に基本的な文献の輪読と各人の研究報告を行う。具体的な授業内容については、開講時に指定する。

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]

研究会 (3年)[99 学則]

研究会 (4年)[99 学則]

教授 中山 幹 夫

授業科目の内容：

ゲーム理論は1944年、フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』の公開によって生まれたが、80年代に入ってから産業組織論や情報の経済学などへの関心の高まりのなかで、それまでの均衡概念をさらに扱いやすくした方法論上のイノベーションと、生物学などからの刺激もあって、経済学に取り入れられるようになった。今日では、特にミクロ分析のための強力な道具となっている。

また、特に近年、慣習やしきたりにもとづいて熟考しないで行動する人間や生物、遺伝子、オートマトンなどの機械、プログラム、アルゴリズムなどがプレイヤーであるようなゲームを考察するという、限定合理性の研究も盛んである。さらに、フロンティアでは知識や推論能力自体に制限を加えるという新しいアプローチもチューリング・マシンや様相論理の方法によって試みられている。

ゲーム理論は演繹的な構造物であるから、仮定や定義から出発して階段を1歩ずつ昇るように根気強く思考することが必要で、知的好奇心や強い興味、関心をもっていることが望ましい。数学は、最低限、好きでなければ理論の面白さがわからず楽しくないであろう。英語については、文学的ではなく、論理的に読解することが必要である。

報告は、完璧である必要はないが、理解したことと、わからなかったことを区別して人に説明するという努力を評価する。その他の活動については、学生諸君の自発性に委ねる。

テキスト：

テキストとしては、中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年を使用する

参考書：

参考文献としてはとりあえず以下の7点をあげておく。

・Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994

・Gibbons (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年

・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣、1997年

・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学・戦略的アプローチ』日本評論社、2000年

・中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦共編著『ゲーム理論で解く』有斐閣、2000年

・武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2001年

履修者へのコメント：

報告者は報告内容に責任をもつこと。あらゆる質問に答えなければならない。ただし間違えてもそこから議論が始まればよい。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度)

授業中、自由に質問やコメントすることを評価する。

質問・相談：

随時。メールも可。

研究会 a・b (3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 (3年)[99 学則]

准教授 難 波 ちづる

授業科目の内容：

本研究会では、ヨーロッパ近現代社会史、植民地史を中心に学んでいく。担当者の専門領域はフランスの植民地統治であるが、授業内容はそれにとらわれず、参加者と相談のうえ、社会史、帝国主義、植民地主義、移民問題などにかかわるテーマを1つあるいは複数設定し、1年を通して学習していく。

テキスト：

参加者と相談の上、随時決定する。

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

テーマを設定した後、三田祭での研究発表を目標に、文献講読、資料調査、議論等を中心とした共同研究を行う。その後は、卒業論

文のテーマ設定とその作成準備に各自とりかかり、定期的に報告を行う。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- ・4年次には卒業論文を作成する。

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]	
研究会 (3年)[99 学則]	
研究会 (4年)[99 学則]	准教授 延 近 充

授業科目の内容：

1980年代末以降、冷戦という戦後世界を規定してきた要因が消滅するとともに、国境を超えて移動する巨額の資金や巨大多国籍企業の提携・合併のような世界市場の再編の動き、経済的な相互依存が深まり一国の経済政策が他国に与える影響が大きくなって、混迷を深める経済問題や地球環境問題などの解決のために各国間の協力の必要性が強まる一方、政策手段は手詰りとなり活路を見出せない状態に陥るといった世界的な一大転換期にあるからである。

こうした現代資本主義が直面している諸問題の根源を明らかにするためには、理論的検討と現状分析を世界的視野から行う必要がある。その際には、第2次大戦後、冷戦対抗のもとで、アメリカの主導によって構築された資本主義の復興・成長の国際政治・経済の枠組みとその崩壊のメカニズムの分析が不可欠である。

本研究会の基本テーマは、このような問題意識から現代資本主義の直面している諸問題を分析することにある。本年度の共通テーマとしては、戦後の日本の経済復興・成長とそこに内在する問題点について、日米関係を基軸として考えていく。研究会員個々の研究テーマとしては、環境問題や個別産業問題を含め、広く現代経済の抱える問題に関心をもって選択し研究してもらいたいと思っている。

テキスト：

井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]	
研究会 (3年)[99 学則]	
研究会 (4年)[99 学則]	教 授 長谷川 淳 一

授業科目の内容：

イギリス現代史（特に戦後史）と日本の戦後史（特に都市史）を中心に学んでいく。4年次での卒論の作成が最終的な課題となるが、3年次には、その準備作業として、春（6月）、夏（9月）、三田祭の3回の論文（各々12,000字以上）が必須の課題として課せられる。

テキスト：

最初の授業で指定する。

参考書：

適宜、紹介する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・レポート（3年次は、上記授業科目の内容に示した、春、夏、三田祭の3回の論文）

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]	
研究会 (3年)[99 学則]	
研究会 (4年)[99 学則]	准教授 藤 田 康 範

授業科目の内容：

研究会 a (3年)[05] / 研究会 (3年)(春)[99]

本研究会は、経済政策・応用経済理論を研究分野としています。

春学期は、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うことを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』等を楽しめるようになることがおおよその目安です。

私を含めて様々な背景を持つ人たちが接して知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えています。

研究会 b (3年)[05] / 研究会 (3年)(秋)[99]

秋学期は、経済理論の活用方法を身につけることを主な目標とします。論文執筆に取り組むことを通じ、知的生産の楽しさを実感していただこうと思っています。学生一人ひとりが新たな才能を発掘して自覚すると同時に、相互に良い刺激を与えて「自他共栄」関係を構築していただけたらと考えています。

研究会 c, d, 卒業論文 (4年)[05] / 研究会 (4年)[99]

4年生は、これまでの研究を踏まえ、ビジネスや政策の「設計図」を描けるようになることを主な目標とします。大学生生活の最後の1年間を充実させ、経済学的な考えを血肉化し、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと希望しています。

テキスト：

- ・小宮山宏・松島克守『動け！日本』日経 BP
- ・松島克守『MOTの経営学』日経 BP 等

参考書：

Besanko D., D. Dranove and M. Shanley, *Economics of Strategy*, 2nd Edition Wiley, 1999 等

授業の計画：

研究会 a (3年)[05] / 研究会 (3年)(春)[99]

1. ガイダンス
2. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する（5回）
3. 応用理論分析を行った論文を輪読し、応用理論分析の手法を身につける（6回）
4. まとめ

研究会 b (3年)[05] / 研究会 (3年)(秋)[99]

1. ガイダンス
2. 経済に関する良書を読む（5回）
3. 三田祭論文の中間報告および最終報告（6回）
4. まとめ

研究会 c, d, 卒業論文 (4年)[05] / 研究会 (4年)[99]

春学期

1. ガイダンス
2. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する（5回）
3. 応用理論分析を行った論文を輪読し、応用理論分析の手法を確認する（6回）
4. まとめ

秋学期

1. ガイダンス
2. 経済に関する良書を読む（5回）
3. 卒業論文の中間報告および最終報告（6回）
4. まとめ

研究会 a・b (3年)[05 学則]	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年)[05 学則]	
研究会 (3年)[99 学則]	
研究会 (4年)[99 学則]	教 授 古 田 和 子

授業科目の内容：

アジアは近年、急速な変化を遂げつつある。そうした現在のアジアを理解するためにも、アジア諸地域の経済的な変容過程を長いタイム・スパンのなかで歴史的に解明する必要性はさらに高まっているといえよう。本研究会では、19世紀後半から20世紀前半の時期を中心とした近代におけるアジア経済史の研究を行う。

取り上げるテーマは、1) 近代東アジア・東南アジアにおける社会経済の変容過程、2) アジア域内における国際経済関係や国際分業体制、国境を超えたヒト、モノ、カネ、情報の移動、3) アジアエネルギー市場や環境の歴史、などである。

テキスト：

- ・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会、2000年
- ・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年

参考書：
授業のなかで詳しく紹介します。

授業の計画：

研究会 a (3年)[05] / 研究会 (3年)(春)[99]

アジア経済史に関する基本文献を読みながら、そのディスカッションを通して、アジア経済史研究の基本的な枠組みおよび学会における研究動向をゼミのメンバー全員が共有することを目的としたい。

研究会 b (3年)[05] / 研究会 (3年)(秋)[99]

秋学期には、春学期に議論したアジア経済史に関する基本文献を踏まえて、特定のテーマに関してより専門的な検討を行う。秋学期の課題は以下の二つである。

- 1) 共同研究報告書の作成
- 2) 個人研究テーマの設定

1) は、秋の三田祭における共同研究発表に向けて各パートが夏季休暇中に進めて来た研究を相互に報告し、議論を重ねて、共同研究報告書にまとめる作業を行う。論文作成の基本的な作法と同時に口頭による研究報告の手法も習得してもらいたい。

2) は、4年次にまとめる卒業論文に向けて、各自が研究テーマを設定する作業である。卒論はテーマ設定が命である。自分は何ぞこのテーマを研究したいのか、このテーマに関して従来どのような研究成果があげられているのかを明確にして、各自の卒論研究に入ってもらいたい。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

卒業論文の作成・発表。

成績評価方法：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

平常点

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

レポートによる評価、平常点による評価

研究会 c, d(4年) / 研究会(4年)[99]

平常点による評価

研究会(卒業論文)(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

卒業論文による評価

質問・相談：

随時

研究会 a・b(3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]

研究会(3年)[99 学則]

研究会(4年)[99 学則]

教授 前多康男

授業科目の内容：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

この研究会では、マクロ経済学、および、金融経済学に関する研究を行う。実際の経済の現状を的確に把握し、そこに経済理論を適切に応用することによって、さまざまな政策的な課題に答えしていくことを目的とする。春学期は、テキストの輪読を行い、経済学の基礎を学習する。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

秋学期は、日経ストックリーグへの参加のための準備を行う。3年生をグループに分け、グループ毎に投資戦略についての討議を行う。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

経済の諸問題に、既存の経済理論に捕われない自由な発想をもって、政策的な提言を行う卒業論文の作成を行う。作成過程についての報告を順次行い、討論を行う。

テキスト：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

最初の授業で指定する。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

使用しない。

参考書：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

最初の授業で指定する。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

使用しない。

授業の計画：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

テキストの輪読を順次行う。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

グループ毎の発表を順次行う。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

卒業論文の中間報告を順次行う。

履修者へのコメント：

自分で自ら学習する姿勢が大切である。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

Eメールで受け付ける。必要に応じて面談も行う。

研究会 a・b(3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]

研究会(3年)[99 学則]

研究会(4年)[99 学則]

教授 マッケンジー, コリン R.

授業科目の内容：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

本研究会では外国と比較しながら日本経済の実証分析を行う。今までのゼミでは規制緩和や構造改革について勉強してきた。2008年度の春学期には、ミクロ経済学の復習(特に、消費者の効用最大化問題、企業の費用最小化問題・利潤最大化問題と独占企業)、EViews 5.0 の使い方と論文の書き方について輪読したり、コンピューター実習したりする。論文の書き方の材料として、4年生の提出した個人論文や数本の学術論文とする。春学期の後半はマッケンジーが紹介する英文文献を輪読する。このゼミの“輪読”とはただ文献(または文献の議論)を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献・制度を紹介することになる。4年生と3年生を区別せずにゼミを行う。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

秋学期には、三田祭論文(3年生が中心)、個人論文(3年生)と卒業論文(4年生)について報告したり、議論したりする。計量の実習をゼミの一環としてやる。

テキスト：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

ミクロ経済学について

最初の授業に提示する。

EViews について

・松浦克己・マッケンジー・コリン『EViews による計量経済学入門』東洋経済新報社, 2005年

・滝川好夫・前田洋樹『EViews で計量経済学入門』日本評論社, 2004年

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

特になし。

参考書：

特になし。

授業の計画：

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

第1回 マッケンジーゼミで何をやるか

第2回 第7回

ミクロ経済学の復習、計量経済学の紹介、EViews の使い方についての紹介、論文の書き方についての指導(3・4年生)

第8回 第13回

英文文献の輪読(3・4年生)、三田祭論文(3年生)の概要説明

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

第1回 第6回

パワーポイントによるプレゼンテーション練習(3・4年生)や三田祭論文(3年生)についての報告

第7回 第13回

個人論文(3年生)についての報告、卒業論文(4年生)についての報告

履修者へのコメント：

ゼミ中、携帯の使用と私語は禁止。実際の世界を分析することに興味がある方、マッケンジーゼミを是非検討してください。

研究会 a・b(3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]

研究会(3年)[99 学則]

研究会(4年)[99 学則]

教授 丸山 徹

授業科目の内容：

経済理論の基礎的学習。

研究会 a・b (3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 准教授 宮内 環

授業科目の内容:

「市場の数量分析」

当研究会では「市場の数量分析」の方法を実際の分析事例にそくして学ぶ。具体的な分析事例で明らかにされようとしている問題の所在、その分析のために要請される理論構成、そして適切な分析方法の選択、さらにこうした「市場の数量分析」の意義について、議論を集中して行う。今年度は市場の数量分析、および計量経済学的方法の基礎的な文献の輪読を中心に、数量分析の方法の基礎を固める。さらに研究会参加者は自らの研究テーマを選び、その研究報告も併せて行う。

テキスト:

研究会参加の学生諸君と相談の上決める。

参考書:

計量経済学的方法の基礎;

・小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社, 1972年

・小尾恵一郎『統計学』筑摩書房

市場の数量分析とその意義;

・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社, 1998年

・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房, 1977年

・辻村江太郎『計量経済学』岩波全書

計量経済学の方法論;

初級;

・Kennedy, P., *A Guide to Econometrics*, MIT Press, 1988

中級;

・Greene, W. H., *Econometric Analysis*, 3rd. ed., Prentice Hall, 1997

・Gujarati, D. N., *Basic Econometrics*, 3rd. ed., McGraw Hill, 1998

上級;

・Griliches Z. and M.D. Intriligator eds, *Handbook of Econometrics*, vol.1-3, Essevier, 1994-96

・Engle R. F. and D.L. McFadden eds, *Handbook of Econometrics*, vol. 4, 5, Essevier, 1994-98

・Judd, K., *Numerical Methods in Economics*, MIT Press, 1998

・White, H., *Estimation, Inference and Specification Analysis*, Cambridge University Press, 1996

履修者へのコメント:

履修者諸君は、当研究会活動を通じて、検証可能な仮説の設定と、当該仮説を検証するために適切な観測方法の選択という、科学の基本的な研究作法について学んでほしい。

成績評価方法:

成績の評価は研究会における報告と卒業論文とを勘案して行う。

質問・相談:

研究会の最初の時間にオフィス・アワーについて連絡する。

研究会 a・b (3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 柳沢 遊

授業科目の内容:

本研究会では、今年も 20 世紀前半の日本と東アジア諸地域の経済・社会を対象とする実証研究を行う。今年度は、「20 世紀の日本経済・日本社会」を年間テーマとし、1930~50 年代の都市商店街の形成、戦争経験、戦後改革、都市型生活様式の普及、失業者の生活、中小商工業金融、高度経済成長の開始、受験体制のなかのこともたちなどについて、1980~90 年代の研究の到達点を把握し、論点を整理していきたい。使用する文献は、石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版、橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書。

卒業論文のテーマについては、20 世紀の日本とアジア諸地域に関する内容である限り自由に設定しうるが、4 年の学年末には 400 字で 60~80 枚の卒業論文の提出が義務づけられている。

テキスト:

・石井寛治(編)『近代日本流通史』東京堂出版

・橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書

・中村政則『戦後史』岩波新書

参考書:

・大日方純夫・山田朗(編)『近代日本の戦争をどうみるか』大月書店, 2004 年 1 月刊

・天野正子ほか(編)『戦後経験を生きる』吉川弘文館, 2003 年 12 月刊

・大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』東京大学出版会, 2005 年 10 月刊

授業の計画:

・4~6 月期はテキストの輪読を中心に、参加者のディスカッション能力を向上させる。

・7~10 月期は、三田祭企画への取り組みを学生主導で行い、調査・研究手法を向上させる。

・10~1 月期は、三田祭での研究発表をふまえて、各自卒業論文に取り組み。

履修者へのコメント:

毎回出席し、1 つでいいから、疑問点を提出してください。他大でゼミ(法政大学・埼玉大学など)との交流に意欲的に取り組んでください。1 週間に 1 回は、図書館に入って、卒論にかかわる文献・資料を探索し、読みましょう。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度)

卒業論文を納得いく形で執筆できるかどうか、柳沢研究会卒業のあかしです。しっかりした卒論を、同期生や先輩のはげましのなかで、書きあげて卒業しましょう。

質問・相談:

火曜日の昼休みや火曜日の夕刻以降は、できるだけ、質問や相談に応じるつもりです。

研究会 a・b (3年)[05 学則] 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則] 教授 矢野 久

授業科目の内容:

研究会 a (3年)[05] / 研究会 (3年)(春)[99]

春学期は社会史の基礎的な文献を読む。日本語と英語文献を同時並行的に輪読形式で読む。研究会のメンバーの興味関心に応じて、総合テーマを決定し、それに関する文献に順次移行する。

研究会 b (3年)[05] / 研究会 (3年)(秋)[99]

秋学期は総合テーマに即した報告を中心に研究会を運営し、三田祭に際して発表するための論文作成を行う。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

卒論の中間報告を中心にテュートリアル形式で行う。

研究会(4年)[99 学則] 春・秋セット履修
客員教授 矢野 誠

授業科目の内容:

本ゼミナールは、公共経済学の理論の観点から政府の役割についての検討を行う。経済学では、どのような経済活動についても、そこから生み出される便益とそれを生み出すための費用との両面から考えるものである。これは政府の役割の経済学的分析についても同様で、政府が社会にもたらす便益と政府の活動から生み出される費用とを考えることができる。便益と費用の相対的サイズをどう評価するかで、それぞれの経済学者が望ましいと考える政府のサイズも異なってくる。こうした異なる考えかたの背後にある経済理論をば広く検討しつつ、現代社会における政府の役割を議論していきたい。

経済学が分析対象とするのは、現実の経済におけるいろいろの現象である。これらの現象は複雑に絡み合い、ひとつの分野に完全に納まってしまうことは非常に少ない。したがって、本ゼミナールでは、公共経済学的トピックに中心課題をおきながら、その他のいろいろの経済現象に対する理論的分析手法をさぐることも目的とされ、そのための数学的手法の学習にも重点がおかれる。

研究会 a・b(3年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]

春・秋セット履修
准教授 山田 篤 裕

授業科目の内容:

この研究会では社会政策(労働政策および社会保障)の政策効果について、経済学の枠組を活用し分析することを目的とします。

現在、日本の社会政策は大きな課題に直面しています。たとえば日本の社会保障の規模は経済(国民所得)の24%ですが、この財源の大部分は現役世代によって支えられています。一方、現役世代への社会保障給付はわずかです。また男女の雇用機会均等化は確かに進みましたが、その影で家庭と仕事の両立に悩む人々が増え、未婚化・少子化傾向は止まらず総人口は減少し始めました。

また先進國中、日本はアメリカに次いで貧困率が高く、所得格差が大きくなっています。さらに長時間働いても経済的に自立できない人々が多く存在しています。正社員と非正社員間で賃金、解雇のしやすさ、訓練機会、社会保険加入などで格差がありますが、企業はこうした非正社員を1990年代から急激に増やしています。

上に挙げた以外にも、日本の社会政策は現在さまざまな課題に直面しています。本研究会では、こうしたさまざまな課題を学生の関心に沿って取り上げ、既存の社会政策の効果を検証して議論していきます。

テキスト:

履修者の関心テーマに応じ、後日指定します。

参考書:

履修者の関心テーマに応じ、後日指定します。

授業の計画:

春学期

1. 基本文献の輪読
2. 文献・データ検索の習得
3. プレゼンテーション技法の習得
4. 三田祭論文の企画・作成

秋学期

1. 基本文献の輪読
2. 三田祭論文の作成
3. 卒業論文研究計画の作成

成績評価方法:

平常点(議論への貢献, レポート, 共同研究等の総合的評価)

質問・相談:

教育支援システム(keio.jp)の利用ならびに個別に随時応じます。

研究会 a・b(3年)[05 学則]
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則]

春・秋セット履修
教授 山田 太 門

授業科目の内容:

公共経済学・財政学および文化経済学について、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とした研究を行う。本ゼミでは専門書の輪読を行う予定。予定人員は20名程度で応募者が多い場合には選考を行う。

4年生については各自の卒業論文のテーマについて研究報告を行う。

研究会 a・b(3年)[05 学則]
研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]
研究会(3年)[99 学則]
研究会(4年)[99 学則]

春・秋セット履修
教授 吉野 直行

授業科目の内容:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

経済のさまざまな指標を見て、現実の経済の動きと経済理論の関係を勉強する。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

データを集めた計量分析を金融・財政政策に応用し、具体的な計量手法を勉強する。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

春学期は経済指標の分析力を高めること、いくつかのパートに分かれた実証分析を行う。

秋学期は各自が選んだテーマの卒業論文に向けた勉強を進める。

授業の計画:

研究会 a(3年)[05] / 研究会(3年)(春)[99]

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータと比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。春学期の輪読では、

(i) 国際経済(Exchange Rates and International Finance)

(ii) 計量経済(Econometrics, Stock and Watson)

(iii) ファイナンス(Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。

研究会 b(3年)[05] / 研究会(3年)(秋)[99]

秋学期には、各パートに分かれて、計量分析手法を用いながら、三田祭論文を作成する。テーマとしては、(i)日本の為替変動の現状とその要因分析、(ii)アジア各国の資金フローの変化とその要因分析、(iii)資産価格の変動(株価・地価の変動)、(iv)財政赤字の現状とマクロ経済効果、(v)日本の地域経済の動向と地域間格差などである。

研究会 c, d, 卒業論文(4年)[05] / 研究会(4年)[99]

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータと比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。春学期輪読では、

(i) 国際経済(Exchange Rates and International Finance)

(ii) 計量経済(Introduction to Econometrics, Stock and Watson)

(iii) ファイナンス(Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに、各自の卒業論文のテーマに沿って、演習を行う。テーマとしては、(i)財務諸表による日米の銀行行動の比較、(ii)資金の地域配分と政治力、(iii)不動産証券化、(iv)金融政策の波及経路、(v)日米の株価の変動要因分析、(vi)銀行行動の計量分析などであり、卒業論文の進捗に応じて発表を行い、コメントを受けながら、論文を書き進める。

成績評価方法:

平常点と論文

質問・相談:

ゼミの中で質問を受け付ける。

研究会 a・b(3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]

研究会(3年)[99 学則]

研究会(4年)[99 学則]

客員教授 若杉 隆平

授業科目の内容:

本研究会は国際貿易・直接投資・イノベーションをテーマとする。イノベーションが生み出す国際貿易パターンの変化やグローバルな企業活動ネットワークの展開を理論面・実証面から分析すること、企業のイノベーションと知的財産権制度、競争政策、産業政策を理論的・実証的に分析することなど、国際貿易、投資、研究開発、イノベーション、法制度と政策にかかわる課題の中から、現実の経済現象に目を向けつつテーマを選び、経済分析を重ねてゆく。

春学期には国際貿易・直接投資・技術革新の分野における基本的な文献に取り組み、基礎力を養う。秋学期には、3年生は、グループ毎に研究テーマを選び、そのテーマに沿って論文・文献を講読し、研究成果を中間報告する。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

研究会で用いるテキスト・文献は第1回研究会の時に紹介する。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度による評価)

研究会 a・b(3年)[05 学則]

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)[05 学則]

研究会(3年)[99 学則]

研究会(4年)[99 学則]

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容:

本研究会の中心テーマは、工業経済論、中小企業論、日本経済論の3者あるいはこれらが交錯する場にあるといえよう。現代資本主義論の理論の学習と現状の日本経済についての批判的理解のための学習とを、できうる限り同時並行的に行いたい。

そのためにも、夏休みを中心とした3年生ゼミ員による共同実態調査は不可欠であると考えている。

研究プロジェクト

(誘導展開型)

三田開講

セット履修

研究プロジェクト a (誘導展開型) [05 学則] (春学期)
研究プロジェクト b (誘導展開型) [05 学則] (秋学期)
研究プロジェクト (誘導展開型) [99 学則] (通年)

准教授 大 平 哲

授業科目の内容:

経済開発をめぐる諸問題を考察する。

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/kpro/>
を参照すること

セット履修

研究プロジェクト a (誘導展開型) [05 学則] (春学期)
研究プロジェクト b (誘導展開型) [05 学則] (秋学期)
研究プロジェクト (誘導展開型) [99 学則] (通年)

教授 鈴木 晃 仁

研究プロジェクト a [05] / 研究プロジェクト (春) [99]

授業科目の内容:

「医療と病気の近現代史」に関するテーマの中から、各人が興味がある主題を選び、研究する。

テキスト:

なし

参考書:

受講者の関心にあわせて選択し指示する。

授業の計画:

基本的な考え方を紹介したあと、受講者の関心にあわせた主題についての文献やデータを輪読・分析し、プロジェクト論文の主題を決定する。

成績評価方法:

研究プロジェクトの方法にしたがう。

質問・相談:

メール

研究プロジェクト b [05] / 研究プロジェクト (秋) [99]

授業科目の内容:

研究プロジェクト a をふまえて、受講者の研究報告を中心に授業を行う。

テキスト:

春学期参照

参考書:

なし

授業の計画:

受講者による研究報告と論文指導

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

日吉開講

研究プロジェクト a (誘導展開型) [05 学則] (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) [05 学則] (秋学期)
研究プロジェクト (誘導展開型) [99 学則] (通年)
「これまでの都市」と「これからの都市」

准教授 長 田 進

授業科目の内容:

現代世界は「都市化の時代」であるとも言われている。都市化とは、産業革命による生産力の急速な増加に伴い、人口及び産業の集中がおこることで都市の成長が進展することである。都市化の度合いを示す指標として、総人口のうち都市部に居住する人口の占める割合を示した数値が広く用いられており、現代の先進国では7割から8割を占めている。

さて、現代の日本は国レベルで都市社会の時代を迎えているといえるが、都市に対する人口・産業の過度な集中は都市環境の悪化を招き、都市社会には取り組むべき各種問題がある。近年、新聞やTVで取り上げられる「中心市街地活性化」の問題なのはこの好例である。

この研究プロジェクトでは、各種の都市にまつわる問題について詳細な考察を試みる学生や、これからの都市に求められる方向性について提案したいとする学生に対して、その研究の場を提供する場として開講する。

テキスト:

最初のセミナーの時間に指定する。推薦する図書は以下の二点からそれぞれ選ぶ予定である。それは(1)論文で取り上げる内容に直結した書籍、及び(2)研究技法を習得するための書籍、である。

参考書:

最初のセミナーの時間に指定する。推薦する図書は以下の二点からそれぞれ選ぶ予定である。それは(1)論文で取り上げる内容に直結した書籍、及び(2)研究技法を習得するための書籍、である。

授業の計画:

前期は、(1)研究技法についてトレーニングを行うとともに、(2)各自の学問的興味を考慮に入れた専門書を購読する。(現時点では輪読形式を考えている。)その中で論文執筆にあたっての詳細な計画を立案し、文献レビューを実行する。夏休み以降は、履修者のプレゼンテーションを何度か行いながら、論文の内容を発展させるべく指導を行うことにする。

履修者へのコメント:

この研究プロジェクトは一年で論文を執筆することを求めている。このスケジュールで論文を完成させるためには、履修者に都市に関する明確な問題意識を持つことが必要とされる。そのような意識を持つ積極的な学生の参加を期待している。

研究プロジェクト a (誘導展開型) [05 学則] (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) [05 学則] (秋学期)
研究プロジェクト (誘導展開型) [99 学則] (通年)
「ユダヤ人問題」 教授 羽 田 功

研究プロジェクト a [05] / 研究プロジェクト (春) [99]

授業科目の内容:

ユダヤ人問題は時間的には2千年近くにおよぶ歴史を持ち、空間的には全世界にまたがる問題としてきわめて特異な性格を有しています。しかし、それだけではなく、「民族」や「民族問題」を考える上でもさまざまな示唆を与えてくれる問題でもあります。さらには宗教、政治、経済、思想、芸術など、人間の多様な営為の場においてつねにユダヤ人は大きな足跡を残してきました。しかし、他方ではユダヤ人に対しては古くから誹謗や中傷が加えられ、また現実に迫害の標的とされてきています。

ところで、わたしたちは「ユダヤ人問題」についてどこまで正確にその特徴や事実関係を知っているでしょうか。あるいは上述したようなユダヤ人のあり方から私たちは何を学び取ることができるのでしょうか。こうした問題関心から始まって、この巨大な問題を全体として理解し、同時に全体的なパースペクティブのもとでユダヤ人問題やユダヤ人あるいはユダヤの歴史・文化などへの各人の個人的な関心を深めていくことがこのプロジェクトの目的です。

テキスト：

プリント配布

参考書：

第一回目の授業時に指示する

授業の計画：

春学期：問題理解のための基本文献を読みながら，基礎的な知識の習得と共に文献の読み方を身に付けかつ論文作成につながる個別研究テーマの発見をめざします。また，これと並行して文献・資料検索やレポート作成や口頭発表の方法についても教示します。

ガイダンス 1回

ユダヤ人問題の歴史（古代から近現代まで） 5回

ユダヤ人問題の特徴的問題について（地域別・テーマ別） 3回

ユダヤ教について 3回

レポートの書き方とテーマについて 1回

履修者へのコメント：

積極的な関心のある学生の参加を期待しています。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

第一回目の授業において指示します。

研究プロジェクト b [05] / 研究プロジェクト (秋) [99]

授業科目の内容：

研究プロジェクト a に同じ

テキスト：

研究プロジェクト a に同じ

参考書：

研究プロジェクト a に同じ

授業の計画：

秋学期：個別テーマにもとづく論文などの作成準備に入ります。テーマに即した文献・資料の読み方，資料の整理方法，論文へのまとめ方なども併せて勉強します。なお，秋学期の個別研究のための準備として夏休みの課題が課されます。

テーマ別文献・資料の検討 2回

論文の中間報告と議論 4回

個別論文指導 4回

その他（テーマ関連の講義など） 2回

論文の最終報告と議論 1回

履修者へのコメント：

研究プロジェクト a に同じ

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

研究プロジェクト a に同じ

研究プロジェクト a (誘導展開型) [05 学則] [春学期] セット履修

研究プロジェクト b (誘導展開型) [05 学則] [秋学期]

研究プロジェクト (誘導展開型) [99 学則] [通年]

教授 バティエ，ロジャー M.

授業科目の内容：

This year I shall offer study courses based on my classes at Hiyoshi. Thus applicants can apply for either A) International Relations (Environment and Development) or B) Art & Fashion.

In A), we shall consider, depending upon student interest, various global problems, either from an international, regional, or national perspective. The object is to gain a thorough understanding of the way in which E&D issues, arise, are discussed, and are managed. Considerable research is required, plus some theoretical background.

In B) we shall consider either an artistic subject, or a fashion period/trend, or both jointly.

Research might have less role to play, but we shall attempt as rigorous a theoretical framework as possible.

テキスト：

TO BE ANNOUNCED IN CLASS

授業の計画：

Lessons will take the form of tutorials/guidance sessions, which will be conducted according to student demand. Very hard workers might expect to see me each week.

More likely, we shall meet every other week. I shall try to maximize individual tuition.

履修者へのコメント：

CONSIDERABLE SELF - MOTIVATION IS A REQUIREMENT .

成績評価方法：

・レポートによる評価

・I PREFER STUDENTS WHO WORK CONSISTENTLY, AND ARE ABLE TO PRODUCE WORK WEEK - BY WEEK.

質問・相談：

I SHOULD BE AVAILABLE FOR E-MAIL/DISCUSSION, EVEN OUTSIDE THE CLASS.

研究プロジェクト C

教授 中野 泰志

准教授 長田 進

准教授 永井 容子

准教授 宮内 環

授業科目の内容：

研究プロジェクト C は，誘導展開型および自発研究型研究プロジェクトに参加する学生が履修する科目です。研究プロジェクト C を単独で履修することはできません。また，研究プロジェクト C を履修しないで誘導展開型および自発展開型研究プロジェクトに参加することもできません。研究プロジェクト ab と研究プロジェクト C は，概念的には 2 つで 1 つの科目であることを理解してください。研究プロジェクト C は，研究プロジェクトのコーディネーターが共同で担当します。成果発表の準備や成果報告会など，成果に関わることを扱います。時間割では週 1 回開かれることになっていますが，授業時間の多くは数回にわたる研究成果報告会やその準備にあてられるため，融通性を持ったスケジュールとなります。詳細なスケジュールは研究プロジェクト開始後に研究プロジェクトの HP 上 (<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>) で発表します。

プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)

MICROECONOMICS (PCP) [05 学則] [99 学則] (春学期)

教授 グレーヴァ 香子

Aim and Content of this Course:

This course aims to (a) provide students with junior/senior level of microeconomics, and (b) enable students to follow it in English. Since the course has two purposes and the time is limited to half-year, the students are strongly encouraged to take other microeconomics courses in addition, if they want to specialize in microeconomics in their theses and/or their future studies. The outline of the lecture is as follows.

1. Consumer theory
2. Producer theory
3. Market equilibrium
4. Monopoly
5. Oligopoly
6. Externalities
7. Public goods
8. Moral hazard
9. Adverse selection

To supplement the lecture, problem sets are given. The answers must be written in English.

Students are encouraged to take notes in English and read only materials written in English.

Textbook:

David Kreps, *Microeconomics for Managers*, Norton.

References:

Hal Varian, *Intermediate Microeconomics*, Norton

Grade:

The grade is based on the problem sets (20%), class performance (10%), and the final written exam (70%). Grammatical mistakes do not count in the grades, but please use technical terms correctly. For the problem sets, you can study in groups but you must write answers individually. Copying will be detected and punished.

Course Pre-requisites:

Introductory microeconomics, introductory game theory, and some mathematics (mathematical logic, optimization, and probability). If you are in doubt whether you are prepared or not, please feel free to contact the lecturer.

質問・相談:

オフィスアワーおよび電子メールで受け付ける。

MACROECONOMICS (PCP) [05 学則][99 学則](春学期) 准教授 白井義昌

授業科目の内容:

This course is an introduction to macroeconomics. The textbook for this lecture is *Macroeconomics*, 6th edition by Abel, Bernanke, and Croushore. The lecture covers ch.1 - 13 of the textbook.

Evaluation will be made based on the results of weekly quiz and the final exam.

テキスト:

Abel, Bernanke and Croushore, *Macroeconomics*, 6th edition, Pearson.

授業の計画:

1. Introduction to Macroeconomics
2. The Measurement and Structure of the National Economy
3. Productivity, Output, and Employment
4. Consumption, Saving, and Investment
5. Saving and Investment in the Open Economy
6. Long-Run Economic Growth
7. The Asset Market, Money, and Prices
8. Business Cycles
9. The IS-LM/AD-AS model: A General Framework for Macroeconomic Analysis
10. Classical Business Cycle Analysis: Market-Clearing Macroeconomics
11. Keynesianism: The Macroeconomics of Wage and Price Rigidity
12. Unemployment and Inflation
13. Exchange Rates, Business Cycles, and Macroeconomics Policy in the Open Economy

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
期末試験
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
毎週の Quiz

PUBLIC POLICY AND LAW (PCP) [05 学則][99 学則](秋学期) 講師 佐藤正弘

This course will focus on the issues of Social Responsibility (SR) and sustainable development.

We start with reviewing the historical transitions of the SR concept and its socio-economical and theoretical backgrounds, and then move to the latest developments both in Japan and in the world that have been required as the risks and threats to sustainable development grew. Those include the standardization of SR by ISO and other institutions, the innovations of practical SR tools such as code of conduct, reporting, labeling, or SRI (Socially Responsible Investment), and the policy frameworks designed to utilize private incentives to achieve social goals. Especially, we will focus on various international multi-stakeholder initiatives on SR and their views on new public governance models based on transparency and accountability of organizations. We will also pick up and discuss some concrete examples of socially responsible activities of various organizations as we go along.

Some guest speakers who are engaged in SR or actual policy process from different standpoints such as the government, think-

tanks, and NGOs will be invited in our class. Through the discussions with them, we can get a sense of their views on the topics that we discuss in the lecture part, which will also give us some hints or ideas that may be useful in preparing for student presentations.

As an important part of class participation, students will be required to pick up an issue on SR and make their own proposals in class. The presentation will be based on group works depending on the number of the students who actually participate in the course.

The course is taught in English except the presentations from guest speakers. We will also have a very short exercise in each class, where students make a brief presentation about given material.

Assessment will be on the basis of class participation (50%) and a term paper (50%).

INTRODUCTION TO LAW AND ECONOMICS (PCP) [05 学則][99 学則](秋学期)

- From the perspective of Comparative Institutional Analysis -
特別招聘教授 鶴 光太郎

This course provides an introduction to law and economics but more emphasizes the perspective of comparative institutional analysis, compared with the standard textbook of this area (e.g. Cooter and Ulen). The first five sessions of the course deal with the role of legal institutions in the economic system of a nation. Then, we move to the role of law in each subsystem, like finance, corporate governance and labor. We also discuss the relationship between law and globalization or economic growth. Finally, we consider judicial reform from an economist's view. Readings for the course will be instructed in the class.

Course pre-requisites: introductory microeconomics (e.g. Chapter 2 of Cooter, R and T. Ulen (2004), *Law and Economics*, Fourth Edition)

Evaluation: Class participation (20%), Presentation (50%), Report (30%)

- Week 1: Guidance
Week 2: Economics with and without Law: What are institutions?
Week 3: Private ordering
Week 4: Legal institutions and economics: The Comparative Institutional Economics
Week 5: Legal evolution and the transplant effect
Week 6: Law and finance
Week 7: Law and corporate governance
Week 8: Law and labor
Week 9: Law and innovation (intellectual property right)
Week 11: Law and globalization
Week 12: Law and economic growth
Week 13: Judicial reform

INTRODUCTION TO FINANCE (PCP) [05 学則][99 学則](秋学期) 教授 前多康男 准教授 新井拓児

授業科目の内容:

The course provides a modern portfolio theory and a basic option pricing theory. First, we prepare mathematical preliminaries. In particular, we deal with a basic concept of a probability theory. Second, we study a modern portfolio theory. Topics covered in this section include the mean-variance portfolio analysis, the CAPM. Finally, a basic theory of option pricing models is discussed by dealing with one-period binomial option pricing models. Especially, we study meanings of important terms, for example "arbitrage", "hedging", "martingale probability" and so on. The course also covers the presentation of Mathematica implementation of the model used in Finance. To register this class, basic knowledge about microeconomics is required.

テキスト:

To be announced in class.

参考書:

To be announced in class.

授業の計画：

The following topics are covered:

1. Randomness and random variable
2. Expectation and variance
3. Return and risk
4. Mean-variance portfolio analysis
5. CAPM
6. Introduction to option pricing
7. Hedging and arbitrage (one-period binomial model)
8. Martingale probability
9. Introduction to Mathematica
10. Implementing mean-variance model by Mathematica
11. Implementing numerical option pricing models by Mathematica

成績評価方法：

Midterm Exam 25%, Final Exam 50%, Homework 25%

質問・相談：

By E-mail.

ADVANCED FINANCE (PCP) [05 学則] [99 学則] (春学期)
 講師 塚原英敦

授業科目の内容：

The course, which is the sequel to Introduction to finance, deals with the option pricing theory and practice. Two-period binomial models are discussed first, and then we extend them to multiperiod binomial models. Next, in order to study the Black-Sholes model, we prepare several important topics in probability theory, which includes normal distribution, random walk, the central limit theorem, Brownian motion and stochastic differential equations (SDE). Finally the Black-Sholes model is introduced and the renowned Black-Scholes formula is derived.

テキスト：

None

参考書：

Reading materials will be suggested in the lectures.

授業の計画：

1. Review of single period binomial models
2. Two period binomial models
3. Multiperiod binomial models
4. Exercise (1)
5. Normal distribution
6. Random walk
7. The central limit theorem
8. Construction and definition of Brownian motion
9. Basic guide of stochastic differential equations
10. Girsanov theorem
11. Introduction to Black-Sholes model
12. Black-Scholes formula
13. Exercise (2)

成績評価方法：

Midterm Exam 25%, Final Exam 50%, Homework 25%

APPLIED FINANCE (PCP)
 [05 学則] [99 学則] (春学期)
 教授 前多康男
 講師 酒井良清

授業科目の内容：

The first section of the course covers macro-aspect of finance, i.e., decisions of the government about how much money to supply to the economy, the channels of monetary policy transmission, the role of central banking, and the role of deposit insurance system.

The second section covers micro-aspect of finance. By using the computer software such as Mathematica, we study how apply finance theory to the actual financial data. Topics covered in this section include option pricing models, and swap pricing models. To register this class, it is required that you have already taken introduction to finance (PCP).

テキスト：

To be announced in class.

参考書：

To be announced in class.

授業の計画：

Topics to be covered:

1. The channels of the monetary policy.
2. The role of central banking.
3. The role of deposit insurance system.
4. Financial system: the interaction between market and regulation.
5. Introduction to Mathematica (Review).
6. Implementing one-period and multi-period binomial option models.
7. Implementing Black-Scholes model by Mathematica.
8. Valuation and capital budgeting.

成績評価方法：

Midterm Exam 50%, Final Exam 50%.

質問・相談：

By E-mail.

JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS
 (PCP) [05 学則] [99 学則] (秋学期)

教授 吉野直行

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train students to apply economic theory, econometric techniques and economic intuition to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

References:

- Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, Foundations of Modern Macroeconomics, Oxford University Press.
 - Yoshino, Naoyuki and Seiritsu Ogura, 'The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. Industrial Policy of Japan, Academic Press, 1988
 - Yoshino, Naoyuki et. al. Eigo de Yomu Nihon no Kinyu (Economic Issues of Contemporary Japan), Yuhikaku publishing, 2000
 - Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara, 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', Asian Economic Papers, vol.1, No.2, pp.110-26, 2002
 - Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill, Postal Saving and Fiscal Investment in Japan, Oxford University Press, 2003
 - Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT press, 1992
 - Yoshino Naoyuki and Mark Scher, Small Savings Mobilization and Asian Economic Development, M. E. Sharpe, 2005
- More references will be given during the lecture.

Topics to be covered:

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: causes and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan

14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および毎回の小テスト）による評価

PUBLIC DECISION-MAKING (PCP)

[05 学則][99 学則](春学期) 講師 廣川 みどり

Offered to PCP students in the 4th year, students in the Graduate School of Economics and exchange students affiliated with the International Centre

Course Outline:

This course will focus on collective decision-making, especially voting.

Public goods are consumed simultaneously by multiple consumers. Hence it is important how to determine the production level by consumers with various preferences. This is why we deal with voting in this public policy program.

The following topics will be covered:

1. Public goods
2. Voting paradox
3. Arrow's impossibility theorem
4. Implementation theory
5. Spatial argument on voting
6. The role of information
7. Voting game
8. Power indices

Note that this schedule may be modified, depending on participants.

Expectations:

We use some (noncooperative/cooperative) game theoretical tools, but welcome the participation of the very beginners. (Please study sufficiently.)

Participants are encouraged not only to solve math problems but also to figure out the logic, to find examples and to consider the applications. (Of course, new model building is more than welcome.)

Evaluation:

The grade is based on class participation (10%), homework (20%) and final (paper) exam(70%).

Course materials:

Reading for the course will be given in the class.

MONETARY AND FISCAL POLICY (PCP)

[05 学則][99 学則](UBS証券会社寄附講座 MONETARY AND FISCAL POLICY UBS LECTURE SERIES)(春学期)
教授 吉野 直行
准教授 土居 文朗

Offered to PCP students in the 4th year, undergraduate students in the Faculty of Economics, students in the Graduate School of Economics and exchange students affiliated with the International Centre

This class is financially supported by the Union Bank of Switzerland (UBS). A scholarship for studying outside Japan, also funded by UBS, will be awarded to the student(s) who enrol in this class and show extraordinary effort and competence in writing an academic paper.

Speakers are invited from outside the faculty of economics at Keio University, to lecture in English. Their lectures will be given from 10:45-12:00AM and students write their summary of the lectures between 12:00-12:15. Evaluation is based on the summary which students must submit after each lecture and the final examination.

The lecture topics and the affiliated institutions of planned speakers are as follows:

- (i) Japanese monetary policy, historical perspectives (Bank of Japan)
- (ii) Japanese financial regulatory policy (Bank of Japan)
- (iii) Monetary policy and the behaviour of private banks (Private sector bank)
- (iv) The role of capital markets in Japan (Investment bank)
- (v) Activities of foreign financial institutions in Japan (Foreign

financial institution)

- (vi) The role of FSA (Financial Services Agency)
 - (vii) International Finance of Japan (Ministry of Finance)
 - (viii) The Asian Financial Market and the role of Japan (Ministry of Finance)
 - (ix) The Japanese Government Bond Market (Securities House)
 - (x) Fiscal Policy of Japan (Ministry of Finance or Ministry of Land, Infrastructure and Transport)
 - (xi) Tax Policy of Japan (Ministry of Finance)
 - (xii) Central and local government relations in Japan (Ministry of Internal Affairs and Communications)
 - (xiii) Postal privatisation and the Fiscal Investment and Loan Program (Ministry of Finance)
-

THE JAPANESE ECONOMY FROM AN INTERNATIONAL PERSPECTIVE (PCP)[05 学則][99 学則](秋学期)

教授 竹森 俊平

In essence, Japanese Macroeconomic policies are and always have been exchange rate management policies. The purpose of this course is to prove this truism. The course will do so by presenting abundant evidence covering the entire period between Meiji and today.

Why exchange rates matter so much for us is another interesting question and the course will try to answer it. By doing so, it will clarify the economic situations of countries, such as China today, for which macroeconomic policies essentially signify exchange rate management policies.

DEVELOPMENT ECONOMICS (PCP)

[05 学則][99 学則](特定期間集中)

開講日時：7月29日(火)~7月31日(木) 各日2~5時限,
8月1日(金)2~4時限

Current Issues on International Development

特別招聘教授 深作 喜一郎

Description:

This course is an introduction to development economics and to current issues on international development. It combines a series of lectures and presentations of term papers by students. Lectures deal with a wide range of topics, including the comparative development of East Asia and Africa; contemporary models of development and underdevelopment; trade policy and development experience; foreign finance, investment and aid; policy coherence for development; and the role of international organisations.

Readings:

Required Textbook - Michael P. Todaro and Stephen C. Smith *Economic Development*, 9th edition, Pearson, Addison Wesley, 2006. (http://wps.aw.com/aw_todarosmit_econdevlp_9/)

As this textbook demonstrates, the scope of development economics is huge, touching upon almost every field of economics. During the course, some chapters will be used more intensively than others. This course also takes up several current issues on international development, in which case lectures and discussions go beyond the textbook, and supplementary reading materials will be provided.

Requirements:

Assessment will be based on a term paper (two-thirds of grade) assigned to each student and presentation of a term paper (one-third of grade) during the course.

Term Papers: Each student is requested to submit a draft term paper at **Gakuji centre**. He/she can choose three topics from the 8 Questions for Discussion part of Chapters 2, 3, 4, 12, 13 and 15, and write short essays on them. It is expected that each essay is about 800 - 1,000 words long, but topics need to be selected from different chapters. During the course, each student is requested to make a presentation on one of his/her essays. At the last session, each student will have an opportunity to revise and finish one selected essay as a final term paper, before submission for grading.

Course Outline:

See the attachment. Note that this is provisional. The course outline may be modified according to the needs of students.

Course Outline

Part I - Development Economics

- Session 1 Introduction and Overview
- Session 2 Comparative Development (Todaro & Smith, Chapter 2)
- Session 3 Different Theories of Development (Todaro & Smith, Chapters 3-4)
- Session 4 Presentations by Students and Discussions (1)
- Session 5 Trade and Development (Todaro & Smith, Chapters 12-13)
- Session 6 Foreign Finance, Investment and Aid (Todaro & Smith, Chapter 15)
- Session 7 Presentations by Students and Discussions (2)

Part II - Current Issues on International Development

- Session 8 Introduction and Overview
- Session 9 Topic (1) Policy Coherence for Development
- Session 10 Topic (2) Aid for Trade: An Emerging Policy Agenda
- Session 11 Presentations by Students and Discussions (3)
- Session 12 Topic (3) Trade and Aid in African Development
- Session 13 Topic (4) The Rise of China and India
- Session 14 Presentations by Students and Discussions (4)
- Session 15 Wrap-up (and final submission of term papers)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a (PCP) セット履修

[05 学則] (春学期)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS b (PCP)

[05 学則] (春学期)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS [99 学則] (春集)

教授 嘉治 佐保子

Course Outline :

This course is offered to fourth-year undergraduate students participating in the PCP programme.

The purpose of this course is to introduce basic concepts and basic analytical frameworks of Open Economy Macroeconomics, and to encourage students to apply them in thinking about real-world issues. Students who attend this course are assumed to have sufficient knowledge of entry-level macroeconomics and microeconomics.

Topics to be covered:

- . A Review of Closed Economy Macroeconomics
IS-LM Analysis, Aggregate Supply, and Aggregate Demand
- . Basic Concepts in Open Economy Macroeconomics
Small Country Assumption, Stock vs. Flow, The Balance of Payments, The Exchange Rate, The Interest Rate Parity Condition
- . Theories of Exchange Rate Determination
Purchasing Power Parity, Stock Equilibrium Approach, Flow Approach, The Marshall-Lerner Condition, The J-curve Effect
- . The Mundell-Fleming Results
The M-F Result and the Structure of the Model – a Simple Model, The M-F Result under Fixed Exchange Rates, Alternative Assumptions: Two-Country, Imperfect Capital Substitution, The M-F Result under Flexible Exchange Rates, Alternative Assumption: Two-Country
- . The Speed of Adjustment of Endogenous Variables and Overshooting
- . Economic Interdependence and Choice of Exchange Rate Regimes

Text :

http://ocw.dmc.keio.ac.jp/economics/02A-008_e/list.html

References :

- Canzoneri, M. and D. Henderson, *Is Sovereign Policymaking Bad?* *Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy No.28*, pp.93-140, 1988
- Dornbusch, Rudiger, *Open Economy Macroeconomics*, Basic Books, Chapter 10, 1980
- Reference: *Dornbusch Chapter 11*, 1980
- Kaji, Sahoko, *Kokusai Tsuka Taisei no Keizai Gaku (The Economics*

of Exchange Rate Systems), Nihon Keizai Shimbun Publishing, 2004

Grade :

Final: 70%, Class participation 30%

ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY (PCP)

[05 学則][99 学則](秋学期) 講師 有村 俊 秀

授業科目の内容 :

This course uses microeconomics to analyze environmental issues. Topics include market-based regulations, valuing the environment, air pollution, global warming, waste management, natural resource scarcity (minerals, natural gas and oil), international trade, and trade-offs between environmental quality and economic growth. Coverage of the topics will balance textbook applications of environmental economics with analysis of environmental policy. Instruction will consist of a mix of lectures, class discussion and presentation.

テキスト :

Kolstad, Charles D. *Environmental Economics*. 1st ed. New York, NY: Oxford University Press, 2000. ISBN: 0195119541.

授業の計画 :

1. Introduction
2. Efficiency and Market (Chapter 4)
3. Market Failure: Public Bads and Externalities (Chapter 5)
4. Pigovian Taxes (Chapter 8)
5. Emission Fees and Marketable Permits (Chapter 9)
6. Cost Benefit Analysis in Practice: Japanese Air Pollution Case
7. Uncertainty and Policy Instruments (Chapter 9)
8. Emission Trading in Practice
9. WTP, CV, EV (Indirect Utility Function and Expenditure Functions)
10. Environmental Demand Theory (Chapter 15)
11. Hedonic Price Methods (Chapter 16)
12. Household Production (Chapter 17)
13. Group Presentations
 - Group Presentation 20%
 - Midterm 20%
 - Final: 40%
 - Class Participation 20%

履修者へのコメント :

Analytical models will be used throughout the course. Students should be comfortable with basic economic models of optimization (utility and profit maximization). Some calculus will be required.

Knowledge on econometrics or statistics will be useful.

成績評価方法 :

- 試験の結果による評価
- 平常点 : 出席状況および授業態度による評価
- その他

ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY (PCP)

[05 学則][99 学則](秋学期) 講師 馬奈木 俊 介

Course Description :

This course provides a comprehensive account of the application of economic analysis to environmental issues. The course covers both methodological topics and recent applications.

Using microeconomic principles, we will examine such topics as the sustainability problems, ethics and the environment, climate change, irreversibility and uncertainty, trade and the environment, public policies, and business practices.

Preliminary Course Outline:

Following is a tentative outline. I will let you know if there are any additions, deletions, or rearrangements. I don't want to tie us to an inflexible schedule, but I'll keep you posted each week on where you should be in the reading.

Part One: Economics and Environment

Primer: Economic Concepts for Environment

Market failure and public policy

Concepts of sustainability

Ethics and the environment

Part Two: Global environmental problems

International externalities
Trade and the environment
Global climate change
Acid rain, ozone layer, and biodiversity
Linkages

Part Three: Practice in environmental policies

Pollution control: Targets and instruments
Sustainable development and politics
Water and air pollution
Recycling and waste
Emission trading

Part Four: Environmental management and strategy

Approaches to business and the environment
Differentiating products
Managing your competitors
Saving costs
Managing environmental risk
Redefining markets

Supplements:

Charles Kolstad. *Environmental Economics*. Oxford University Press, 1999.

Robert N. Stavins, ed. *Economics of the Environment: Selected Readings*, Fourth Edition. New York, New York: W. W. Norton & Company, 2000

Forest L. Reinhardt, *Down to Earth: Applying Business Principles to Environmental Management*, Harvard Business School Pr., 1999

Assessment:

Grades will be assigned according to the following weighting scheme:

20% Mid-term Exam
40% Final Exam
20% Homework
20% Class Participation

The homework must be typed in single space, and please keep one copy for yourself.

INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS (PCP)
[05 学則][99 学則] (春学期)

教授 パティール, ロジャー M.

This course aims to give students a comprehensive overview of the international regimes currently in place to deal with the main environmental problems we now face. We will look not only at the evolution of the issues themselves, but also the institutions which have been created to deal with them, and the legal measures which have been enacted to address them. The course is not theory-based, but aims to give students a variety of perspectives on the problems. Students are expected to familiarize themselves with a wide range of current data, and to be able to see the uses and abuses to which these data may be put.

1. Global Environmental Problems - An Overview
Which problems are global environmental problems? Why? Inter-generational equity. A short history of environmental awareness.
2. What is Sustainable Development?
The link between environment and development. Defining sustainable growth.
3. North and South
Key Backgrounds to the E&D debate: population; urbanization; land-use; political systems: common agendas in the North; different agenda of the South.
4. International Institutions and the Environment
The UN system and the Environment. Stockholm 1972, Rio 1992. Other multi-lateral institutions. The role of NGOs.
5. International Law and the Environment/Pesticides
An overview of the evolution of legal regimes dealing with international environmental issues. Pesticides as a test case.
6. Trade in Endangered Species/CITES

Environment and Trade. Efforts to Control Species Trade. The CITES mechanism. Successes and Failures.

7. Biodiversity/The Biodiversity Convention
The wider biodiversity issue. What is biodiversity? Where is it? Whose is it? Conservation - is it possible? Necessary? By whom? For Whom?
8. The Ozone Problem/The Montreal Protocol
A success story? Defining a problem. Finding an international solution and building on it. The limits to the deal.
9. Global Warming/Kyoto Protocol and Beyond
The politics of climate change. Why is global warming such a contentious issue? Can we do much to stop it? If so, what? If not, what then?
10. Desertification/The Limits to International Action
When is a global problem not a global problem? Effects and the affected. Land use, farming, and the North-South divide.
11. Fishing
Subsidizing destruction. The rush to deplete stocks. Difficulties in finding an institutional framework.
12. Technology, Markets, Laws and Social Change
Policies to combat environmental problems. Getting the right mix. Actors and Agents. Incentives for change.
13. The Future?
The nature of our problems. Obstacles to change. The nation state and the global environment.

Evaluation:

- 30% Final Exam
- 30% Presentation in Class
- 20% Attendance
- 20% Mid-Term Exam

References:

- UNDP, *Human Development Report(s)*, 2000-2004 OUP.
- World Resources Institute, *World Resources*, 2000-2004 OUP
- Scott Barrett, *Environment and Statecraft* OUP, 2003
- P. Birnie and A. Boyle, *International Law & Environment* [2], 2002
- B. Lomberg, *The Skeptical Environmentalist*, 2001

ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY
(PCP) [05 学則] [99 学則] (特定期間集中)

開講日時 : 7月31日(木), 8月1日(金), 4日(月) 各日1~5時限
Intensive Course 講師 高村 ゆかり

Law is essential for preventing environmental damage as well as for improving environmental quality. However, the law disregarding economic principles could make our economy disordered and could make it even impossible to achieve our goal for protecting the environment. On the other hand, any economic activity cannot ignore legal rules related to the activity. This course aims at studying environmental law including international environmental law, especially focusing on interrelationship between environmental law and economy. The main topics of the course are as follows:

1. Environmental Law: Its Origin and Developments
Environmental law is a body of public regulations intended for combating against environmental pollution and adverse impacts on the environment due to expansion and developments of economic activities. The course deals with the history of environmental law, considering historic developments of economic activities.
2. Fundamental Principles of Environmental Law
Environmental law in each country has been evolving, influenced by policy coordination and environmental regulation at international level, and it has developed common fundamental principles, which constitute pillars of its legal system. The lecture deals with some of such principles, including polluter-pays principle (PPP) and precautionary principle.
3. Instruments Aiming at Environmental Protection
Environmental law makes use of various instruments in order to achieve its goal for environmental protection. In addition to traditional "command and control", we examine economic instruments, such as emissions trading, environmental tax and subsidies, which have

received more and more attention recently.

4. Climate Change as Case Study

Climate change law is a showcase where we see a number of examples of practical application of principles and policy instruments. Studying history and structure of the United Nations Framework Convention on Climate Change and the Kyoto Protocol, the lecture examines how these two climate agreements and national regulations implementing these agreements apply principles and policy instruments actually.

5. Environmental damage, liability and responsibility

The lecture surveys legal rules on liability and responsibility for environmental damage caused by activities of economic actors.

6. International business activities and environmental law

The course surveys international environmental regulations on business activities in overseas market and foreign investment and examine related legal problems.

Grading:

Class participation (50%) and final exam (50%)

Course requirements:

All students are expected to attend every class, do the assigned reading, and participate actively in discussions.

Recommended readings for the course:

- Philippe Sands, *Principles of International Environmental Law*, Second edition, Cambridge University Press, 2003
- Patricia Birnie & Alan Boyle, *International Law & the Environment*, Second edition, Oxford University Press, 2002
- Patricia Birnie & Alan Boyle, *Basic Documents on International Law & the Environment*, Oxford University Press, 1996
- Japan Environmental Council ed., *The State of the Environment in Asia 2005/2006*, Springer-Verlag Tokyo, 2005

*Other materials will be instructed in the class.

APPLIED ECONOMETRICS (PCP)

[05 学則][99 学則](春学期)

教授 マッケンジー, コリン R.

Aim and Content of Course:

This course aims to: (a) provide students with an introductory knowledge of applied econometrics; and (b) enable students to estimate and evaluate linear regression models using the econometrics software package called EViews 5. In the econometric analysis of any socio-economic phenomena, the creation of some sort of "model" is the usual starting point of any analysis. Econometric model building involves the following seven steps: (i) the specification of a theoretical model, (ii) data collection; (iii) the specification of a model for estimation; (iv) the estimation of unknown parameters; (v) hypothesis testing; (vi) model evaluation; and (vii) simulation and forecasting. This course focuses on estimation using ordinary least squares (step (iv)) and hypothesis testing using the t and F tests (step (v)). Where possible, estimation and hypothesis testing techniques will be illustrated by empirical examples that use either cross-section or time series data. The emphasis in this course is not in proving propositions, but rather on the strong connection between the assumptions made about the components of the regression model and the results that can be obtained, and the various difficulties that arise when analyzing real data.

Text:

- Asteriou, D., *Applied Econometrics: A Modern Approach Using Eviews and Microfit*, Palgrave Macmillan, New York, 2006

Japanese Language References:

- 浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣, 2000年
- 松浦克己・マッケンジー・コリン『EViewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社, 2005年
- 滝川好夫・前田洋樹『EViewsで計量経済学入門』日本評論社, 2004年

English Language References:

- Carter Hill, R., W.E. Griffiths and G.G. Judge, *Undergraduate Econometrics*, John Wiley & Sons, New York., 2001
- Kennedy, P., *A Guide to Econometrics* 5th Edition, Blackwell

Publishing, Malden, MA., 2003

- Quantitative Micro Software, *EViews 5 User's Guide*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- Quantitative Micro Software, *EViews 5 Command and Programming Reference*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- Wooldridge, J.M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, South-Western College Publishing, USA., 2000

Lecture Outline:

1. What is Econometrics? What Does Econometric Model Building Involve?
2. Review of Important Economic and Statistical Concepts (Marginal Effects, Elasticity, Expectations, Variance, etc)
3. Ordinary Least Squares (OLS) for the Simple Linear Regression Model
4. The Statistical Properties of OLS for the Simple Linear Regression Model (including the Gauss-Markov Theorem)
5. Simple Hypothesis Testing Using the Student t-test
6. Using EViews 5 to Produce Descriptive Statistics, Graphs and Simple Regression Results
7. OLS for the Multiple Linear Regression Model
8. The Statistical Properties of OLS for the Multiple Linear Regression Model
9. Testing Hypotheses Relating to Several Parameters Using an F-test
10. Dummy Variables and Testing for Structural Change
11. Using EViews5 to Produce Multiple Linear Regression Results and to Conduct Hypothesis Testing
12. The Impact of Model Misspecification and Multicollinearity
13. Model Evaluation

General comments about the course and prerequisites:

In order to understand the material in this course, it is extremely desirable that students have some previous knowledge of linear algebra, differentiation (including partial differentiation), and probability. Instruction in the use of the econometrics software package, EViews 5, will be given as part of this course. This course will strictly avoid the use of matrix algebra.

One of the purposes of econometrics is to test hypothesis suggested by other areas of economics, for example, microeconomics and macroeconomics. As a result, econometrics should not be considered in isolation, but as a complement to other subjects taught in the Faculty of Economics and the PCP program.

Grading:

Grades in this course will be awarded on the basis of a student's performance in an end-of-semester written exam, and two pieces of homework to be handed in during the semester. Some of the problems on each piece of homework will involve the using EViews 5 for estimating some econometric models and interpreting the results. In determining a student's final grade, the results for the written exam and homework will be combined using the weights 80:20 or 100:0, whichever gives the more favorable result for the student concerned.

To contact the Lecturer:

Please send a mail message to Colin McKenzie (mckenzie@econ.keio.ac.jp)

PRESENTATIONS AND DISCUSSION SKILLS (PCP)

[05 学則][99 学則](春学期)

教授 松岡和美

授業科目の内容:

The goal of this course will be to improve oral/aural skills of students in the PCP program. Skills which will be emphasized in this class include effective note-taking, forming and asking questions, giving formal presentations, and actively participating in group discussions. In the later half of the semester, each student presents two opposing views of a controversial topic to the class, and leads a class discussion. All sessions will be conducted in English.

テキスト:

Delk, Cheryl L, *College Oral Communication 3*, Houghton Mifflin, 2006

授業の計画：

- Week 1-2: Orientation; Basic note-taking skills, Group discussion skills
- Week 3-4: Cues and keywords; using abbreviations, Oral presentation on a process
- Week 5-6: Using graphic organizers; Signal words; using symbols; Study groups
- Week 7-8: Interpreting a Table or Chart; Presentation and Discussion exams
- Week 9-10: Identifying different points of view; Presentation and Discussion exams,
- Week 11-12: Analyzing case studies; Presentation and Discussion exams,
- Week 13: Presentation and Discussion exams

履修者へのコメント：

The instructor expects students to have a professional attitude in the class. Two unexcused absences will lead to the failure of this course. No assignment will be accepted past its deadline. Speaking up without being called on will be crucial to be successful in this class.

成績評価方法：

- ・ Assignments 30%
- ・ Classroom participation, attendance 30%
- ・ Presentation and Discussion 40%

該当する評価方法：授業内試験の結果による評価・平常点・課題による評価

質問・相談：

Students should read and use the information on the course homepage (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour (at the Hiyoshi campus) is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY (PCP) [05 学則][99 学則](UBS証券会社寄附講座 FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY UBS LECTURE SERIES)(秋学期)

教授 嘉治 佐保子
教授 吉野 直行

Offered to PCP students in the 3rd year, students in the Graduate School of Economics and exchange students affiliated with the International Centre

This class is financially supported by the Union Bank of Switzerland (UBS). Students who enrol in this class have a choice of writing a paper independently or jointly. A scholarship for studying outside Japan, also funded by UBS, will be awarded to the student(s) who show extraordinary effort and competence in writing a paper independently.

During the first half of the term, speakers are invited from outside the faculty of economics at Keio University, to lecture in English. Their lectures will be on recent developments in the speakers' respective field of specialisation among the five PCP courses; Environmental Economics, Finance, International Economics, Law and Economics and Public Policy. The speakers will be invited from around the world (including Japan). They will be employees of institutions public and private, as well as in between. The lectures are given from 14:45-16:00 and students write their summary of the lectures between 16:00-16:15. Some speakers may help create opportunities for students to visit trading-floors and factories, to conduct interviews, and to participate in internship programmes.

During the second half of the term, students write their final paper and take turns presenting their progress. Students can freely choose their topic, as long as it is related to the lectures given earlier in the term. They thus train themselves to apply the knowledge and English skills acquired in the classroom to the analysis of real-world economic issues. Those who choose to write a joint paper form groups according to their own interest and engage in joint research.

Evaluation is by the weekly lecture reports, presentations and final papers.

READING AND COMPOSITION (PCP)

[05 学則][99 学則](秋学期)

講師 チャイルズ, マーシャル R.

授業科目の内容：

The goal of this course is to improve the academic writing and reading skills of students in the PCP program.

Two skills are emphasized: (1) understanding organization and form, including paragraphs, sections, exhibits, abstracts, and opening and closing statements; (2) understanding conventions of academic wording such as rhythm, insertion of parenthetical comments, and the use of typical expressions such as "however," "thus," "on the other hand," and others. All sessions will be conducted in English.

テキスト：

Text: Oshima, Alice, and Ann Hogue, *Writing Academic English* (4th ed.). Pearson Longman, 2006

参考書：

Recommended reading: published English-language articles in the field of Economics

授業の計画：

- Session 1 Orientation - The process of academic writing
- Session 2 Overview of the paragraph; types of sentences I
- Session 3 Paragraph unity I; types of sentences II
- Session 4 Outlining; adverb clauses I
- Session 5 Paragraph unity II; adverb clauses II
- Session 6 Coherence; noun clauses I
- Session 7 Coherence in 2-paragraph essays; noun clauses II
- Session 8 Concrete support I; paraphrasing
- Session 9 Concrete support II; summarizing
- Session 10 The essay; relative clauses I
- Session 11 Patterns of organization I; relative clauses I
- Session 12 Patterns of organization II
- Session 13 Evaluation of essays; checklists

履修者へのコメント：

Reading in English, even very simple English, gradually improves your general English skill.

成績評価方法：

- ・ Writing assignments 40%
- ・ Attendance and participation 40%
- ・ Reading assignments, homework 20%

質問・相談：

Student questions and concerns will be handled in class and by individual appointment. Instructor's e-mail: childs@tuj.ac.jp

ACADEMIC WRITING (PCP)() [05 学則][99 学則]

(春学期)

法学部 専任講師 ファロン, ルース C.

Course description:

This course will emphasize the process of writing academic research reports in English following acceptable protocols and international standards of academic research. Each student will prepare an original research paper of 10 to 15 pages during the semester. Other short writing assignments will be included in the course. There will be strict deadlines for each step in the planning, drafting and revising the final report. Models of longer research papers and essays on topics related to economics will be provided as course materials.

Students will share drafts of their writing and will also give constructive evaluations of others' writing and research. All class activities will be conducted in English.

Text:

Alice Oshima and Ann Hogue Pearson, *Writing Academic English* (Fourth Edition), Longman, 2006

Syllabus:

- Week 1. Students will hand in a short essay as an initial writing sample.
WAE Chapter 9
- Weeks 2-4. Essay # 2; WAE Chapter 8
Review of unity and coherence in long essays,

- reports
- Weeks 5-7. Outlines for combined essays; focusing a topic
Analyzing model research reports
- Weeks 8-10: Documentation; incorporating references into paragraphs
Individual consultation
- Weeks 11-12. Revising and polishing the first draft
- Week 13. Final paper due; writing abstracts

Expectations:

Students who take this course must be able to organize essays in English with relative fluency. Homework assignments for the planning and drafting of the research paper must be submitted by the due dates. Students will be expected to participate actively in class activities and offer constructive criticism of other students' drafts which they will review in the class. A student's grade in the class will be based on:

Homework	30%
Attendance/participation	30%
Final research paper	40%

ACADEMIC WRITING (PCP) () [05 学則] [99 学則]
(春学期) 講師 チャイルズ, マーシャル R.

授業科目の内容:

This course will enhance students' skills to write academic reports in English, following accepted styles and standards. In addition to short writing tasks, each student will prepare an original research paper of 10 to 15 pages. There will be a strict deadline for each step of planning, drafting and revising the final report.

Students will be given models of writing style and organization. All class activities will be conducted in English.

Students in the class will not compete against each other for grades; instead, a cooperative spirit is expected to raise the general level. Students will share drafts of their writings with classmates, and will give constructive evaluations to aid in rewriting.

テキスト:

Alice Oshima and Ann Hogue Person, *Writing Academic English* (Fourth Edition), Longman, 2006

参考書:

Students should read published English-language articles in the field of Economics.

授業の計画:

- Week 1 Overview: process of writing research reports
- Week 2 Organizational patterns of longer essays and reports
- Week 3 Focusing research; fine-tuning a thesis
- Week 4 Internet research; evaluating web sites
- Week 5 Summarizing, paraphrasing, quoting, and synthesizing sources
- Week 6 Plagiarism; writing a first draft
- Week 7 Writing style; appropriate levels of formality for academic research
- Week 8 Documentation
- Week 9 Individual consultation
- Week 10 Revising awkward writing; precise choice of words
- Week 11 Writing abstracts and summaries
- Week 12 Polishing and editing reports; fine-tuning writing style
- Week 13 Final paper due

履修者へのコメント:

Reading English-language materials, even simple materials, improves your writing ability.

成績評価方法:

Final research paper	40%
Attendance and participation	40%
Homework	20%

質問・相談:

Student questions and concerns will be handled in class and by individual appointment. Instructor's e-mail: childst@tj.ac.jp

INDEPENDENT STUDY (PCP) [05 学則] [99 学則] (秋学期)

教授 嘉治 佐保子
法学部 専任講師 ファロン, ルース C.

In this course, we advise each student in writing the final paper for the Professional Career Programme.

Students individually examine real world issues in depth, applying the economic theory and economic analysis which they have acquired in the programme. Since the report will be prepared / written in English, students will also make use of language skills they have gained in PCP courses.

Students themselves will choose the topic and analytical method, gather the necessary information, conduct the analysis and complete the research. In this process, students will each make short progress reports to the class in order to receive comments and advice from fellow students and the professors.

As a conclusion to the term, there will be an Independent Study convocation in which students present their final papers in English. Evaluation is by class participation, progress reports and final papers.

(3) 関連科目

民法 a [05 学則] (春学期)	
民法 b [05 学則] (秋学期)	
民法 [99 学則] (通年)	講師 小西 飛鳥

民法 a [05] / 民法 (春) [99]

授業科目の内容:

この講義では、民法総則について扱います。民法総則は、私法の基本となる基礎的概念を定めている分野であり、抽象的な規定が多いのですが、できるだけ具体例を挙げて説明したいと思います。

テキスト:

- ・2007年版六法 必携
- ・斎藤和夫『レアブーフ民法・民法総則』中央経済社 必携

参考書:

講義中に指示します。

授業の計画:

1. 私法とは 私法の原則と修正
2. 私権の行使についての原則
3. 権利能力・行為能力
4. 成年後見制度
5. 法人
6. 物
7. 意思表示
8. 法律行為・法律行為の有効要件
9. 代理制度(1)
10. 代理制度(2)
11. 無効と取消・条件と期限・期間の計算
12. 時効制度(1)
13. 時効制度(2)

履修者へのコメント:

民法は、日常生活全般を規律する法律です。民法を手始めに、法律に対して関心を持ってもらえたらと思います。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(定期試験)
- ・平常点による評価(出席状況および授業態度)

民法 b [05] / 民法 (秋) [99]

授業科目の内容:

この講義では、物権法(担保物件を含む)について扱います。物権法は、人が物を排他的に支配することを認める権利について定めている分野です。この講義では、所有権の移転や担保権に関連する問題を中心に進めていきたいと思っています。受講者の前提知識を共通にしておくために、すでに民法 a を履修していることが望ましい。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 物権法とは
2. 所有権・共有
3. 物権変動(1)
4. 物権変動(2)
5. 物権変動(3)
6. 用益物権
7. 占有権
8. 担保物権とは
9. 抵当権(1)
10. 抵当権(2)
11. 質権
12. 非典型担保
13. 留置権・先取特権

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

民法 a [05 学則] (春学期)

民法 b [05 学則] (秋学期)

民法 [99 学則] (通年) 法学部 専任講師 水津 太郎

民法 a [05] / 民法 (春) [99]

授業科目の内容：

民法 では、債権法、民法典でいうと第 3 編「債権」について、基本的知識を確認するとともに、法的思考力を涵養することを目的とします。

「債権」編は、第 1 章「総則」、第 2 章「契約」、第 3 章「事務管理」、第 4 章「不当利得」、第 5 章「不法行為」に区別されますが、講学上は、「債権総論」(債権一般に共通のルール：第 1 章)と、「債権各論」(特定債権に固有のルール：第 2 章～第 5 章)に体系化されています。

民法 a では、そのうち、「債権総論」を対象とします。

テキスト：

野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田眞三郎『民法 債権総論 (有斐閣 S シリーズ) [第 3 版]』有斐閣、2005 年

参考書：

- ・星野英一・平井宜雄・能見善久(編)『民法判例百選 2 債権 [第 5 版新法対応補正版]』有斐閣、2005 年
- ・奥田昌道・安永正昭・池田真朗(編)『判例講義民法 2 債権 [補訂版]』悠々社、2005 年

授業の計画：

1. 債権の意義・目的
2. 債権の効力 : 効力一般・強制履行
3. 債権の効力 : 債務不履行
4. 債権の効力 : 損害賠償・受領遅滞
5. 責任財産の保全 : 債権者代位権
6. 責任財産の保全 : 詐害行為取消権
7. 多数当事者の債権関係 : 分割債権債務・不可分債権債務・連帯債務
8. 多数当事者の債権関係 : 保証債務
9. 債権債務の移転 : 債権譲渡
10. 債権債務の移転 : 債務引受・契約上の地位の移転
11. 債権の消滅 : 弁済・供託
12. 債権の消滅 : 相殺
13. 債権の消滅 : 更改・免除・混同

履修者へのコメント：

- ・最新版の六法(小型のものでよい)をかならず持参してください。
- ・民法 b をともに受講することにより、債権法全体をカバーすることができます。

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果

質問・相談：

講義のあとに受け付けます。

民法 b [05] / 民法 (秋) [99]

授業科目の内容：

民法 では、債権法、民法典でいうと第 3 編「債権」について、基本的知識を確認するとともに、法的思考力を涵養することを目的とします。

「債権」編は、第 1 章「総則」、第 2 章「契約」、第 3 章「事務管理」、第 4 章「不当利得」、第 5 章「不法行為」に区別されますが、講学上は、「債権総論」(債権一般に共通のルール：第 1 章)と、「債権各論」(特定債権に固有のルール：第 2 章～第 5 章)に体系化されています。

民法 b では、そのうち、「債権各論」を対象とします。

テキスト：

藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄『民法 債権各論 (有斐閣 S シリーズ) [第 3 版]』有斐閣、2005 年

参考書：

- ・星野英一・平井宜雄・能見善久(編)『民法判例百選 2 債権 [第 5 版新法対応補正版]』有斐閣、2005 年
- ・奥田昌道・安永正昭・池田真朗(編)『判例講義民法 2 債権 [補訂版]』悠々社、2005 年

授業の計画：

1. 契約総論 : 契約の意義・分類・原則
2. 契約総論 : 契約の成立・効力
3. 契約総論 : 契約の解除
4. 契約各論 : 贈与・交換
5. 契約各論 : 売買
6. 契約各論 : 消費貸借・使用貸借
7. 契約各論 : 賃貸借
8. 契約各論 : 雇用・請負・委任・寄託
9. 契約各論 : 組合・終身定期金・和解
10. 法定債権 : 事務管理・不当利得
11. 法定債権 : 一般の不法行為
12. 法定債権 : 特殊の不法行為
13. 法定債権 : 不法行為の効果

履修者へのコメント：

- ・最新版の六法(小型のものでよい)をかならず持参してください。
- ・民法 a をともに受講することにより、債権法全体をカバーすることができます。

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果

質問・相談：

講義のあとに受け付けます。

商法 a [05 学則] (春学期)

セット履修

商法 b [05 学則] (秋学期)

商法 [99 学則] (通年) 法学部 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

商法とは企業に関する法のことを指し、さらにそれを大きく分けると、企業組織法と企業取引法になる。この授業では、企業組織法としての、会社法について講義する。会社に関する法規制は、かつては商法、商法特例法、有限会社法などに分かれていたが、平成 17 年に会社に関する規定がひとつの法律に統合されて、新しく「会社法」が制定された。社会では、コンプライアンス(法令遵守)という言葉がよく聞かれるようになったが、会社の経営組織や資金調達、企業統合、企業買収など、新聞などにも取り上げられるさまざまな問題に対して法律がどのような規制をしているかを知ることが、大変重要である。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・宮島司『新会社法エッセンス』第二版、弘文堂
 - ・山本為三郎『会社法の考え方』第 6 版、八千代出版など。
- 詳細については、授業の最初の時間に説明する。

授業の計画：

1. イントロダクション 会社法とは (1 回)

2. 会社の意義と種類	(2回)
3. 株式会社の設立	(3回)
4. 株式	(4回)
5. 株式会社の資金調達 新株発行	(3回)
以上春学期の予定	
5. 株主総会	(3回)
6. 取締役・取締役会	(3回)
7. 監査役・会計監査人など監査機関	(3回)
6. 計算	(1回)
7. 企業再編(合併・分割, 営業譲渡, 株式交換・移転)	(2回)
9. 企業買収	(1回)
以上秋学期の予定	

カッコ内はおおよその講義の回数であるが、春学期の予定が秋学期にずれ込む可能性もないではない。

履修者へのコメント:

テキスト指定はないので、授業で話したことをまず理解してほしい。必ず六法を携帯すること。

成績評価方法:

各学期末にそれぞれに定期試験を行い、出席状況も加味して総合的に評価する。

質問・相談:

授業のあとに受けつける。

商法 a [05 学則] (春学期)	セット履修
商法 b [05 学則] (秋学期)	
商法 [99 学則] (通年)	法学部 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

商法とは企業に関する法のことを指し、さらにそれを大きく分けると、企業組織法と企業取引法になる。この授業では、企業取引法に関して、おもに商法の第一編総則と第三編商行為の前半部分を取り扱う。民法は私法の一般法であり、日常生活においては大変重要であるが、商法は、企業の行う取引の営利性・定型性、集団性、非個人性などの性質に目をつけて、さまざまな特別規定をおいている。民法を前提にしなが、これらの規定の意義について講義する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業の最初の時間に説明する。

授業の計画:

1. イントロダクション 商法とは (1回)
2. 商法の範囲・特質 (2回)
3. 企業 商人 (2回)
4. 企業の人的組織(商業使用人) (2回)
5. 企業の物的組織(営業) (2回)
6. 企業の商号 (2回)
7. 商業登記 (2回)
- 以上、春学期予定
8. 企業の取引 (5回)
9. 商事売買 (2回)
10. 有価証券 (1回)
11. 仲介業(代理商, 仲立人, 問屋) (3回)
12. 運送業・倉庫業 (2回)

以上、秋学期予定

カッコ内はおおよその講義の回数であるが、春学期の予定が秋学期にずれ込む可能性もないではない。

履修者へのコメント:

テキスト指定はないので、授業で話したことをまず理解してほしい。必ず六法を携帯すること。

成績評価方法:

各学期末にそれぞれに定期試験を行い、出席状況も加味して総合的に評価する。

質問・相談:

授業のあとに受けつける。

労働法 a [05 学則] (春学期)

労働法 b [05 学則] (秋学期)

労働法 [99 学則] (通年)

雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
法学部 准教授 内藤 恵

労働法 a [05] / 労働法(春)[99]

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法(使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域)、そして集团的労使関係法(憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域)に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集团的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2008年春出版予定)を使用する予定です。

その他必要に応じてWebに講義レジュメをアップロードして進めます。URLは初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携帯して下さい。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕有斐閣、2002年

参考書:

初心者向けの参考書として、

- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』有斐閣、2006年
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第9版)』有斐閣プリマシリーズ、2006年

大部の概説書に、菅野和夫『労働法(第7版・補正版)』弘文堂

授業の計画:

- 第一章 総論 労働法の意義・体系、等
- 第二章 労働者概念、使用者概念(雇用形態の多様化、含む)
- 第三章 労働契約の生成 採用内定・試用期間、等
- 第四章 労働契約の展開 配置転換、出向、派遣、等
- 第五章 労働基準法上の労働条件
- 第六章 労働条件決定の枠組み
- 第七章 就業規則 労働条件変更のルール
- 第八章 企業秩序と懲戒
- 第九章 労働契約の終了

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、上記授業計画に加えて授業時間中にレポートを書いて戴きます。講義が順調に進む場合には、随時、成果主義等の新しいテーマ、あるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント:

法律学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法(総則・債権各論)の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々の為の講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みか、あるいは同等の知識のある方のみ履修して下さい。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義では、必要があれば基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として進めます。

毎年、一度も講義に出席しないまま「取り捨てる」学生が多く、問題です。よく講義内容を考え、ご自分の法律的知識を勘案した上で履修して戴きたいと思えます。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

概ね出席し続けている学生数が 50～60 名以内であれば、講義中レポートの成績及びその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。なおそれを超える数の学生が出席した場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のところまでお越し下さい。

労働法 b [05] / 労働法 (秋) [99]

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域）、個別的労働関係法〔使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集团的労働関係法〔憲法 28 条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集团的労働関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法（仮題）』（法律文化社、2008 年春出版予定）を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話します。講義には、六法と判例百選を必ず携行して下さい。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕有斐閣、2002 年

参考書：

- 初心者向けの参考書として、
- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』有斐閣、2006 年
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第 9 版）』有斐閣プリマシリーズ、2006 年

大部の概説書に、菅野和夫『労働法（第 7 版・補正版）』（弘文堂）

授業の計画：

- 第十章 労働安全衛生と労働災害補償
- 第十一章 労働市場法（憲法 27 条、失業等にかかる雇用政策、等）
- 第十二章 労働基本権と労働組合
- 第十三章 公務員の労働基本権制限
- 第十四章 団体交渉
- 第十五章 組合活動・争議行為
- 第十六章 労働協約
- 第十七章 不当労働行為
- 第十八章 労働争訟法

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、随時、成果主義等の新しいテーマ、あるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

法律学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法（総則・債権各論）の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々の為の講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みか、あるいは同等の知識のある方のみ履修して下さい。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義では、必要があれば基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として進めます。

毎年、一度も講義に出席しないまま「取り捨て」する学生が多く、

問題です。よく講義内容を考え、ご自分の法的知識を勘案した上で履修して戴きたいと思います。なお労働法 とセットで履修することを前提としています。労働法 から履修されると、全く基本を学ばないこととなりますので、無駄になってしまう危険があります。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

概ね出席し続けている学生数が 50～60 名以内であれば、講義中レポートの成績及びその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。なおそれを超える数の学生が出席した場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のところまでお越し下さい。

租税法 a [05 学則] (春学期)

租税法 b [05 学則] (秋学期)

租税法 [99 学則] (通年)

租税実体法の体系化

法学部 教授 吉村典久

租税法 a [05] / 租税法 (春) [99]

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まるがあっても、減じることはありません。21 世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

又は 金子宏『租税法』弘文堂

参考書：

- ・清水敬次『税法』ミネルバ書房
- ・『小六法』有斐閣
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

授業の計画：

オリエンテーション

1. 租税法の基本原則

租税法総論の諸問題を解説する。

租税法主義の概念と機能、租税公平主義の概念と機能、租税回避行為

2. 法人税法

法人税の課税要件、改革の方向性を解説する。

法人税の性質、益金、損金、所得の年度帰属、多様な事業形態に対する課税、法人組織変更税制、連結納税制度

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく、対話形式を多用した授業である。

条文集は必携

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

基本的には学年末試験の成績を最も重視するが、授業中の出席、レポート等による評点も加味し、できるだけ不合格とならないよう配慮する。

質問・相談：

授業後、随時。

租税法 b [05] / 租税法 (秋) [99]

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まるがあっても、減じることはありません。21 世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

又は 金子宏『租税法』弘文堂

参考書：

- ・清水敬次『税法』ミネルバ書房
- ・『小六法』有斐閣
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

授業の計画：

1. 所得税法
総説・納税義務者・課税単位・所得概念・帰属・所得の種類・税額計算
2. 消費税法
総説・消費税の性質・消費税の課税物件
消費税の課税標準・仕入税額控除

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく、対話形式を多用した授業である。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
 - ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- 基本的には学年末試験の成績を重視するが、授業中の出席、レポート等による評点も加味し、できるだけ不合格とならないよう配慮する。

質問・相談：

授業後、随時。

会計学 a [05 学則] (春学期)	セット履修
会計学 b [05 学則] (秋学期)	
会計学 [99 学則] (通年)	名誉教授 笠井昭次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

授業の計画：

- 会計（学）の基礎
 - (1) 会計（学）の性格と領域
 - (2) 会計の機能
 - (3) 会計の構造
 - (4) 測定規約の考え方
- 価値生産活動の会計
 - (1) 入帳規約および損益計算規約の全体像
 - (2) 実現主義の本質
 - (3) 原価配分の諸相と特殊な支出の期間配分
- 資本貸与活動の会計
 - (1) 派遣分資産に関する会計の全体像
 - (2) 定利の獲得を企図する資本貸与活動の会計
 - (3) 投機的利得の獲得を企図する資本貸与活動の会計
- 資本の算段活動の会計
 - (1) 負債処理の基本的原則
- 現行会計の全体的性格

履修者へのコメント：

自分の頭で考えようとする積極的な学生諸君を希望する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度

経営学 a [05 学則] (春学期)	セット履修
経営学 b [05 学則] (秋学期)	
経営学 [99 学則] (通年)	商学部 教授 榊原研互(春) 商学部 教授 渡部直樹(秋)

経営学 a [05] / 経営学 (春) [99]

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では、このような経営学の全体像を明らかにするために、経営学の主要なテーマについて論じ、企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習

得を目指す。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之 / 加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社、2003年
- ・A. ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年
その他講義で随時指示する。

授業の計画：

1. 経営学の学問的性格
2. 経営学成立と発展
3. 企業概念と会社形態
4. 企業統治とトップマネジメント
5. 現代企業における所有と経営
6. ガバナンスシステムの国際比較
7. 企業の社会的責任と企業倫理
8. 企業戦略と事業戦略（競争戦略）
9. 経営多角化と国際化の戦略
10. M&A と戦略的提携

成績評価方法：

試験の結果による評価

経営学 b [05] / 経営学 (秋) [99]

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・A.ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年
- ・ダウマ=シュルデー「組織の経済学入門」文眞堂、2007年

授業の計画：

1. 市場と組織
2. 経営組織のデザイン
3. 「カネ」のマネジメント（財務管理）
4. 「モノ」のマネジメント（生産管理）
5. 「モノ」のマネジメント（販売管理）
6. 「ヒト」のマネジメント（人事管理）
7. 情報のマネジメント
8. 組織文化のマネジメント
9. 日本的経営の変遷
10. 現代企業の経営課題

成績評価方法：

春学期参照

〔 外国語科目 〕

(1) 外国語

英語リーディング a [05 学則] (春学期)	セット履修
英語リーディング b [05 学則] (秋学期)	
英語リーディング [99 学則] (通年)	
金 3 , 金 4 共通	講師 金澤 洋子

授業科目の内容 :

This course aims to provide opportunities to think and share opinions by reading and discussing current issues mainly on health and the environment. In each session, the instructor will provide one reading material (from current news papers and magazines such as Time, the International Herald Tribune, Scientific Americans, Washington Post, and a number of Japanese newspapers in English), and the participants will also provide a topic, making a presentation to lead a discussion in English in turn. Summary writing on one of the articles of the week will be required. English will be used most of the time. Evaluation will be based on participation (30%), oral presentations (30%) and a final exam (30%). Summaries and reports submitted in class will also be included (10%).

テキスト :

Materials will be provided by the instructor and the presenter of the day.

英語リーディング a [05 学則] (春学期)	セット履修
英語リーディング b [05 学則] (秋学期)	
英語リーディング [99 学則] (通年)	
木 4	講師 プラット, イアン R.

授業科目の内容 :

This course aims to improve students' confidence in understanding written English text, and improving their reading speeds through a variety of techniques. Students will also hold group discussions and conduct presentations in English after considering what is necessary in these activities.

The course is also designed to help understanding of how the present environmental situation will impact our lives, and how we may moderate the effect. Students will read about the symptoms, the science, the debates, and the solutions related to climate change. They will also discuss in groups, and present to the class, related topics such as energy production and use, transport, pollution, deforestation, desertification and other related matters.

Students will need to be at intermediate level and above in their English skills to participate in this course.

テキスト :

Henson, R., *The Rough Guide to Climate Change* London: Penguin, 2006. ISBN 9-781-84353-711-3

参考書 :

IPCC reports, <<http://www.ipcc.ch/ipccreports/assessments-reports.htm>> and various other websites will be accessed for information and explanation.

授業の計画 :

Students will read sections of the book for homework and come to class prepared to discuss any unclear points or those of particular interest. Working in groups they will have opportunity to give short presentations on items linked to the reading topics.

Grading will be based on a combination of:

class participation (including asking questions)	20%
completed main text homework (inc. vocab. notebooks)	20%
completed ancillary text homework (")	20%
group discussion	20%
presentations (including note taking by listeners)	20%

Six absences will result in no grade, three <10 minute late arrivals

= 1 absence, 1 x >10 min late arrival = 1 absence.

履修者へのコメント :

This topic is perhaps the most important one we face individually and globally. It will increasingly affect you but you can also affect the result of climate change.

成績評価方法 :

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

See above

質問・相談 :

Messages may be left at the Teachers' Room, Building 4, 2F.

英語リーディング a [05 学則] (春学期)	セット履修
英語リーディング b [05 学則] (秋学期)	
英語リーディング [99 学則] (通年)	
木 5	講師 プラット, イアン R.

授業科目の内容 :

Mind Tools

This course is designed to help students improve their thinking abilities. We shall consider a series of concepts, activities and skills which can be used to develop thinking skills in general, and which of these points might be applied in particular circumstances. The techniques should help students in all aspects of their lives, not only in work.

The first part covers techniques to develop various skills which will be especially useful to working people with sections on time and stress management, information and communication skills and memory improvement.

The second part deals with the mental tools necessary to lead and manage others: leadership skills, problem solving and decision making skills, project planning and practical creativity skills to generate fresh ideas reliably.

Students will need to have intermediate or above ability in English skills.

テキスト :

Downloadable ebook, *Mind Tools: Essential Skills for an Excellent Career* from <<http://mindtools.com>> (More information in Lesson 1)

授業の計画 :
Students must download, print out, and read specific sections of the ebook each week as homework. There will be discussions in class about any unclear points and exercises related to the text. Students must be prepared to ask questions and exchange ideas, **participation in class is essential**. Students to give short presentations on items linked to the reading topics.

Grading will be based on a combination of:

class participation (including asking questions)	20%
completed main text home-work, (inc. vocab notebooks)	20%
completed ancillary text homework (")	20%
group discussion	20%
presentations (including note taking by listeners)	20%

Six absences will result in no grade, three <10 minute late arrivals = 1 absence, 1 x >10 min late arrival = 1 absence.

履修者へのコメント :

I believe this reading and discussion course will help you in both your working and private life.

成績評価方法 :

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

See above

質問・相談 :

Messages may be left at the Teachers' Room, Building 4, 2F.

英語リーディング a [05 学則] (春学期)	セット履修
英語リーディング b [05 学則] (秋学期)	
英語リーディング [99 学則] (通年)	
月 4 , 月 5 共通	講師 ルイス, エイミー R.

Course description:

The primary purpose of this course is to provide the student with the opportunity to focus on his/her reading skills. The topics (current events, politics, business-related practices, etc); will provide the stu-

dent with ample opportunity to work in pairs as well small groups, and complete a variety of guided tasks which will center on a specific skill or skills. Assignments will include independent as well as small group research projects and presentations. Written work will also be assigned

Text:

Material will be supplied by the instructor.

Additional Comments:

Everyone in the class will be expected to participate and speak in English. Each student will be encouraged to be creative, and to make positive contributions to the class. Active participation/discussion will be required. Attendance will be mandatory and carefully monitored. All written assignments are to be typed, A-4 paper, double-spaced. No late work, please.

Student Evaluation:

Student evaluation will be based on the following criteria:

Active participation/involvement (40%): quality/completion of work/ overall progress (20%): the ability to express oneself

(2) 外国語 (ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語)

ドイツ語 a [05 学則] (セミナー) (春学期) セット履修
ドイツ語 b [05 学則] (セミナー) (秋学期)
ドイツ語第 [99 学則] (セミナー) (通年)
教授 七 字 眞 明

授業科目の内容:

テーマ 現代ドイツを読む

世界の政治・経済の枠組みにおいてその重要性を増す EU で中心的な位置を占めるドイツ。現在この国で何が問題となり、どのようなことが日常の話題となっているのでしょうか。

この授業では、政治、経済、社会、文化等、幅広い分野から選んだテキスト(主としてインターネット掲載のニュース記事)を読みながら、現代ドイツの諸相に触れてみたいと思います。

授業では基本的に、一つのテーマを2週間にわたり取り上げます。第1週目には、あらかじめ配布したテキストを輪読します。ある程度のスピードをもってテキストを読み進めていきますが、ドイツ語の基本的文法事項に関して必要に応じて復習も行ないます。翌週にはテキストの続きを読み、さらにそのまとめとして、各テキストのテーマに関連して調べてきたことを履修者全員に、一人10分程度で発表していただきます。その作業を通じて、単にドイツ語のテキストを読むだけでなく、日本における状況をも念頭におきながら、それぞれのテーマが提起する問題について皆さんと議論する場を持ちたいと考えています。

テキスト:

コピーを配布します。

参考書:

特に使用しません。

授業の計画:

春学期には以下のテーマに関するテキストを扱う予定です。

1. ドイツの環境政策とエネルギー問題
2. 「構造改革」 格差社会へ移行するドイツ
3. 「移民」 異文化が共存する社会
4. EU 憲法をめぐる問題

これらの他に、履修者の皆さんが興味を抱いているテーマに関連したテキストを随時とりあげていきます。

履修者へのコメント:

予習にたいへん時間と労力がかかることが予想される授業ですが、ドイツ語検定試験2級に合格するドイツ語読解力を身につけると同時に、現代のドイツ、およびこれをとりまくヨーロッパの社会と文化に興味を抱いている皆さんの参加を希望します。

成績評価方法:

春学期末(授業期間中)試験 30%, 秋学期末(授業期間中)試験 30%, 平常点 40%による総合評価とします。特に出席を重視し、欠席・遅刻が合計5回を超えた者に関しては、上記の評価基準にかかわらず自動的に不合格となりますので、履修にあたり十分に注意してください。「授業科目の内容」にもあるとおり、毎週相当量のドイツ

語テキストの翻訳を担当し、さらにテーマに関する口頭発表を行なうことが成績評価の前提として要求されます。

質問・相談:

授業中に受けます。必要に応じて、連絡方法を伝えます。

ドイツ語 a [05 学則] (中級) (春学期) セット履修
ドイツ語 b [05 学則] (中級) (秋学期)
ドイツ語第 [05 学則] (中級) (通年) 教授 中山 純

授業科目の内容:

ドイツ語 , ドイツ語 , ドイツ語 などの初級レベルの授業を修了した学生を対象に、初級ドイツ語の知識の定着と、語彙力を中心にさらに上の語学力を身に付けることを目指します。特定のスキルに重点を置くことはしませんが、可能な範囲で4技能のスキルアップを図っていきます。

テキスト:

使用する教材はプリントで配布します。

参考書:

特にありません。

授業の計画:

春学期の前半は初級ドイツ語の知識の再確認をしながら、基礎力の強化をしていきます。

春学期の後半は短いテキストの読解をしながら、造語法を含めた語彙の知識を深めます。

秋学期の前半は特定のテーマについて複数の角度から語学的にアプローチします。

秋学期の後半は総合力のアップを目指します。

以上の柱を中心にした計画は初回の授業で配布します。

履修者へのコメント:

言葉の習得には継続的な練習が不可欠です。「やらされる」のではなく、「自らの意思」で学んでください。確信が持てる実力を身に付けましょう。

成績評価方法:

成績評価の基礎データは授業中の発表と試験結果など授業の目標達成度になります。その他に出席状況も参考にします。

質問・相談:

原則として授業の前後、その他でも必要があれば応じます。

ドイツ語 a [05 学則] (セミナー) (春学期) セット履修
ドイツ語 b [05 学則] (セミナー) (秋学期)
ドイツ語第 [99 学則] (セミナー) (通年)
教授 八 木 輝 明

授業科目の内容:

1990年統一後の現代ドイツに注目し、EUや発足したユーロ通貨の動向を見ながら、その国内の動きを最新の記事を読みながら探っていく。時事ドイツ語を読解するためには、ふだんから新聞やインターネットで海外の記事に目を通しておくことが肝要。参加者は特にこのことを心がけてほしい。

さらにこのクラスでは初級文法の知識を確認し、深化しつつ中級レベルの文構造を正確に把握する練習を行っていく。時事ドイツ語の場合、特にIT関連の新語がふくまれているので他のヨーロッパ語を意識して、想像力をはたらかせて文章を読み取っていく作業が必要。しかしこのテキストの文章は大変に平易で、詳しい語注がついている。読みやすく書かれた時事ドイツ語を、まずは正確に読み取る練習を積み重ねていきたい。

最新のドイツのニュースもインターネットから適宜選び出しテキストとして取り上げていきたい。授業のなかで、最近のドイツ映画やインタビューなどを、DVDを使って紹介していく予定。また20世紀前半からのドイツの歴史も映像を利用しながら学習していく。

必ず予習をしておいてほしい。

テキスト:

『時事ドイツ語 '07年トピックス』朝日出版社

履修者へのコメント:

平常の出席状況と授業での積極的姿勢が重要な評価のポイントになる。

成績評価方法:

平常点(出席状況、授業態度および筆記試験)

フランス語 a [05 学則] (セミナー上級) (春学期) セット履修
フランス語 b [05 学則] (セミナー上級) (秋学期)
フランス語第 [99 学則] (セミナー上級) (通年)

教授 ガボリオ, マリ

授業科目の内容:

このセミナーは、フランス語の「読む、書く、聴く、話す」という4つの運用能力を伸ばすことを目的とし、特に、フランス語による論理的・自発的な会話能力、判断力の向上、更にはフランスという国を総合的に理解して行くことを目指します。そのために「現代フランス社会を考える」をテーマに、フランス語によるグループでの議論、資料の解説、レジュメの作成、発表等を行います。教材として、フランスの新聞・雑誌記事、及び F2 のニュース等を可能な限り多様な領域にわたって用いて、そこで使用される語彙、表現を学び、その内容を理解するようにします。時事フランス語を十分に身に付ける為に、語彙に関する特別な訓練をして行きたいと考えています。また同時にフランス文化や歴史、現代社会等について様々な角度から触れ、豊かな感性と的確な判断力を育てて行きたいと思えます。

テキスト:

プリントを配布します。

履修者へのコメント:

授業は原則としてフランス語で行いますので、十分な読解、会話能力を必要とします。

成績評価方法:

評価方法は授業への積極的な参加の有無、及び春学期・秋学期各一回ずつの試験を総合して判断します。

フランス語 a [05 学則] (セミナー上級) (春学期) セット履修
フランス語 b [05 学則] (セミナー上級) (秋学期)
フランス語第 [99 学則] (セミナー上級) (通年)

准教授 新 島 進

授業科目の内容:

目標 1: フランス語の読解力を身につける。ただし読解力とは必ずしも外国語の力ではない。それはむしろ書かれた文章を読みとる基本的な力。フランス語の習得はもとより、外国語を読む訓練を積むことでこの「読解力」を鍛えたい。

目標 2: フランス語の「読み」を習得。きれいな発音というよりは綴り字の読みのこと。綴り字と音との対応関係を復習し、実際の単語に多くあたることで未知の語でも正しく読める力をつける。フランス料理屋でも原語のメニューが読めたらカッコいいでしょ?

テキスト: まずはフランス現代作家ロラン・ゴデの作品をひとつ読む(ホラー風短編)。その後、受講者の希望とレヴェルに応じて教材を決める。

授業方法: 訳読に徹する、愚直なまでに。よって予習がきわめて重要である。

テキスト:

はじめはプリントを配布しますが、その後、受講者の希望によってはテキストを購入してもらう可能性もあります。

履修者へのコメント:

出席と予習必須。毎回細かく担当を割り当てるので、かならず辞書引きなどの下調べをしたうえで出席すること。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(春・秋一回ずつ。辞書、参考書すべて持ち込み可)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席と予習は必須。不足の場合、試験は受けられない)

フランス語 a [05 学則] (セミナー中級) (春学期) セット履修
フランス語 b [05 学則] (セミナー中級) (秋学期)
フランス語第 [99 学則] (セミナー中級) (通年)

専任講師 林 田 愛

フランス語 a (セミナー中級) [05] /
フランス語第 (セミナー中級) (春) [99]

授業科目の内容:

授業は翻訳を中心にしてフランス語能力の上達を目指します。テキストとして経済や歴史、または文学などの研究書から読みやすい箇所を逐次紹介し、翻訳作業の過程で表現力の向上だけでなく、論理的思考の強化も図るつもりです。

テキスト:

プリントを配布します

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

フランス語 b (セミナー中級) [05] /
フランス語第 (セミナー中級) (秋) [99]

授業科目の内容:

前期は翻訳が中心となりますが、後期の授業では自由作文やレジュメ作成によって、書く力を養います。その際には、前期の授業で蓄えた語彙力をフルに活用してもらおうつもりです。

テキスト:

春学期参照

成績評価方法:

- ・平常点
- ・レポート

中国語 a [05 学則] (セミナー) (春学期) セット履修
中国語 b [05 学則] (セミナー) (秋学期)
中国語第 [99 学則] (セミナー) (通年)

教授 宇 振 領

授業科目の内容:

随時中国の新聞やテレビなどの記事から、中国国内および国際、特に日本と関連のある最新の政治、経済、文化などの焦点問題を取りあげ、一緒に分析することにより、中国および中国と日本のことに対する理解と関心を高める。

テキスト:

プリントを配布する。

参考書:

中国語の辞典が必要。

授業の計画:

中国語の実践的な能力を伸ばすことを重視する。聴力・読解・日訳中 中訳日の練習を通して、中国語の運用能力を高めることを期する。

履修者へのコメント:

現在の中国および中国と日本の関連がある政治、経済、文化などに興味を抱いている皆さんの参加を希望する。

成績評価方法:

出席状況と平常点、試験結果で総合的に評価。

中国語 a [05 学則] (中級) (春学期) セット履修
中国語 b [05 学則] (中級) (秋学期)
中国語第 [99 学則] (中級) (通年) 講師 陳 愛 玲

授業科目の内容:

初級で覚えた中国語をスムーズに口から出るよう繰り返し練習を行い、さらに応用能力を身につける。授業は次のことを目標に進めていく。

- 1) 聞いて直ちに理解できること
- 2) 正確な発音および自然なリズムで言えること
- 3) 日常生活における一般的な応答および発話がスムーズに話せること

テキスト：

相原茂・陳祖A 著『北京コレクション 初級～中級編』朝日出版社
参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) 「北京のアフターファイブ」
- 3) 応用練習
- 4) 「明日のスター」
- 5) 応用練習
- 6) 「新 北京の足」
- 7) 応用練習
- 8) 「中国メディア事情」
- 9) 応用練習
- 10) 「港町天津」
- 11) 応用練習
- 12) まとめ
- 13) 前期試験
- 14) 「骨董ブーム」
- 15) 応用練習
- 16) 「北京の職人」
- 17) 応用練習
- 18) 「北京郊外」
- 19) 応用練習
- 20) 「中国飲食文化」
- 21) 応用練習
- 22) 「未来の京劇スターの夢」
- 23) 応用練習
- 24) 「オリンピックと胡同」
- 25) まとめ
- 26) 後期試験

履修者へのコメント：

授業中のペアワーク、グループワークに積極的に参加でき、積極的に発言する受講者を歓迎する。

成績評価方法：

- ・前期・後期の試験成績（スピーキング試験を実施する予定）
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

中国語 a [05 学則] (セミナー) (春学期) セット履修
中国語 b [05 学則] (セミナー) (秋学期)
中国語第 [99 学則] (セミナー) (通年)

講師 道上 知 弘

中国語 a [05] (セミナー) /
中国語第 [99] (セミナー) (春)

授業科目の内容：

中国、香港、台湾の代表的な映画監督の文字化されたインタビューを丹念に読んでゆきながら、「日常会話」でない、より高度な口語表現を身につけるとともに、中国語圏映画への理解も深めていきます。映画を語る際の中国語を学びながら、国際映画祭などの場でアテンドや通訳ができるような技術の習得も目指してみたいと思います。

テキスト：

Michael Berry 『光影言語 当代華語片導演訪談録』台湾：麦田出版、2007年

参考書：

- ・相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編『東方中国語辞典』東方書店
- ・相原茂編集『中国語学習ハンドブック（改訂版）』大修館書店
- ・呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』現代漢語八百詞増訂本 日本語版 東方書店...等
- * 中国映画についての参考文献などは開講時に指示します。

授業の計画：

テキストに取り上げられている監督の中から受講者の関心に応じて数人のインタビューを選び、基本的に演習形式で授業を行います。代表的な映画作品は対話をよりよく理解するためにも指定後に必ず各自で観ておくようにしてください。中国語の解釈と内容の理解については、プレゼンテーション担当者はもちろん出席者全員にも周知の準備を求めます。

初回授業でガイダンスを行い、授業の進め方などについての説明

をしますので、必ず出席するようにしてください。

履修者へのコメント：

中国語中級レベル以上の人を対象とします。受講者は基本的な語彙力、文法知識を持っていることを前提として授業を進めますので注意してください。また映画に関心を持って、授業で扱う映画以外にも自分で積極的に観てゆくことを希望します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

中国語 b [05] (セミナー) /
中国語第 [99] (セミナー) (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期に引き続き『訪談録』の購読をします。秋学期では香港、台湾の監督を中心に取り上げます。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

スペイン語 a [05 学則] (中級) (春学期) セット履修
スペイン語 b [05 学則] (中級) (秋学期)
スペイン語第 [99 学則] (中級) (通年)

講師 阿部 三 男

スペイン語 a [05] (中級) / スペイン語第 [99] (中級) (春)

授業科目の内容：

フランスの作家アレクサンドル・デュマはイベリア半島について「ピレネーを越えると、そこはアフリカだ」と言っているが、イベリア半島は独特な風土を有し、古くから多くの民族が行き交い西洋と東洋が交わり、「ヨーロッパであってヨーロッパでない」独自の文化を形成し世界中の人々を魅了してやまない。特にキリスト教文化とイスラム文化の融合はこの半島の特徴である。この授業ではスペイン人やラテンアメリカ人のアイデンティティを垣間見ることが出来る雑誌・新聞記事・専門書から抜粋したものを読み、随時ビデオ教材・映画・カセットテープも使ってスペイン語の基本的なコミュニケーション能力を養成したい。

テキスト：

阿部・マルティン共著『スペイン語応用』、プリント配布。

テキストの購入・プリントの入手については開講時の指示に従ってください。

参考書：

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画：

この授業では、スペイン語で使用頻度の高い不規則動詞・再帰動詞・無人称・現在完了・過去形・未来形を使った表現やスペイン語の基本的文法構造をマスターしながら、スペイン語圏の文化の理解に努めたい。この授業で扱うテーマは、フラメンコの起源（第1～3回）・闘牛（第4回）・ガウディ（第5回）・ピカソ（第6～7回）・ダリ（第8回）・カザルス（第9回）・ラテン音楽（第10回）・マヤ文明（第11回）・アステカ文明（第12回）・インカ文明（第13回）である。

履修者へのコメント：

受講者の希望も聞きながら授業を進めたいと思う。スペイン語文法の再整理やリスニングの訓練をしたい人にもこの授業を利用してほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- 3回の小テスト（7割）に出席状況・学習態度・学習意欲などの平

常点(3割)を加味し、総合的に評価します。

質問・相談：

授業中に質問時間を用意します。また授業終了後・休憩時間にも質問を受け付けます。

スペイン語 b[05](中級)/スペイン語第 [99](中級)(秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

簡単な読み物・ビデオ教材・カセットテープ・映画を使い、使用頻度の高い重要語彙・基本表現を視覚・聴覚の両面から確認することで、スペイン語の基礎的運用能力が身につくような授業を心掛ける。この授業で扱うテーマは、趣味(第1回)・料理(第2回)・日常生活(第3回)・学業(第4~5回)・価値観(第6回)・信仰(第7~8回)・老後生活(第9~10回)・ドンキホーテ(第11~13回)である。文法的には、主に直説法過去未来形・接続法のマスターを目標にする。

履修者へのコメント：

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の習得に努めるので、会話力を養成したい学生には積極的に参加してほしい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

スペイン語 a[05 学則](セミナー)(春学期) セット履修
スペイン語 b[05 学則](セミナー)(秋学期)
スペイン語第 [99 学則](セミナー)(通年)

講師 阿部 三男

スペイン語 a[05](セミナー)/
スペイン語第 [99](セミナー)(春)

授業科目の内容：

文法を単なる知識として持っているのではなく、実際の言語運用場面において使いこなせるように目だけでなく耳も口も十分に活用し、刺激的で楽しい授業にしたい。随時ビデオ教材・映画・カセットテープを使い、スペインおよびラテンアメリカの文化・社会に触れながら、使える基本表現の習得に努めたい。

テキスト：

阿部・マルティン共著『スペイン語応用』、プリント配布。

テキストの購入・プリントの入手については開講時の指示に従ってください。

参考書：

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画：

簡単な読み物・ビデオ教材・映画・カセットテープを使い、使用頻度の高い重要語彙・基本表現を視覚・聴覚の両面から確認することで、スペイン語の基礎的運用能力が身につくような授業を心掛ける。この授業で扱うテーマとしては、スペイン国旗(第1~3回)・衣食住(第4~5回)・買い物(第6回)・旅行(第7~8回)・スポーツ(第9回)・絵画(第10回)・建築(第11回)・舞踊(第12~13回)。文法的には、主に直説法現在形・現在完了形・過去形・未来形のマスターを目標にする。

履修者へのコメント：

受講者の希望も聞きながら授業を進めたいと思う。スペイン語文法の再整理やリスニングの訓練をしたい人にもこの授業を利用してほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- 3回の小テスト(7割)に出席状況・学習態度・学習意欲などの平

常点(3割)を加味し、総合的に評価します。

質問・相談：

授業中に質問時間を用意します。また授業終了後・休憩時間にも質問を受け付けます。

スペイン語 b[05](セミナー)/
スペイン語第 [99](セミナー)(秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

この授業では、文法的には未来形・過去形・現在完了・過去完了・未来完了・過去未来完了・接続法を使った表現をマスターしながら、スペイン語圏の文化理解に努めたい。秋学期は、スペイン人の職業意識(第1~2回)・収入(第3~4回)・学生生活(第5回)・バスク民族(第6回)・カタロニア文化(第7回)・中南米事情(第8~10回)・アメリカ合衆国の中のスペイン語(第11~13回)を題材にしたビデオ教材・簡単な読み物を使う。

履修者へのコメント：

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の復習から始めますので、会話力を養成したい学生には積極的に参加してほしい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

スペイン語 a[05 学則](中級)(春学期) セット履修
スペイン語 b[05 学則](中級)(秋学期)
スペイン語第 [99 学則](中級)(通年)

講師 四宮 瑞枝

スペイン語 a[05](中級)/スペイン語第 [99](中級)(春)

授業科目の内容：

スペイン語圏の国々の社会文化的テーマに関連する簡単な読み物や新聞記事などを講読し、スペイン語圏社会についての理解を深めるとともに異文化理解の方法論も学ぶ。

授業の手順としては、毎回配布する講読教材の内容確認をチェックシートを用いて行った後、テーマに関連したビデオ、ニュース、映画などを視聴したり、資料を見て意見を交換し合う。各自の意見・感想をチェックシートに記入して提出する。意見交換や感想の記述はスペイン語で行える部分を次第に増やしていくことを目指しており、そのための作文練習や音読などの補足学習を適宜取り入れる。4技能をトータルに使う授業を心がけたい。

テキスト：

プリント配布

参考書：

授業内で提示。

授業の計画：

前期は以下のテーマに関連する教材を扱う予定である。

1) 導入：

外国語習得と異文化学習の基本的な考え方

スペイン語圏の文化領域とステレオタイプの理解の問題(闘牛、フラメンコ etc.)

2) スペイン現代社会の諸相

地方自治と言語政策(バルセロナ、バスクの問題を中心に)スペイン市民戦争、フランコ時代からフランコ後の時代への流れを追う。

EU 統合後の社会変化(宗教観、女性の生き方、若者の生活 etc.)

外国人移民の問題(教育問題を中心に)

履修者へのコメント：

Content-based の語学学習であるので、履修者にはテーマに関して主体的に考える態度が求められる。教室での活動を効果的なものに

するために、講読教材の予習、および作文の課題はきちんとやってくることを。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：扱った教材の中の重要構文の理解度、基本的作文力の最終確認を行う。
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価：チェックシートの取り組み方、作文課題の達成度、自らの関心・意見を表現する態度、出席率。
- ・その他：必要に応じて、語彙力・文法力を高めるための小テストを実施する。

スペイン語 b[05]〔中級〕/スペイン語第 [99]〔中級〕(秋)

授業科目の内容：

前期授業の続編。スペイン語圏の国々の社会文化的テーマに関連する簡単な読み物や新聞記事などを講読し、スペイン語圏社会についての理解を深めるとともに異文化理解の方法論も学ぶ。

授業の手順としては、毎回配布する講読教材の内容確認をチェックシートを用いて行った後、テーマに関連したビデオ、ニュース、映画などを視聴したり、資料を見て、意見を交換し合う。各自の意見・感想をチェックシートに記入して提出する。意見交換や感想の記述はスペイン語で行える部分を次第に増やしていくことを目指しており、そのための作文練習や音読などの補足学習を適宜取り入れる。4技能をトータルに使う授業を心がけたい。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

後期は以下のテーマに関連する教材を扱う予定である。

1) ラテンアメリカ社会の諸相

- 古代文明の遺産（インカとマヤ：ペルー、メキシコ）
- 宗教観の問題（カトリックと土着宗教：メキシコ、グアテマラ）
- 先住民族運動と内戦（グアテマラ、エル・サルバドル）
- 麻薬問題と貧困（コロンビア、ボリビア）
- キューバ事情

2) ヒスパニック社会

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

(3) 選択 A

ドイツ語 a[05]学則〔選択 A〕(春学期) セット履修

ドイツ語 b[05]学則〔選択 A〕(秋学期)

ドイツ語第 [99]学則〔選択 A〕(通年)

教授 境 一 三

授業科目の内容：

(a) ドイツの現状を知るためにアクチュアルな問題をテーマにしたテキストを読む訓練を行います。読解方法として、独文和訳ではなくドイツ語をドイツ語として理解することを目指します。また、Web 上の音声素材なども活用し、適宜聴解の訓練や朗読の訓練も行いたいと考えています。具体的なテーマは参加者と決定します。

(b) 春学期に続いて現代ドイツのアクチュアルなテキストを読むとともに、参加者が各自テーマを決めて調べ学習を行います。

テキスト：

(a) 適宜配布もしくは指示をします。

(b) 春学期に同じ。

参考書：

特になし。

授業の計画：

- (a)1. 導入（参加者の関心によってテーマを選択する。）
- 2.~12. テキストを読む（質疑応答をしながら意味を取る。朗読する。）適宜ディクテーションを行う。

13. 春学期のまとめ。

(b)1. 導入（各自調査テーマを決める。）

2.~5. テキストを読みながら、調査方法を身につける。

6.~12. 発表と討論を行う。

13. 秋学期のまとめ。

履修者へのコメント：

積極的な参加を求めます。

成績評価方法：

レポートと平常点による。

質問・相談：

常時 Web 上の Learning Management System である Moodle で行います。

フランス語 a[05]学則〔選択 A〕(春学期) セット履修

フランス語 b[05]学則〔選択 A〕(秋学期)

フランス語第 [99]学則〔選択 A〕(通年)

講師 日佐戸 ミッシェル

フランス語 a[05]〔選択 A〕/ フランス語第 [99]〔選択 A〕(春)

授業科目の内容：

種々の記事や文章を使用して、自分の考えや意見を表現する能力を身につける。

テキスト：

雑誌と新聞の記事のコピー。

参考書：

FESTIVAL 2 CLE international (sylvie Poisson)

授業の計画：

フランス人の日常生活に関係しているテーマを選んで、それについて簡単な討論を行う。易しい記事を読むことを基本として、各人のアイデアや意見を交換する。宿題として、各授業で勉強した記事について簡約文を書き、自分のアイデアと意見を表現する。

履修者へのコメント：

授業に出席することを基本とする。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）による評価

フランス語 b[05]〔選択 A〕/ フランス語第 [99]〔選択 A〕(秋)

授業科目の内容：

様々な記事や文章を使用して、自分の考えや意見を表現する能力を身につける。

テキスト：

春学期参照

参考書：

FESTIVAL 2 CLE International (Sylvie Poisson)

授業の計画：

春学期よりレベルの高い記事を使用することにより、フランス語で記事にでている言葉を説明したり、また自分のアイデアや意見を表現し、討論する。

宿題として、授業で勉強したことについて要約して、自分の考え、意見を短文にまとめる

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

中国語 a[05]学則〔選択 A〕(春学期) セット履修

中国語 b[05]学則〔選択 A〕(秋学期)

中国語第 [99]学則〔選択 A〕(通年)

講師 陳 愛 玲

授業科目の内容：

当講義は、中級から上級中国語へのレベルアップをねらいとします。授業は、中国語検定試験 2 級程度のレベルからスタートすることにし、次の 2 点を中心に進めていく予定。

中国語の「しくみ」を理解してもらい、言葉のパーツを能動的

に関連づけ、より幅広いより豊かな表現力を身につける。

「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」というコミュニケーションに必要とする 4 つのスキルについて、実践方式で全面的にトレーニングを行う。

授業は、主にコトバの学習を軸に行い展開していきますが、しながら、どの言語もそれを有する民族の文化を反映するものです。中国語も同様、そのコトバの根底には中国人のこころとその息づきがあります。したがって、授業で行なわれる中国語の「しくみ」への探求は、中国という国および人々のことをより深く触れていく過程でもあるに違いありません。

テキスト：

プリントを配布する

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) プレテスト
- 3) 語彙強化
- 4) 語彙強化
- 5) 慣用表現・呼応表現強化
- 6) 慣用表現・呼応表現強化
- 7) リーディング(1)
- 8) リーディング(2)
- 9) ライティング(1)
- 10) ライティング(2)
- 11) 応用
- 12) 応用
- 13) 前期まとめ(課題)
- 14) リスニング(1)
- 15) リスニング(2)
- 16) リスニング(3)
- 17) スピーキング(1)
- 18) スピーキング(2)
- 19) スピーキング(3)
- 20) 応用
- 21) 応用
- 22) 応用
- 23) 総合演習
- 24) 総合演習
- 25) 予備日
- 26) 後期まとめ(課題)

履修者へのコメント：

- ・授業内容を必ず事前に辞書などで調べ、予習してから授業に臨むこと。
- ・積極的に授業に参加し、積極的に発言し質問する受講者を歓迎する。

成績評価方法：

- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)
- ・宿題や課題の完成状況

ロシア語 a [05 学則](選択 A)(春学期) セット履修
ロシア語 b [05 学則](選択 A)(秋学期)
ロシア語 [99 学則](選択 A)(通年)

講師 佐野 洋子

授業科目の内容：

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レベルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には、各自の専門に従って、独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。

テキスト：

教材は、初回の授業で配布します。

参考書：

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

授業の計画：

春学期は、発音、文法にあて、秋頃から読みものに入ります。会話用のテキストも併用する予定です。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度による評価)

ギリシャ語 a (中級)[05 学則](選択 A)(春学期) セット履修
ギリシャ語 b (中級)[05 学則](選択 A)(秋学期)
ギリシャ語(中級)[99 学則](選択 A)(通年)

講師 我妻 勇樹

授業科目の内容：

古典ギリシア語の原典を時間をかけて読みながら、古代への教養を深めます。

テキスト：

こちらで用意します。

参考書：

授業内で指示します。

履修者へのコメント：

古典ギリシア語に関心のある学生の参加を期待します。

〔 総合教育科目 〕

人類学 a [05 学則] [系] (春学期)

人類学 b [05 学則] [系] (秋学期)

人類学 [99 学則] [系] (通年)

人類の過去・現在・未来

講師 吉田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために生物としてのヒトを探究するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

片山一道、五百部裕他：『人間史をたどる』 自然人類学入門
朝倉書店

参考書：

(1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版

(2) 片山一道著『古人骨は生きている』角川書店

授業の計画：

初回の授業（ガイダンス時）で提示し、資料を配布します。

履修者へのコメント：

ヒトに興味のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価（平常点は出席状況についてのみの評価です。）

質問・相談：

質問は授業中、相談は授業終了後に受け付けます。

情報処理 [05 学則] [99 学則] [系] (春学期)

経済学・社会学のためのデータ分析 講師 相 場 裕 子

授業科目の内容：

この科目では、経済学・社会学分野のデータ分析の事例を紹介し、統計手法に対する理解を深め、計量経済学やマクロ分析、社会調査等に役立つ情報処理能力を養成します。

講義では、表計算ソフトウェア（Excel）、統計パッケージ（SAS）等を使ってデータ分析を行い、データ分析の手法やデータの読み取り方について解説します。データ分析は、データ分析の基礎を身につけるには、受講者が自らパソコンを操作して、データを入力・分析するプロセスが重要ですが、講義中に十分な実習時間がとれないため、毎回、小課題を課します。授業時間以外にも、積極的に実習を行ってください。

なお、数学・統計学に関する知識は、高校レベルの数学と学部の統計学の知識を前提とし、実際のデータを見ながら、統計手法の直感的な理解が得られるような内容とします。

テキスト：

特に指定しませんが、講義資料（レジュメ）を配布します。

参考書：

適宜、参考文献を紹介します。

授業の計画：

1. データ分析入門

データの整理とグラフ表示

データの特徴の把握

推定と仮説検定

2. 統計調査の利用

主な経済統計の種類、使い方

3. 回帰分析

線形回帰モデル

マクロ経済モデル

4. 多変量解析

数量化理論

主成分分析

履修者へのコメント：

受講者は、パソコンの基本的な操作、E-mail を使えることを前提とします。また、講義資料取得には、インフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントが必要になります。

成績評価方法：

平常点および期末レポートにより評価します。

質問・相談：

授業時間中に受け付けます。また、メールでも対応します。

実践自然科学 [05 学則] [99 学則] [系] (秋学期)

実験要素を含む 4 年生のための自然科学

商学部 教授 福 澤 利 彦

文学部 教授 大 場 茂

法学部 准教授 小 林 宏 充

授業科目の内容：

実験やデモンストレーションなど、実験要素を取り入れて、自然科学の考え方や方法論を教えることに重点を置いた授業とします。全体説明のガイダンスの後、化学、物理学、生物学の 3 分野の教員が、それぞれの分野において、4 回ずつ異なるテーマで授業を行います。実験要素を含むことが本科目の特徴であるため、受講生諸君が授業に参加して自ら考えることが必要となります。

テキスト：

特に指定しません。講義時に資料・プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

(1) ガイダンス

(2) 化学分野（比重、燃料電池、スペクトルと光の作用、キラリティ）

(3) 物理学分野（カオス、フラクタル、セルオートマトン、イジング模型）

(4) 生物学分野（遺伝子と遺伝、味覚の生物学、視覚の生物学、生物の行動）

履修者へのコメント：

原則として履修者は三田の 4 年生に限ります。総合教育科目の単位が不足している人を救済するための科目ではありませんので注意してください。自然科学に本当に興味があり、実験にも積極的に参加する人を対象とします。履修希望者が多数の場合は、人数を制限することがあります。

成績評価方法：

毎回の小テストやレポートの点数を総合して評価します。

質問・相談：

質問・相談は授業終了後に受け付けます。

歴史 a [05 学則] [系] (春学期)

歴史 b [05 学則] [系] (秋学期)

歴史 [99 学則] [系] (通年)

日本中世の政治と宗教

講師 阿 部 能 久

授業科目の内容：

日本の中世における政治と宗教の諸相について講じます。中世の日本においては政治と宗教が密接に関連し相互補完的な関係を形成しており、互いに強い影響を及ぼしあっていました。本講義では特に、室町時代から安土桃山時代にかけての政治史を、宗教勢力の動向を視野に入れながらみることにより、両者の関係についての理解を深めていきたいと思えます。

歴史 の授業を前提に歴史 の授業を行うので、ともに履修することが望ましいです。

テキスト：
授業中に適宜プリントを配付します。
参考書：
授業内で紹介します。
授業の計画：
初回の授業で提示します。
成績評価方法：
試験の結果による評価

法学 a (憲法を含む) [05 学則] [系] (春学期) セット履修
法学 b (憲法を含む) [05 学則] [系] (秋学期)
法学 (憲法を含む) [99 学則] [系] (通年)
現代社会と法 講師 松浦 聖子

授業科目の内容：
社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の人間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」は、現代社会の諸問題を理解する上でも、重要なシステムである。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：
・石川明編『フレームワーク法学入門』不磨書房
・コンパクトタイプの六法(2008年度版)

参考書：
・碧海純一『法と社会』中公新書
・田中成明『法的空間』東京大学出版会
・伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門』有斐閣双書

授業の計画：

【春学期】

1. 法とは何か
2. 法の適用(1) 裁判の諸原則(2) 民事訴訟(3) 刑事訴訟(4) 法源
3. 法の体系(1) 法の分類(2) 公法と私法(3) 実定法の体系
4. 国家と法(1) 国家と憲法(2) 日本国憲法の基本原理
5. 犯罪と法(1) 犯罪と刑法(2) 刑法の機能(3) 犯罪の成立要件
6. 家族生活と法(1) 家族法(2) 夫婦(3) 親子(4) 相続

【秋学期】

7. 財産関係と法(1) 財産法(2) 取引の主体(3) 取引の客体
8. 契約(1) 契約の機能(2) 契約の成立とその効力(3) 債務不履行(4) 損害賠償
9. 労働と法(1) 労働法の理念と体系(2) 労働保護法(3) 労働団体法
10. 国際社会と法(1) 国際法(2) 国家の不正行為(3) 秩序回復
11. 民事訴訟手続(1) 民事訴訟の基本原則(2) 民事訴訟の流れ(3) 少額訴訟(4) 民事執行
12. 刑事訴訟手続(1) 刑事訴訟の基本原則(2) 刑事訴訟の流れ(3) 刑事訴訟法と刑法

履修者へのコメント：

法律学は暗記の学問ではなく、論理的体系を持った理解の学問なので、講義には必ず出席すること。

ニュース報道などで取り上げられている事件や社会問題の法的な意味にできるだけ関心を持つこと。

成績評価方法：

試験・レポート・出席状況等を総合して評価します。

近代思想史 a [05 学則] [系] (春学期)
近代思想史 b [05 学則] [系] (秋学期)
近代思想史 [99 学則] [系] (通年)
ドイツ近代社会思想における自由と共同
講師 針谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社

会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱う際には歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業の計画：

初回の授業で提示する。

履修者へのコメント：

予備知識を前提しない形で話を進めますが、理論的内容が大きな比重を占めるので、頭の中で何度も理論的なつながりを手繰り直す根気が必要です。

成績評価方法：

レポートによる評価

質問・相談：

随時

美術 a [05 学則] [系] (春学期)

美術 b [05 学則] [系] (秋学期)

美術 [99 学則] [系] (通年) 講師 中島 恵

授業科目の内容：

古代から現代にいたる西洋美術史の基礎的な理解を得ることを目的に、各時代・各地域の美術について、様式・意味解釈・社会的機能の観点から概説します。授業ではスライド(デジタル画像)や映像を使用します。

テキスト：

特に使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

高階秀爾監修、美術出版社編集部・藤原えりみ編『カラー版 西洋美術史』増補新装版、美術出版社、2002年

『ケンブリッジ 西洋美術の流れ』全8巻、岩波書店、1989年

『世界美術大全集 西洋編』全29巻、小学館、1992-97年

E.H.ゴンブリッチ『美術の歩み』友部直訳、上・下巻、美術出版社、1972-74年；『美術の物語』天野衛ほか訳、ファイドン、2007年

H.W.ジャンソン・アンソニー・F.ジャンソン『西洋美術の歴史』木村重信・藤田治彦訳、創元社、2001年

マルシア・ポイントン『はじめての美術史』木下哲夫訳、スカイドア、1995年

『新潮 世界美術辞典』新潮社、1985年

佐々木英也監修『オックスフォード 西洋美術事典』講談社、1989年

授業の計画：

初回の授業で提示します。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

地域研究 中国事情 [05 学則] [99 学則] [系] (春学期)

講師 清水 美和

授業科目の内容：

中国は急速な経済成長によって、アメリカをしのぐ日本の最大の貿易相手となりビジネスでも関係が深まってきた。学校や職場、街頭で中国人と接する機会も増えた。これに伴い、個人レベルだけでなく政治や社会のさまざまな局面で中国との摩擦も増えてきた。中国及び中国人とどのように付き合っていくかは、これからの日本と日本人にとって大きな課題になっている。授業では政治や社会、それに経済のあらゆる側面から中国の現状を解き明かし、中国の国情や中国人の思考方法の理解を深める。マスコミをにぎわすトピックにとどまらず、その背景から現代中国史の抱える問題を探っていく。春学期は、政治、外交、秋学期は社会、経済に重点を置く。

テキスト：

・清水美和『中国はなぜ「反日」になったか』文春新書

・清水美和『中国が「反日」を捨てる日』講談社+ 新書

・清水美和『中国問題』(08年2月刊行予定、ちくま新書、タイトルは変更の可能性あり)

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

アカデミズムのみならずジャーナリズムを志望する諸君も歓迎する。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：授業への参加状況および授業態度による評価（不定期に授業で明らかにしてほしい中国にかかわる疑問や授業への質問をアンケートし、その回答内容も成績評価に加味する）

質問・相談：

担当教員にメールで。アドレスは ADS13180@nifty.com

地域研究 中国事情 [05 学則][99 学則][系](秋学期)
講師 清水美和

授業科目の内容：

中国は急速な経済成長によって、アメリカをしのぐ日本の最大の貿易相手となりビジネスでも関係が深まってきた。学校や職場、街頭で中国人と接する機会も増えた。これに伴い、個人レベルだけでなく政治や社会のさまざまな局面で中国との摩擦も増えてきた。中国及び中国人とどのように付き合っていくかは、これからの日本と日本人にとって大きな課題になっている。授業では政治や社会、それに経済のあらゆる側面から中国の現状を解き明かし、中国の国情や中国人の思考方法の理解を深める。マスコミをにぎわすトピックにとどまらず、その背景から現代中国史の抱える問題を探っていく。春学期は、政治、外交、秋学期は社会、経済に重点を置く。

テキスト：

清水美和『中国農民の反乱』『人民中国の終焉』（いずれも講談社+新書）

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

アカデミズムのみならずジャーナリズムを志望する諸君も歓迎する。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：授業への参加状況および授業態度による評価（不定期に授業で明らかにしてほしい中国にかかわる疑問や授業への質問をアンケートし、その回答内容も成績評価に加味する）

質問・相談：

担当教員にメールで。アドレスは ADS13180@nifty.com

自由研究セミナー a [05 学則][系](春学期) セット履修
自由研究セミナー b [05 学則][系](秋学期)
自由研究セミナー [99 学則][系](通年)
教授 宇 振 領

自由研究セミナー a [05][系] /
自由研究セミナー [99][系](春)

授業科目の内容：

辛亥革命の成功により、中国でアジア最初の共和国が誕生。しかし、孫文の死後、中国でブルジョア革命により資本主義社会を目指す蒋介石の国民党とプロレタリア革命により社会主義社会を目指す毛沢東の共産党の政権争いが中国現代史の最大のポイントになった。新中国建国後、毛沢東は自分の権力を強め、政敵打倒のために、死ぬまで「運動」と「階級闘争」を行い、一刻も最高権力を手放さなかった。

毛沢東死後、A小平が三度目の復帰を果たし、「発展は最大の道理である」という旗じるしを掲げた。毛沢東の革命路線から経済改革開放路線に軌道を修正し、急テンポの経済発展を遂げ、全世界から注目を浴びた。

江沢民は経済体制改革を推進し、国有企業の私有化、株式化を敢行した。

胡錦濤は「科技興国」というスローガンを掲げ、経済発展のさらなる拡大とレベルの向上をはかっている。

本講義を通じて、日中戦争から現在までの出来事を巨視的に把握し、現在の中国に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

講義資料（レジュメ）を配布する。

参考書：

講義中に適宜紹介する。

授業の計画：

春学期

第1～3回 張作霖爆死から日中戦争（1928～1945）

第4～5回 第三次国内戦争と新中国建国（1945～1949）

第6～7回 朝鮮戦争（1950～1953）

第8回 反右派運動（1957）

第9～10回 大躍進と人民公社（1958～）

第11～12回 廬山会議と彭徳懐打倒（1959）

第13回 三年自然災害と四清運動（1960～1965）

履修者へのコメント：

中国現代史といまの中国に興味を抱いている皆さんの参加を希望する。

成績評価方法：

出席状況およびレポートによる評価。

質問・相談：

随時。

自由研究セミナー b [05][系] /
自由研究セミナー [99][系](秋)

授業科目の内容：

辛亥革命の成功により、中国でアジア最初の共和国が誕生。しかし、孫文の死後、中国でブルジョア革命により資本主義社会を目指す蒋介石の国民党とプロレタリア革命により社会主義社会を目指す毛沢東の共産党の政権争いが中国現代史の最大のポイントになった。

新中国建国後、毛沢東は自分の権力を強め、政敵打倒のために、死ぬまで「運動」と「階級闘争」を行い、一刻も最高権力を手放さなかった。

毛沢東死後、A小平が三度目の復帰を果たし、「発展は最大の道理である」という旗じるしを掲げた。毛沢東の革命路線から経済改革開放路線に軌道を修正し、急テンポの経済発展を遂げ、全世界から注目を浴びた。

江沢民は経済体制改革を推進し、国有企業の私有化、株式化を敢行した。

胡錦濤は「科技興国」というスローガンを掲げ、経済発展のさらなる拡大とレベルの向上をはかっている。

本講義を通じて、辛亥革命から現在までの約百年間にわたったの出来事を巨視的に把握し、現在の中国に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

講義資料（レジュメ）を配布する。

参考書：

講義中に適宜紹介する。

授業の計画：

秋学期

第1～2回 文化大革命（1）劉少奇打倒（1966～1969）

第3～4回 文化大革命（2）林彪打倒（1971）

第5～6回 文化大革命（3）四人組打倒（1976）

第7～8回 A小平と経済改革開放（1978）

第9～10回 江沢民と経済体制改革（1989～2003）

第11～12回 胡錦濤と科学発展観「科技興国」（2003～）

第13回 現在中国が抱えている問題

履修者へのコメント：

中国現代史といまの中国に興味を抱いている皆さんの参加を希望する。

成績評価方法：

出席状況およびレポートによる評価。

質問・相談：

随時。

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

授業の計画：

生命倫理，難民問題，犯罪被害者・加害者の人権，同和問題カウンセリングなどのテーマが予定されている。より詳細は初回ガイダンスで明示する。

履修者へのコメント：

体系的な知識を学ぶための講義ではなく、様々な問題状況を講師とともに追体験し、人間の尊厳に関する自らの生き方や考え方をあらためて見つめ直す機会をもつための講義である。誠実で素直で、なおかつ批判的な態度で臨んでいただくことを希望する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

毎回授業に出席し、それぞれ異なるテーマに直面してそれについて自ら「考える」ことが本講義の趣旨であることから、毎回、授業の最後に、授業を通じて考えたことや疑問点を記述する小レポートの提出を課す。この提出状況（8割以上の提出＝出席をもって単位が認可される）とその内容、ならびにこれらの講義をふまえて自分自身の「人の尊厳」に関わる問題を考察する最終テストの評価によって成績を評価する。

質問・相談：

授業の形式等、事務的な内容については安藤（コーディネータとして毎回参加する）に、講義の内容については各回の講師に対して直接たずねられたい。

諸 研 究 所

教職課程センター

言語文化研究所

メディア・コミュニケーション研究所

体育研究所

福澤研究センター

国際センター

保健管理センター

情報処理教育室

アート・センター

知的資産センター

外国語教育研究センター

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 20 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級 (春)	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級 (秋)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (春)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (秋)	土田龍太郎	
アラビア語基礎 (春)	榮谷温子	
アラビア語基礎 (秋)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (春)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (秋)	榮谷温子	
アラビア語古典 (春)	岩見 隆	
アラビア語古典 (秋)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (春)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (秋)	岩見 隆	
ヴェトナム語初級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	嶋尾 稔	
ペルシア語初級 (春)	関 喜房	
ペルシア語初級 (秋)	関 喜房	
ペルシア語中級 (春)	岩見 隆	
ペルシア語中級 (秋)	岩見 隆	
タイ語初級 (春)	三上直光	
タイ語初級 (秋)	三上直光	
タイ語中級 (春)	ボンシー, ライト	
タイ語中級 (秋)	ボンシー, ライト	
トルコ語初級 (春)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語初級 (秋)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語中級 (春)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語中級 (秋)	ヤマンラール, アイドゥン	
朝鮮語文献講読 (春)	李 美江	
朝鮮語文献講読 (秋)	野村伸一	
カンボジア語初級 (春)	三上直光	
カンボジア語初級 (秋)	三上直光	
ヘブライ語初級 (春)	笈川博一	
ヘブライ語初級 (秋)	笈川博一	
ヘブライ語中級 (春)	笈川博一	
ヘブライ語中級 (秋)	笈川博一	
古代エジプト語初級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語初級 (秋)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (秋)	笈川博一	
アッカド語初級 (春)	高井啓介	
アッカド語初級 (秋)	高井啓介	
アッカド語中級 (春)	高井啓介	
アッカド語中級 (秋)	高井啓介	

サンスクリット初級 (春)
サンスクリット初級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動変化

随時、宗教・神話・歴史についても解説する。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級 (春)
サンスクリット中級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット中級では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史的事項と文法解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎 (春)
アラビア語基礎 (秋)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書:

参考書 黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

- (春) 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方、名詞の性・格・複数、人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- (秋) 第1回 第7回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第8回 第13回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント:

アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語現代文講読 (春)
アラビア語現代文講読 (秋)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
- ・黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明します。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春) 第1回 第6回 母音記号がついた平易な短い物語の講読。

第7回 第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋) 第1回 第13回 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典 (春)
アラビア語古典 (秋)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie

プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをします。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読 (春)
アラビア語文献講読 (秋)
アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文(叙事の文)をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト:

受講者と相談して決めます。

参考書:

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画:

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント:

初等文法の諸規則や用語に慣れていることが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。)

ヴェトナム語初級 (春)
ヴェトナム語初級 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

簡単なヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は、下記の教科書を用いて、発音、基礎文法、基礎会話を学びます。後期から基礎表現の練習と平行して、簡単な文章を読んでいきます。

テキスト:

三上直光『ニューエクスプレス ベトナム語』(白水社, 2007年)

参考書:

Nguyen Dinh Hoa, *Ntc's Vietnamese English Dictionary*.

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語中級 (春)
ヴェトナム語中級 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

新聞記事程度のヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は基礎的な文章を読みます。後期は、ウェブ上のヴェトナム語の新聞から面白そうな記事を拾って読みます。

テキスト:

初回到受講者と相談して決めます。

参考書:

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』(東洋書店, 2005年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読 (春)
ヴェトナム語文献講読 (秋)
言語文化研究所 准教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

ヴェトナム語で書かれた学術論文を読みます。あるいは、もし希望者がいればチュノムで書かれたヴェトナム語の文章に挑戦します。

テキスト:

初回到受講者と相談して決めます。

参考書:

富田健次『ヴェトナム語の世界: ヴェトナム語基本文典』(大学書林, 2000年)

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級 (春)
ペルシア語初級 (秋)
ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容:

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていないなかった文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト:

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』(大学書林)

参考書:

黒柳恒男著『ペルシア語の話』(大学書林)

授業の計画:

講義計画は以下の通りです。

- 1 - ガイダンス
- 2 - 文字の習得
- 3 - 教科書を用いた文法の学習(計16回)
- 4 - 易しい現代文を読む練習(計7回)
- 5 - テスト

履修者へのコメント:

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級 (春)
ペルシア語中級 (秋)
ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト:

受講する人と相談して決めます。

参考書:

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画:

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやりませう。
2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント:

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。)

タイ語初級 (春)
タイ語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級 (春)
タイ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 ポンシー, ライト

授業科目の内容:

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて, タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力, 後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級 (春)
トルコ語初級 (秋)
トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンラール, アイドウン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが, 簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- (春) 第1 - 2回 トルコ語の特色, 母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は です”の構文, 助詞(格), 副詞, 形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- (秋) 第1 - 4回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第5 - 8回 分詞
- 第9 - 11回 動名詞
- 第12 - 13回 条件文, 仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので, 一応の目安とを考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語中級 (春)
トルコ語中級 (秋)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンラール, アイドウン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読 (春)

朝鮮語文献講読 (秋) 言語文化研究所 講師 李美江
文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家, 社会と現状を知るためのテキストを講読します。

文学作品は同時代の社会を強く反映しているといえます。1920年代から1980年代にかけての韓国を代表する文学作品に数多く接し, その時代の社会の有様と, 韓国人のものの見方や考え方を探ることを目的とします。

テキスト:

イ・ナムホ編『今日の韓国小説』民音社, 2000年

イ・ナムホ編『韓国短編文学選』民音社, 1998年

各自, 韓国書籍を扱う書店(例, 三中堂, 高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

授業の計画:

毎回, 原文で4, 5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で, なお, それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ, 明らかに違ってもおぼえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することがらは随時, <http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

前期と後期で担当者は代わりませんが, 教材は同じです。

成績評価方法:

出席すること, 翻訳の難しさ・妙味についてのレポートを学期末に提出することで評価します。

カンボジア語初級 (春)

カンボジア語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級 (春)

ヘブライ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500 ~ ¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっていくのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語中級 (春)

ヘブライ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500 ~ ¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語初級 (春)

古代エジプト語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっていくのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級 (春)

古代エジプト語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級 (春)

アッカド語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計五回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計三回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計三回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計三回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど テキストを読みつつ文法事項を確認します (計五回)

履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

アッカド語中級 (春)

アッカド語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

(春): 王碑文, 書簡, 法律文書, 契約文書など (計十三回)

(秋): 神話・叙事詩, 祈り文学, 占い文書など (計十三回)

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所

所長（法学部教授） 大石 裕

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所について

メディア・コミュニケーション研究所は、1946年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、1996年に創立50周年を迎えました。それを機に、名称もメディア・コミュニケーション研究所となりました。その背景には、放送が急速に発展し、新聞とともにマス・メディアの中心に位置するようになったこと、そしてインターネット時代を迎えるようになったことがあげられます。

新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマス・メディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

この目的は現在も継承されており、メディア・コミュニケーション研究所は、新聞、放送、通信社、出版、広告などのマス・メディア業界に就職を希望する学生のための教育機関として大きな役割を果たしてきました。また、メディアやコミュニケーションについて、教員と学生（この研究所では研究生と呼ばれています）が研究を進める機関でもあります。

実は、私も1979年にこの研究所（新聞研究所）を修了しました。私の研究生時代、研究所の規模は小さく、専任や非常勤の先生方に公私にわたって大変お世話になりました。文章作法では自分の作文力のなさを、研究会では基礎概念の理解不足を実感させられました。でも、そうした経験は、今貴重な財産になっています。現在の研究生も、私と同じような経験をしていることでしょう。

この研究所は、名前をあげれば誰でも知っているような著名なジャーナリストやメディア業界で活躍する人材を数多く輩出してきました。また、それほど目立たなくても個性的で優れた仕事をしているジャーナリスト、そしてマス・メディア企業の経営者になった修了生も多数います。こうした伝統は脈々と受け継がれています。もちろん、すべての修了生が、マス・メディアやその関連業界に進むわけではありません。しかし、この研究所で学んだこと、そして人とのつながりは、必ずやマス・メディア業界以外でも様々な形で生かされていくはずです。

研究生たちは今、従来型のマス・メディアだけでなく、様々なメディアを通じて情報を入手し、それを処理・加工し、情報発信をしています。でもその基本はやはり、入手した情報をもとに「考え」、そして「表現する」ことだと思います。特に、批判的に「考える」ことの重要性は、高度情報社会の今でも変わらないのは当然です。その力をぜひ、この研究所で磨くようにしてください。そして、その成果を社会に還元するようにして下さい。それが私の心からの期待であり、希望です。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならない、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）10月下旬～11月中旬に三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月上旬に三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10単位以上
- ・研究会 8単位以上
- ・特殊研究 4単位以上
- ・基礎演習 2単位以上
- 合計 28単位以上

2～4年の春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、「研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。」

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 20 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所開設科目一覧

* 基礎科目（オープン科目） 研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	奥野 昌宏
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	春2	遠藤 薫
三田設置科目	メディア法制	春2	宿南達志郎
三田設置科目	メディア法制	秋2	大石 泰彦
三田設置科目	ジャーナリズム論	春2	烏谷 昌之
三田設置科目	ジャーナリズム論	秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論	春2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春2	小城 英子
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	春2	白水 繁彦
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	メディア産業と政策	春2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	情報産業論 ・	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・（朝日新聞寄附講座）	春2/秋2	大石・伊藤高・和泉
三田設置科目	コミュニケーション調査法 ・	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 ・	春2/秋2	石丸・菅谷・豊嶋
三田設置科目	毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編	春2/秋2	河内 孝

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	李 光鎬
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金 正勲
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	藤田 結子

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義	春2	鈴木 祐司
三田設置科目	放送特殊講義	秋2	村尾 尚子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究 ・（テレビ・ジャーナリズム）	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春2/秋2	岡田 直敏
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア特殊講義	春2	坪田 知己
三田設置科目	メディア特殊講義	秋2	堀 主知ロバート
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究（市民とメディア）	秋2	金山 智子
三田設置科目	特殊研究（若者文化とメディア）	春2	藤田 結子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春2/秋2	豊嶋・菅谷・小川・藤田

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春2/秋2	宮川美樹子
三田設置科目	文章作法 ・	春2/秋2	稲井田 茂
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習	春2	金山 智子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習	秋2	渡辺真由子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春2/秋2	大久保 成
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春2/秋2	田辺 浩介

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

・大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会

参考書:

・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

授業の計画:

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル:弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書:

・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

授業の計画:

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

歴史(過去)との対話 大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. 幕末維新期の新聞(計3回)
4. 明治政府の言論政策(計3回)
5. 政治ジャーナリズム(計3回)
6. 不偏不党のジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテーキングの仕方を工夫してください

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

歴史(過去)との対話 大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. ヨーロッパ近代と新聞(計3回)
4. 党派的ジャーナリズムの位相(計3回)
5. 商業ジャーナリズムと公共圏(計3回)
6. 客観性とジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテーキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- 質問・相談：
授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

国際コミュニケーション論（春）

メディアと国際関係

奥野昌宏

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達には私たちが関係する世界を拡大してきましたが、一方でさまざまな問題も惹起させており、時として国際的な紛争を生じさせてきました。

この授業では、コミュニケーションとは何か、メディアとは何か、といった基本的な点から出発して、国際コミュニケーションとは何かという論題に至り、このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり、すなわちメディア・コミュニケーションをめぐる国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

武市英雄・原寿雄 責任編集『グローバル社会とメディア』（叢書現代のメディアとジャーナリズム1）、ミネルヴァ書房、2003年。その他、適宜紹介します。

授業の計画：

1. コミュニケーション，メディア，そして国際コミュニケーション
2. メディアの発達と国際的進展
3. マス・メディアの国際化と新世界情報コミュニケーション秩序論争
4. メディアのグローバル化と国際的再編成
5. メディアと国際関係：情報と文化の諸相
それぞれについて2～3回の授業を行ないます。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業時に受けます。

国際コミュニケーション論（秋）

東アジアのメディア・情報・文化

奥野昌宏

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが、それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが、時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では、韓国と中国を中心に、東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を、国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか、当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思っています。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス：東アジアのメディア概観
2. 韓国のメディア状況と社会・文化
3. 中国のメディア状況と社会・文化
4. 東アジアにおける日本の大衆文化
5. 「韓流」文化の生産と受容
6. 東アジアの国際関係とメディアの役割

それぞれについて2～3回の授業を行ないます。

上記のほか、国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業時に受けます。

メディア社会論（春）

情報グローバル化と文化変容

遠藤 薫

授業科目の内容：

メディアとは人間／社会にとって何であるのか、という根本的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫『グローバル化と文化変容』世界思想社、2007年
- ・遠藤薫『複合メディア社会と コミュニティ（仮）』東京電機大学出版局、2007年

参考書：

- ・遠藤薫『間メディア社会と 世論 形成』東京電機大学出版局、2007年
- ・遠藤薫『インターネットと 世論 形成』東京電機大学出版局、2004年
- ・遠藤薫『電子社会論』実教出版、2000年

授業の計画：

1. 社会とメディア
2. メディアとは何か
3. 現代メディア文化の諸相 (1)
4. 現代メディア文化の諸相 (2)
5. 現代メディア文化の諸相 (3)
6. 現代メディア文化の諸相 (4)
7. 現代メディア文化の諸相 (5)
8. 現代メディア文化の諸相 (6)
9. 現代メディア文化の諸相 (7)
10. 現代メディア文化の諸相 (8)
11. 文化 の時代としての現代
12. メディア複合文化の諸相
13. メディア複合と社会構造の変容

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

授業科目の内容:

インターネット時代におけるメディア関連法の枠組みと課題について学ぶ。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・宇賀克也, 長谷部恭男編著『法システム : 情報法』放送大学教育振興会(放送大学教材), 2006年
- ・中山信弘著『著作権法』有斐閣, 2007年
- ・福井健策編/内藤篤・升本喜郎著『映画・ゲームビジネスの著作権』著作権資料協会, 2007年
- ・宿南達志郎「迷惑メール対策の有効性に関する分析」『メディア・コミュニケーション No.57』, 2007年3月

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送法の枠組みと課題 (1) 放送法総論
- (3) 放送法の枠組みと課題 (2) NHK
- (4) 放送法の枠組みと課題 (3) CATV
- (5) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (1) コンテンツ法
- (6) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (2) 著作権法
- (7) コンテンツ関連法の枠組みと課題 (3) 独禁法(再販, 特殊指定)
- (8) 通信法(通信の秘密と有害コンテンツ)
- (9) ネットいじめと法規制
- (10) 迷惑メール対策法
- (11) 個人情報保護法
- (12) 情報通信法(仮称)
- (13) まとめ

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

メディア法制 (秋)

「取材・報道の自由」の現状と課題

大石泰彦

授業科目の内容:

本講義は、「取材・報道の自由」をキーワードに、マス・メディア(新聞社・放送局など)やジャーナリストの取材・報道活動にかかわるさまざまな法制度をとり扱う。受講者が、マス・メディア(ジャーナリスト)にかかわるさまざまな事件について、単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に分析・批判できるようになること、それがこの講義の目標である。

テキスト:

大石泰彦著『メディアの法と倫理』(嵯峨野書院, 2004年, 2500円)

参考書:

特に指示しない。ただ、堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』(別冊ジュリスト, 有斐閣)は、授業において手薄になりがちな判例に関する知識を補うのに役立つと思われる。

授業の計画:

1. 取材・報道の自由とは何か
2. 取材・報道の自由と権力
3. 取材・報道の自由を裏打ちするもの
4. 名誉毀損
5. プライバシー侵害
6. 報道倫理

ひとつのテーマに、約2回の講義をあてる。

履修者へのコメント:

継続的に新聞を読み、テレビ・ニュースを見る意欲・時間のない者や、「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけていない者の受講は望まない。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(受講者数が少ない場合、レポートに代えることがある。)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論 (春)

烏谷昌之

授業科目の内容:

この講義では「社会問題とジャーナリズム」について考えます。戦争、テロ、歴史問題、公害問題、原発問題、沖縄問題など多様な社会問題について考えていくうえで、ジャーナリズムの活動に注目することが、どのような思考の可能性に開かれているかを議論したいと思います。

テキスト:

指定しません。適宜レジュメを配布します。

参考書:

- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」世界思想社, 2006年
- ・小林直毅編「水俣の言説と表象」藤原書店, 2007年

授業の計画:

1. ガイダンス
2. 戦争とフォト・ジャーナリズム
3. テロリズムとジャーナリズム
4. 日中報道倫理の衝突
5. 戦争の記憶とジャーナリズム
6. 水俣病事件とジャーナリズム
7. 大規模公共事業とジャーナリズム
8. 人物論とジャーナリズム(1)
9. 人物論とジャーナリズム(2)
10. 原発論争とジャーナリズム(1)
11. 原発論争とジャーナリズム(2)
12. 沖縄イニシアティヴ論争とジャーナリズム
13. 補足とまとめ

履修者へのコメント:

授業はきっかけでしかありません。授業を社会問題を考える入口として利用し、独自に名作と出会って欲しいと希望します。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(持込可の試験を予定しています。)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(原則、毎回小ペーパーに講義の感想を書いて提出してもらう予定です。)

ジャーナリズム論 (秋)

ジャーナリズムと権力: 法社会学・政治社会学の観点から
伊藤高史

授業科目の内容:

法社会学と政治社会学の観点から、ジャーナリズムと権力の関係を考察します。

参考書:

伊藤高史著『「表現の自由」の社会学』(八千代出版, 2600円税別)

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ジャーナリズムと世論
3. ジャーナリズムと国家権力の関係を考えるための理論
4. ~ 6. 事例研究
7. ~ 8. 外交政策とジャーナリズム
9. ~ 10. 情報操作
10. ~ 13. 情報源の保護

履修者へのコメント:

授業開始と同時に、出席をとります。遅刻は一切考慮しません。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(持ち込み可)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席のほか、授業中に課す課題の結果も考慮します。)

世論 (春)

世論形成のメカニズムと今後の課題

小川 恒夫

授業科目の内容:

世論形成のメカニズムや、報道の問題点および今後のあり方などについて考えます。

テキスト:

『政治メディアの「熟慮誘発機能」』八千代出版

参考書:

なし(授業内で紹介します)

授業の計画:

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的な事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響(マスコミ)と水平的影響(口コミ)
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント:

テキストに沿って授業を進めていきます。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

授業終了後とその都度

情報行動論 (春)

小 城 英 子

授業科目の内容:

犯罪、災害、不思議現象、ファン心理など、具体的な事例を切り口にマス・コミュニケーションの影響過程について学びます。

授業の計画:

1. ガイダンス
 2. 災害とマス・メディア(計3回)
 3. 劇場型犯罪とマス・コミュニケーション(計3回)
 4. 不思議現象とマス・コミュニケーション(計3回)
 5. ファン心理(計3回)
- 1~5. は、社会情勢などに応じて、順序を入れ替えることがある

履修者へのコメント:

授業は教員と受講生との相互コミュニケーションで成り立っています。

積極的な参加を求めます。

成績評価方法:

レポートによる評価

異文化間コミュニケーション (春)

メディアによるイメージ形成と受け手の解釈

白 水 繁 彦

授業科目の内容:

民族や地域社会など、ひろく集団や地域のイメージの形成にはメディアが深く関わってきた。それが当該集団や地域の理解を助けたり、阻害したりしてきた。この授業では、実際にメディアがイメージ形成に関わっている事例をとりあげ、その制作意図を探り、また受け手がそれをどう解釈するか、といったこととを振り返りてみたい。

テキスト:

なし。パワーポイントやビデオによる資料提示。

参考書:

・白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化』御茶の水書房

2008年

・山中速人『イメージの「楽園」 観光ハワイの文化史』筑摩書房
1992年

授業の計画:

- 1~2. 異文化間コミュニケーションとは
異文化間コミュニケーションの諸相, 異文化間コミュニケーションの社会心理学
- 3~4. メディアのイメージ形成力
メディアメッセージと人びとの知覚, 認知: メディアの社会心理学
状況の定義づけ, 社会的事実とメディアメッセージ: メディアの社会学
- 4~5. 民族集団のイメージ形成と宣伝 ヒットラー, ゲッペルスの世界
- 6~8. 地域社会のイメージ形成
ハワイの例, 湯布院の例
- 9~10. 「沖縄」イメージ形成の形成
ハワイのウチナーンチュ・ムーブメント
沖縄のウチナーンチュ・ムーブメント
- 11~12. ワークショップ メディアメッセージの分析
広告の分析実践 高級ブランドの広告分析, 観光フライヤー等の分析
13. 全体のまとめ

履修者へのコメント:

好奇心旺盛で、熱心な学生の履修を望みます。授業時間中にしばしばエッセイを書かせます。また、頻りに質問を致します。それに答える必要がありますので、旺盛な参加意欲が必要です。

成績評価方法:

- 1・試験の結果による評価 50%
- 2・レポートによる評価 エッセイの本数と内容の評価 50%
- 3・平常点: 上記の2. と同様

質問・相談:

できれば授業中または授業後に直接質問してください。時間がないときはメールによる質問も受け付けますが返事に時間がかかる場合があります。

異文化間コミュニケーション (秋)

藤 田 結 子

授業科目の内容:

この授業では、「ネイション (= 国民・民族) の文化とコミュニケーションに関する問題を考察していきます。言語、行動、組織を中心とした狭義の異文化間コミュニケーションではなく、イメージ形成、表象、マスメディアなどを含む広義の異文化間コミュニケーションを対象とします。

テキスト:

秋学期開始時に指定します

授業の計画:

- 第1回 ガイダンス
- 第2 4回 「日本人」のアイデンティティ
「日本人らしさ」とは何か
日本人の表象, オリエンタリズム
- 第5 8回 マルチエスニック・ジャパン
日本の中のエスニック・マイノリティ
外国人のステレオタイプ
「英語支配」の問題
- 第9 10回 グローバル化の中の日本人
日系人の経験
近年の移住者: 駐在員・女性・留学生
- 第11 12回 越境文化
ハイブリッド化するポピュラーカルチャー
コスモポリタン文化の可能性

履修者へのコメント:

授業では、毎回、テレビ番組などの映像資料を用いて講義をする予定です

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア文化論（春）

映画コンテンツとクロス・メディア研究 小川 葉子

授業科目の内容：

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。

教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート（数回）をおこなう。

最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、最終グループ・プレゼンテーションを予定している。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- (1) ガイダンスおよび導入
- (2) エンタテインメントの歴史（2～14は適宜選択）
- (3) ニュース
- (4) 新聞とジャーナリズム
- (5) 人種とエスニシティの表象
- (6) ドキュメンタリー
- (7) フィルム・ノアール
- (8) ミュージカル
- (9) スリラーとサスペンス
- (10) 古典的物語
- (11) ポストモダニズム
- (12) 北欧映画
- (13) アジアその他の地域の映画
- (14) 映画上映と履修者による最終グループ・プレゼンテーション（3回）

履修者へのコメント：

そののちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）
- ・数回の小レポート。

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア文化論（秋）

映画コンテンツとクロス・メディア研究：
クリティカルな批評からクリエイティブな企画立案へ
小川 葉子

授業科目の内容：

既存の映画コンテンツの批判から、新たなクリエイティブ・コンテンツの企画・立案につながる創造的な思考のプロセスをシュミレートすることを目的とする。

グローバルイゼーションや文化（財）、行政、企業の社会的責任（CSR）も視野に入れつつ、セミ・ドキュメンタリー、音楽映画等の特定のジャンルのほか、SF、アニメ等の考察を対象とする。

テキスト：

授業中に指示する。ハリウッド映画ジャンルに関するボードウェルの邦訳も含む。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

- 1) ガイダンスおよび導入
- 2) グループ分けと作業手順の説明

- 3) セミ・ドキュメンタリーと音楽映画（3回）
- 4) 各班による上映映画の選択とプレゼンテーションと批評、コメント
- 5) 前回の批評・コメントに基づいたオルタナティブな企画案の作成（4,5のペアにより各4回）
- 6) 最終レポートの作成とクリエイティブな思考プロセスの探索
- 7) 履修者個人々人へのフィードバックとまとめ

履修者へのコメント：

当該年度か前年度に「メディア文化論」（春学期）を履修しているか、あるいは映画を30本以前観賞している程度の知識を有していることを履修の前提とします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（数回の授業内小レポートおよび企画書）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席、授業態度、およびプレゼンテーション）

質問・相談：

授業終了後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア産業と政策（春）

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅谷 実

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』（丸善、2002年）

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

基礎理論(5)

- 1 メディア政策
 - 2 政府規制
 - 3 メディア市場
- 映像コンテンツ産業(6)
- 4 映像コンテンツと映画
 - 5 映画産業の発展
 - 6 映像振興政策（欧州、米国、日本）
- まとめ(1)
- 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

試験の結果による評価（基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する）。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

メディア産業と政策（秋）

通信・放送融合時代の情報通信政策 豊嶋基暢

授業科目の内容：

通信・放送産業を中心としたメディア産業に関する政策の動向と今後の課題について学習していく。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) 通信政策（5回程度）
 - 非対称規制
 - NTTのあり方
 - モバイルビジネス政策

- 周波数政策
- 消費者行政
- (3) 放送政策 (4 回程度)
 - 放送のデジタル化
 - NHK のあり方
 - CATV の今後
 - 衛星放送の今後

- (4) 通信・放送産業を取り巻く政策 (2 回程度)
 - コンテンツ流通促進
 - 技術開発政策

- (5) まとめ
 - 講義内容により、政策担当者による講義を実施する予定。

履修者へのコメント：

情報通信政策に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況、授業態度による平常点

質問・相談：

質問は、メール (m-toyo@mediacom.keio.ac.jp) で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

情報産業論 (春)

メディア産業概論

宿南達志郎

授業科目の内容：

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣、2006年
- ・電通総研編『情報メディア白書2008』ダイヤモンド社、2008年
- ・総務省編『情報通信白書 平成19年版』ぎょうせい、2007年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) コンピュータ業界
- (3) 通信業界 (1)
- (4) 通信業界 (2)
- (5) 放送業界 (1)
- (6) 放送業界 (2)
- (7) 新聞業界
- (8) 出版業界
- (9) 映画業界
- (10) 音楽業界
- (11) マンガ、アニメ業界
- (12) 広告業界
- (13) まとめ

履修者へのコメント：

毎週ホームページにアクセスできる人に限ります。

URLは、<http://can.55j.jp/>

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (毎週ブログ上で授業内容に関連する議論に参加してもらいます。)

情報産業論 (秋)

インターネット・ビジネス論

宿南達志郎

授業科目の内容：

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的なビジネスへ影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・(財)インターネット協会『インターネット白書2007』インプレス社、2007年
- ・クリスアンダーソン『ロングテール』早川書房、2006年
- ・梅田望夫『ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる』筑摩新書、2006年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット経済
- (3) インターネット経営
- (4) インターネットと政府・自治体
- (5) SNS, ブログ
- (6) 音楽・映像配信
- (7) 電子マネー
- (8) 電子出版
- (9) 電子商取引
- (10) ネット広告 (1)
- (11) ネット広告 (2) Google
- (12) モバオク, モバゲー (DeNA)
- (13) まとめ

履修者へのコメント：

毎週ネットにアクセスし、ブログでの議論に参加できる人に限ります。URLはこちら：<http://can.55j.jp/>

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座 (春)

大石裕

朝日新聞寄附講座

和泉純 (朝日新聞社)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座 伊藤高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて、講義をしていただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2008年4月までに、発表する予定。

講義テーマとして、「ジャーナリズムの責任と課題」「新聞の取材・編集過程の実際」「報道と人権」「週刊誌から見たジャーナリズムの現在」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語・遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価 (2回, レポートを提出)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (毎回, 授業について、感想文を提出する)

ジャーナリズム総合講座 (秋)

大石裕

朝日新聞寄附講座

和泉純 (朝日新聞社)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座 伊藤高史

授業科目の内容：

情報化・グローバル化時代におけるジャーナリズムの現状と課題を報道の現場とビジネスの両側面から、ゲスト講師の方々に語っていただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師名については、9月末までに、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトに掲載する予定。

講義テーマとして、「インターネット時代におけるマスメディアのジャーナリズム」「サイバージャーナリズムの実践」「グローバル化時代の国際報道」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語・遅刻はもちろぬ厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（2回、レポートを提出）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、授業について、感想文を提出する）

コミュニケーション調査法 ・ （春）(秋)

テレビニュースの内容分析 伊藤陽一

授業科目の内容：

2008年1月に録画されたテレビニュース番組をマニュアルにしたがって「内容分析」し、ニュースの国際流通のパターンと規定要因等について研究する。データの集計、図表の作成のため、表計算ソフト「エクセル」を多用する。データはウェブページに直接入力する。そのため、「エクセル」が入っており、しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必要となる。

テキスト：

菅 民郎『Excelで学ぶ多変量解析入門』オーム社 2001年

参考書：

伊藤陽一『ニュースの国際流通と市民意識』慶應義塾大学出版会 2005年

授業の計画：

第1回：オリエンテーション：今学期に取り組む研究についての解説と達成目標の提示。

この授業では「研究」(実習)と「勉強」(講義)の両方を平行して行う。「勉強」についてはあらかじめスケジュールを作ることができるが、「研究」とは未知の分野の開拓なので予測不能な面が多く、あらかじめスケジュールを作っておくことは難しい。また「勉強」では欠席者のことは気にしなくて済むが、「研究」(実習)では、欠席者（特に数回連続の欠席者）を「おいてきぼり」にすることはできない。そこで2回以降は「研究」(実習)を優先的に進め、時々「研究」(実習)の進行を止めて「勉強」(講義)を行う。「勉強」(講義)がカバーするのは以下の通りである。

- (1) 上記『Excelで学ぶ多変量解析入門』の内容（一部）
- (2) 初等統計学
- (3) 社会調査法入門
- (4) 内容分析法入門

履修者へのコメント：

この授業の「研究部分」(上記)は約25カ国が参加する国際共同研究です。それには私の昔からの大学院生も参加するので、彼らにも適宜授業に参加してもらい、時々「飲み会」をするなどして、全体として「研究会」のような雰囲気になりたい。この研究は1年をかけて完成させる予定ですので、できるだけ春、秋通して、通年で履修してください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期末に1回提出。レポートの構成、書き方については具体的に指導します。）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習を中心とした授業なので、出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は、自動的に履修を断念、単位を放棄したものとみなされる可能性があります。）

質問・相談：

質問内容とそれに対する回答は、履修者全員で共有したいので、質問は原則として授業中にしてください。またメールで質問する場合は、履修者全員のメーリングリスト（こちらで作成します）に載せてください。

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（春）

石丸 省一郎
菅谷 実
豊嶋 基暢

授業科目の内容：

民間テレビ放送の成り立ちを踏まえて、コンテンツ戦略の要になる番組編成や、ドラマ、バラエティ等エンターテインメント番組の制作の実際、映画事業について、実務経験のあるフジテレビの役・職員が、自らの経験をまじえながらオムニバス方式で講義します。

テキスト：

ありません。

参考書：

ありません。

授業の計画：

1. ガイダンス（民間テレビ放送の成り立ちと課題）
2. 番組編成
3. バラエティ番組の制作
4. ドラマ番組の制作
5. 映画事業

(注)2,3,4,5については複数回講義します。

履修者へのコメント：

メディア志望者は勿論、他の分野に進む方も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（秋）

石丸 省一郎
菅谷 実
豊嶋 基暢

授業科目の内容：

春学期はエンターテインメント、秋学期は報道・情報、ドキュメンタリー、スポーツ等ノンフィクション系の番組制作の実際について、実務経験を積んだフジテレビの役・職員がオムニバス方式で講義します。

またデジタル化等メディア環境の変化の中で民間テレビ放送がどのように変わっていくかについても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

ありません。

授業の計画：

1. メディア環境の変化
 2. ニュース・報道番組の制作
 3. 情報番組の制作
 4. ドキュメンタリー番組の制作
 5. スポーツ番組の制作
 6. 技術革新とメディアの変化
 7. デジタルコンテンツ事業
 8. 広告媒体としてのテレビ
 9. 民間テレビ放送の将来展望
- (注)2,7については複数回講義します。

履修者へのコメント：

メディア志望者は勿論、他の分野に進む方も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

毎日コミュニケーションズ寄附講座 メディアの再編(春)
新聞, テレビ, コミュニケーション
企業のコングロマリット化はこう進む 河内 孝

授業科目の内容:

2011年テレビのデジタル化を機に新聞, テレビ, 通信を巻き込んだメディアコンセントレーションが進む。メディアコングロマリットとは何か? 再編成はどう進むかをふかんする。

テキスト:

河内孝著「新聞社」(新潮新書)

参考書:

適時, 授業中に提示する。

授業の計画:

新聞, テレビ, 出版などをタテ割りに学んでもメディア再編成の全体像は見えてこない。

このため河内によるオリエンテーションを受けて, 新聞, TV, 番組制作プロダクション, 出版社, 広告代理店の中堅社員が「メディアの現場」で今起きている状況を「生中継」してもらおう。例えば

日経新聞の社説はどのように作られるのか

ドキュメンタリー番組の企画から放送まで

「100万部」売るとい出版の現場

メディア再編時代の広告代理店の日常

ソフトバンク社長の語る IT 新時代とは

メディア界に就職するという事, するには, をマスコミ担当者が語る

キャラクター戦略を小学館の責任者が語る

ドラマ~こう作る(フジTVプロデューサー)~など

履修者へのコメント:

今年は徹底的にメディア各現場を預かる責任者に「今」を語ってもらい, それを受けてメディアの明日をさぐる。新しい試みに是非, 参加してほしい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(適時行います。添削し返却します) 50%
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 50%

質問・相談:

授業後, 教室, あるいは教員室で受ける。

毎日コミュニケーションズ寄附講座 メディアの再編(秋)
新聞, テレビ, コミュニケーション
企業のコングロマリット化はこう進む 河内 孝

授業科目の内容:

春学期で学んだメディアコンセントレーションによるコングロマリットの誕生, 日本メディア再編成の将来図を更に研究する。

テキスト:

河内孝著「新聞社」(新潮新書)

参考書:

適時, 指示する。

授業の計画:

春季に講演した同一メンバー(一部入れ替えあり)によって新聞, テレビ, 出版, コンテンツ制作, 広告代理店, コミュニケーション業界の現状と, 将来見通しをさらに踏み込んで講義する。

この合間に河内が各メディア機能の融合と, コンセントレーションの進行。日本におけるメディアコングロマリット形成の見通しにつき講義する。

またメディア界への就職を希望する諸君へ, 毎日コミュニケーションズの担当者が具体的アドバイスをおこなう。

履修者へのコメント:

今日, 考えられる最良のメンバーが「メディア」各分野の「いま」を語るユニークな講座, このチャンスを逃さず多くの諸君に受講してもらいたい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(適時, 提出を求め。添削し, 返却します)(50%)

- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(50%)

質問・相談:

授業前後, 教室, 教員室で受ける。

【研究会】

研究会(~)

メディアと社会行動

萩原

滋

授業科目の内容:

本研究会は, 2年ないし3年の在籍期間を通じて, 各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い, その成果を研究会の場で逐次報告し, 最終的には修士論文に結実させることを目的としている。研究テーマは, メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば, ある程度各自の自由裁量に任されることになるが, 単なる感想や思い付きではなく, それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが, 本年度も, 基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト:

春学期開始時に指定する。

授業の計画:

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定, 発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2, 3年生の個人研究発表, 6回)

修士論文に向けて(4年生の中間報告, 3回)

次年度に向けての研究計画発表(2, 3年生, 4回)

履修者へのコメント:

自分の発表だけでなく, 他の人たちの発表にも興味をもって, 質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

適宜, 研究室に来てくだされば, お答えするつもりです。

研究会(~)

メディア産業論を考える

菅谷

実

授業科目の内容:

放送, 新聞に代表されるマスメディアからインターネット, 映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造, ビジネス戦略, メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年, 春学期は, 共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表, 秋学期は, 三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成, および4年生の修士論文発表を中心に進めます。(2007年度の共同研究テーマは, 'The Films')

また, 夏合宿, OGOB会, 異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会のホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

授業の計画:

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが, 春学期は, 授業でのレポートを中心とし, 秋学期は, 三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント:

履修者は, 授業はもちろんのこと, 合宿, 論文報告会, その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法:

- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価(授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。)

・なお研究会 は修了研究の発表および論文による評価。

研究会(~) 新規募集なし
身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する
金 山 智 子

授業科目の内容：

本研究会では、メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのか、どのように関わっているのか、個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

(1) 春学期

4年生は修了論文の研究計画をたて、発表します。

(2) 秋学期

4年生は研究計画に基づいて調査を実施し、三田祭で中間報告します。

最終的な研究結果については、修了論文を作成し、口頭発表および論文提出を行います。

成績評価方法：

平常点と修了論文

研究会(~)
グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン
小 川 葉 子

授業科目の内容：

本研究会では、比較映像分析とフィールドワークに基づく空間分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。とりわけ、映画、ファッション、広告、ニュース、流通の未来をクリエイティブ産業、クリエイティブ都市論、文化政策との関連で検討し、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、デジタル・シネマやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト：

・カナダ、オンタリオ州教育省著『メディア・リテラシー』(りべるた出版、2006年)

・『ファッション中毒』(NHK出版、2004年)

その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキストおよび各種白書等を使用予定。

参考書：

・M. フェザーストン著、川崎賢一・小川葉子編著訳『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻、恒星社厚生閣、2002年)

・伊藤陽一・河野武司編『ニュース報道と市民の対外国意識』(慶應義塾大学出版会、2007年)

授業の計画：

春学期

(1) ガイダンスおよび導入(2~3回)

(2) 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトに関する説明(2~3回)

(3) 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトの分担決定とその遂行(6~8回)

(4) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表、春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

(1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)

(2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表(2回)

(3) フィールドワーク(2回)

(4) 個人あるいはグループプロジェクトによる作品の制作(2回)
(5)(4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)

(6) 三田祭発表とフィードバック(2回)

(7) まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)
履修者へのコメント：

フィールドワークは、映画関連イベント、文化施設、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国の白書、ジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価。

・レポートかそれにかわる作品による評価。

質問・相談：

授業終了直後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(~)
ジャーナリズムを考える 大 石 裕

授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト：

大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画：

[前期]

1~2回 基本的な文献の講読

3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法：

平常点による。

研究会(~)
メディアと認知 李 光 鎬

授業科目の内容：

本研究会では、様々なメディアにおけるコンテンツの内容・形式上の諸属性が、そのコンテンツが伝えている事象に対する注目、記憶、理解、学習、評価などにどのような影響を与えるのかについて実験や調査を行う。

テキスト：

メディアの認知的効果に関する研究書や論文を授業の中で適宜示す。

参考書：

Richard Jackson Harris, *A Cognitive Psychology of Mass Communication*, London: LEA, 2004.

授業の計画：

春学期には、メディアの認知的効果に関する研究書や論文を輪読・発表しながら各自の研究テーマを検討し、先行研究のレビューを行う。

秋学期には、実験の素材や調査票を作成し、各自データの収集・分析を行った後、研究発表を行う。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会 (~)

次世代創造社会におけるメディアコミュニケーション産業に関する研究
金正勲

授業科目の内容:

2008 年度の金ゼミでは、次世代創造社会におけるメディアコミュニケーション分野の未来について、社会、文化、技術、産業、政策という学際的視点から研究を行います。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

特に指定しません。

授業の計画:

春学期 (13 回) の場合

1. ガイダンス (計 1 回)
2. 春合宿 (計 1 回)
3. 基本書輪読 (計 2 回)
4. Newsclipping, 輪読, レクチャー, ゲスト講義と討論 (計 7 回)
5. 企業省庁訪問 (計 2 回)

履修者へのコメント:

理論と実践のバランスを重視すると共に、全員参加型のゼミを目指しているので各自の '高い' コミットが求められます。春・夏のゼミ合宿、ニュースクリッピング、担当教員やゲストによるレクチャー & 討論、輪読、企業省庁訪問、三田祭論文作成・発表等の活動を行います。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

ゼミ活動については、<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/kim/>、質問は kim@dmc.keio.ac.jp まで。

研究会 (~)

情報通信産業の進展と政策展開に関する研究

豊嶋基暢

授業科目の内容:

通信・放送分野は、2011年の「完全デジタル元年」に向けて、ブロードバンド化、ワイヤレス化が急速に進展し、通信と放送の融合 (連携) を視野に入れた情報通信政策の転換期となっている。本研究では、情報通信ネットワークの高度化・多様化がメディア産業やライフスタイルにどのような変化をもたらすのかについて研究するとともに、通信・放送融合 (連携) に向けた情報通信政策及び法制度のあり方について、考察・議論する。

テキスト:

授業の中で適宜指定します。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

(1) 春学期

- ガイダンスと導入 (第 1 回)
- NEWS CLIPPING (通年)
- 共通テーマと関連する文献の輪読・発表等
- 個人研究テーマの設定・中間発表

(2) 秋学期

個人研究又は全体研究のテーマを設定して研究・発表

なお、春学期・秋学期とも、適宜、施設見学や政策担当者の話を聞く機会を設ける予定です。

履修者へのコメント:

本研究会は議論中心ですが、他者の研究の議論にも積極的に参加し、自分の興味のある分野の研究を深めていって欲しいと考えています。情報通信について、産業、政策、法制度に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価。

質問・相談:

質問は、メール (m-toyo@mediacom.keio.ac.jp) で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

研究会 (~)

メディアと文化

藤田結子

授業科目の内容:

本研究会では、メディア、コミュニケーション、または文化に関わる社会現象について、各自の関心にもとづくテーマを設定し、調査研究を進めます。

授業の計画:

春学期

- ・文献購読
- ・調査方法 (内容分析、インタビュー、アンケート、参与観察、ビデオエスノグラフィー)
- ・個人研究計画発表
- ・三田祭共同研究テーマの設定

そのほか企業訪問、他大学とのディベートなど

夏合宿

秋学期

- ・三田祭論文の調査・執筆・発表
 - ・次年度にむけての個人研究計画発表
- そのほか街でのフィールドワークなど

履修者へのコメント:

好奇心を持って、積極的にゼミに参加する学生を歓迎します

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義 (春)

鈴木祐司

授業科目の内容:

映像・音響の総合伝達手段として、最も普及したメディアはテレビである。今そのテレビが変貌しようとしている。音声メディア、活字メディア、そして映画から影響を受け成熟してきたテレビは、どう変化しようとしているのか。

授業では、構成・オープニング・コメント・音響効果・CM など、テレビの特性をなす各部分を分析する。その中で、映像・音響制作の現在・過去・未来を考え、これからのテレビのあり方を検討する。

テキスト:

なし

参考書:

なし

授業の計画:

ガイダンス

- ~ 構成とは時間の芸術: 視聴者にとってわかりやすくおもしろい構成・ストーリーテリングとは何か。番組に込められた工夫の数々を紹介する。
- ~ オープニングは最強の PR: 視聴者の中には、オープニングだけでチャンネルをかえる人が少なからずいる。ゆえに番組のオープニングにはあっと驚く工夫がなされている。その実態に迫る。
- ~ うまいコメントは寡黙: 番組のコメントは耳で聞いてわかりやすく工夫されている。書き言葉と話し言葉のちがいを体験しよう。
- ~ 音響効果が番組を彩る: テレビは映像が中心と思われがちだが、実は音の力が大きい。番組の中でどう活躍しているのか。見えない音の工夫を見てみよう。
- ~ CM とは真実のメッセージ: テレビ産業の基本は CM ビジネス。しかしその歴史は興味深い。どう変化しており、今の CM がどこまでできたのか、どこへ行こうとしているのかを見てみよう。

- ～ デジタルでテレビはどう変わる：デジタル化でテレビは大きく変わろうとしている。しかも通信との融合も迫られ、変化の度合はきわめて大きくなった。どこへ行こうとしているのかを探る。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（授業内で出題・ミニレポートあり）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席状況を加味）

放送特殊講義（秋）

「テレビニュース」って何だろう？ 村尾尚子

授業科目の内容：

「テレビニュース」の現場では、いま、いったい何が起きているのか。何を伝えようとしているのか。一線で働くテレビ朝日現職職員、キャスター、コメンテーターが、その“最前線”と課題を生々しく解説します。そして「テレビニュース」の未来を探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

特に指定しません

授業の計画：

- 1 「テレビニュース」総論（序）
- 2～12 「テレビニュース」の現場最前線
- 13 「テレビニュース」実習とフリー討論
変更の可能性あり

履修者へのコメント：

テレビ好きですか？好きでも嫌いでも...テレビに興味・関心のある人、テレビ局の仕事って何だろうと思っている人、テレビジャーナリズムについて知りたい・考えてみたいと思っている人...歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（平常点、実習&フリー討論の評価を加味します）

質問・相談：

講義の中で質問を受けつける時間を設定します。

フジテレビ寄附講座 特殊研究（テレビ・ジャーナリズム）（春）

テレビニュースはどう作られる 安倍宏行

授業科目の内容：

ニュース制作の実態と記者レポートの撮り方を学びます。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

1. ガイダンス・テレビと新聞の違い、テレビニュースの特質
2. ニュースの伝え方（ストレートニュース・記者レポート・中継の違い）
3. ニュース原稿演習
4. ニュース制作の現場（フジテレビ報道局見学）
5. 記者・ディレクター・特派員・キャスターの仕事とは
6. スポーツディレクターの仕事
7. ドキュメンタリー制作の実際
8. 撮影技術、映像企画の作り方
9. 記者レポート制作 テーマ決め・リサーチ
10. 記者レポート スケジュール作成・アポ取り
11. 記者レポート発表 評価
12. 記者レポート発表 評価
13. 予備

履修者へのコメント：

将来、テレビ局で記者・ディレクター・アナウンサーになりたい人向け。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

- ・その他（記者レポート提出・評価による）

フジテレビ寄附講座 特殊研究（テレビ・ジャーナリズム）（秋）

テレビの未来 安倍宏行

授業科目の内容：

テレビニュースの抱える問題点と放送と通信の融合について、理解を深め、長目の映像を制作する。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

1. 人権侵害と報道倫理 実名報道・匿名報道
2. 模擬記者会見 取材する側、される側
3. 取材源の秘匿
4. BPO 放送倫理検証委員会とは TBS の問題
5. 名誉毀損訴訟
6. 放送と通信の融合 テレビ局のネット戦略
7. 放送と通信の融合 動画投稿サイト
8. テレビ局の未来 地デジ、ワンセグ、非放送分野（事業、映画等）
9. 映像企画制作 テーマ決め・リサーチ
10. 映像企画制作 取材スケジュール決め、アポ取り
11. 映像企画制作発表 評価
12. 映像企画制作発表 評価
13. 予備日

履修者へのコメント：

将来、テレビ局で記者・ディレクター・アナウンサーになりたい人向け。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他（映像企画作品の提出・評価による。）

新聞特殊講義（春）（秋）

新聞報道のいま、未来 岡田直敏

授業科目の内容：

ネット革命、メディア再編の中で新聞の役割が改めて問われていきます。新聞の存在意義はどこにあるのか。新聞報道のこれからを探ります。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

随時、指示します

授業の計画：

できるだけ現実のニュースに連動しながら、主に以下のようなテーマを取り上げます。随時、日経の第一線記者や編集委員などを招き、現場の息吹を伝えてもらいます。

1. 新聞はどう作られるか
2. 経済報道の現実と課題
3. ネット革命と新聞
4. 世界のメディア再編の行方
5. 記者、新聞社の未来図

履修者へのコメント：

皆さんが新聞記者を志したくなるような講座を目指します。新聞を読んで参加して下さい。（どの新聞でも結構です）

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容：

「広告」は、最も身近にあり、また最も頻繁に接触している情報です。その反面、それは「トイレタイム情報」であったり、録画画面から「飛ばされる情報」という認識を持たれている面も、少なからずあるようです。

ところが、広告が無かったらどうなることなのでしょう。「もしもミルクが無かったら」という全米ミルク協会の広告が非常にインパクトをもち、好感を持って迎えられたことがありました。広告の重要性も、これと同じだと思います。

記事やニュースや番組に代表されるマス・コミュニケーション。そのもうひとつの主役が広告です。広告ほど「タフ」で、「受け手の側に立った」情報作りを心がけている「繊細な」コンテンツもありません。なにしろ、年間 300 兆円を越す個人消費を左右する情報内容ですからね。

この実態と、広告の環境変化対応を把握することは、激変している経済社会に直に聴診器を当てることにもなりますし、現代文化を肌で感じ取ることににもなります。

「情報化社会」とは、情報が付加価値ではなく、「主体価値」となる社会。民間小口配達便ではマーケットは切り拓けません。「宅急便」という概念が巨大市場を生み出しました。小型携帯ステレオも同様。「ウォークマン」というコンセプトが市場を創り出しました。「製品」に価値ある情報が載ってこそ「商品 = Goods」となります。

広告発想とはどのようなものか、広告表現はどのような工程を経て作られるのか、情報の品質管理とはどのようなものか。ブロードバンド化、グローバル化は、広告会社の業態 = ビジネス状態に、どのようなインパクトを与えているか。情報化社会へデビューする若人には欠かせないコンテンツです。

意外に知られていないその実態。関係者も、それをあまり口にしたことはないようです。そこで、それらを「面白く、分かりやすく」展開したいと思います。題して「面白くなければ、授業じゃない」。本邦初公開のコンテンツです。

テキスト：

刻一刻と変化し続けるメディア動向とそこに載るコンテンツ = 情報内容（主に広告作品）が教材です。そこから新たなメソッドを発見して受講生に提供してゆきます。毎回、新鮮な講義資料プリントを配布します。情報化社会に聴診器を当てて得たこれらの診断結果が、私のテキストです。

参考書：

- ・ Web 進化論
- ・ TVCM の崩壊
- ・ 月間広告
- ・ 価値場の化け力

授業の計画：

春学期

- (1) ガイダンス “ ようこそ、未来からの留学生 ”
- (2) 広告と言葉
- (3) 広告、その誕生からデビューまで
- (4) 就職で最も大事な産業構造理解 = 意外に知られていない広告の素顔
- (5) 広告表現を見る Advertise とは「注意を向けさせ続けるコンテンツという意味」
- (6) コミュニケーションとは文化理解であり、広告は文化である
- (7) マーケティングとは何か = コンテンツ作りの土台としてのマーケットデザイン
- (8) マーケティングとは何か = コンテンツ作りの土台としてのマーケットデザイン
- (9) メディア・・・タッチポイントという概念の出現
- (10) マーケティングコミュニケーションを激変させる情報革命
- (11) マーケティングコミュニケーションを激変させる情報革命
- (12) 受講者チームからの発表 1
- (13) 受講者チームからの発表 2

秋学期

- (1) 面白くなければ授業じゃないのガイダンス
- (2) 広告情報の作り方 = 発想法に挑戦
- (3) 広告情報の作り方 = 実例から広告情報作りに挑戦
- (4) 広告情報の作り方 = ビッグアイデアはロングラン広告を可能にする
- (5) なぜブランドが重要なのか
- (6) ブランディングとは物語の中に Goods を入れてゆく作業
- (7) 最初からブランディングを念頭に置いた商品開発 = フィットネスクラブの事例から
- (8) 「マーケットの無いところでマーケティングしていないか？」 = 商品作り、ブランド作り、広告発信だけでは、市場戦争には勝利できない
- (9) Web2.0 に必要不可欠な「表現と権利処理 = ライツクリアランス
- (10) 社会的責任広告の必要性
- (11) 受講者チームからの発表 1
- (12) 受講者チームからの発表 2
- (13) マーケティング・キーワードの変化

成績評価方法：

出席 50%，論文提出 50%。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

メディア特殊講義 (春)

メディアの将来(アナログからデジタルへ...変わることと不変のもの)

坪田 知 己

授業科目の内容：

マスメディア(新聞、放送)がインターネット時代にどのように変わっていくべきかを考え、メディアの本質と技術、社会の関係について学びます。

テキスト：

日経メディアラボ編「マスメディアはどこに行くのか デジタルへの挑戦」

非売品なので、受講生に配布します。

参考書：

- ・ アルビン・トフラー「第三の波」
- ・ ローレンス・レッシング「CODE」
- ・ 佐々木俊尚「フラット革命」
- ・ 桂敬一「現代の新聞」
- ・ 吉野次郎「テレビはなぜインターネットが嫌いなのか」など

授業の計画：

- 1) ガイダンス、何を学ぶか
- 2) メディアと歴史
- 3) メディアと技術
- 4) メディアと社会
- 5) 新聞の未来
- 6) 放送の未来
- 7) ジャーナリズムの本質
- 8) 注目すべきネットメディア
- 9) ネットは何を変えたのか
- 10) まとめ

上記のほか、

- ・ ゲストを招いて討論します。
- ・ 新聞記事のスタイルで原稿を書く練習をします。
- ・ 希望があれば宿舎を実施します。

履修者へのコメント：

・ デジタルメディアを理解するための基本的文献を全部読んでいただきます。

・ しっかりとした考えを持つためにしっかり学んで下さい。

成績評価方法：

- ・ 試験はありません。
- ・ レポートによる評価(最終レポートのほか、3~4 回レポートを提

出させていただきます)

・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回意見を発表させていただきます）

質問・相談：

個別の質問，相談は随時受け入れます。

メディア特殊講義（秋）

ケータイ革命

堀 主知ロバート

授業科目の内容：

みなさんに馴染みの深いケータイ，ネットと雑誌，テレビなど既存媒体を融合させたマーケティング施策について，様々な企業の活用事例を徹底究明し，その成果を分析し，理想と現実のギャップを認識し，本来あるべき21世紀型のマーケティング活動や，ネットの有効な利用施策を模索する授業です。また，究極の価値を持つインタラクティブメディア，プラットフォームについて企画立案～事業化の検討まで行えるところまでを目標とおきます。ケータイ系最古の会社「サイバードグループ」の事業の責任者達が，順段にモバイルコンテンツ，モバイル広告，モバイルコマース等について一般論ではなく，本当はこうなってこうやっているのだ，という会社や社会の裏話を，実例と共に大暴露。本当に社会に出てから役に立つ，究極にリアルな授業です。

テキスト：

こちらで配布します

授業の計画：

- (予定)1: モバイルインターネットの歴史とこれからの展望
2: モバイルインターネットの本当の価値
3: 北米におけるモバイルメディア最前線
4: モバイルコンテンツにおける新しい潮流
5: モバイルプロモーション革命
6: モバイルでビジネスが変わった!!
7: モバイル広告 ~その驚くべき威力とは~
8: メディアとベンチャーキャピタル投資
9: ケータイコンテンツが世界を変える!?
10: 「オンナゴコロとメディア」で世の中を動かす!
11: なぜ他のモバイルメディアに類をみない大成功を成し遂げられたのか?
12: モバイル企業の社長が本音で語る今後の事業展開
13: 総括

履修者へのコメント：

今までの常識が，これからの常識と違う!という感覚。今までのビジネスに必要な力とこれからのビジネスに必要な力が違う!という感覚を半年で体感して，社会に出てからの自分の挑戦について大きな可能性を感じてください!アカデミックな授業は他で受けて下さい。生臭い企業の内部をお見せして，IT，モバイルはどうなって行くのか，新聞記事を笑い飛ばせる力を提供します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

いつでもどうぞ。

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(春)

戦後日本のジャーナリズムは近代化に貢献したか

小川浩一

授業科目の内容：

今日の階層間格差の拡大と固定化はジャーナリズムの「近代化」への認識と行動が期待とは異なっていることを語っている。その事実と原因を検討することで，対策をも考察したい。

参考書：

小川浩一 編著『マス・コミュニケーションへの接近』(八千代出版 2005年 2600円)

授業の計画：

- 1; ガイダンス

2; ジャーナリズムとマス・メディア(合計3回)

3; 戦後日本社会の近代化(合計3回)

4; 現代日本の社会階層と社会移動(合計3回)

5; 現代日本のジャーナリストの階層性(合計2回)

6; 考察

履修者へのコメント：

授業は基本的に後期に連続します。授業形式はゼミに準じます。日常生活の中で，新聞記事，テレビジョン放送番組を批判的に考察する姿勢を持って接触して下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(秋)

戦後日本のジャーナリズムは近代化に貢献したか

小川浩一

授業科目の内容：

春学期に準じます。但し，秋はテキストを用います。

テキスト：

小川浩一 赤尾光史 監訳『ジャーナリズムの社会学』(リベルタ出版 2006年 2600円)

授業の計画：

- 1; ガイダンス
2; 第1章(2回)
3; 第2章(1回)
4; 第3章(1回)
5; 第4章(1回)
6; 第5章(2回)
7; 第6章(2回)
8; 第7章(1回)
9; 第8章(2回)
10; まとめ

履修者へのコメント：

前期から引き続いた内容です。戦後日本のジャーナリズムの実態とそれが先進国では同様の事態になりつつあることを概観します。そして，ジャーナリズムの在り方を再考します。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究

市民とメディア

金山智子

授業科目の内容：

この10年，市民が社会の様々な問題を解決するために，自ら参加し活動していけるようなボランタリーな社会が築かれつつあります。その中で，市民グループ，NPO，NGOの活動は中心的な役割を担っています。また，一般企業においても，NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献(CSR)活動が活発になっています。このような活動では，メディアの活用がますます重要になっています。市民が，フリーペーパーやコミュニティFM，CATV，ネット新聞，ブログ，ミクシーや地域SNSなど，さまざまなメディアを使ってどんどん情報発信しています。これにより，ソーシャル・コミュニケーションも活発になっています。さらに，貧困撲滅キャンペーン“ほっとけない世界のまずしさ”，グリーンパードの“おそうじプロジェクト”，サステナブルな社会を目指す“トレジャー・トラッシュ・プロジェクト”にみるように，コピーライターやデザイナーといったクリエイターによるコミュニケーション・デザインも一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。メディアを使ったイベントやキャンペーンも重要なツールとなっています。こういった市民，NPO，NGO，企業，クリエイターなどの社会活動におけるメディア活用について，最近の事例を交えながら，現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布

参考書：

- ・金山智子『NPOのメディア戦略』（学文社）
- ・電通プロジェクト『広報力が地域を変える！』（日本地域社会研究所）

授業の計画：

市民活動とメディアについて、これまでの歴史やパブリック・コミュニケーションといった基本的な考え方について学びます。さらに、さまざまな市民活動におけるメディアの活用の仕方や課題、ソーシャル・ムーブメントとメディア・キャンペーンについて実際に分析をしながら、考察していきます。

受講生が選んだ事例をもとに、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞き、受講生を交えて考える機会をもちます。関連イベントや市民メディアの現場に参加し、実体験してもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究（春）

若者文化とメディア

藤田結子

授業科目の内容：

現代の若者文化におけるメディアの役割について考察します。社会学やメディアスタディーズの先行研究にもとづく講義を中心に、さまざまな事例についてディスカッションを行います。また受講生は関心のあるテーマについて、フィールドワークを行います。

テキスト：

春学期開始時に指定します

授業の計画：

1. 若者のナショナリズムとインターネット
2. ワーキングプアと「ネットカフェ難民」
3. 若者とファッション
4. 女性誌と女性像・結婚観の変化
5. 若者の携帯コミュニケーション
6. 若者のファンカルチャー
7. マスメディアが若者の海外移住に与える影響

以上を中心に、受講生の関心にもとづくテーマを取り上げていく予定です。

履修者へのコメント：

積極的に授業に参加する学生を歓迎します

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習（春）（秋）
インターンシップ

豊嶋基暢
菅谷実
小川葉子
藤田結子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、討論形式による各産業の歴史、構造、動向及びインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。秋学期には、インターンシップ参加の報告及びレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加できる。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（映像ビジネス、広告、放送、出版、新聞、通信等）

まとめ（なお、研修先は、7月上旬頃に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているので履修者全員が研修に参加できるわけではない）

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い、秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習を履修し、本年度を履修する者を含む）は、第一回目の授業で実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表及び討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の発表及びレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語（春）（秋）

宮川美樹子

授業科目の内容：

日本で発行されている英字新聞及び海外の英字新聞を主な教材に使い、時事英語を学ぶとともに時事問題、さらには英文ジャーナリズムについても勉強します。読解力だけでなく「書く力」の養成も目指します。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・The Daily Yomiuri（読売新聞社発行の日刊英字紙）
- ・最新ニュース英語辞典（東京堂出版）
- ・英和・和英・英英辞典

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

英字新聞の構成

英文記事の基本・読み方

基本的英文記事の作成

まとめ

(2) 秋学期

オリエンテーション

分野別に記事を読む

日本メディア・外電の英文ニュースを読み比べる

より高度な英文記事作成

まとめ

履修者へのコメント：

英字新聞を通して世界を見る視点を育てたいと思います。講義形式の授業だけでなく、読売新聞社での見学、ゲストを招いての授業なども考えています。英字新聞を読んだことがない方も是非チャレンジして下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（授業中に簡単な語彙テストを予定）

質問・相談：

授業終了後、またはメールで受け付けます

授業科目の内容：

受講生に作文を月1本のペース、年間8本執筆してもらい、添削する。「自分の考えを正確に伝える」「興味をもって読んでもらえる」文章を基本に、日本語を書く上での特性、注意点を知らせてもらう。入社試験に活用できるものとする。

参考書：

記者ハンドブック(共同通信社)

授業の計画：

1. ガイダンス(1回)
2. 月1本のペースで1本の作文を執筆してもらう。
5月,6月,7月,夏休み,10月,11月,12月,冬休みで計8本。
講義では、添削した内容を説明するとともに、日本語を書く上での注意点、日本語の特性を知らせてもらう。
受講生は自分の作文を披露してもらうとともに、他の人の書いた作文を批評してもらう。
3. ニュースとなっている時事問題について、解説。また学生同士で、議論してもらう。学生は時事用語の解説を書く訓練もする。

履修者へのコメント：

作文を書くことから授業は始まります。自分の考えを文章で相手にうまく伝える訓練の場としてとらえて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(作文の提出による評価)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(時事用語の解説の提出による評価)

メディア・コミュニケーション実習 (春)

映像を通して伝える

金山 智子

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、(1)映像メディアコンテンツの批評と(2)制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身につけることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

講義は大きく3つの部分から構成されています。

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。
個人(または少人数グループ)で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツ制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加(50%)課題作品(50%)

メディア・リテラシー

渡辺 真由子

授業科目の内容：

メディアの読み解き方を理論面と実践面から学びます。マスコミの制作者の「意図」が社会の価値観に与える影響を認識し、さらに自分でも映像作品をつくることによって、メディア・リテラシー能力を身に付けます。

テキスト：

渡辺真由子著「オトナのメディア・リテラシー」(リベルタ出版、2007年、1500円)

参考書：

野沢 尚著「破線のマリス」講談社

授業の計画：

- (1) イントロダクション 「伝える」ということ
- (2) 広告の意図
- (3) 報道の作られ方
- (4) 映像産業と女性
- (5) メディアの暴力・性表現
- (6) コンピューター・リテラシー
- (7) 企画の見つけ方&構成の立て方
- (8) 撮影&インタビュー、原稿書きの手法
- (9)・(10) 編集の裏側
- (11)・(12) 映像作品プレゼンテーション
- (13) 総括

履修者へのコメント：

マスコミ志望者に限らず、テレビや広告、インターネットなどあらゆるメディアが発信する内容に疑問や危機感を持つ学生を歓迎します。映像を上手に撮影・編集することよりも、制作過程の裏側にある「意図」を学ぶことに重点を置きます。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他(映像作品プレゼンテーションによる評価)

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ

映像表現の文法・作法を習得する 大久保 成

授業科目の内容：

デジタルカメラやデジタルビデオは普及し、コンピュータはますます高性能になっています。一方、インターネット上で映像コンテンツを扱うことが一般化し、ケータイの高機能化などにより「いつでも、どこでも、だれでも」デジタルメディアが扱える時代がやってこようとしています。にもかかわらず(あるいはそれゆえに)、ただビデオカメラをまわしさえすればそれだけでコンテンツになりうる、といった安易な理解が蔓延しているのではないのでしょうか。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プリプロダクション)の力を確実に身につけてもらうことを通して、新時代の映像表現の作法がいかにあるべきかを受講生とともに考えていきたいと思えます。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得を目指します。映像表現をする際の事前準備の重要性について理解してもらい、実際に受講生には企画書・画コンテの作成、撮影実習、編集までを個人単位で実践してもらいます。特に今年度は携帯電話やデジカメなど各自が所有しているデジタルデバイスを利用して映像作品を制作、提出してもらいます。予定されるシラバスは以下のとおりです。

1. デジタル時代における映像表現の基礎知識

2. ユビキタス環境と映像コンテンツ
3. 映像制作のための機材とその機能：ケータイなどとの比較の観点から
4. プリプロダクションの意義：企画書・画コンテ
5. 企画書制作と中間報告
6. 映像コンテンツ制作のための基礎能力：コンティニューティとフレーミング
- 7~13. 映像コンテンツ制作実践：カメラ取材と編集

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は映像コンテンツ制作とでは独立していますが、両者を連続して受講することにより総合的な力を獲得できるよう配慮しています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）
- ・映像作品を提出（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

映像コンテンツ制作（秋）

映像コンテンツ制作実践に向けた応用
スタジオプロダクションを実践する 大久保 成

授業科目の内容：

映像コンテンツ制作 で得られた映像コンテンツ制作に関わる基本的な枠組み作りの力を再確認するとともに、さらに磨きをかけていきます。さらにメディア環境・映像文化についての理解を深めるために、スタジオを使用した番組制作を実体験していただきます。デジタル環境の発展により映像コンテンツ制作は「個の力」で完結するものとなっています。しかしテレビ番組や映画撮影においては、単独ではなしえない映像表現が主流でもあります。個人が主体性を保ちながら協働したときに得られる感覚を得ることで、受講生それぞれの映像表現がさらに深まることを期待します。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では編集加工された取材映像を活用したスタジオでの企画番組制作に取り組みます。映像表現の文法を再確認した後、スタジオでの収録を前提とした編集VTRを制作、その後スタジオでの収録にのぞみます。

1. 映像表現の文法を確認する(1)
2. 映像表現の文法を確認する(2)
3. 番組企画会議
4. 取材 VTR プリプロダクション(1)
5. 取材 VTR プリプロダクション(2)
6. 取材 VTR 制作(1)：撮影・編集
7. 取材 VTR 制作(2)：撮影・編集
8. スタジオ機材について
9. スタジオ収録プリプロダクション(1)
10. スタジオ収録プリプロダクション(2)
11. リハーサル
12. スタジオにて番組収録（本番）
13. 番組収録を振り返る（討論会）

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 を受講済みもしくは同等レベル（企画・撮影・編集を行い、映像作品に上げることができる）の映像表現力を持つことを期待しますが、受講生のニーズには臨機応変に対応します。また映像コンテンツ制作 同様、受講生の自主性を最大限尊重しますが、一方で共同作業も多いため、受講生同士の信頼関係を裏切らないように配慮してもらおうよう期待します。もちろん映像コンテンツ制作 のみの受講も可能です。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50%）

- ・スタジオ収録への参加（評価の50%）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

メディア・ネットワーク実習（春）

音声・動画配信の基礎 田辺浩介

授業科目の内容：

現在のインターネットでは、音声・動画の配信が広く普及しています。この実習では、それらの基礎的な配信方法を学びます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

授業の計画：

- ・コンピュータの構造
- ・ネットワークの基礎（DNS/HTTP）
- ・HTMLの基礎
- ・音声・動画ファイルの形式
- ・ストリーミングとPodcast
- ・ライブ配信

履修者へのコメント：

- ・初回の講義には必ず出席して下さい。
- ・映像制作を扱う講義とあわせて履修することを推奨します（必修ではありません）。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

実習用の Web ページ（<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/mn2008/>）で受け付けます。

メディア・ネットワーク実習（秋）

Webアプリケーション作成の基礎 田辺浩介

授業科目の内容：

みなさんは普段からブログやSNSなど、多くのWeb上で動いているアプリケーションを利用していると思います。この実習ではこのようなアプリケーションの動く仕組みを、実際にプログラムを作成することによって学びます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

高橋征義、後藤裕蔵「たのしいRuby 第2版」（ソフトバンククリエイティブ）

授業の計画：

- ・Webサーバの導入
- ・データベースの作成と操作
- ・既存のWebアプリケーション（ブログ・SNSなど）の設置
- ・自分で作るWebアプリケーションの計画と作成
- ・最終発表

履修者へのコメント：

プログラム作成の経験の有無は問いませんが、比較的早いペースで講義を進めますので、欠席のないようにお願いします。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

実習用の Web ページ（<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/mn2008/>）で受け付けます。

体 育 科 目 (三田設置) (体 育 研 究 所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、7科目(テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技 Aの成績評価方法は100点満点のうち、出席点が60点。欠席は1回につき5点減点、遅刻は1回につき3点減点します。評価対象者は全授業回数の2/3以上出席した者です。残りの40点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003年度以前に入学した諸君へ

2004年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(月)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月9日(水)
~21日(月)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30		9:00~12:30	14:00~15:30
4月9日(水)	男子 10時開始	男子	4月16日(水)	女子	男子
10日(木)	男子	男子	17日(木)	男子	女子
11日(金)	女子	女子	18日(金)	男子	男子
12日(土)	男子	男子	19日(土)	女子	女子
13日(日)			20日(日)		
14日(月)	男子	女子	21日(月)	男子 11時終了	
15日(火)	男子	男子			

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月8日(火)
~11日(金)
・14日(月)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月11日(金)
10:00
~16日(水)
14:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(火)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月4日(金)
・7日(月)**

体育科目ガイダンス(日吉)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月4日 9:00 613・614・623 番教室
7日 14:45 613・614・623 番教室

**4月9日(水)
~21日(月)**

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月8日(火)
~11日(金)
・14日(月)**

体育科目ガイダンス週間(日吉)

体育科目の時間割どおりに実施します。

ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。

各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。

シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月11日(金)
10:00
~16日(水)
14:00**



Web による履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(火) 	<p>履修者数調整結果発表</p> <p>9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板</p> <p>10時30分 三田 西校舎共通掲示板</p>
--	---

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月22日(火) ~5月9日(金)	<p>追加履修について</p> <p>履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。</p> <p>追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。</p>
5月7日(水) ~9日(金)	<p>追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。</p> <p>履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。</p>

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月22日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所
4月24日(木) 9:15~11:30, 12:30~16:00	
4月25日(金)~5月9日(金)(平日のみ) 受付時間 8:45~16:45 (最終日 16:00 終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず22・24両日中に体育研究所許可証を取得してください。25日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続きはできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月22日(火)~5月9日(金)	8:45~16:45	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グランドテニスコート(屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ(ハードまたはオールコート用)

〔参考書〕

「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

〔授業の計画〕

1 限(90 分)の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンドストローク

30 サーブ, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー(クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サーブ・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスは個別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き(フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席・技術・態度・理解)の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グランド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2 回をセットとして, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, を技術指導していく。その後は技術の習熟度によ

って内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 火曜 2 限
(中上級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得ならびに, テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グランド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, ボレー, スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 金曜 1 限
(初級)

村松 憲

〔授業科目の内容〕

テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グランド(屋外コート 1 面, 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度)です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット(シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グランドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1 ~ 2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3 ~ 6 回目 ボレー, サーブ, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。授業は定刻(9 時)に開始します。綱町武道館で更衣を完了した上でテニスコートに来てください。2 限に授業がある方を考慮し, 多少早めに

終了します。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)。
〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が10点、態度点が15点、理解点が15点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A(テニス) 金曜2限
(中級)

村松 憲

〔授業科目の内容〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット、ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド(屋外コート1面、三田キャンパス西門から徒歩3分程度)です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット(シューズ、ラケットの貸し出しはありません)、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1~3回目 サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等、基礎技術の確認と練習
- 4~6回目 回転をかけるサービス、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス(中級)では、技術レベルも成績評価の対象とします。また、実践形式を多く行います。したがって、「打ち合いで安定して10往復以上続けることができる(相手が打ちやすいボールを出してくれた場合)こと」が難しい方にはおすすめできません。授業開始時刻は、1限に授業がある方を考慮し、10時50分を予定しています。綱町武道館で更衣を完了して、テニスコートにきてください。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)。

〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が15点、態度点が15点、理解点が10点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A(バレーボール) 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業科目の内容〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上(4回)
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解(4回)
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践

個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点:出席状況および授業態度による評価(出席(60%),態度(20%),理解(20%)の項目を点数化し、その合計点で評価する。)

武道

体育実技A(合気道) 木曜2限

心が身体を動かす

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と^{からだ}身体の正しい使い方(心身統一)を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ(女子のみ)・タオル(汗をふくため)・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす(心身統一)
- ・正しい姿勢(自然に安定した姿勢)
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス(虚脱状態との違い)
- ・大切な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ませんが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。)

体育実技A(弓術) 火曜1限・2限

小笠原 清忠

〔授業科目の内容〕

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者と未経験者に分けて行います。経験者には、射法・射術の習得と基本姿勢のあり方を学んでいただきます。未経験者には弓術に親しみ理解を深めると共に基本姿勢を学んでいただきます。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館(正己弓道場)

〔授業の計画〕

弓道に対する理解を深める。

基本の技の習得。

立ち居振る舞いや武道としての礼法を学ぶ。

の前で実際に矢を射て、的中させることを学ぶ。

弓・矢等の道具についての知識を習得する。

〔履修者へのコメント〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの。）

靴下または足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技 A（剣道） 水曜 2 限・3 限

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい

剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1 本目
- 4 日本剣道形1～2 本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1～3 本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1～4 本目 手の内の刃えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1～5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1～6 本目 連続技(二・三段打ちの技) 払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1～7 本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1～7 本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1～3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%，技術10%，態度20%，理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技 A（柔道） 月曜 2 限・3 限

（初心者、経験者を問わない～男女共習） 安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、T シャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）

個人種目

体育実技 A（ダンス） 金曜 2 限・3 限

ボールルームダンス 入門 初級 篠原 しげ子

〔授業科目の内容〕

男女で組んで踊るために、自分自身の体の細部にわたっての身体感覚を養い、バランスを保って動けるようにする。又、相手のことも考慮して動けるようになることを目指す。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔定員〕

男性 10 名 女性 10 名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜 2 時限目

春学期 ラテン入門（ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を4～5週間ずつ行う）

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を4～5週間ずつ行う）

金曜 3 時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間通して行う。

1～3週 種目の特徴（リズム、姿勢、ホールド）を理解する。

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。

13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら、それぞれの踊りの説明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレポート提出により、理解度 20、授業態度 20、出席状況 60 で採点）

網町グランド案内



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、三田キャンパスの旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』、資料集、叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（専任2名、兼任23名）、10名の顧問、29名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会を作ることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反対するものにとっても、等しく面白くかつ刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は日吉で1コマの講義、三田で6コマの講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

（慶應義塾福澤研究センターのホーム・ページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>）

近代日本研究 (春学期)(2)
『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
商学部教授 牛島 利明
経済学部教授 小室 正紀
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書:

福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

慶應義塾編『福澤諭吉の手紙』岩波書店、平成16年

丸山真男『「文明論之概略」を読む』岩波書店、昭和61年

授業の計画:

- 第1回 はじめに 担当:小室
第2~4回 初編~4編(明治5年2月~7年1月) 担当:米山
第5~7回 5編~8編(明治7年1月~7年4月) 担当:岩谷
第8~10回 9編~12編(明治7年5月~7年12月) 担当:小室
第11~13回 13編~17編(明治7年12月~9年11月) 担当:牛島

担当教員から履修者へのコメント:

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法:

1. 試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)
2. 平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の近代化構想 -

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。彼は68年の生涯を、文字通り34歳で迎えた明治維新によって二分することとなった。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家としての評価が大きく、明治期の活動は、一般にあまり認識されていない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらいたいと考えている。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜講義中に紹介する。

授業の計画:

1. 福澤諭吉の生い立ちと明治維新
2. 文明開化と福澤

3. 自由民権運動と福澤
4. 『時事新報』と明治政府
5. 朝鮮問題をめぐる言論と運動
6. 慶應義塾と福澤
7. 構内史蹟見学

担当教員から履修者へのコメント:

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎したい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)

質問・相談:

講義後やEメールで適宜応じる。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

明治期新聞『時事新報』を読む

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

この演習では、明治15年に福澤諭吉が創刊した日刊新聞『時事新報』を読んでいくことを通し、明治期の日本の姿と、それを捉える福澤の視点について考えていく。このことは、単に明治の社会や政治史に理解を深めるだけでなく、ジャーナリスト、教育者、また啓蒙思想家としての福澤の姿を浮かび上がらせる多くの示唆に富む作業となる。取り上げる記事は社説を中心とするが、風刺漫画や広告など、時代を表す紙面の全体像も題材として盛り込んでいきたい。

テキスト:

『時事新報』紙面のコピーを適宜配布する。

参考書:

- ・石河幹明『福澤諭吉伝』全4巻(岩波書店)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上下(岩波書店)
- ・都倉武之「時事新報史」(慶應義塾大学出版会ホームページ連載)

授業の計画:

1. 『時事新報』概説 歴史と研究の現状
2. 国内政治論
3. 国際政治論
4. ジャーナリズム論
5. 風刺漫画、広告
6. 福澤没後の論調

担当教員から履修者へのコメント:

丁寧な解説を心がけるが、古いテキストを根気よく読み解く意欲ある学生を歓迎したい。

成績評価方法:

1. レポートによる評価
2. 平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

地方新聞に見る明治

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

この演習では、主に福澤諭吉の故郷である中津で発行された『田舎新聞』『田舎新報』(明治9年~18年)を取り上げ、論説だけではなく社会面や広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。『田舎新聞』およびその後継紙である『田舎新報』は、福澤や門下生たちの関与があり、紙面構成は充実している。そこから中央の動静と地方の動静の双方を同時に読みときたい。

参考書:

- ・野田秋生『豊前中津『田舎新聞』『田舎新報』の研究:明治十年代一地方紙の初志と現実』エヌワイ企画 2006年

授業の計画:

1. 予備的講義

2. 福澤諭吉と中津
3. 『田舎新聞』の創刊
4. 『田舎新報』の創刊
5. 両紙にみられる土族社会論
6. 両紙にみられる女性論
7. 両紙にみられる学問論
8. 両紙にみられる新聞論
9. 『田舎新聞』『田舎新報』の終焉
10. 発表と討論

担当教員から履修者へのコメント：

史料を手と共に考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (春学期)(2)

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の著作を中心に、明治期の日本における女性論・家族論の展開を考える。福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、一方では多くの人々に高い評価を得、他方では多くの批判を受けながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。

この授業では、まず福澤の女性論・家族論をテーマとした著作を取り上げ、他の著作や書簡などと読み合わせながら、福澤の構想を考える。更に同時代の他者による女性論を比較講読し、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察したい。では明治 10 年代までを扱い、では明治 20 年以降を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第 10 巻（慶應義塾大学出版会，2003 年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
- 3 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」・津田真道「男女同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
- 4 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
- 5 報告と討論

担当教員から履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉 を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、履修者各自が興味をもった論説あるいは人物を取り上げて、意見を発表する時間を設ける。では明治 20 年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第 10 巻（慶應義塾大学出版会，2003 年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
 - 3) 民権・国権論、実業論にみられる女性論・家族論
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子・潮田千勢子
 - 2) 新島襄・内村鑑三
- 4 儒教主義の女性論

丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』・井上哲次郎ほか『女大学の研究』
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
 - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 報告と討論

担当教員から履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価
3. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月4日(金) 矢上 11:41 番教室 12:00~13:00 4月5日(土) 三田 528 番教室 10:45~12:15
4月4日(金) SFC 11 番教室 16:30~18:00 4月5日(土) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月13日(日)
- (2) 募集期間 4月14日(月), 15日(火)
- (3) 一次合格発表 4月24日(木)
- (4) 面接審査 4月26日(土)
- (5) 選考結果発表 5月2日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~9月3日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)、エッセイ作成(週末)。

【開講予定科目】

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior(予定)

【単位数】4単位

【募集人数】60名

ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2008年7月29日(火)~8月12日(火)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~8月26日(火)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

【現地研修期間】2008年8月22日(金)～9月6日(土)(予定)

【研修内容】講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、演劇の見学など

【単位数】4単位(予定)

【募集人数】20名

西安交通大学中国語・中国文化夏季講座

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで9つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で2006年に創立110周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の1つです。研修を通じて中国語だけでなく、中国文化全般を理解することができます。

【現地研修期間】2008年8月28日(木)～9月14日(日)(予定)

【研修内容】中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

【単位数】2単位

【募集人数】15名(学部生対象)

パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2007年度参考】2008年2月16日～2008年3月16日

【講義内容 2007年度参考】共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

【単位数】4単位

【募集人数】定員：20名

延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2007年度参考】2008年2月9日～2008年2月27日

【講義内容 2007年度参考】

- 1 Modern and Pre-modern Korea: A Historical Overview
- 2 Modernization and Social Transformation in Korea: A Sociological Perspective
- 3 Confucian Korea: Past and Present
- 4 Korean Economy
- 5 Political Economy of Korean Development
- 6 North-South Korean Relations: South Korean Perspective & Policies
- 7 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of “Hallyu” in Asia and Beyond
- 8 Information Technology in Korea
- 9 Modern Art in Korea
- 10 Korea in a Newly Emerging Regional Security Order

【単位数】2単位(予定)

【募集人数】20名(学部生対象、大学院生は要相談)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板上に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

7. その他

2008 年 7 月、イタリア・ミラノのボッコニ大学がサマースクールを三田キャンパスで行うことになりました（概要は下記参照）。ボッコニ大学は経営学・経済学・法学で知られており、特にその MBA プログラムは常に世界ランキングの上位に入っています。

このサマースクールの日本での開催は今回が初めてで、ボッコニ大学の教員がすべて英語で講義し、ボッコニ大学学生が参加するものですが、慶應義塾大学の学部学生・大学院生も自分の希望する授業を受講できることになりました。

日程、時間割、講義内容等の詳細は国際センター WEBSITE で公開し、5 月下旬ごろに受講希望者を募集する予定です。単位には該当しませんが、知識の幅を広げ、学問を通じた交流を行う絶好の機会となりますので、興味のある学生は WEBSITE を参照してください。

ボッコニ大学サマースクール（Bocconi University Campus Abroad Program）概要

日 時：2008 年 7 月第 2 週～第 4 週 火曜～土曜の 1・2 限集中（予定）

授業分野：経済、経営、ビジネス等：計 24 コマ、日本事情研究：2 コマ

使用言語：英語

参加者：ボッコニ大学学部 2, 3 年生 20～30 名

2008-2009 Keio University International Center: International Studies Courses (2008年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(*) This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**) のついた科目は学部生(履修不可) Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
Area Study: Asia, Oceania	Spring	Wed	3	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrer, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Spring	Wed	2	SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2	Yamamoto, Nobuto	現代東南アジア論特殊研究II	山本 信人	F(Law)
	Spring	Thu	3	INTERNATIONAL RELATIONS 2	Yamamoto, Nobuto	国際政治論II	山本 信人	F(Law) Note: HIYOSHI Campus
	Fall	Thu	4	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究 II	添谷 秀秀	F(Law)
	Fall	Wed	5	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究 (*)	山本 信人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nomura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Fri	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソウゾウする	ウィリアムス, ムケッシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T.M.	アジアの音楽	ホッフマン, T・M	
Area Study: North America, South America	Spring	Wed	5	AUSTRALIAN STUDIES	Carter, David	オーストラリア研究	カーター, デイヴィッド	
	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論 (アメリカ)	奥田 敬代	
	Fall	Fri	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	ウィリアムス, ムケッシュ	
	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
	Spring	Fri	3	UKRAINE AND RUSSIA	Nakorchevski, Andriy	ウクライナとロシア	ナコルチェフスキー, アンドリイ	
	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクト科目II・欧州統合 (*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hideki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀毅	F(Economics)
	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
Global Community	Spring	Tue	4	THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	Bambang, Rudyanto	国際協力の実態	バンバン, ルディアント	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Malik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Wed	4	INTERNATIONAL RELATIONS	Seth, Aftab	国際関係	セット, アフターブ	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
	Fall	Wed	5	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘	
	Spring	Wed	5	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
	Spring	Mon	3	NGOS, NPDS AND CBOS	Castro-Vazquez, Genaro	ヘルスケア組織論	カストロ ヴァスケス, ヘナロ	
	Spring	Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
	Spring	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B (*)	Erti, Wolfgang	倫理学特殊講義3B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B (*)	Erti, Wolfgang	倫理学特殊講義4B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (*)のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	CourseTitle	Lecturer	CourseTitle (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
Global Economy, Global Business	Spring	Thu	4	ACCOUNTING (*)	Ito, Makoto	会計学 (*)	伊藤 真	GS(Business&Commerce)
	Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論 (*)	深尾 光洋	GS(Business&Commerce)
	Fall	Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済 (*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Chandra, Elizabeth	歴史としての文学	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Tue	3	THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM	Chandra, Elizabeth	ナショナリズム研究	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Ainge, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Fri	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化・文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Spring	Wed	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
	Fall	Wed	3	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Spring	Fri	3	HUMAN ENGINEERING	Wanek, Jacqueline	人間工学	ワニェク, ヤクリーン	

2008-2009 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2008年度 慶應義塾大学国際センター 日本研究講座)

(*) This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※) のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela A.-Jeoung	日本語の話しことばと言外の意味	キム, アジョン	
	Fall	Wed	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela A.-Jeoung	日本語の話しことばと言外の意味	キム, アジョン	
Culture	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raeside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス	
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー	
	Fall	Wed	4	INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	Murai, Noriko	美術を「よむ」 - 日本美術史入門	村井 則子	
	Fall	Thu	6	ARTS/ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	麓山 祐子	
	Fall	Wed	1	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Tech) Note: YAGAMI Campus
	Spring	Mon	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン	
	Fall	Fri	3	RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	Nakorchevski, Andriy	日本の宗教: 救済の探求	ナコルチエフスキ, アンドリイ	
	Fall	Tue	3	CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	Bailhatchet, Helen	日本キリスト教史	ポールハッチェット, ヘレン	
	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Iikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	飯倉 章	
	Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kinmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
Society	Fall	Mon	4	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kinmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール	
	Fall	Fri	4	THE ART OF WAR	Dorsey, James	芸術と戦争	ドーシー, ジェームス	
	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ	
	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	
	Fall	Mon	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Notter, David	家族の近代	ノッター, デビッド	
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	
	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学 (1)	手塚 千鶴子	
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学 (2)	手塚 千鶴子	
	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
Politics	Fall	Mon	3	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	昇 亜美子	
	Fall	Wed	3	JAPANESE ECONOMY	Kojima, Akira	ジャパニーズ・エコノミー	小島 明	GS(Business&Commerce)
	Fall	Thu	3	ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	Ichikawa, Hiroya	日本経済の展望	市川 博也	
	Spring	Tue	5	CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	Inaba, Etsu	日本企業の経営戦略と管理手法	稲葉 エツ	
	Spring	Tue	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)
	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghiran, Parissa	日本のビジネスマネジメント	ハギリアン, パリッサ	
	Fall	Thu	4	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一	
	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umez, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘	
	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Setsu	日本法の制度と実態	小林 節	
	Law	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Setsu	日本法の制度と実態	小林 節

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

Lecturer, International Center

ファラー, グラシア

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2

(Spring)

現代東南アジア論特殊研究

Yamamoto, Nobuto

Professor, Faculty of Law

山本 信人

法学部教授

Sub Title:

History of Human Trafficking in Southeast Asia

Course Description:

The phrase "human trafficking" has come up frequently as of late, mostly in mass media, generally described as an excess of globalization. It refers to the recruitment, transportation, transfer, harboring or receipt of people for the purpose of exploitation. Some argue that trafficking is a modern-day slavery. What most people do not realize when talking about trafficking is that patterns and characteristics of it can be found aplenty in the history of Southeast Asia, or anywhere else for that matter.

In this seminar we will dissect the concept of human trafficking and the range of practices it encompasses. As such we will look at practices such as slavery, bondage, domestic service, and prostitution in colonial Southeast Asia. We will subsequently attempt comparisons to contemporary practices of similar nature.

INTERNATIONAL RELATIONS 2

(Spring)

国際政治論

Yamamoto, Nobuto

Professor, Faculty of Law

山本 信人

法学部教授

(Hiyoshi Campus)

日吉開講

Sub Title:

International Relations of Southeast Asia

Course Description:

The aim of this course is to provide an overview of international relations of Southeast Asia. Southeast Asia has a unique history being "crossroad of the world" since pre-modern age. During the colonial period in particular, Southeast Asia was exposed to the world-economy system and formed embryonic modern states. During the Cold War, the region witnessed intense rivalry, conflicts, and negotiations between the superpowers and among its states. In the aftermath of the Cold War, it served as an engine of the global economy while undergoing major shifts in the configuration of power, whose trajectory and outcome remain uncertain.

This course will examine the sources of conflict and cooperation in "modern" period, assessing competing explanations for key events in Southeast Asia's international relations. The lectures will expound the international relations of the region against the backdrop of the global systemic rivalry, the legacy of colonialism, the significance of nationalism, as well as the interlinkages in the global, regional and local level. They will also touch upon the implications of the Asian financial crisis in 1997 and the event of 9/11 for Southeast Asian international relations.

Course Description:

This course gives a general overview to the postwar history of international relations in East Asia, including Japan's role therein and Japan's relations with the countries in the region. Each class will be divided into two parts; an introductory lecture by the instructor and discussions by the participants. There will be one or two articles in English assigned for each week. Detailed course plans with the reading assignments will be distributed in the first week of the course.

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to

explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a "grand" unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

INDIA TODAY

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師（駒澤大学教授）

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the 'the middle class', studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

LISTENING TO ASIA

(Spring)

アジアの音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T・M

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師（日印音楽交流会会長）

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSRTRALIAN STUDIES

(Spring)

オーストラリア研究

Carter, David

カーター, デイヴィッド

Lecturer, International Center (Professor, The University of Queensland)

国際センター講師（クィーンズランド大学教授）

Sub Title:

Environment, Identity and Culture

Course Description:

This course examines Australia as a *society*, a *culture* and a *nation*. It focuses on the main forces shaping contemporary Australia — its environment, its Indigenous population, immigration and multiculturalism, cultural influences, political structures, its regional and global relations — and shows how these have changed over time. What kind of society, culture or nation is Australia? How has Australia been defined or

understood by its own people? Is it a 'European' or 'British' society, a multicultural nation, an Asian-Pacific nation? What are the sources of conflict and change in Australian society? How far is Australia a unique country and how far are the issues and conflicts within Australian society those facing other modern, developed nations?

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

(Spring)

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo
奥田 暁代

Professor, Faculty of Law
法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES

(Fall)

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.
ウィリアムス, ムケーシュ

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
 2. learn new concepts, methods and vocabulary
 3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
 4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
 5. develop skills to write/think purposefully and strategically
 6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically
-

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James
イエローリーズ, ジェームズ

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)
国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS**(Spring)**

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

UKRAINE AND RUSSIA**(Spring)**

ウクライナとロシア

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Sub Title:

Two countries

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called "standard" interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be a approaches of different people to one and the same historical episode personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined so called "historical memory". Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukraine and Russia history is required.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS**(Fall)**

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed, Related statistics and case studies are also introduce.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES**(Spring)**

アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and

AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

(Fall)

グローバルヴィレッジ構築に向けて

Freedman, David

フリードマン, デビッド

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

環境情報学部教授

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face an renewed evaluation. (<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

(Spring)

国際協力の実態

Bambang, Rudyanto

バンバン, ルディアント

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

国際センター講師 (和光大学准教授)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution(JBIC), the International Organization on Disaster Reduction(ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field. Some special guests from International Organizations will be invited.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other illtreatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

But the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff

members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

Objectives

- To define the concepts of citizenship and civil society
- To identify the role of the State in the provision of health care
- To understand the origin, function, and classification of NGOs, NPOs and CBOs
- To debate the current circumstances surrounding the provision of health care through NGOs, NPOs and CBOs.

INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM

(Spring)

プリントジャーナリズム入門

Holley, David

Lecturer, International Center

ホーリー, デイヴィッド

国際センター講師

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

LITERATURE AS HISTORY

(Spring)

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

Lecturer, International Center

チャンドラ, エリザベス

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such "sensitive" historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people's particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of "power" further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM

(Fall)

ナショナリズム研究

Chandra, Elizabeth

Lecturer, International Center

チャンドラ, エリザベス

国際センター講師

Sub Title:

What makes a nation?

Course Description:

This course focuses on the theoretical problems in the formation of nations. Where do we locate the conceptual origin(s) of the nation? Is it really, as they say, a modern creation? What makes a polity a nation? What constitutes sovereignty? What are the legitimizing principles of the

nation? Where do we place culture, myth, and capitalism in the study of nationalism? Is the nation really, ultimately, masculine?

The course is designed to be an interdisciplinary undertaking as we will deal with writings by historians, political scientists, anthropologists, philosophers, and novelists. In addition to required texts, we will also consider a film by the Taiwanese director Hou Hsiao-hsien.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

Associate Professor, Faculty of Economics

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川真理子

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Spring)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Fall)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden

cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline

Lecturer, International Center

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as “Universal Design”, “Accessibility” or “Emotional Design”, demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

日本研究講座 (Japanese Studies)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring) (Fall)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジヨン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know*, *I mean*, *like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *datte*, *maa*, *nan(i)*, *no*, and *yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeside, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short—wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

The texts will be read in roughly chronological order.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

(Fall)

美術を「よむ」 日本美術史入門

Murai, Noriko

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

村井 則子

国際センター講師 (テンプル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE

(Fall)

アートワークショップ / 日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

Lecturer, International Center

菱山 裕子

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center, Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

(Fall)

日本の宗教：救済の探求

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and visiting different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus.

This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

(Fall)

日本キリスト教史

Ballhatchet, Helen

ボールハチェット, ヘレン

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

(Fall)

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Ikura, Akira

飯倉 章

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific

War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

THE ART OF WAR

(Fall)

芸術と戦争

Dorsey, James

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

ドーシー , ジェームズ

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, songs, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly, to the wars in first China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

Lecturer, International Center (Consultant)

ボックマン , デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

“Civic engagement” refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. “Civic Engagement” and “Civil Society” are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

(Fall)

多民族社会としての日本

Kashiwazaki, Chikako

Associate Professor, Faculty of Economics

柏崎千佳子

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to ‘multiethnic Japan’. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various ‘newcomer’ immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority ‘Japanese’ population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

(Fall)

家族の近代

Notter, David

Associate Professor, Faculty of Economics

ノッター , デビット

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a ‘new history of the family’. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan, and this text will serve as the basis for four formal class discussions spread over the semester. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the ‘modern family’ and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, and traditional family arrangements will also be examined.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Tezuka, Chizuko
手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies
日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since

then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko
青木 裕子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko
昇 亜美子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kojima, Akira
小島 明

Guest Professor, Graduate School of Business and Commerce
商学研究科特別招聘教授

Course Description:

Japan's economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through video and tapes etc.

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(Fall)

日本経済の展望

Ichikawa, Hiroya
市川 博也

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)
国際センター講師 (上智大学教授)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

Sub Title:

Understanding Successful Strategy Implementation

Course Description:

This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussions, we will look at the micro-level management strategies and practices.

The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills of students.

Under the increasingly globalized economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations include their ability to modify and change, as the environment changes, their management practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as "good practice" will be pursued through case studies, company visit and students' own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Course Description:**Goal:**

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - Administration
 - Judges and Public Prosecutors
 - Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

保健管理センター設置講座

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の前進と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取り扱いについて

「現代社会と医学」(渡航医学)を春学期(月曜日 4 時限)三田キャンパスにおいて、秋学期(月曜日 4 時限)日吉キャンパスにおいて開講します。

「現代社会と医学」(現代社会と common disease)を春学期(水曜日 4 時限)に日吉キャンパス、秋学期(水曜日 4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

なお、これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部、研究科で確認の上、履修申告をしてください。

現代社会と医学	Medicine in Modern Society	(春学期)	(2 単位)
渡航医学	Travel Medicine		
南里清一郎, 河邊博史, 徳村光昭, 横山裕一, 広瀬 寛, 西村由貴			

授業科目の内容:

渡航医学とは、海外の移動(旅行、長期滞在)に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005 年外務省統計では、1,600 万人以上の人海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約 96 万人です。

途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活(留学など)を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト:

南里清一郎編・著『海外生活における健康管理 - 渡航に当たって心身の健康を守るために - 』(ライフマネージメント社, 2005年, 2,500円)

参考書:

慶應義塾大学保健管理センター編『新・保健衛』(慶應義塾大学出版会, 2007年)

授業の計画:

第 1 回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第 2 回	海外の医療制度		〃
第 3 回	予防接種・感染症		〃
第 4 回	予防接種・感染症		〃
第 5 回	高血圧	教授	河邊 博史
第 6 回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第 7 回	肥満		〃
第 8 回	性感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第 9 回	肝炎		〃
第10回	精神保健	専任講師	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント:

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法:

最終講義日の試験の結果による評価

授業科目の内容 :

高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 肥満, 動脈硬化など日本人の代表的な病気は, 運動不足, 食べ過ぎ, 喫煙などの生活習慣との関連が強いことから, 現在では生活習慣病と呼ばれています。さらにこれらが同時に存在するメタボリックシンドロームは中高年の 30 ~ 40 % にみられ, 問題になっています。

また, ストレスの多い現代には精神保健もきわめて重要な課題です。さらに, 急速な国際化に伴う感染症も大きな問題です。

大学生に代表される若者が現代社会の医学の重要問題を理解し, 健康的な生活習慣を実行維持するための保健教育の意義はますます大きくなっています。下記の講義内容に関し保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。三田では秋学期のみ行います。

授業の計画 :

第 1 回	オーバービュー	教授	齊藤 郁夫
第 2 回	精神保健 1	教授	大野 裕
第 3 回	精神保健 2		"
第 4 回	高血圧	教授	齊藤 郁夫
第 5 回	AIDS	専任講師	森木 隆典
第 6 回	貧血		"
第 7 回	高脂血症	准教授	辻岡三南子
第 8 回	糖尿病		"
第 9 回	結核	准教授	森 正明
第10回	食中毒		"
第11回	心臓病	准教授	和井内由充子
第12回	救急蘇生		"
第13回	試験	教授	齊藤郁夫

成績評価方法 :

試験による

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(木) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(火) 9:00~16:45 場 所：三田学事センター

4月9日(水) 9:00~16:45

4月10日(木) 9:00~16:45

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込み用紙を提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 注意事項

次のとおり、科目名を変更しました。

「情報処理概論」 平成18年度まで

「情報処理概論 (JavaB)」 平成19年度以降

平成18年度までに「情報処理概論」の単位を取得した学生は、新たに「情報処理概論 (JavaB)」を履修することはできません。

5 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

6 平成20年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成20年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論 (JavaB)	Java	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理概論 (JavaA)	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(火)から開始されます。

「情報処理概論 (JavaB)」および「情報処理概論 (JavaA)」は、ほぼ同じ内容です。両方の科目を履修した場合、単位として認められるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考)平成20年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語による プログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000 円	4	
		11 B		50			
情報処理概論 (Java)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理概論 (Java)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(火)から開始されます。

授業科目の内容:

Java言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト:

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. プログラムのスタイル (春学期復習)
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

授業科目の内容:

将来プログラムを用いて統計データ解析をする準備として、Java言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Javaプログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミングに関する予備知識は必要としない。

テキスト:

「JAVAではじめるアルゴリズム入門」山地秀美, 技術評論社

参考書:

講義の中で紹介する。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入, そして四則演算と型変換
5. 1次元配列と多次元配列

6. クラスとメソッド

7. 制御分と演算子 (1)

8. 制御分と演算子 (2)

9. クラスとコンストラクタ

10. Java クラスライブラリ

11. 入出力

12. 行列を計算するプログラム (1)

13. 行列を計算するプログラム (2)

履修者へのコメント:

C言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
 - ・平常点: 出席状況および授業態度による評価
- 質問・相談:

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

アート・センター設置講座

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されているようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘するとともに、産業政策をふくめ総合的に検討することが本講座の目的である。それとともに、効率や生産性を第一義とした従来の考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2008年度は、2007年度に引き続き、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に」を開講する。

講座 URL <http://www.art-c.keio.ac.jp/education/creative/>

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(春学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

クリエイティブ産業とその範囲
コンテンツ・ビジネスとその歴史
日本の音楽産業
イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
日本の知的財産政策と関連産業
著作権とクリエイティブ産業1
著作権とクリエイティブ産業2
東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
クリエイティブ産業と公共性
アーティストの立場から

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程はガイダンスの際に配付する。

成績評価方法:

試験と平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(秋学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

出版とプロダクション
アーティストの発掘、契約と宣伝
日本の音楽の流通と配信
今後の課題
クリエイティブ産業と今後の課題 ~
紛争回避
商用アーカイブの運営ほか

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は春学期ガイダンスの際に配付する。

成績評価方法:

試験と平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

知的資産センター設置講座（平成20年度開講）

1．知的資産センター設置講座について

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、デジタルメディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、共同研究や受託研究の支援、ベンチャー起業の支援というように、研究成果の社会への還元をいろんな形で支援してまいります。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品やサービスの提供につながっています。さらに、バイオ分野を中心に多くのベンチャー企業がスタートアップしました。

これらの業務に加え、知的資産センターは技術移転の側面を中心に、知的財産に関する教育・研究も任務としています。今や知的創造の時代ですが、時代とともに知的財産の範囲や期待される役割なども変化します。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められます。そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を設けています。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する方は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（教授〔大学所属〕） 羽鳥賢一

授業科目の内容：

種々の知的資産や制度について、その仕組みを概括した上で、その保護のあり方や活用の方策に関し、今日の課題やその課題への対応策を考えます。また、その中で、現在および将来の知的財産のあり方に関する幅広い知識を修得することを目標とします。

知的財産には、技術（特許やノウハウ）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、プログラムやデータベース（著作権）、音楽・映画等のコンテンツ（著作権）といったものがありますが、その権利の内容や活用法は、それぞれ固有の特色があります。また、同じ知的財産が世界共通的に保護・活用される場合でも、国によってその取扱いが異なることもあります。本講義では、こうした種々の知的財産の保護と活用をめぐる現状と課題について、テーマに応じ、その分野の第一線でご活躍の有識者を招いて、講演および質疑応答の中で理解を深めてまいります。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「よくわかる特許」羽鳥賢一他著，オーム社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業の計画：

(内容と順序は変更になる場合があります。テーマにより第一線の外部講師を招きます。)

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組みと課題
3. 著作権の仕組みと課題
4. 商標・ブランドの価値と課題
5. コンテンツビジネスの仕組みと課題
6. 音楽に関する著作権と課題
7. 企業の知的財産戦略
8. 知的財産の権利行使と紛争処理
9. ベンチャー起業の仕組みと課題
10. 米国でのバイオベンチャー起業と知財戦略
11. 知的財産の国際動向
12. アジアでの知的財産保護と課題
13. 産学連携の現状と課題

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱いについては、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

各授業の最後に質問の時間を設けます。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター（以下、「センター」と略す）では、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、中国語、インドネシア語、アラビア語の9言語について「センター特設科目」を設置しています。これらの科目群は各学部の外国語教育を補完することをコンセプトとしながら、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能がバランスよく身につくよう、工夫を凝らした授業を展開しています。また、特定のスキル強化（リスニング、ライティングなど）のための科目、超上級科目や基礎固めのための科目も用意しています。

これらの「特設科目」のほか、センターが提供する科目に「オープン科目」があります。これは、各学部設置の語学科目のうち、他学部生に開放されているものを、センターに併設することにより、学生が履修しやすくしたものです。（「特設科目」「オープン科目」とも、卒業単位認定の仕方は学部により異なるため、それぞれ自分が所属する学部の履修案内を参照してください。）

センターでは、各種講演会やワークショップ、春休み期間中の海外語学研修、高校生から大学院生までを対象とする「アカデミック・ライティング・コンテスト」等、外国語学習に関連するさまざまなプログラムを実施しています。それぞれの詳細は、センターのウェブサイトや構内掲示板で随時案内していますので、チェックしてください。

以下に本年度開講の「センター特設科目」の一覧を掲載します。各特設科目の詳しい授業内容、ガイダンスや履修手続きに関する情報、ならびに「オープン科目」一覧については、別冊の『外国語教育研究センター履修案内・講義要綱』（センター事務室およびガイダンスでも配布します）、またはセンターウェブサイト参照してください。

外国語教育研究センター <<http://flang.keio.ac.jp/>>

ガイダンス日程：4月3日（木）12:30～14:00 531番教室

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

経済学部では、以下の ・ のとおり外国語教育研究センター設置科目の履修を認めています。詳細は「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」（別冊）を確認の上申告してください。

【05 学則適用者】履修申告は、外国語教育研究センターの時間割に掲載の登録番号を申告してください。

【99 学則適用者】履修申告は、経済学部時間割に掲載の登録番号を申告してください。

* 履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

* 科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。

* 科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。

* 2008年2月から3月に実施された海外研修科目については、日吉のシラバスを参照してください。

経済学部外国語科目（選択A）として履修できる科目

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春	金・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)		秋			半期	1
	英語翻訳 ()Lost in Translation)	武藤 浩史	春	月・2	15	半期	1
	英語翻訳 ()Lost in Translation)	アーマー, アンドルー	秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEFL() (TOEFL Strategies (Listening & Speaking))	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL() (TOEFL Strategies (Reading & Writing))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Listening))	バロウス, リチャード	春	木・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Reading))		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (TOEICテストの対策と実践演習)	和田 朋子	春	木・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (TOEICテストの対策と実践演習)		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (Building Listening Skills)	横川 真理子	春	金・3	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC() (Building Reading, Listening and Test-taking Skills)		秋			半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英語	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)		秋			半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる英文契約書の英語)		秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春	木・1	25	半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)		秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a)	三瓶 慎一	春	月・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b)		秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 5(a)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b)		秋			半期	1
フランス語	フランス語表現技法 3()	ルカルヴェ, クリステル	春	月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 3()		秋			半期	1
	フランス語表現技法 4()	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 4()		秋			半期	1
	フランス語表現技法 5()	ペリセロ, クリスティアン=アンドレ	春	木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法 5()		秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1()	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1()		秋			半期	1
	ロシア語表現技法 2()	桜井 厚二	春	水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 2()		秋			半期	1
中国語	中国語聴解 2() (最上級)	山下 輝彦	春	水・2	25	半期	1
	中国語聴解 2() (最上級)		秋			半期	1
	中国語表現技法 2() (最上級)	蒋 文明	春	月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 2() (最上級)		秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法 3() (上級)	安藤 万奈	春	金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 3() (上級)		秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック速習 1(a)	野村 亨/ トク, スハルディアント	春	月・3/ 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 1(b)		秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(a)	野村 亨 トク, スハルディアント	春	月・2/ 金・1	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(b)		秋			半期	2

経済学部自由科目として履修できる科目

以外の外国語教育研究センター設置科目は自由科目として履修できます。

*外国語教育研究センター設置科目(日吉)については、「外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱」,「経済学部外国語科目履修案内」を参照してください。

2008 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限				
	9 : 00 ~ 10 : 30	10 : 45 ~ 12 : 15	13 : 00 ~ 14 : 30	14 : 45 ~ 16 : 15	16 : 30 ~ 18 : 00				
月		英語翻訳 () 英語オーラル・ プレゼンテーション () (初級) インドネシア語 ベーシック速習 2(a)	武藤 ファロン 野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 3 () インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	日向 ルカルヴェ 野村	英語法律・法務 () ドイツ語表現技法 4(a) フランス語 表現技法 4 ()	日向 三瓶 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 () (最上級)	蔣
火				ドイツ語表現技法 5(a)	ドゥッセル =タカヤマ				
水		中国語聴解 2 () (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2 ()	桜井				
木	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語テスト対策 TOEIC () フランス語 表現技法 5 ()	和田 ベリゼロ		英語テスト対策 TOEIC () 上級	ハロウス	英語テスト対策 TOEFL ()	ハロウス
金	インドネシア語 ベーシック速習 2(a)	トトク	インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	トトク	英語テスト対策 TOEIC () ロシア語 表現技法 1 ()	横川 熊野谷	英語最上級 アドバンスト英語 (a) スペイン語表現技法 3 (Ⅱ 上級)	横川 安藤	
土									

2008 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限				
	9 : 00 ~ 10 : 30	10 : 45 ~ 12 : 15	13 : 00 ~ 14 : 30	14 : 45 ~ 16 : 15	16 : 30 ~ 18 : 00				
月		英語翻訳 () 英語オーラル・ プレゼンテーション () (初級) インドネシア語 ベーシック速習 2(b)	アーマ ファロン 野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 3 () インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	日向 ルカルヴェ 野村	英語法律・法務 () ドイツ語表現技法 4(b) フランス語 表現技法 4 ()	日向 三瓶 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 (Ⅱ 最上級)	蔣
火				ドイツ語表現技法 5(b)	ドゥッセル =タカヤマ				
水		中国語聴解 2 () (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2 ()	桜井				
木	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語テスト対策 TOEIC () フランス語 表現技法 5 ()	和田 ベリゼロ		英語テスト対策 TOEIC () 上級	ハロウス	英語テスト対策 TOEFL ()	ハロウス
金	インドネシア語 ベーシック速習 2(b)	トトク	インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	トトク	英語テスト対策 TOEIC () ロシア語 表現技法 1 ()	横川 熊野谷	英語最上級 アドバンスト英語 (b) スペイン語表現技法 3 (Ⅱ 上級)	横川 安藤	
土									